SHIMANE RED DATA BOOK 2013

改訂 しまね レッドデータブック 2013 植物編

島根県の絶滅のおそれのある野生植物

SHIMANE RED DATA BOOK 2013

改訂しまね レッドデータブック 2013植物編

島根県の絶滅のおそれのある野生植物

島　根　県

維管束植物

デンジソウ　野生絶滅　23ページ

アマクサシダ　絶滅危惧Ⅰ類　30ページ

カツモウイノデ　絶滅危惧Ⅰ類　31ページ

イズヤブソテツ　絶滅危惧Ⅰ類　32ページ

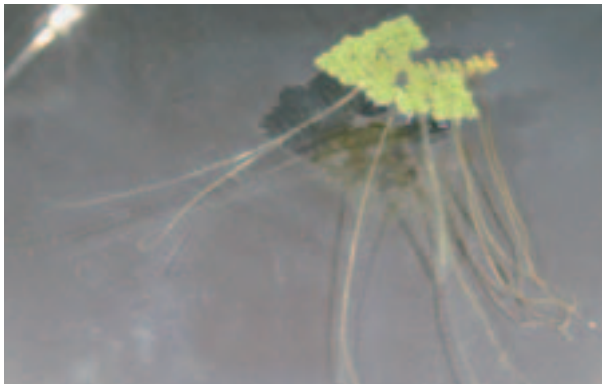
ホウライヒメワラビ　絶滅危惧Ⅰ類　33ページ

ヘイケイヌワラビ　絶滅危惧Ⅰ類　35ページ

フクロシダ　絶滅危惧Ⅰ類　36ページ

ホテイシダ　絶滅危惧Ⅰ類　37ページ

オオエゾデンダ　絶滅危惧Ⅰ類　38ページ



アカウキクサ　絶滅危惧Ⅰ類　39ページ

オオヤマレンゲ　絶滅危惧Ⅰ類　39ページ

ミチノクフクジュソウ　絶滅危惧Ⅰ類　40ページ

ミスミソウ　絶滅危惧Ⅰ類　40ページ

ヒメバイカモ　絶滅危惧Ⅰ類　41ページ

バイカモ　絶滅危惧Ⅰ類　41ページ

オニバス　絶滅危惧Ⅰ類　42ページ

マルバウマノスズクサ　絶滅危惧Ⅰ類　43ページ

ウスバサイシン　絶滅危惧Ⅰ類　43ページ

ベニバナヤマシャクヤク　絶滅危惧Ⅰ類　44ページ

ダイセンオトギリ　絶滅危惧Ⅰ類　45ページ

キレンゲショウマ　絶滅危惧Ⅰ類　46ページ

ヒロハノカワラサイコ　絶滅危惧Ⅰ類　47ページ

ハマナス　絶滅危惧Ⅰ類　47ページ

ハマナタマメ　絶滅危惧Ⅰ類　50ページ

タヌキマメ　絶滅危惧Ⅰ類　50ページ

ウドカズラ　絶滅危惧Ⅰ類　56ページ

ハマボウ　絶滅危惧Ⅰ類　56ページ

キガンピ　絶滅危惧Ⅰ類　57ページ

ナツアサドリ　絶滅危惧Ⅰ類　57ページ

タケシマシシウド　絶滅危惧Ⅰ類　60ページ

ハイハマボッス　絶滅危惧Ⅰ類　61ページ

ハマサジ　絶滅危惧Ⅰ類　62ページ

イヌセンブリ　絶滅危惧Ⅰ類　62ページ

ムラサキセンブリ　絶滅危惧Ⅰ類　63ページ

ヒメシロアサザ　絶滅危惧Ⅰ類　63ページ

アサザ　絶滅危惧Ⅰ類　64ページ

チョウジソウ　絶滅危惧Ⅰ類　64ページ

クサタチバナ　絶滅危惧Ⅰ類　65ページ

フナバラソウ　絶滅危惧Ⅰ類　65ページ

カイジンドウ　絶滅危惧Ⅰ類　67ページ

サンイントラノオ　絶滅危惧Ⅰ類　69ページ

ミヤマクワガタ(ダイセンクワガタ)　絶滅危惧Ⅰ類　69ページ

イワタバコ　絶滅危惧Ⅰ類　70ページ

シシンラン　絶滅危惧Ⅰ類　70ページ

イワギリソウ　絶滅危惧Ⅰ類　71ページ

ヤブウツギ　絶滅危惧Ⅰ類　72ページ

キキョウ　絶滅危惧Ⅰ類　72ページ

チョウジギク　絶滅危惧Ⅰ類　73ページ

ヒゴタイ　絶滅危惧Ⅰ類　73ページ

ヤナギタンポポ　絶滅危惧Ⅰ類　74ページ

キビシロタンポポ　絶滅危惧Ⅰ類　77ページ

ホンゴウソウ　絶滅危惧Ⅰ類　78ページ

ホソバナコバイモ　絶滅危惧Ⅰ類　79ページ

イズモコバイモ　絶滅危惧Ⅰ類　79ページ

ユウスゲ（キスゲ）　絶滅危惧Ⅰ類　80ページ

ニッコウキスゲ　絶滅危惧Ⅰ類　80ページ

ハナゼキショウ　絶滅危惧Ⅰ類　82ページ

スジヌマハリイ　絶滅危惧Ⅰ類　84ページ

ユウシュンラン　絶滅危惧Ⅰ類　88ページ

クマガイソウ　絶滅危惧Ⅰ類　89ページ

サギソウ　絶滅危惧Ⅰ類　90ページ

フガクスズムシソウ　絶滅危惧Ⅰ類　90ページ

トキソウ　絶滅危惧Ⅰ類　93ページ

カヤラン　絶滅危惧Ⅰ類　94ページ

ナゴラン　絶滅危惧Ⅰ類　95ページ

クモラン　絶滅危惧Ⅰ類　95ページ

ヤシャゼンマイ　絶滅危惧Ⅱ類　98ページ

ナンカイイタチシダ　絶滅危惧Ⅱ類　101ページ

テツホシダ　絶滅危惧Ⅱ類　102ページ

ツクシイヌワラビ　絶滅危惧Ⅱ類　102ページ

ニリンソウ　絶滅危惧Ⅱ類　109ページ

リュウキンカ　絶滅危惧Ⅱ類　110ページ

オキナグサ　絶滅危惧Ⅱ類　111ページ

フタバアオイ　絶滅危惧Ⅱ類　111ページ

タイリンアオイ　絶滅危惧Ⅱ類　112ページ

トモエソウ　絶滅危惧Ⅱ類　112ページ

シラヒゲソウ　絶滅危惧Ⅱ類　113ページ

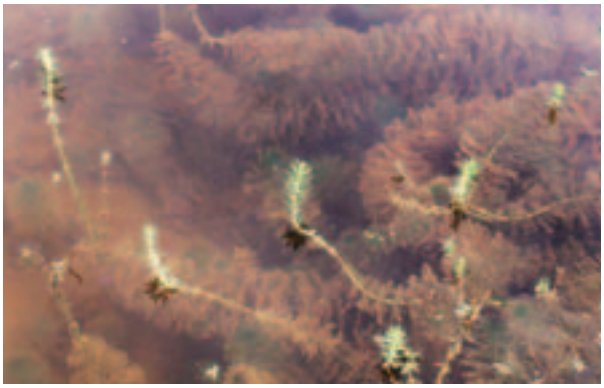
ヤシャビシャク　絶滅危惧Ⅱ類　114ページ

シロヤマブキ　絶滅危惧Ⅱ類　115ページ

ビッチュウフウロ　絶滅危惧Ⅱ類　116ページ

コガンピ　絶滅危惧Ⅱ類　119ページ

ダイセンキスミレ　絶滅危惧Ⅱ類　119ページ



オグラノフサモ　絶滅危惧Ⅱ類　120ページ

サラサドウダン　絶滅危惧Ⅱ類　121ページ

ベニドウダン　絶滅危惧Ⅱ類　122ページ

アラゲナツハゼ　絶滅危惧Ⅱ類　123ページ

ミツガシワ　絶滅危惧Ⅱ類　124ページ

カギカズラ　絶滅危惧Ⅱ類　125ページ

ホソバママコナ　絶滅危惧Ⅱ類　127ページ

カンボク　絶滅危惧Ⅱ類　132ページ

ヒッツキアザミ　絶滅危惧Ⅱ類　133ページ

サンベサワアザミ　絶滅危惧Ⅱ類　135ページ

ヤマザトタンポポ　絶滅危惧Ⅱ類　136ページ

クシバタンポポ　絶滅危惧Ⅱ類　137ページ

トチカガミ　絶滅危惧Ⅱ類　137ページ

カタクリ　絶滅危惧Ⅱ類　141ページ

ヒメナベワリ　絶滅危惧Ⅱ類　141ページ

コキンバイザサ　絶滅危惧Ⅱ類　142ページ

ミズアオイ　絶滅危惧Ⅱ類　142ページ

ヒメシャガ　絶滅危惧Ⅱ類　143ページ

ヒメミクリ　絶滅危惧Ⅱ類　144ページ

ナツエビネ　絶滅危惧Ⅱ類　147ページ

セッコク　絶滅危惧Ⅱ類　149ページ

カキラン　絶滅危惧Ⅱ類　149ページ

ヤマトキソウ　絶滅危惧Ⅱ類　150ページ

シノブ　準絶滅危惧　152ページ

ハコネシケチシダ　準絶滅危惧　156ページ

アオネカズラ　準絶滅危惧　157ページ

サクラバハンノキ　準絶滅危惧　159ページ

キミズ　準絶滅危惧　159ページ

サンインシロカネソウ　準絶滅危惧　161ページ

ハンゲショウ　準絶滅危惧　162ページ

イスノキ　準絶滅危惧　163ページ

シモツケ　準絶滅危惧　165ページ

モクゲンジ　準絶滅危惧　166ページ

ヘラノキ　準絶滅危惧　167ページ

レンゲツツジ　準絶滅危惧　168ページ

ゲンカイツツジ　準絶滅危惧　168ページ

トウテイラン　準絶滅危惧　172ページ

イヌノフグリ　準絶滅危惧　172ページ

オニヒョウタンボク 準絶滅危惧 173ページ

チョウジガマズミ 準絶滅危惧 174ページ

カノコソウ 準絶滅危惧 174ページ

ヒロハヤマヨモギ 準絶滅危惧 175ページ

ダルマギク 準絶滅危惧 175ページ

ヤマトミクリ 準絶滅危惧 179ページ

キセワタ 情報不足 183ページ

アブラシバ 情報不足 185ページ

蘚　苔　類

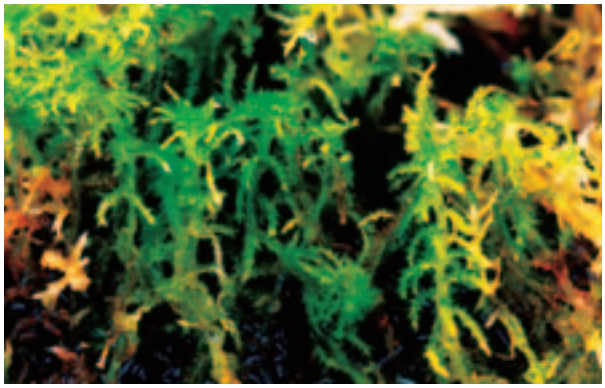
カビゴケ　絶滅危惧Ⅰ類　189ページ

ハリミズゴケ　絶滅危惧Ⅱ類　190ページ

クマノゴケ　準絶滅危惧　190ページ

オオミズゴケ　準絶滅危惧　191ページ

ウキゴケ(カズノゴケ)　準絶滅危惧　191ページ

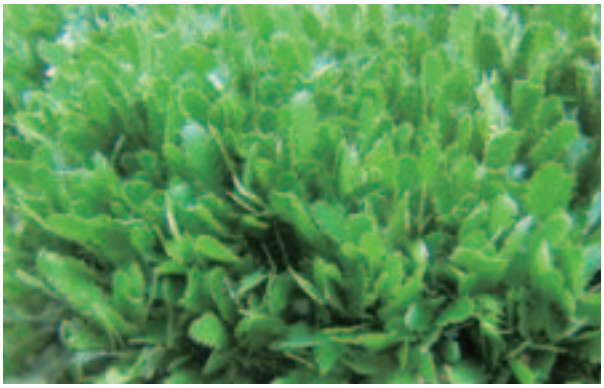


ホソベリミズゴケ　準絶滅危惧　191ページ

イチョウウキゴケ　準絶滅危惧　192ページ

ヤワラゼニゴケ　情報不足　193ページ

海藻類・菌類



クロキヅタ（海藻類）絶滅危惧Ⅱ類　196ページ

クチキトサカタケ（菌類）絶滅危惧Ⅰ類　205ページ

ムカシオオミダレタケ（菌類）絶滅危惧Ⅰ類　205ページ

エビタケ（菌類）絶滅危惧Ⅰ類　206ページ

ツヤナシマンネンタケ（菌類）絶滅危惧Ⅰ類　206ページ

ツキヨタケ（菌類）絶滅危惧Ⅱ類　208ページ

ウスキブナノミタケ（菌類）絶滅危惧Ⅱ類　208ページ

ショウロ（菌類）準絶滅危惧　209ページ

目　　次

刊行にあたって…… 1

「しまねレッドデータブック」について …… 3
改訂の背景…… 5
改訂作業の概要…… 7
選 定 結 果…… 11
選定種の解説項目と内容…… 12

選定種の解説…… 15
維管束植物…… 17
蘚　苔　類…… 187
海藻類（藻類）…… 195
地　衣　類…… 197
菌　　類…… 203

資　　料…… 211
執筆者一覧…… 213
文　　献…… 222
写真撮影者等一覧…… 225
自然保護に関する主な法令等…… 229
島根県の自然公園における指定植物一覧…… 230
島根県自然環境保全地域における保護すべき野生動植物の種類一覧…… 242
島根県希少野生動植物の保護に関する条例に基づく指定希少野生動植物一覧…… 243
天然記念物等一覧…… 244

索　　引…… 251

刊行にあたって

島根県は、東西およそ200㎞にわたる細長い本土部分と日本海に浮かぶ隠岐諸島などからなります。南部県境に連なる中国山地にはブナの自然林が残り、これを源として斐伊川、江の川、高津川が日本海に注いでいます。

また、我が国最大の汽水域でラムサール条約に登録されている宍道湖・中海、さらに特異な地質形成や独自の生態系が見られる隠岐など、優れた自然環境を有し、多様な野生動植物が生息・生育しています。

一方で、長い間の人間の営みに伴う自然環境の変化や外来種の侵入などにより、多くの動植物が絶滅の危機に直面しています。島根の豊かな自然を未来に引き継いでいくことは、私たちの願いであるとともに、私たちに課せられた責務でもあります。

県では、平成11年に「島根環境基本計画」を策定し、「人と自然の共生の確保」を基本目標の一つに掲げ、生物多様性の確保に向けて施策を進めています。また、「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」を平成22年３月に公布し、絶滅のおそれのある野生動植物の保護対策の強化を図っています。

こうした施策の一環として、県内の希少な野生動植物の状況について、県民の皆様に情報提供を行うため、平成９年に全国に先駆けて、「しまねレッドデータブック」を発行しました。その後、平成16年に改訂を行い、開発行為等に際しての保護対策の基礎資料としても活用いただいてきました。

平成22年には、生息生育実態等の状況変化など最新の情報を反映させた改訂版を作成するために、「しまねレッドデータブック改訂委員会」を設置しました。委員会で検討を重ね、このたび「改訂しまねレッドデータブック2013植物編」を発行する運びとなりました。

本書が島根の豊かな自然環境や多様な野生動植物を守るための基礎資料として活用され、県民の皆様の自然保護に対する理解を深めていただくきっかけになることを願っております。

終わりに、しまねレッドデータブック改訂委員会委員の皆様をはじめ、本書の発行に御協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

平成25年３月

島根県知事　溝　口　善兵衛

「しまねレッドデータブック」について

改訂の背景

1　これまでのレッドデータブック発行状況について

⑴平成９年３月「しまねレッドデータブック」発行

（経緯等）

平成５年６月に「島根県貴重野生動植物選定委員会」を設置し、平成７年３月に学術的貴重性により整理した「島根県貴重野生動植物リスト」を作成。このリストの中から保護施策を展開していくことを主眼に選定し、平成９年３月に「しまねレッドデータブック」を発行。

（掲載種数）

掲載種数は下表のとおりである。

分類群		緊急保護	要保護	要注意	合計
動物	哺乳類	3	1	9	13
	鳥類	4	8	25	37
	両生類・爬虫類		4	3	7
	汽水・淡水魚類		8	7	15
	昆虫類	3	25	60	88
	陸・淡水産貝類		14	17	31
動物小計		10	60	121	191
植物（維管束植物）		6	42	76	124
合計		16	102	197	315

⑵平成16年３月「改訂しまねレッドデータブック」発行

（経緯等）

平成13年７月に「しまねレッドデータブック改訂委員会」を設置し、カテゴリー区分、掲載分類群の見直し等について検討し、掲載種の選定、評価を行い、平成16年３月に「改訂しまねレッドデータブック」を発行。

（主な改正点）

国に準じてカテゴリー区分を変更、分類群の追加（甲殻類、クモ類、蘚苔類、地衣類、菌類など）、掲載種数の追加（315種→836種）

（掲載種数）

掲載種数は下表のとおりである。

分類群		絶滅	絶滅危惧		小計	準絶滅危惧	情報不足	合計
		野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類				
動物	哺乳類	4	1	2	3	9	4	20
	鳥類	1	9	17	26	26	22	75
	両生類			3	3	6		9
	爬虫類				0	4		4
	汽水・淡水魚類	1	3	9	12	6	3	22
	昆虫類		32	33	65	102	119	286
	クモ類		1		1	2	9	12
	甲殻類			1	1		6	7
	陸・淡水産貝類		4	8	12	18	4	34
	サンゴ類				0	3		3
	淡水海綿類				0	2	1	3
動物小計		6	50	73	123	178	168	475
植物	維管束植物	3	82	125	207	111	18	339
	蘚苔類		4	1	5	3		8
	藻類			1	1			1
	地衣類		5	1	6			6
	菌類		5	2	7			7
植物小計		3	96	130	226	114	18	361
合計		9	146	203	349	292	186	836

2　今回の改訂について

⑴改訂の必要性等について

①前回の改訂しまねレッドデータブックでは、『掲載された動植物の状況は、年数とともに変化していく。また、今回の改訂に際して、その情報が不足しており、「情報不足」と評価された種や掲載すらできなかった種も少なくない。今後、継続的に調査、情報収集を行い、それらの情報に基づいた評価の見直しが行われる必要がある。このことから、５年～10年後を目処に改訂を行う必要がある。』と明記されている。

②平成22年３月に制定した「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」により、絶滅のおそれのある野生動植物の保護対策を強化したところであるが、この条例をより効果的に運用するためにも、しまねレッドデータブックの改訂が必須である。

このため、平成22年11月に「しまねレッドデータブック改訂委員会」を設置し、改訂作業を開始した。

⑵改訂概要について

①見直し内容について

前回の改訂では、掲載種の見直しだけでなく、カテゴリー区分や掲載分類群の見直し等も併せて行ったが、今回の改訂では、掲載種の見直しを主として行い、カテゴリー区分や掲載分類群は前回と同様とした。

②掲載種数等について

今回の改訂により植物合計で394種が選定された。前回と比較すると33種の増加となっており、その内訳は、新規掲載42種（維管束植物36種、蘚苔類３種、菌類３種）、今回掲載対象外としたものは９種であった。

新規掲載種は、新たに県内で発見され、生育が明らかになった種や、情報の蓄積により生育地や個体数の状況が明らかになった種などであった。

また、カテゴリー区分の変更状況は、上位のカテゴリー区分への変更が47種、下位のカテゴリー区分への変更が10種であった。

（掲載種数一覧）

分類群		絶滅 野生絶滅	絶滅危惧		小計	準絶滅危惧	情報不足	合計
			絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類				
植物	維管束植物	2	146	108	254	93	17	366
	蘚苔類		1	2	3	5	3	11
	海藻類			1	1			1
	地衣類		5	1	6			6
	菌類		5	2	7	3		10
	合計	2	157	114	271	101	20	**394**

改訂作業の概要

1　検討体制と経過について

⑴しまねレッドデータブック改訂委員会の設置

しまねレッドデータブックの改訂に当たっては、平成22年11月１日に専門家による「しまねレッドデータブック改訂委員会」を設置し、改訂作業を開始した。

また、委員以外にも各分類群の専門家に協力者として掲載種の選定、評価及び解説原稿執筆等について御協力をいただいた。

⑵会議の開催

①平成22年11月１日

第１回しまねレッドデータブック改訂委員会全体会議開催

（検討事項等）改訂方針、作業スケジュール、改訂作業の実施体制、各委員担当分野、掲載種の見直し作業等

②平成23年12月15日

第２回しまねレッドデータブック改訂委員会全体会議開催

（検討事項等）改訂スケジュール、改訂方針、現地調査、ＲＤＢの構成と作成様式、原稿作成等

2　改訂方針について

上記会議により改訂方針は以下のとおりとなった。

⑴改訂作業について

①修正の考え方について

基本的には前回改訂したＲＤＢ（平成16年３月発行）の時点修正を行う。

②情報収集について

㋐各委員及び協力者との連携による情報収集

㋑既存の文献・資料による情報収集

㋒必要に応じて現地調査による情報収集

⑵カテゴリー区分について

前回のカテゴリーと同様とする。

（絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類、準絶滅危惧、情報不足）

⑶分類群（選定対象範囲）について

前回の分類群と同様とする。

○動　物

哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、汽水・淡水魚類、昆虫類、クモ類、甲殻類、陸・淡水産貝類、サンゴ類、淡水海綿類

○植　物

維管束植物、蘚苔類、海藻類、地衣類、菌類

⑷ＲＤＢの作成時期等について

今回の改訂は、植物編と動物編の分冊で発行し、発行時期は、植物編を平成24年度、動物編を平成25年度を目処とする。

⑸アウトプットの方向性について

前回と同様に印刷物（冊子）と電子媒体（県ホームページ掲載）を作成。ただし印刷物は予算を考慮して作成。

3　現地調査について

今回の植物編の改訂に当たり県が実施した現地調査の実施概要は以下のとおりであるが、それ以外にも各委員及び協力者が独自に現地調査等の情報収集をしていただいていることを申し添える。

（現地調査の実施概要）

それぞれの調査について、調査年月日、調査地、調査者名を記した。

維管束植物

平成23年７月23日~24日隠岐の島町（枳村、國井、柳浦、井上）
平成23年８月29日~30日出雲市、益田市（柳浦）
平成23年10月９日～10日津和野町、吉賀町（枳村、國井、柳浦、井上）
平成24年６月22日吉賀町（井上）
平成24年７月９日隠岐の島町（八幡、井上）
平成24年９月11日~12日知夫村、海士町、西ノ島町（井上、丹後、深谷）
平成24年９月29日~30日益田市（柳浦）

蘚苔類

平成23年11月９日飯南町（下瀬、井上）
平成23年11月20日~21日益田市（下瀬、井上）
平成24年５月15日出雲市（下瀬、井上）

（参考）

改訂方針については、上記「２ 改訂方針について」のとおりであるが、その他の改訂作業の取扱は前回改訂と同様な取扱としている。

参考となる改訂作業の取扱について、前回の改訂しまねレッドデータブックから抜粋する。

１　カテゴリーについて

国や他の都道府県との比較を行う上でも、また、広く一般の方にわかりやすくするためにも、できるだけ統一的なカテゴリー区分と要件を用いることが望ましいと判断し、基本的に環境省のカテゴリー区分に準じることとした。

ただし、カテゴリーの要件については、島根県では定量的に評価するために必要な十分なデータが得られない種も多いことから、環境省カテゴリーの定性的要件のみを採用することとした。したがって、「絶滅危惧Ⅰ類」は、「ＩＡ」と「ＩＢ」に区分はしていない。

２　島根県固有評価の付記について

掲載された種について、島根県の固有・特産種、中国地方の固有・特産種等、全国的に分布域が局限される種、県内において分布域が隔離されている種、分布の限界が存在する種、基準標本産地がある種については、絶滅の危惧の度合いによるカテゴリー区分とは別に、県固有評価として評価区分を並記することとした。

３　選定対象範囲について

⑴共通の対象要件について

全ての分類群に共通する選定評価の対象要件は下記のとおりである。

なお、「種」には、「亜種」を含むものとした。

①県内で生息生育の記録がある種
②生物学的知見が比較的蓄積されている種
③陸産、汽水・淡水産及び人為の影響を受けやすい海岸棲の生物種
④外来種は対象外

明治維新以降に県外から導入された種を外来種とし、外国から導入された種だけでなく、国内の他の地域から導入された種も外来種として対象外とした。

⑤迷鳥や迷蝶等、県内に安定的に生息・生育しているとは考えにくい種、確認記録があるが誤同定が疑われる種は除く。

⑵分類群ごとの対象条件について

上記の共通の対象要件に加え、各分類群ごとに独自の対象要件を設定した場合は、各分類群の概説において、その旨を説明している。

しまねレッドデータブック改訂委員会委員及び協力者名簿

しまねレッドデータブック改訂委員会委員

	氏　名	所　属　等	担当分類群
委員長	松野　煒	島根大学生物資源科学部名誉教授	両生類・爬虫類
副委員長	杣村喜則	元島根大学生物資源科学部助教授	維管束植物
委員	秋吉英雄	島根大学生物資源科学部准教授	両生類・爬虫類、サンゴ類、海藻類
	大畑純二	(公財)しまね自然と環境財団客員研究員	哺乳類
	門脇久志	環境省希少野生動植物種保存推進員	昆虫類
	國井秀伸	島根大学汽水域研究センター教授	維管束植物（水生植物）
	越川敏樹	島根県立宍道湖自然館館長	汽水・淡水魚類
	佐藤仁志	(公財)日本野鳥の会理事長	哺乳類、鳥類、汽水・淡水魚類、甲殻類
	下瀬　敏	日本蘚苔類学会会員	蘚苔類
	戸田顕史	(公財)島根県環境保健公社	陸・淡水産貝類
	前川二太郎	鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター教授	菌類
	八幡浩二	隠岐自然倶楽部	隠岐の生物
	淀江賢一郎	日本鱗翅学会評議員	昆虫類
委員及び作業チーム（注）	井上雅仁	(公財)しまね自然と環境財団	維管束植物
	星野由美子	(公財)しまね自然と環境財団	鳥類
	皆木宏明	(公財)しまね自然と環境財団	昆虫類
	森　茂晃	(公財)ホシザキグリーン財団	鳥類
	山口勝秀	(公財)ホシザキグリーン財団	汽水・淡水魚類

（注）作業チーム：（公財）しまね自然と環境財団及び（公財）ホシザキグリーン財団には、今回のしまねレッドデータブック改訂作業に係る作業チームとして各委員・協力者との連絡調整や情報収集の取りまとめを行っていただいた。

植物編協力者（選定・評価、原稿執筆、現地調査）

	氏　名	所　属　等	分　類　群
植物編協力者	丹後亜興	植物研究者	維管束植物（隠岐）
	冨川康之	島根県中山間地域研究センター専門研究員	菌類
	中西　稔	広島大学名誉教授	地衣類
	深谷　治	ＮＰＯ法人　隠岐しぜんむら	維管束植物（隠岐）
	宮崎恵子	島根県中山間地域研究センター嘱託員	菌類
	柳浦正夫	島根県立出雲商業高等学校教諭	維管束植物

（敬称略、50音順、所属は平成25年２月末日現在）

※写真撮影者は、225～227ページに掲載。

改訂版　カテゴリーの定義

カテゴリー及び基本概念		要　　件
絶滅　Extinct（**EX**） **本県ではすでに絶滅したと考えられる種**		過去に本県に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、本県ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 Extinct in the Wild（**EW**） **飼育・栽培下でのみ存続している種**		過去に本県に生息したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、本県において野生ではすでに絶滅したと考えられる種 【確実な情報があるもの】 ①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生息が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 ③過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。
絶滅危惧	**絶滅危惧Ⅰ類** Critically Endangered +Endangered（**CR+EN**） **絶滅の危機に瀕している種** 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 ⑤それほど遠くない過去（30年～50年）の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
	絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable（**VU**） **絶滅の危険が増大している種** 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。
準絶滅危惧 Near Threatened（**NT**） **存続基盤が脆弱な種** 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。		次に該当する種 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 ②生息条件が悪化している。 ③過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 ④交雑可能な別種が侵入している。
情報不足 Data Deficient（**DD**） **評価するだけの情報が不足している種**		次に該当する種 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。 ①どの生息地においても生息密度が低く希少である。 ②生息地が局限されている。 ③生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 ④生活史の一部又は全部で特殊な環境条件を必要としている。

改訂版　島根県固有評価の定義

区　　分	要　　件
島根県固有種・特産種	「固有種」は世界的に島根県だけに分布。「特産種」は世界的に分布があるが国内では島根県だけに分布。
中国地方固有・特産種・準特産種	「準特産種」は、中国地方を分布の本拠とするが、他地域にも分布が見られる種。具体的には中国地方以外の数（１～２）県に分布するもの。
分布域局限種	上記以外で全国的に分布が局限される種。具体的には本県以外の５県前後に分布するもの。
隔離分布種	島根県内において、分布域が隔離されている種。
分布限界種（北限、南限等）	島根県内に分布の限界（北限、南限等）が存在する種。
基準標本産地	島根県内に基準標本産地がある種について記載。

選定結果

今回選定された掲載種数一覧

分類群		絶滅野生絶滅	絶滅危惧		小計	準絶滅危惧	情報不足	合計
			絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類				
植物	維管束植物	2	146	108	254	93	17	366
	蘚苔類		1	2	3	5	3	11
	海藻類			1	1			1
	地衣類		5	1	6			6
	菌類		5	2	7	3		10
	合計	2	157	114	271	101	20	**394**

【参考】前回改訂（平成16年３月発行）の掲載種数一覧（植物）

分類群		絶滅野生絶滅	絶滅危惧		小計	準絶滅危惧	情報不足	合計
			絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類				
植物	維管束植物	3	82	125	207	111	18	339
	蘚苔類		4	1	5	3		8
	藻類			1	1			1
	地衣類		5	1	6			6
	菌類		5	2	7			7
	合計	3	96	130	226	114	18	**361**

前回改訂と比較したカテゴリー等変更状況一覧

変更状況等の区分	維管束植物	蘚苔類	海藻類	地衣類	菌類	合計
カテゴリー区分変更なしの種	266	4	1	6	7	284
上位のカテゴリー区分への変更種	47	0	0	0	0	47
下位のカテゴリー区分への変更種	7	3	0	0	0	10
新規掲載種	36	3	0	0	3	42
情報不足からの変更種	9	0	0	0	0	9
情報不足への変更種	1	1	0	0	0	2
小計	366	11	1	6	10	394
掲載対象外となった種	9	0	0	0	0	9

選定種の解説項目と内容

1．構　　成

選定種の解説は、対象分類群ごと、カテゴリー区分ごとに掲載した。まず、分類群ごとに、分類群についての概要や選定の概要などの解説を行い、次に選定種ごとの解説を記載している。なお、参考文献については分類群ごとに、執筆者名については各選定種ごとに一括して巻末に掲載した。

2．種ごとの解説項目と内容

⑴植物群名

目名と科名を記載した。

⑵種名（亜種名）

和名と学名を記載した。学名については、命名者、命名年も含めて記載した。

⑶カテゴリー区分

①島根県　　島根県における評価区分を記載した。
②島根県固有評価　　島根県における固有評価区分を記載した。
③環境省　　環境省第４次レッドリスト（2012）のカテゴリー区分を記載した。

⑷写真番号

写真の掲載ページを記載した。

⑸選定理由

選定評価した理由を記載した。

⑹概　　要

形態、生態、国内分布などを記載した。

⑺県内での生育地域・生育環境

県内での生育地域は、できるだけ広域な名称や地形名及び市町村名を使用するが、生育場所が特定される地名等の使用は極力控えた。

例：県西部、隠岐諸島、宍道湖、松江市など

①表について

生育地域及び生育環境を表で表した。
表中において、生育地域の区分は、別図のとおりである。
生育環境の区分のうち、山地、里地、平地の区分は下記のとおりとした。

山地地域＝人口密度が50人未満、林野率が80%以上かつ耕地率が10％未満の地域。ただし、この条件に該当する場合でも、地形分類が丘陵地、台地、低地に該当する地域は里地とする。
里地地域＝山地地域と平地地域の中間に位置する地域。
平地地域＝人口密度が300人以上かつ林野率が50％未満の地域。ただし、この条件に該当する場合でも、地形区分が山地、山麓に該当する地域、または標高100メートル以上の地域は里地とする。

また、生育環境の区分は、下記のとおりとした。

森林＝樹林地帯。林縁を含む。
農地＝水田、畑地等。休耕田、水路等を含む。
河川＝河川。河川敷、ヨシ原等を含む。
湖沼＝湖、池、沼、湿地等。岸辺、ヨシ原等を含む。

なお、生育環境の区分は分類群、選定種の特性により、必要に応じて付加して表示している。

例：地中、崖地、洞窟、海上など

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	△	○	◎	○																	

＜表中の記号について＞

◎＝数少ない繁殖地・群生地があるなどの重要な情報がある。

○＝生育の確認記録がある。

△＝生育記録はないが、生育の可能性がある。生育記録はあるが、古いかきわめてまれな確認例。

×＝絶滅・野生絶滅種のかつて確認地点。

②分布図について

基本的には、絶滅危惧（Ⅰ類及びⅡ類）について、分布図を表示している。

生育地を２次メッシュ（約10km四方）により表示している。

表示している生育地については、執筆者が既存の情報を整理確認し、生育が認められるメッシュを表示したものである。**したがって、表示されていないメッシュについても、今後の調査により生育が確認される可能性がある。**

ただし、次のような場合には、分布図を表示していない。

㋐分布図を表示することにより、盗採等の危険が生じる種。

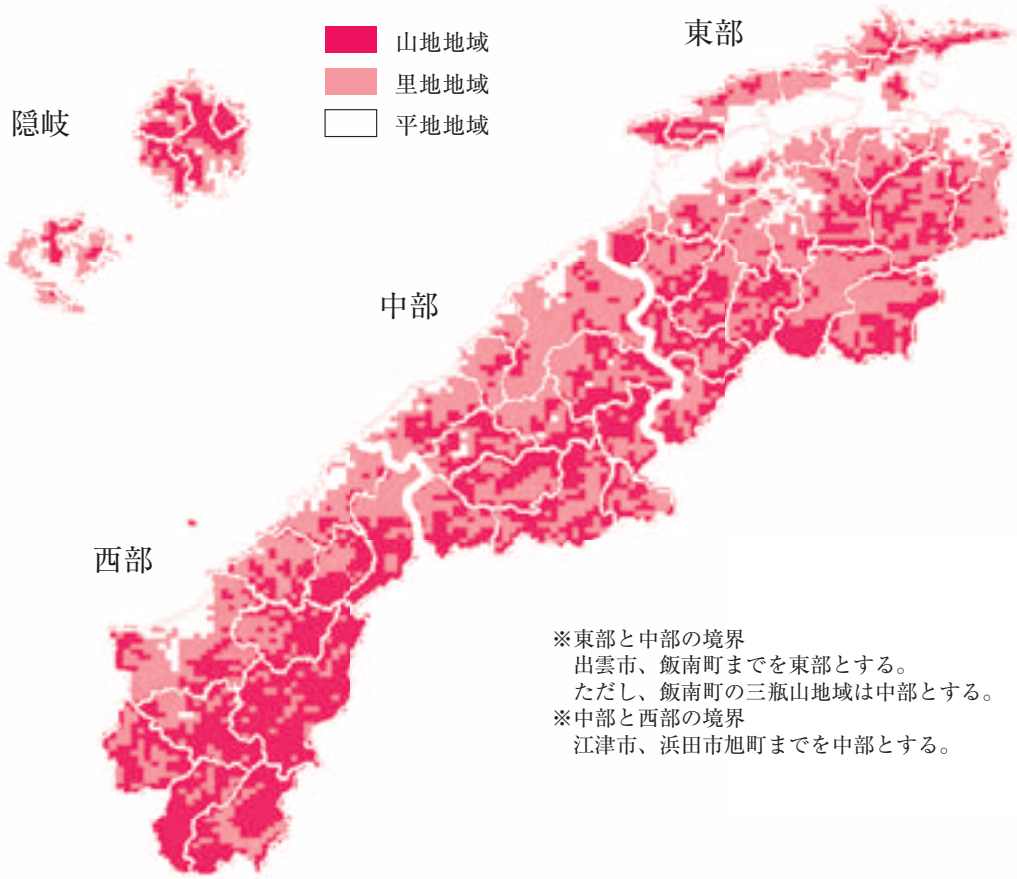
㋑県内の分布を把握するに足りる十分な情報がなく、一部の確認地域を表示することにより、分布域について誤解を招くおそれがある種。

⑻存続を脅かす原因

選定種の存続を脅かす原因を簡潔に記載した。

⑼特記事項

特に記すべき必要がある事項について、随時記載した。



選定種の解説

概説 RED DATA BOOK 維管束植物

植物相の概要

島根県の植物については、古くは『出雲国風土記』や江戸時代の「出雲国産物帳・隠岐国産物帳」などの中での記述であるが、学術上での研究は明治時代に始まったといえるであろう。明治22年（1889）、堀正太郎、明治31年に三宅驥一（1898）が隠岐諸島に植物調査に来て、明治40年には徳淵永治郎が隠岐諸島の島後、西ノ島、中ノ島の植物を調査し、堀、三宅の調査の結果の他、当時の知々井小学校教員松本常男の標本約130点をもとに「隠岐島植物分布論」（1911）に維管束植物619種を記載している。また、三宅驥一（1898）は「隠岐嶋ノ植物ハ太體ニ於テ山陰地方ノモノト大差ナシト云テ可ナルベシ」と記述していて、これは、その当時、山陰の植物相については、すでにかなり調べられていたようにも思われる。

昭和年代になってからは丸山巖（1929）：仁多植物誌、林実（1936）：北出雲植物小話、原貞吉編（1937）：鰐淵寺附近植物目録、森山美具（1956）：西部石見の植物目録、岡本香（1971）：島根のスゲ属植物、宮本巖（1963）：西部石見の高等植物目録、丸山巖（1963、67、69）：山陰植物管見Ⅰ-Ⅲ、岡国夫（1968、69）：隠岐の植物1-2、宮本巖（1973）：島根半島植物誌、山本広（1980）：隠岐島・島根県東部のシダ植物の分布について、木村康信・丹後亜興（1982-1986）：島前の植物目録、丸山　巖（1984）：島根県大百科事典（植物項目265種）、枩村喜則（1989－1991）：島根半島の植生と植物相、枩村喜則（1991）：島根県のシダ植物、枩村喜則（2005－2006）：島根県種子植物相など、多くの調査者の調査結果、報告があって、県内の植物相の全体がほぼ明らかになってきている。

島根県は本州の西端域に位置していて、北は日本海の南部に面し、南は海抜1,000～1,300m程の中国山地脊梁部となっている。年平均気温は海岸域で14～15℃、中国山地域で10～11℃前後の地域である。

県内における植物相は東アジア区（日華区）系の植物群の中で、本県より南に分布域が続く暖温帯系の植物は海岸寄りの地域に、冷温帯系の植物は中国山地及び海岸域に分布している。

(1)　主として本州南岸線を分布の北限とする植物群の分布について

県内に分布する植物の内、暖温帯系の植物は主として本州南岸線（ハマオモト線、年平均気温15℃線）を分布の北限とする植物を欠いた植物群による植物相となっていることになる。しかし、そのような状態の中で、県内には本州南岸線が分布のおもな北限となる植物のかなりな種数の植物が、おもに海岸域に分布していて、注目すべきことである。これは、現在での気候条件、特に温度条件において、県内の海岸域は石見部から島根半島あたりまでは年平均気温がほぼ15℃であり、対馬暖流が海岸を北上することの影響も考えられて、それらの植物群の生育、分布を可能にしているものと考えられる。そして、現在での気候条件下にこれらの植物群が生育の限界として分布しているものと考えられる一方、過去における縄文暖期の植物分布の一部が現在の条件下で残存可能な植物のみの残存を可能にしている状態のものとも考えられる。

このような分布の植物は当然のことながら石見部に多く見られて、出雲部、隠岐諸島では種数が少なくなっているが、中には石見部には生育が確認されないで、出雲部、隠岐諸島にのみ本州南岸線以南から飛び離れて分布する植物も知られている。

石見部まで分布が知られる植物としてはカンコノキ、ホウロクイチゴ、ナシカズラ、コバンモチ、シイモチ、タイミンタチバナ、ボタンボウフウ、ナナミノキ、オオカグマ、ナガサキシダなどがある。出雲部、隠岐諸島まで分布することが知られている植物にはサカキカズラ、ハマニンドウ、イズセンリョウ、ホウライカズラ、フウトウカズラ、ハスノハカズラ、クロバイ、バリバリノキ、ダンチク、ヒトモトススキ、ヒゲスゲ、キノクニスゲ、シシラン、ホウビシダ、ナガバノイタチシダ、テツホシダ、ナチシダ、アオネカズラ、イシカグマなどがあげられる。また、島根半島、隠岐諸島に隔離的に分布が知られる植物にはシシンラン、ナゴラン、カツモウイノデ、ヌカボシクリハランなどがある。

(2)　冷温帯・北方・寒地系の植物群について

県内に分布する植物の内、東北地方、北海道などの北方に分布が続く植物や、朝鮮半島から中国大陸に分布が続く植物も多くの種類が知られている。それらは中国山地脊梁部や海岸風衝地、砂浜、また、山地の草原や露岩地などの不安定立地に生育地があって分布することが多い。

北方・寒地系の植物としてはハマハコベ、ハチジョウナ、エゾオオバコ、ハイネズ、ハマベンケイソウ、ハマナス、ヒョウタンボク、オオクグなどや、オオエゾデンダ、マンシュウハシドイ、エゾノヨロイグサ、ニッコウキスゲ、キンコウカ、ホソバアマナ、ミヤマベニシダ、シノブカグマ、シラネワラビ、ヤマドリゼンマイ、ミツガシワ、サギスゲ、リュウキンカなどが知られる。朝鮮半島から中国大陸に分布が続く植物はダルマギク、チョウジガマズミ、ヤナギイボタ、オニヒョウタンボク、モクゲンジ、ホソバママコナ、クルマバアカネ、ヒゴタイ、ホクチアザミ、ヨロイグサなどがある。

(3)　日本海側に特有な分布の植物群について

本県は日本海に面してはいるが、いわゆる冬季多雪の土地ではなく、冬季の降水量より夏季の量が多く、しばしば準日本海型気候区に考えられている。その中で、日本海側の多雪地に分布の中心がある特有な植物群とされる種の分布も見られる。これらの植物は県内では東部から石見にかけて、しだいに分布が

まれとなって、種によってはその間に分布限界地がある。この群にはチシマザサ、オオバクロモジ、オニシモツケ、クロバナヒキオコシ、サンインヒキオコシ、タニウツギ、カンボク、サンインクワガタ、デワノタツナミソウ、ミヤマキケマン、ナガハシスミレ、トキワイカリソウ、ヒメモチ、カラスシキミ、エゾユズリハ、ハイイヌガヤ、チャボガヤ、ハイイヌツゲ、ツルシキミなどがあげられる。

⑷　中国地方に特有な植物及び県内に固有な植物について

これらの植物としてはダイセンヒョウタンボク、ダイセンミツバツツジ、ダイセンスゲ、ダイセンオトギリ、アラゲナツハゼ、キシツツジ、ヒメヤマツツジ、トゲナシアザミ、ビッチュウアザミ、サンベサワアザミ、サンインギク、ナツアサドリ、オキノアブラギク、トウテイラン、ヘイケイヌワラビなどがあげられ、そしてオキタンポポ、オキノアブラギク、オキシャクナゲ、オオメノマンネングサ、オッタチカンギク、サンイントラノオ、イズモコバイモは島根県に固有な植物とされている。

⑸　その他

襲速紀植物とされる種としてギンバイソウ、キレンゲショウマ、オオマルバノテンニンソウ、シロモジなどの生育地も知られている。

今回、この「しまねレッドデータブック」に取り上げた維管束植物は情報不足（DD）を含めて計366種である。

前述の「植物相の概要」で記載されている種類の多くは改訂版種選定カテゴリーの定義に従い、絶滅が心配される種として選定されているが、これらの植物種はもともと、生育する場所が限られていて、生育地の範囲、面積が小さい場合のものである。しかし、ここに取り上げられた植物の中には、過去においては生育地が広い範囲にあって、当時では絶滅が心配される状態でもなかったものが、何らかの原因によって現在では存続が危惧される状態となったと考えられる種もある。本文解説中の選定理由に多くが「……生育地が限られ……」と記述されていて、現在に至る状況は記述されていないが、その植物の分布上でのもともと限られている場合と何らかの原因により生育地が限られてきた場合もある。

昭和30年代において植物に対しての直接あるいは間接的な干渉の結果として、植物の種類によっては生育地や個体群の激減、消滅が気付かれるようになった。化石燃料が有効に利用されて、薪炭が不用となり林地が放置されることにより、特に林縁草地などの草原状地の植物、オキナグサ、ムラサキセンブリ、ヒゴタイ、マツムシソウ、フクシマシャジン、リンドウ、キキョウ、オミナエシ、センブリなどが激減してきた。また、機械化により、牛馬飼育のための草刈りは不用となり、同様に草原性植物が激減してきた。一方、各種土木工事は機械による効率化から農地での区画整理などにより水田周辺の水湿地の植物がかなり影響を受け、県内ではサンベサワアザミ、イヌセンブリ、トモエソウ、カキランなどの植物が激減し、生育地が消滅した場も多い。水田に関しては除草剤の開発、使用により水田雑草はほとんど絶滅状態である。山間の水田などでは僅かに水田周囲の水湿地に残されていたスブタ類、ホシクサ類など、減反政策により一時的に息を吹き返したようにも思われたが、水田周囲が樹林化することにより、絶滅寸前であり、県内全域での現状がつかみにくい。また、溜池や用水路においても同様にこの時期に多くの水生植物が激減、消滅した生育地が多い。特に里山の溜池では、除草剤や生活廃水の流入も考えられない池においても水生植物が全滅してしまった池が多く存在している。

（杦村喜則）

維管束植物掲載種一覧

計366種

絶滅（ＥＸ）

- ハマビシ

1種

野生絶滅（ＥＷ）

- デンジソウ

1種

絶滅危惧Ⅰ類（ＣＲ＋ＥＮ）

- マツバラン
◇ マンネンスギ
○ イヌスギナ
○ フジシダ
↑ アマクサシダ
- カツモウイノデ
○ ホウライヒメワラビ
○ ヒメハシゴシダ
○ フクロシダ
- ヌカボシクリハラン
↓ アカウキクサ
↑ ミスミソウ
- サンカヨウ
- ウスバサイシン
- ダイセンオトギリ
- ザリコミ
- サナギイチゴ
○ アイズシモツケ
↑ ミソナオシ
- ヒナノカンザシ
○ ミヤマウメモドキ
↑ ホナガクマヤナギ
↑ キガンピ
- エゾノヨロイグサ
○ タケシマシシウド
- ハイハマボッス
↑ ムラサキセンブリ
- チョウジソウ
↑ ジュズネノキ
↑ シモバシラ
- サンイントラノオ
- シシンラン
↑ ヤブウツギ
- ヒゴタイ
- オオダイトウヒレン
- ハチジョウナ
↑ イバラモ
- イズモコバイモ
○ ホソバノアマナ
- バイケイソウ
↑ オオミクリ
○ ノグサ
- キンセイラン
- ユウシュンラン
- サギソウ
○ アスヒカズラ
- ヒモラン
↑ タカサゴキジノオ
↑ ハコネシダ
◇ クモノスシダ
↑ イズヤブソテツ
- ナガサキシダ
- ミゾシダモドキ
- クラガリシダ
- オオエゾデンダ
- オオヤマレンゲ
- ヒメバイカモ
- オニバス
- ベニバナヤマシャクヤク
- ツルネコノメソウ
↑ ヒロハノカワラサイコ
↑ ホウロクイチゴ
○ ハマナタマメ
↑ オオバヌスビトハギ
- テツカエデ
↑ イワウメヅル
↑ ウドカズラ
↑ ナツアサドリ
- ヨロイグサ
↑ ムカゴニンジン
↑ ハマサジ
- ヒメシロアサザ
↑ クサタチバナ
- ハマベンケイソウ
○ オオヤマジソ
- ミヤマクワガタ（ダイセンクワガタ）
- イワギリソウ
- キキョウ
○ ヤナギタンポポ
○ キクアザミ
○ キビシロタンポポ
- ホンゴウソウ
○ ユウスゲ（キスゲ）
- キンコウカ
- ヒナノシャクジョウ
- スジヌマハリイ
↑ マメヅタラン
- キエビネ
- マヤラン
- フガクスズムシソウ
↑ スギラン
↑ オオバシナミズニラ
↑ ツルホラゴケ
- タキミシダ
○ イワトラノオ
↑ ツクシヤブソテツ
○ ホソバショリマ
- ヘイケイヌワラビ
↑ ホテイシダ
↑ イワオモダカ
↑ ミチノクフクジュソウ（注）
↑ バイカモ
- マルバウマノスズクサ
- シマサルナシ
- キレンゲショウマ
- ハマナス
↑ コジキイチゴ
↑ タヌキマメ
↑ サイカチ
↑ ナナミノキ
↑ ヨコグラノキ
○ ハマボウ
↑ ウラジロウコギ
- アマニュウ
- イワナシ
- イヌセンブリ
- アサザ
○ フナバラソウ
- カイジンドウ
↑ ヤマホロシ
- イワタバコ
↑ ダイセンヒョウタンボク
- チョウジギク
- スイラン
○ オカオグルマ
○ アギナシ
- ホソバナコバイモ
- ニッコウキスゲ
- ハナゼキショウ
↑ ツクシクロイヌノヒゲ
- サギスゲ
↑ ムギラン
- サルメンエビネ
- クマガイソウ
- ジガバチソウ

- ウチョウラン
- トキソウ
- カヤラン
- イイヌマムカゴ
- ミズチドリ
- カシノキラン
- ナゴラン
- ショウキラン
- コバノトンボソウ
- マツラン
- クモラン

計146種

絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

- ミズニラ
- ウチワゴケ
- ○ ヌカイタチシダモドキ
- ↑ ナンカイイタチシダ
- ヒメノキシノブ
- イチイ
- ○ ホザキノヤドリギ
- ハマナデシコ
- サンヨウブシ
- リュウキンカ
- タイリンアオイ
- シラヒゲソウ
- シロヤマブキ
- カンコノキ
- シイモチ
- ダイセンキスミレ
- サケバゼリ
- ホンシャクナゲ
- ミツガシワ
- ◇ サワルリソウ
- コナミキ
- ◇ サンインクワガタ
- ミミカキグサ
- ヒョウタンボク
- サワギキョウ
- テリハアザミ
- カシワバハグマ
- トチカガミ
- リュウノヒゲモ
- イトトリゲモ
- コキンバイザサ
- オオホシクサ
- マシカクイ
- エビネ
- キンラン
- カキラン
- ヒロハハナヤスリ
- ツクシイワヘゴ
- ↑ ミヤマクマワラビ
- テツホシダ
- サジラン
- ○ ミヤコミズ
- ハルトラノオ
- オオヤマフスマ
- ニリンソウ
- オキナグサ
- トモエソウ
- タコノアシ
- ◇ キビナワシロイチゴ
- カジカエデ
- カラスシキミ
- オグラノフサモ
- サラサドウダン
- ↓ アラゲナツハゼ
- サカキカズラ
- ◇ カリガネソウ
- ホソバママコナ
- ↑ ノタヌキモ
- ムラサキミミカキグサ
- カンボク
- ヒッツキアザミ
- サンベサワアザミ
- ↑ ヤマザトタンポポ
- セキショウモ
- カワツルモ
- カタクリ
- ミズアオイ
- トウササクサ
- アンペライ
- ナツエビネ
- トケンラン
- ベニシュスラン
- ヤシャゼンマイ
- ○ ツクシオオクジャク
- イワイタチシダ
- ツクシイヌワラビ
- ビロウドシダ
- ミヤマミズ
- ナガバノヤノネグサ
- ワチガイソウ
- アズマイチゲ
- フタバアオイ
- アオベンケイ
- ヤシャビシャク
- ビッチュウフウロ
- メグスリノキ
- コガンピ
- ホタルサイコ
- ベニドウダン
- ハシドイ
- カギカズラ
- オウギカズラ
- ↑ ゴマノハグサ
- タヌキモ
- ヤマヒョウタンボク
- フクシマシャジン
- モリアザミ
- オオモミジガサ
- ○ クシバタンポポ
- オヒルムシロ
- ↓ イトクズモ（ミカヅキイトモ）
- ヒメナベワリ
- ヒメシャガ
- ヒメミクリ
- ヒナラン
- ギンラン
- セッコク
- ◇ ヤマトキソウ

計108種

準絶滅危惧（ＮＴ）

- ミズスギ
- オオフジシダ
- シシラン
- コバノヒノキシダ
- ○ シノブカグマ
- ミヤコイヌワラビ
- ヒメサジラン
- オオアカウキクサ
- ナツノハナワラビ
- シノブ
- ナチシダ
- クルマシダ
- ハチジョウベニシダ
- ハコネシケチシダ
- カラクサシダ
- カヤ
- イシカグマ
- ミズワラビ
- ホウビシダ
- オオカグマ
- ウスヒメワラビ
- ムクゲシケシダ
- ↓ アオネカズラ
- バッコヤナギ（ヤマネコヤナギ）

• サクラバハンノキ	↓ キミズ	• コケミズ	
• マダイオウ	• シロモジ	• バリバリノキ	
• ユキワリイチゲ	• サンインシロカネソウ	• ジュンサイ	
• コウホネ	• ヒツジグサ	• ハンゲショウ	
• サンヨウアオイ	• コウヤミズキ	• イスノキ	
• ミツバベンケイソウ	• ツメレンゲ	• オオメノマンネングサ	
• オオヤマザクラ（エゾヤマザクラ）	• ナンキンナナカマド	• シモツケ	
• イワタイゲキ	• モクゲンジ	• コバンモチ	
• ヘラノキ	• タチモ	◇ フサモ	
• ボタンボウフウ	• レンゲツツジ	↓ ゲンカイツツジ	
• タイミンタチバナ	• クロバイ	• ヤナギイボタ	
• ホウライカズラ	• ガガブタ	• スズサイコ	
• イナモリソウ	↓ アオイゴケ	• ホタルカズラ	
• トウテイラン	• イヌノフグリ	• カワヂシャ	
• イヌタヌキモ	• ハマニンドウ	• オニヒョウタンボク	
• チョウジガマズミ	• カノコソウ	• ナベナ	
• ヒロハヤマヨモギ	• ダルマギク	• オッタチカンギク	
• ハマベノギク	• ナガバノコウヤボウキ	• スブタ	
• ヤナギスブタ	• ミズオオバコ	• イトモ	
• オオトリゲモ	• タキキビ	• ウキシバ	
• ミクリ	• ヤマトミクリ	• ナガエミクリ	
◇ サツマスゲ	• キノクニスゲ	• オオクグ	
• ヒトモトススキ（シシキリガヤ）	• フウラン	• ヨウラクラン	**計93種**

情報不足（ＤＤ）

• コヒロハハナヤスリ	• ハマハナヤスリ	• ナカミシシラン	
• シマキツネノボタン	○ コゴメウツギ	○ オオバクサフジ	
• シャクジョウソウ	• キセワタ	○ アオホオズキ	
○ オオマルバノホロシ	• イトタヌキモ（ミカワタヌキモ）	○ バアソブ	
• ムラクモアザミ	○ ミヤコアザミ	• トリゲモ	
○ アブラシバ	◆ ハクウンラン		**計17種**

今回の改訂により掲載対象外となった種

クジャクフモトシダ	ヌリワラビ	クルマバアカネ	
ノシラン	ホザキノフサモ	センニンモ	
オオササエビモ	ヤマホオズキ	オキノアブラギク	**計９種**

【記号説明】
- •：カテゴリー区分変更なしの種（266種）
- ↑：上位のカテゴリー区分への変更種（47種）
- ↓：下位のカテゴリー区分への変更種（７種）
- ○：新規掲載種（36種）
- ◇：情報不足からの変更種（９種）
- ◆：情報不足への変更種（１種）

（注）ミチノクフクジュソウ：前回の改訂では「フクジュソウ」としていたが、その後精査したところ、「ミチノクフクジュソウ」であることが判明したため今回表記を改めた。

フウロソウ目ハマビシ科

ハマビシ

Tribulus terrestris L.

島根県：絶滅（EX）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

昭和10年代において生育地が確認されていたが、昭和20年代には既に消滅し、その後、県内では生育地が確認されない。

【概要】

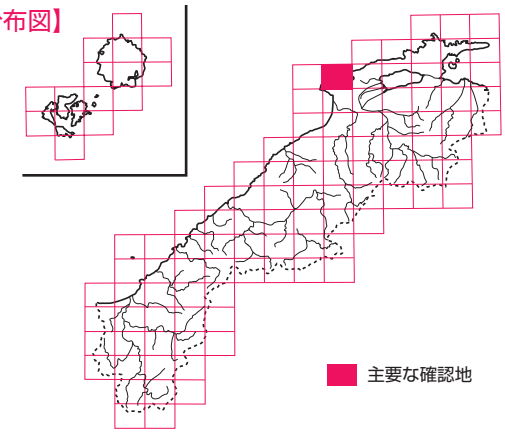
海岸の砂浜に生える一年草または越年草であって、茎は根際から分枝し、さらに分枝して地に這う型の植物。葉は３－５対の小葉をもつ葉と６－７対の小葉をもつ葉の２型があって対生する。花は夏から秋に咲き、葉腋に径２㎝ばかりの黄色５弁花を着ける。果実は10本の太い刺と多くの刺状の毛があって特徴的である。

国内では西日本の海岸に分布域があるものの生育地はまれなようであり、本来、熱帯等の暖地のもののようで、暖地では海岸だけでなく、内陸の乾燥地にも生えるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部の一部の海岸砂丘での生育地が知られていたものであるが、現在では県内での生育地は確認されていない。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
×																				×	

シダ植物デンジソウ科

デンジソウ

Marsilea quadrifolia L.

島根県：野生絶滅（EW）

写真 口絵１

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

【選定理由】

全国的に希少であり、隠岐（島後）で近年まで生育していたが、現在確認されていない。

【概要】

夏緑性で根茎は細く伸び、葉柄は10－15㎝で四葉のクローバーのような小葉をもつ。

北海道・本州・四国・九州と奄美大島の低地の水田や池沼などに群生する。国外ではヨーロッパ・インド北部から東アジアに分布する。

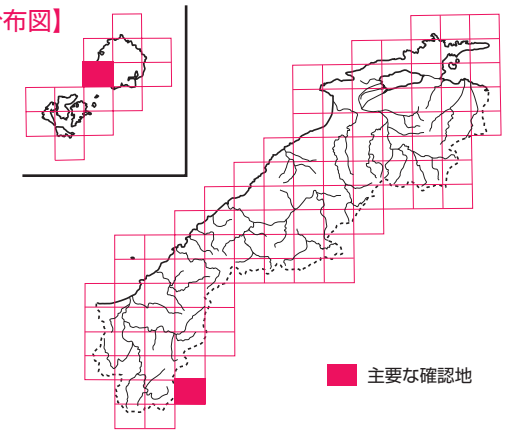
【県内での生育地域・生育環境】

西部での分布が知られていたが、絶滅している。隠岐（島後）でも20年ほど前には見られたが、近年確認できていない。

【存在を脅かす原因】

除草剤散布、遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		×	×									×				×					

シダ植物マツバラン科

マツバラン

Psilotum nudum (L.) Beauv.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:－
環境省:準絶滅危惧(NT)

【選定理由】
県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少ない。

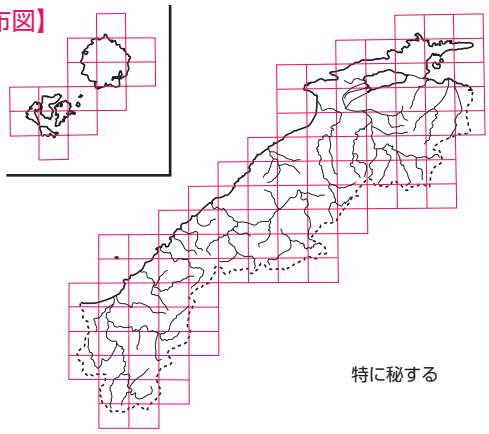
【概要】
樹幹や岩隙生の多年生の常緑草本で、地上茎は直立し、２叉分岐をする。高さは10－40cmほどで、全体緑色で枝には稜があり、断面は３角形となる。胞子嚢群は３室で、枝につく短い側枝の上に単生する。

国内では本州（宮城、石川県以西の暖地）から南西諸島にかけて分布し、韓国（済州島）・中国南部から、世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。開発や採集により、生育地が減少している。

【県内での生育地域・生育環境】
出雲部の一部に生育が確認されていた。近年出雲部の別地域に数カ所生育が確認された。県内では個体数はわずかで、日本海側では山口の笠山から飛んで分布し、石川県にも記録があったようであるが、絶滅したようである。

【存在を脅かす原因】
生育地の開発、自然遷移、また、採集による。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎								○													

シダ植物ヒカゲノカズラ科

アスヒカズラ

Lycopodium complanatum L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:－
環境省:－

【選定理由】
県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少なく、離れた分布を示す。

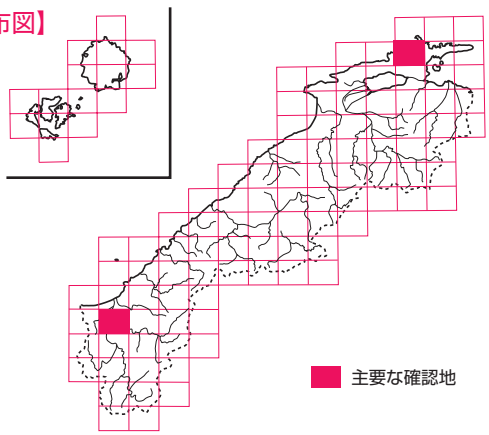
【概要】
常緑性のシダで、地上生で、匍匐茎は地中または地上を長く這い、まばらに分岐する。直立茎は斜上または直立し、高さ10－30cmになり、扇状に分岐する。鱗片葉は鮮緑色で、４列に並び、先端は棘状。背葉は線形で圧着し、側葉は広く、開出する。胞子嚢穂は１－３cmで円柱形。３－10cmの長さの柄に１－５個つく。

国内では北海道や本州中部以北には多いが、本州西部には少なく、滋賀、兵庫、鳥取、広島、岡山などの限られた場所に点在し、徳島県でも生育する。国外では北半球の温帯に広く分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では近年西部と東部に分布が知られている。ともに切り開かれた道路脇の斜面で少数生育する程度である。近くに全く生育地が知られておらず、遷移による絶滅が心配される。

【存在を脅かす原因】
遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎						○													

シダ植物ヒカゲノカズラ科

スギラン

Lycopodium cryptomerinum Maxim

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】
分布が限られ、個体数はきわめて少ない。

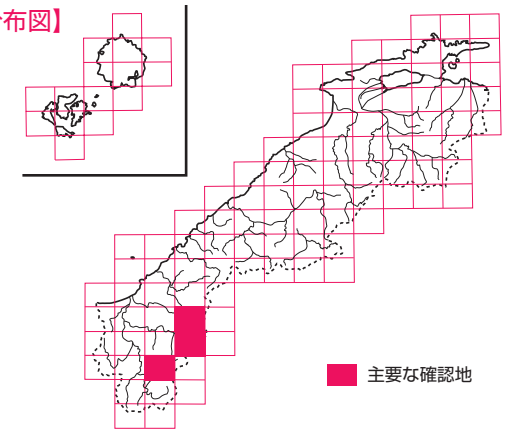
【概要】
常緑で樹上まれに岩上に着生する。茎はまばらに又状に分枝し、茎は径３－５㎜で長いものは30㎝を越える。葉は開出して密生し、緑色で線状披針形から狭披針形、長さ１－２㎝。胞子嚢は枝端近くにつき、胞子葉は栄養葉よりやや小さいが、胞子嚢穂というべきまとまりをもたない。

北海道東部から屋久島にかけての山林中に生育する。国外では韓国（済州島）や台湾・インドにも記録されている。

【県内での生育地域・生育環境】
西部の温帯上部の樹幹への着生が見られるが、個体数はきわめて少ない。

【存在を脅かす原因】
森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物ヒカゲノカズラ科

マンネンスギ

Lycopodium obecurum L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価：－
環境省：－

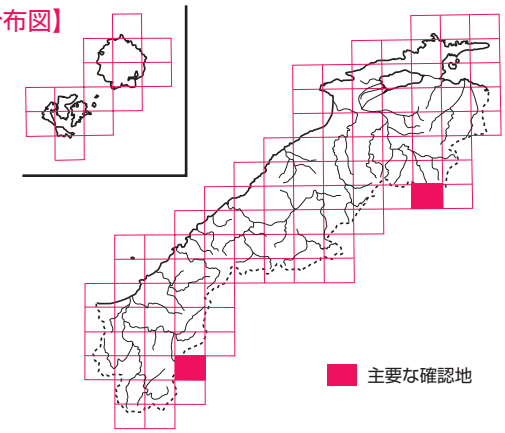
【選定理由】
県内では過去に採集、確認したという情報があるが、現在の生育は確認できていない。県下では非常に希少な種である。

【概要】
地上生の常緑草本で茎の主軸は地中を長く匍匐し、帯赤褐色でまばらに分枝する。側枝は直立枝となって地上に伸び、下部は分枝せず、上部で分枝して樹木状となり、高さ10－30㎝。葉は線形で鋭頭、全縁、緑色でやや硬い。胞子嚢ははっきりした形となり、１本の側枝に数個つき、小枝端に１個頂生する。南西諸島を除く日本各地の山地の林下や陽地に生じる。国外では東アジアから北アメリカにかけて分布している。

【県内での生育地域・生育環境】
以前西部の山地で採取された記録がある。また、東部の山地で生育するという情報もあったが現状は不明である。

【存在を脅かす原因】
遷移、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△		△		○																	

シダ植物ヒカゲノカズラ科

ヒモラン

Lycopodium sieboldii Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少ない。日本海側で北限にあたり、離れた分布を示す。

【概要】

常緑性のシダで、樹幹や岩上について下垂し、長さ20－50cmになる。茎は細く、ひも状で、基部で多数に分枝する。葉は鱗片状で小さく、三角状卵形～卵形で長さ２㎜以下､茎に圧着してつく。胞子嚢は小枝の葉腋につき、その部分がわずかに太くなる。

国内では本州の南部（伊豆半島・東海道・紀伊半島）と隠岐諸島に分布し、四国・九州・南西諸島（沖縄本島与那覇岳）に産する。九州南部や屋久島に比較的生育地がみられるが、森林の伐採や採集により生育地が減少している。

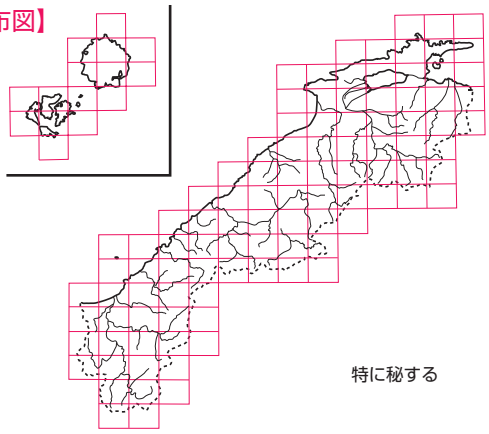
【県内での生育地域・生育環境】

県内では古くから隠岐（島後）に自生分布が知られており、国指定天然記念物「高尾暖地性闊葉樹林」内での分布の記録もある。現在、高尾暖地性闊葉樹林内では自生が確認できないが、採集･栽培されている個体があり、現在でも隠岐（島後）で自生があると思われる。残された個体があれば厳重な保護を必要とする。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

シダ植物ミズニラ科

オオバシナミズニラ

Isoetes sinensis Palmer var.*coreana* (Y.H.Chung &H.K.Choi) M.Takamiya *et al.*

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内の産地がまれであり、現在確認できるところがない。また､全国的にも生育地は少なく。減少傾向が著しい。

【概要】

外見では他のミズニラ類と区別できないが、全体的に大型で、大胞子表面はとぎれた畝状隆起があり、小胞子表面に針状突起がある。従来はシナミズニラと混同されていたが、シナミズニラは小胞子の長径が30μm以下で気孔の孔辺細胞長は80μm以下であるのが、オオバシナミズニラでは小胞子の長径は30μm以上で気孔の孔辺細胞長は80μm以上であることで区別されるという。シナミズニラは４倍体有性生殖種で国内では九州各県や佐渡に見られ、タイプは中国であり、オオバシナミズニラは６倍体有性生殖種で、茨城・長野と中国（岡山、広島、島根、山口の各県)、四国（高知)、九州（福岡、大分、宮崎）に分布する。また､国外では朝鮮半島に分布する。

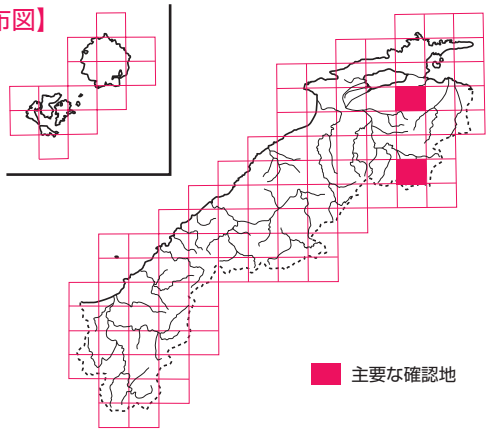
【県内での生育地域・生育環境】

最近まで出雲部の溜池や休耕田に産地が知られていたが、現在確実に分布する場所は知られていない。

【存在を脅かす原因】

溜池や休耕田の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎										○		○									

シダ植物トクサ科

イヌスギナ

Equisetum palustre L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価：－
環境省：－

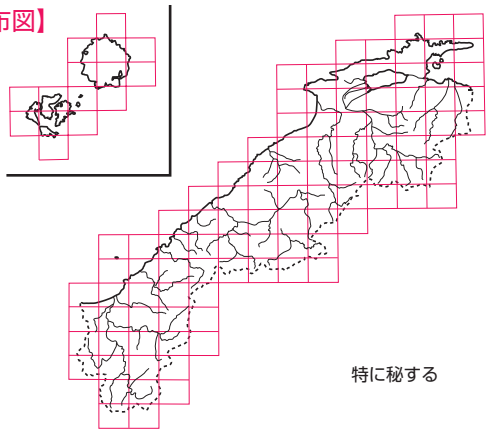
【選定理由】
県内の産地は１カ所のみ確認されており、個体数も少ない。他の産地から離れた分布であり、環境の変化により絶滅が心配される。

【概要】
湿地に群生する夏緑性草本で、地下茎は長く匍匐し、直立茎をつける。茎は高さ20－60cmで枝を輪生する。胞子嚢穂は主軸に頂生し１－3.5cm。0.5－３cmの柄を持つ。
国内では北海道や本州（関東･中部以北）に分布する。国外では北半球の温帯に広く分布する。栄養茎に胞子嚢穂をつけたミモチスギナとは枝の最下の節間が主軸の葉鞘より短いことで区別できる。

【県内での生育地域・生育環境】
近年、西部の湿地で確認したが、以前から分布が知られていたようである。他の地域とは非常に離れた分布ではあるが、自然分布と考えられ、非常に貴重な生育地である。

【存在を脅かす原因】
ごく限られた場所であり、遷移や乾燥化による絶滅が心配される。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎					○														

シダ植物キジノオシダ科

タカサゴキジノオ

Plagiogyria adnata (Bl.) Bedd.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価：－
環境省：－

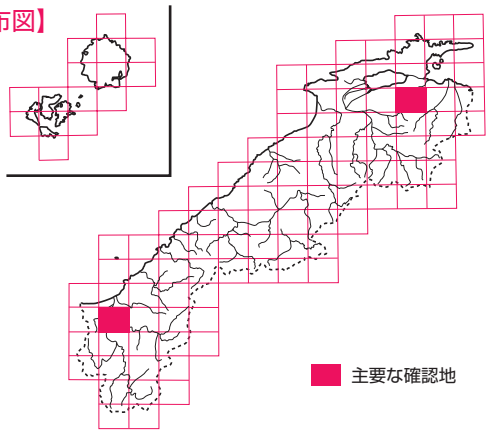
【選定理由】
産地・個体数ともに少ない。日本での分布の北限を構成している。

【概要】
地上生の常緑シダで根茎は短く斜上し､葉を叢生する。栄養葉は単羽状で、羽片の上側は中軸に流れてつく。頂羽片ははっきりせず、側羽片が鎌状に曲がる。
本州（伊豆諸島・伊豆半島以西の暖地）・四国・九州・南西諸島に生育し、国外では台湾・中国南部からアジアの熱帯に広く分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県下での分布はとても希少で、西部と東部で局所的に生育していることが知られている。

【存在を脅かす原因】
森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎		○																	

シダ植物コケシノブ科

ツルホラゴケ

Crepidomanes auriculatum (Bi.) K.Iwats.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内では生育地がきわめて少なく、個体数が限られている。国内での自生の北限となる。

【概要】

樹幹やまれに岩上に着生し、根茎が長く匍匐する。常緑で、葉柄は0.8－２㎝で葉身は単羽状複生で長さ10－30㎝、幅1.5－４㎝で先端は円頭から鋭頭で基部はくさび形である。胞子嚢群は狭くなった裂片に生じ、包膜はコップ状である。

国内では本州南西部（和歌山県・三重県・島根県・山口県および伊豆諸島神津島）・四国・九州・南西諸島の森林中に見られ、インドからミクロネシア・マレーシアにかけての熱帯に分布する。

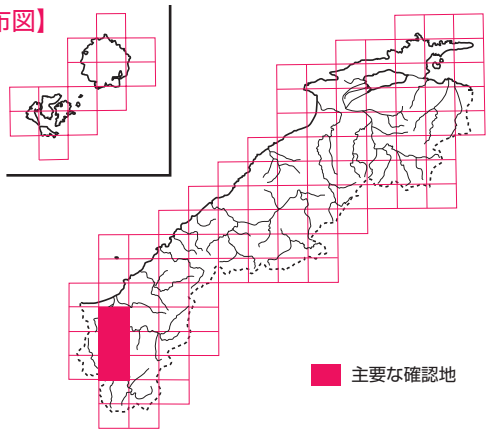
【県内での生育地域・生育環境】

西部の照葉樹林下の岩上に着生したものが確認されている。

【存在を脅かす原因】

附近の森林伐採にともなう環境の変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎						○													

シダ植物コバノイシカグマ科

フジシダ

Monachosorum maximowiczii (Bak.) Hayata

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内では西部に自生地が１カ所知られているだけである。

【概要】

地上生または岩上生の常緑のシダで、しばしば群生する。葉柄は光沢のある褐色で、５－10㎝でほとんど無毛。根茎は短く斜上し、葉は単羽状複生で長さ15－30㎝、幅２－３㎝。葉は薄く、生時深緑色。羽片は50対前後ある。胞子嚢群は円形で小さい。

本州（福島県・関東地方以西）・四国・九州。国外では中国と台湾に分布する。

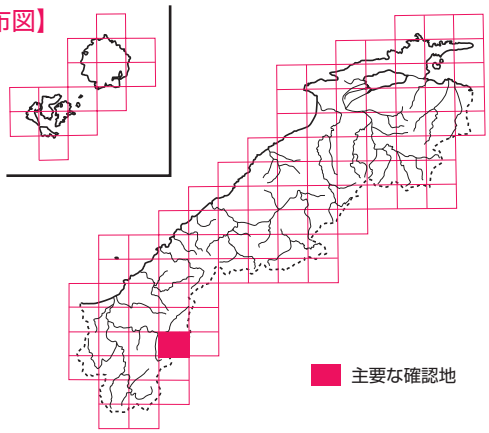
【県内での生育地域・生育環境】

県西部の山地に１カ所知られている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物ホウライシダ科

ハコネシダ

Adiantum monochlamys Eaton

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では産地が限られている。

【概要】

常緑性のシダで、葉柄は光沢のある紫褐色から赤褐色であり、葉身は三角状卵形で３回羽状に分枝する。小葉は倒三角状卵形で基部はくさび形になり、胞子嚢群が１個つく。胞子嚢群のつく先端はややくぼむ。

国内での分布は本州・四国・九州であり、ややかわいた林中の岩上や岩の傍らの地上に生育し、朝鮮半島南部・中国・台湾に分布する。

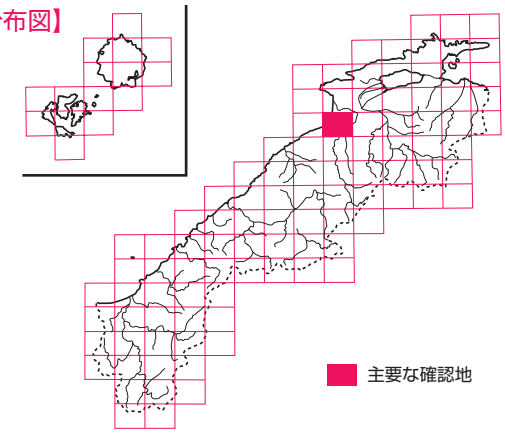
【県内での生育地域・生育環境】

県内では県東部の限られた場所にのみ分布するだけで、個体数も少ない。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、土砂堆積、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎													○									

シダ植物シシラン科

タキミシダ

Antrophyum obovatum Baker

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内で生育地は限られており、個体数はとても少ない。全国的にも希少な種である。

【概要】

常緑性のシダで、短い根茎から葉を叢生する。葉身は倒卵形で、上部から５分の１くらいのところで幅が最大となる。葉柄は普通は８㎝以下であるが、10㎝を超えるものもある。葉身は長さ10㎝、幅６㎝前後になる。胞子嚢群は葉身の裏に縦に溝ができ、これに埋まってつく。

国内では本州（富山県・千葉県以西）・四国、九州で、やや陰湿な林中の渓流の近くの岩上に生じる。国外では台湾・中国からインドシナ半島・マレーシアに広く分布する。

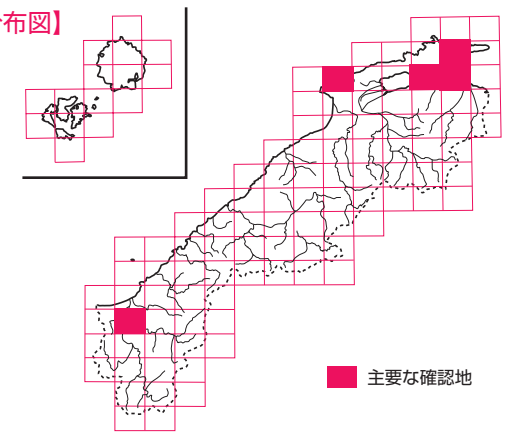
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部に産地が知られていたが、環境の変化や採集により絶滅したところも多い。残っているところも個体数は僅かであり、絶滅が心配される。近年西部での分布も確認された。

【存在を脅かす原因】

附近の森林の伐採、開発、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎						○													

シダ植物イノモトソウ科

アマクサシダ

Pteris dispar Kunze

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵1

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では産地・個体数ともにも少ない。また、国内の日本海側での北限となっている。

【概要】

常緑性で根茎は短く、葉柄は光沢のある赤褐色で長さは20－25cm。葉身は２回羽状深裂し、広披針形から長披針形で、頂羽片がある。側羽片は３－６対ある。胞子嚢群は葉の縁につける。

国内では本州(関東地方以西)･四国･九州･南西諸島で、暖地の山麓から村落近くの日当たりのよい場所から陰地にかけて生育し、南部ではややふつうに見られる。国外では朝鮮半島・台湾・中国に分布する。

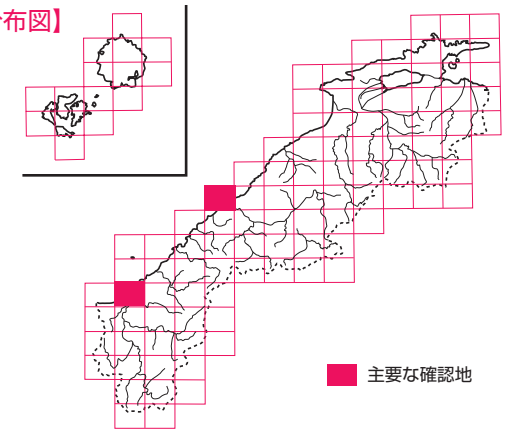
【県内での生育地域・生育環境】

現在､石見中部の海岸部の照葉樹林下に自生が知られ、別地域の記録もあるが現状不明である。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎						○													

シダ植物チャセンシダ科

クモノスシダ

Asplenium ruprechtii Kurata

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県下では個体数が少なく、きわめてまれである。

【概要】

常緑性の小型のシダで葉身は単葉で全縁、先端が長く伸び、先端近くに芽を出す。

北海道から九州まで広く分布し、山地の石灰岩上に生じることが多いが、安山岩などにも生じるという。国外では朝鮮半島・中国東北部・ソビエト東部に分布する。

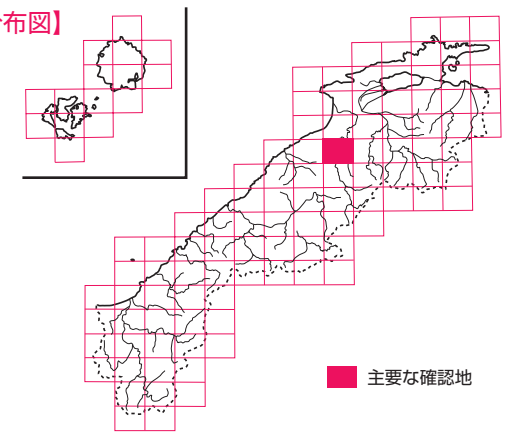
【県内での生育地域・生育環境】

東部の谷間の林下の岩に少数が生育していた。岩質は石灰岩以外のものである。現在は遷移により、現地確認をするのが困難な状況で、被陰による絶滅の可能性が高い。

【存在を脅かす原因】

遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○														

シダ植物チャセンシダ科

イワトラノオ

Asplenium tenuicaule Hayata

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

生育地・個体数ともに少ない。

【概要】

常緑性の小型のシダであり、葉を叢生する。葉柄は短く2－5㎝で葉身は2回羽状複生し、広披針形から三角状長楕円形で、鋭頭。長さ2－15cm。幅1－4㎝。胞子嚢群は裂片に1－4個つき長楕円形で長さ2－3㎜。

北海道・本州(主として太平洋側)・四国・九州でやや薄暗い岩上に生じる。国外では台湾から中国・ヒマラヤに分布する。

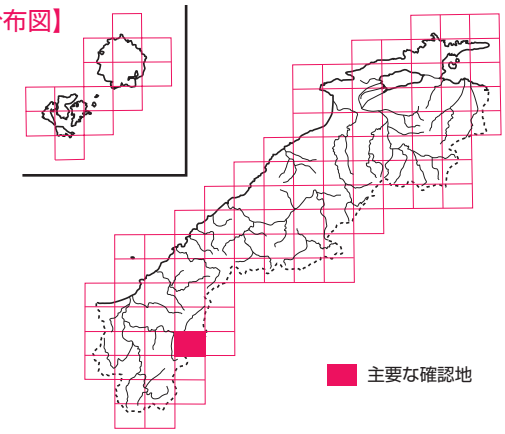
【県内での生育地域・生育環境】

県西部の生育は標本として以前から知られていたが、近年同場所で再発見された。

【存在を脅かす原因】

土壌堆積、遷移、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎						○														

シダ植物オシダ科

カツモウイノデ

Ctenitis subglandulosa (Hance) Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵1

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

日本での自生北限であり、個体数も少ない。

【概要】

常緑性の大型のシダであり、根茎は短く、葉を叢生し、葉柄は長さ40－80㎝で密に鱗片をつける。基部の鱗片は褐色をおびたわら色で、上部は黄褐色。葉身は卵状三角形で3回羽状深裂する。

国内での分布は本州(千葉県・伊豆半島・伊豆諸島・紀伊半島南部・島根県)・四国南部・九州・南西諸島で山地の林下に群生する。国外ではインド北東部・中国南部・台湾・グアム・フィリピン・ジャワ・バリ・東ニューギニアとフィジーに分布する。

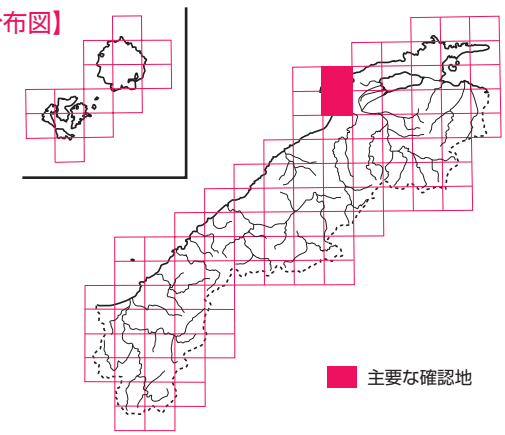
【県内での生育地域・生育環境】

県内では島根半島の西部に数カ所の自生が見られる。個体数の多いところもあるが、個体数が減少しているところもある。スギ林の林床に自生しているものが多く、一斉伐採や、シカの食害により絶滅することが心配される。日本海側では佐賀県から飛び離れて分布する国内の自生北限である。

【存在を脅かす原因】

一斉伐採、シカの食害。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎								○													

シダ植物オシダ科

イズヤブソテツ

Cyrtomium fortunei J.Sm. var. *atropunctatum* (Kurata) K.Iwats.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵1

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

全国的に個体数が少なく。県下では個体数が非常に少ない。分布の北限を構成する。

【概要】

常緑性で葉を叢生する。側羽片は10－20対で広披針形、耳片は発達しない。包膜の中心部が黒褐色で辺縁は不規則に切れ込む。

本州（静岡以西）・四国（徳島県）・九州の山林中に見られる。現在、国内に固有の変種とされている。

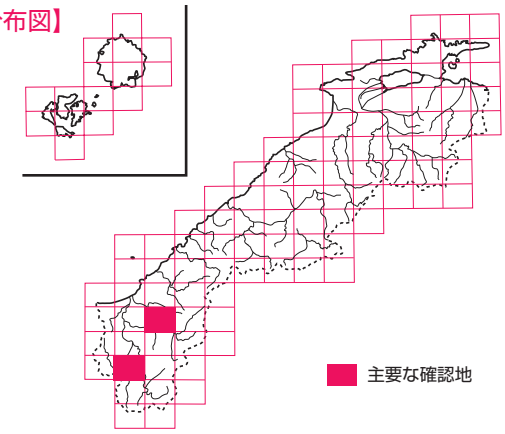
【県内での生育地域・生育環境】

石見西部の林下に生育が確認されている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物オシダ科

ツクシヤブソテツ

Cyrtomium macrophyllum (Makino) Tagawa var. *tukusicola* (Tagawa) Tagawa

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

全国的に個体数が少なく。県下では個体数が非常に少ない。分布の北限を構成する。

【概要】

常緑性のシダ植物で、葉を叢生する。側羽片は6－10対程度であり、幅がヒロハヤブソテツに比べ、やや狭く、長楕円形から狭長楕円形。基部が円みを持たず、広いくさび形である。頂羽片も小さい。包膜に鈍鋸歯があり、中央部の色がやや濃い。

本州（栃木県・千葉県以西）・四国・九州で山林中の比較的湿ったところに生じる。国外では中国に産する。

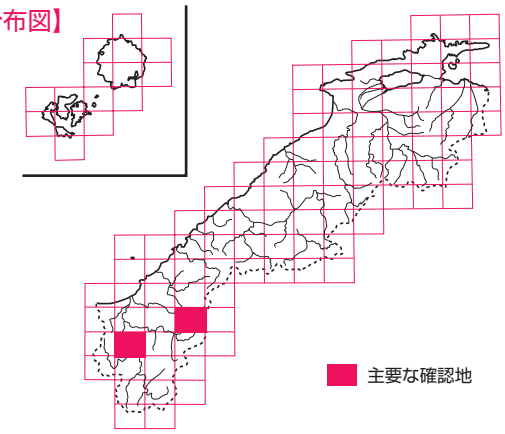
【県内での生育地域・生育環境】

県下では、西部の谷の林下に少数生育しているものが確認されている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、土砂堆積。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物オシダ科

ホウライヒメワラビ

Dryopteris hendersonii (Bedd.) C.Chr.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵1

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

個体数が少なく、他の分布と非常にはなれた分布となっている。

【概要】

常緑性のシダで根茎は短く、横走から斜上する。葉柄は長さ40－60cmで開出する鱗片を密生し、下部は淡褐色～濃褐色である。葉身は30－50cm、幅30－60cmで広卵状三角形～卵形で下部は４回羽状深裂～全裂する。最下羽片が最大で非対称の三角形である。胞子嚢群は小羽軸の近くにつき、包膜は小さい。似たホウノカワシダとは葉柄の鱗片は淡褐色～濃褐色で、小羽片の裂片は狭披針形、鋸歯縁、脈がはっきり見え、包膜があることで区別されている。

国内では屋久島の山地に生育が知られており、国外ではヒマラヤ・タイ北部・中国・台湾・フィリピンに分布する。

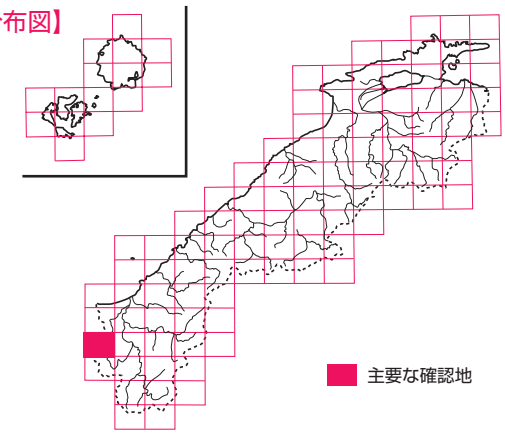
【県内での生育地域・生育環境】

近年西部の山地の林下の谷に生育が知られた。個体数はわずかである。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、土壌堆積。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎						○													

シダ植物オシダ科

ナガサキシダ

Dryopteris sieboldii (van Houtte ex Mett.) O.Kuntze

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地・個体数ともに少ない。国内での自生の北限域をなすものである。

【概要】

常緑生で、根茎は短く、葉は奇数羽状複葉である。側羽片は２－６対あり、線形で鋭尖頭、基部は円形から切形で長さは15－30cmである。頂羽片も側羽片と同様な形である。

千葉県以西の本州の太平洋側と四国・九州に分布し、石川県でも発見されているという。山地の林下に生じる。

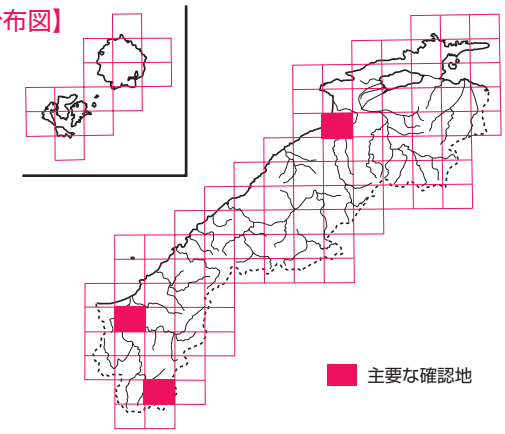
【県内での生育地域・生育環境】

石見西部に少数の分布が知られていたが、近年東部にも分布が知られた。スギ林の林床に生育する。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎		○				○													

シダ植物ヒメシダ科

ホソバショリマ

Thelypteris beddomei (Bak.) Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:－
環境省:－

【選定理由】
県内での生育地は１カ所のみ知られている。全国的に希少な種である。

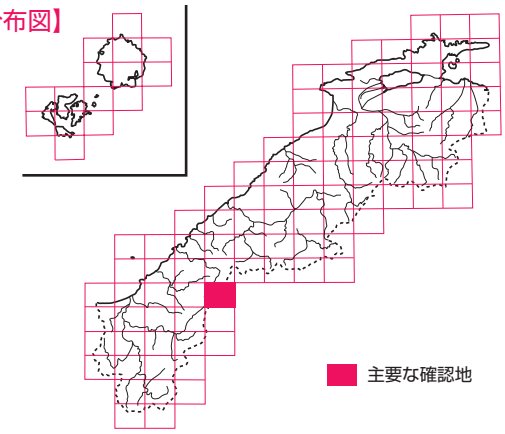
【概要】
根茎が長く這い、先端部に葉をつける、葉柄はわら色で長さ約10cmでまばらに鱗片をつける。葉身は倒披針形で鋭尖頭、長さ20－50cm、幅５－８cm、下部の羽片はしだいに短くなり、下部数対は耳状になる。胞子嚢群は裂片の辺縁よりにつき、胞膜は円腎形である。

静岡県・中部地方西部・中国（広島・山口）・四国（徳島県・愛媛県）・九州（北・中部）と屋久島にややまれに分布する。国外では韓国（済州島）・インド・スリランカからニューギニアにかけての地域に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
近年、県西部で生育地が確認された。

【存在を脅かす原因】
遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎							○												

シダ植物ヒメシダ科

ヒメハシゴシダ

Thelypteris cystopteroides (Eaton) Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:－
環境省:－

【選定理由】
県内での生育地は１カ所のみ知られている。国内で北限となる。

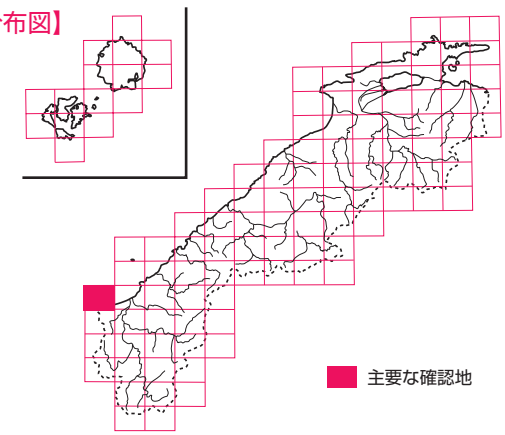
【概要】
常緑性で、根茎が長く這い、間隔をおいて葉をつける。葉柄は長さ２－４cm、わら色で有毛。基部は黒色。葉身は３－８cm、幅0.8－２cmで、長楕円形～広披針形で鋭頭。羽片は４－８に切れ込み、円頭である。胞子嚢群は裂片の辺縁よりにつき、胞膜は円形から楕円形で、包膜は円腎形である。

国内では主として太平洋側で伊豆半島･紀伊半島南部･四国南部･九州（西･南部）･南西諸島に分布している他、広島県（宮島）で確認されている。また近年、山口県の北部の海岸部で確認されたが、県内の分布はこの産地に近い場所である。国外では台湾に分布し、明るい林下や斜面、路傍に生育する。

【県内での生育地域・生育環境】
西部の海岸に近い道路脇の斜面で確認されている。

【存在を脅かす原因】
遷移、開発。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎																○			

シダ植物ヒメシダ科

ミゾシダモドキ

Thelypteris omeiensis (Bak.) Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

国内での生育地は少なく、県内の分布は国内の分布の北限域を構成している。日本海側では他に生育地はなく、熊本県や愛媛県から飛んで分布しているきわめて貴重な種である。

【概要】

常緑で根茎は這い、葉が約５㎜と短い間隔でつく。葉柄は20－40㎝で葉身は長楕円状披針形で下部に向かってしだいに狭まる。これは下部の羽片が短くなることによる。２回羽状中裂から深裂し、側脈が単状ではっきり見え、胞子嚢は裂片の中肋よりに生じ、円形である。

千葉県以西の本州南部と四国・九州の山地にややまれに生じる。国外では朝鮮半島・中国・台湾に分布する。

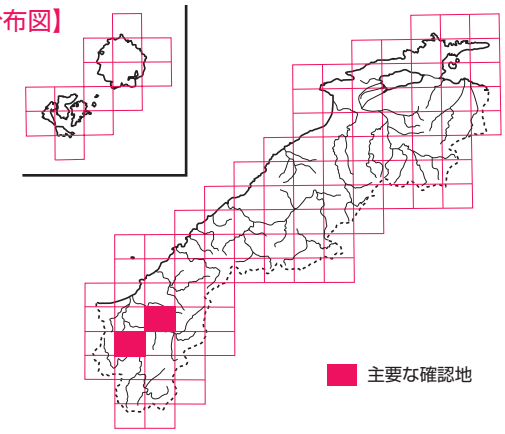
【県内での生育地域・生育環境】

現在知られている県内の分布は石見部西部の３カ所である。いずれも個体数はわずかで、林下の常時湿った状態にある若干土壌の堆積した岩壁に生育している。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物イワデンダ科

ヘイケイヌワラビ

Athyrium eremicola Oka et Kurata

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵1

島根県固有評価:－

環境省:絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

柿木村の鈴の大谷山が基準標本産地であるシダ植物であり、全国的に個体数の少ないものである。県内でも産地は少なくとても希少である。

【概要】

常緑性で根茎は直立し、数枚の葉を叢生する。葉柄は赤紫色をおび、長さ約20㎝、１回羽状深裂する。

県西部と近隣の山口県・広島県に産地が知られていたが、近年県内では東部に、また県外では鳥取県西部や兵庫県でも自生が確認されている。

【県内での生育地域・生育環境】

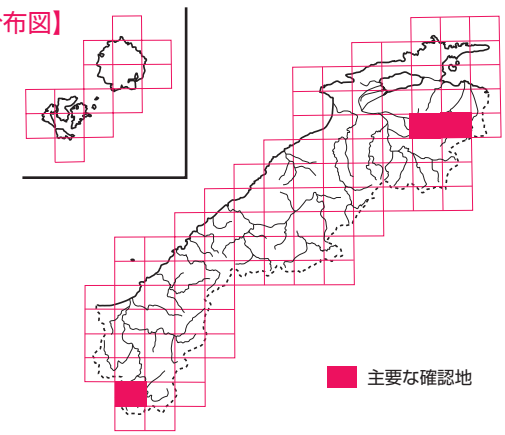
現在東部と西部でそれぞれ数カ所知られるのみである。

基準標本産地の鈴の大谷山では樹林伐採・崩土で絶滅した場所もあったようである。森林に覆われた陰湿な斜面に生育する。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎		○																	

シダ植物イワデンダ科

フクロシダ

Acystopteris japonica (Luerss.) Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵1

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では個体数が少ない。

【概要】

緑性のシダで根茎は短く直立し、葉を叢生する。葉柄は長さ1－7㎝で関節はなく、赤褐色で光沢がある。葉身は2回羽状深裂し、狭披針形、鋭尖頭で長さ5－30㎝、幅1.5－5㎝。胞子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は球形嚢状で大きいので名前の由来になっている。

北海道から九州の各地に生育するが、北部に多い。山林や林縁などの岩上に生じる。

国外では朝鮮半島・中国（北部・東北部）・アムール・ウスリーに分布する。

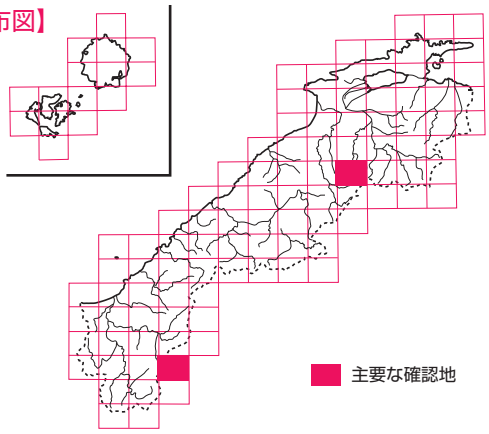
【県内での生育地域・生育環境】

中国山地の林下の岩上に少数生育しているのが知られている。いずれも個体数が少なく、現在確実に生育している場所は少なくなっている。

【存在を脅かす原因】

遷移、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎						○														

シダ植物ウラボシ科

クラガリシダ

Drymotaenium miyoshianum (Makino) Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県下では生育地は限られており、個体数が非常に少ない。全国的にも同様である。

【概要】

常緑性で葉は狭線形で長さは30－50㎝、中肋は表面がくぼんで1条の溝となる。胞子嚢群は連なって線形となる。

国内では本州（能登半島・長野・静岡・愛知・岐阜・近畿地方・中国地方西部）・四国・九州（大分県耶馬渓）で、深山の原生林中の樹幹や岩上に生じる。国外では台湾と中国（中部から南西部）に分布する。

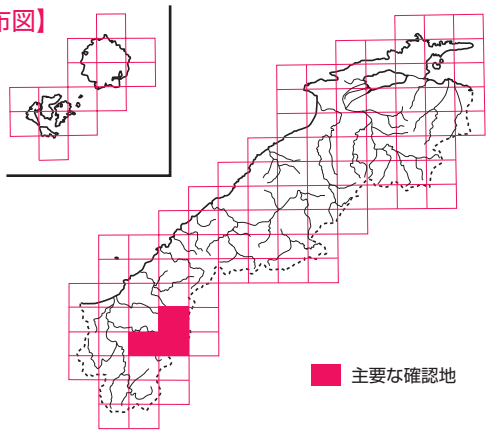
【県内での生育地域・生育環境】

石見西部の奥地の陰湿な場所の樹幹や岩上に少数生育する。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○				○														

シダ植物ウラボシ科

ホテイシダ

Lepisorus annuifrons (Makino) Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵1

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内で生育地は少なく、全国的にも個体数は少ない。

【概要】

根茎は長く這い、葉柄は3－5㎝で葉は披針形で基部に近いところで幅が最大になり、基部はくさび型、先端は尾状に伸び、やや尖る。胞子嚢群は円形で、中肋よりにつく。北海道から九州までの各地で、林中の樹幹や岩上に生じる。朝鮮半島にも分布するようである。

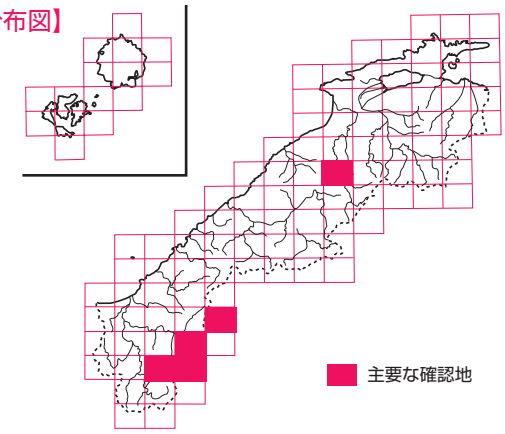
【県内での生育地域・生育環境】

県中部の山中や西部のブナ帯の樹幹に少数生育しているのが確認されている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎	◎		○																	

シダ植物ウラボシ科

ヌカボシクリハラン

Microsorium buergerianum (Miq.) Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

暖地に生えるシダ植物で、山陰地方では隠岐諸島にだけ分布するとてもまれな植物である。現地ではごく少数の個体しか確認されず、国内での分布の北限となるものである。

【概要】

常緑性で根茎は長く伸び，まばらに葉をつける。葉は単葉で縁は全縁からわずかに波打ち、葉身は披針形から狭披針形で長さ10－30㎝ほどである。胞子嚢群は円形で下面にやや不規則に散在する。

本州（千葉県・伊豆諸島・伊豆半島・紀伊半島・山口県・島根県）・四国（太平洋側）・九州・南西諸島に分布する。島根県の分布は山口県から飛んで隠岐諸島に分布するものである。

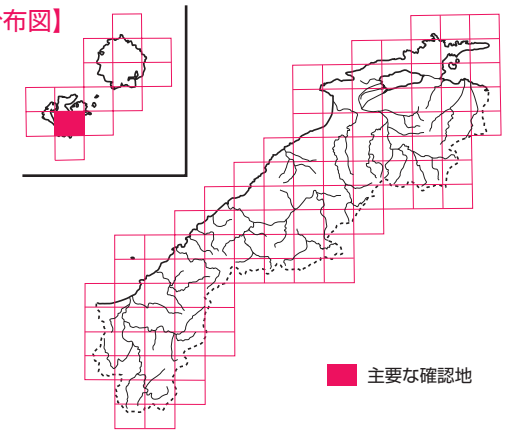
【県内での生育地域・生育環境】

常緑樹林に生育している。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎					○													

シダ植物ウラボシ科

オオエゾデンダ

Polypodium vulgare L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵2

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内での生育地は隠岐諸島に限られているが、遷移により生育地の環境が悪化し、中には消失した場所もある。

【概要】

山地の岩上に生え、根茎は這い、長さ20－30cmばかりの単羽状の葉をつける常緑の多年生のシダ植物である。

国内では北海道と本州北部に僅かに分布し、山陰では鳥取県の一部と県内の隠岐諸島にのみ分布する。国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部からヨーロッパ、北アメリカと北半球の温帯に広く分布域があるとされる。

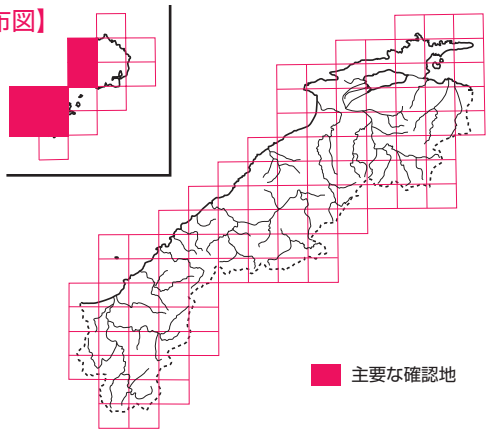
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島では主要4島のいずれにも生育が知られていた。ミツバイワガサなどの低木群落に出現する隠岐諸島に特有な種であり、牛馬の放牧に起因する露岩地が生育適地となっていた。しかし放牧の廃止に伴う遷移により絶滅しているところもあり、今後の推移が非常に心配される種である。

【存在を脅かす原因】

遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○	○			○	○												

シダ植物ウラボシ科

イワオモダカ

Pyrrosia hastata (Thunb.exHoutt.) Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

全国的にまれな植物であり、県内ではきわめてまれな植物である。

【概要】

常緑性で葉柄は12－25cmと長く、葉身は3－5裂し、葉裏は赤褐色の星状毛で密に覆われている。胞子嚢群は主側脈の間に3－7列に並ぶ。

北海道から九州まで分布し、深山の林中の岩上や樹幹に着生する。

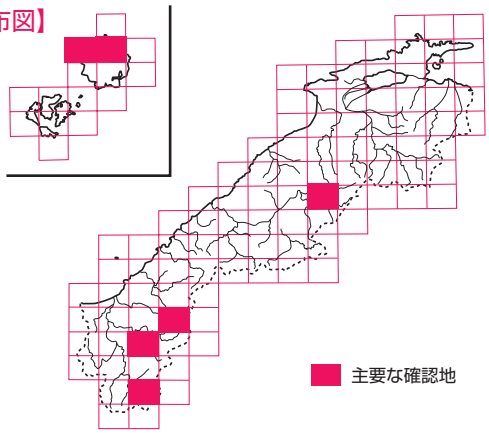
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島を含む、各地の岩上や樹幹に着生しているのが見られるが、きわめてまれである。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎	◎	○				○														

シダ植物アカウキクサ科

アカウキクサ

Azolla imbricata (Roxb.ex Griff.) Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵2

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

全国的にまれな植物となっており、県内ではきわめてまれな植物である。

根毛がある。似たオオアカウキクサは葉の上部に突起がないかほとんどなく、根毛は早落性なので区別できる。

本州（東京都と東海地方以西の暖地）・四国・九州・南西諸島で、水田や湖沼、溝などの表面に生じ、冬季に特に鮮やかな赤色となる。除草剤の影響で減少が著しい。

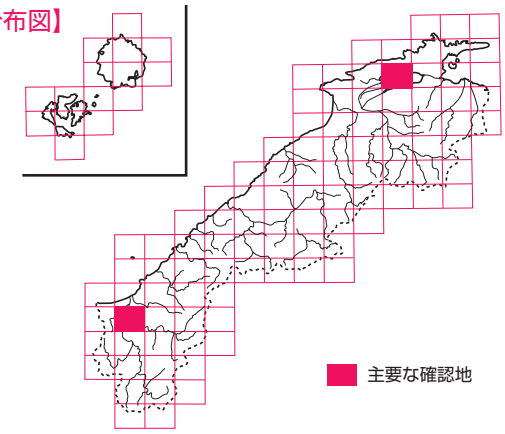
【県内での生育地域・生育環境】

東部に自生していたが絶滅した。近年でも生育が確認された場所があるが、消長が激しく見られなくなったようである。西部では、近年になって新たに生育が確認されている。

【存在を脅かす原因】

除草剤散布。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		○								○											

モクレン目モクレン科

オオヤマレンゲ

Magnolia sieboldii K. Koch

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵2

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数がきわめて少なく、まれである。

【概要】

夏緑性の低木で、長さ15cm前後、巾10cm前後のやや大きい葉を互生する。花は径10cm程で白色、芳香があって特徴的である。西日本の山地に分布するが産地は多くないものとされる。

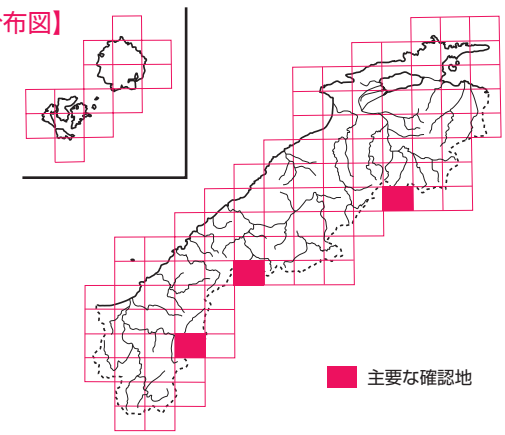
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地脊梁部にまれに生育地が存在するが、個体数は僅かであって絶滅が心配される。

【存続を脅かす原因】

種々の目的による樹木伐採と園芸上での枝の採取、掘り取り。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○		○																	

キンポウゲ目キンポウゲ科

ミチノクフクジュソウ

Adonis multiflora Nishikawa et Ko.Ito

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵2

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑林内に生える草丈30cmばかりになる多年草。早春、芽を出すと同時に花が咲く。花は径４cm程で、多数の黄色の花弁をもつ。花後に茎が伸びると同時に葉も大きく開き、３～４回羽状葉を互生する。夏には地上部はすべて枯れる。古くから栽培されている植物で、自生品があれば必ず採取されるであろう。

国内では本州の東北地方以南から九州にかけて分布する。

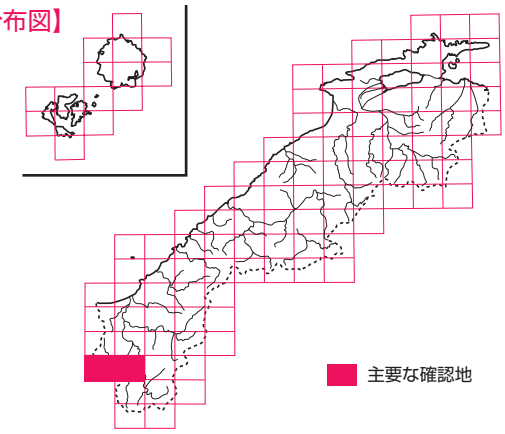
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見部西部にまれに見られる。夏緑二次林内のやや明るい林床に生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と園芸上での採集が考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○			○				○												

キンポウゲ目キンポウゲ科

ミスミソウ

Hepatica nobilis Schreber var. *japonica* Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵2

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地は限られている。

【概要】

山地の林内、林縁に生える常緑性の多年草。植物体は地下茎をもち、葉を数枚根生し、草丈は10cmばかりのもの。葉は長さ５cm前後の葉柄があって、葉身は三角形で基部が心形、３中裂し、裂片の先は鋭頭である。花は春に咲き、長さ10cm前後の花茎を出して、先に径１cm程の白色の花をつける。本州の中部地方以西から九州北部に分布する。

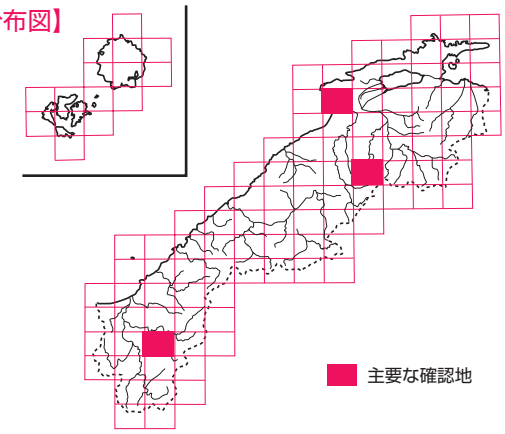
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部から石見部にかけて生育地が点在するが、限られている。隠岐諸島での生育地は不明である。主として夏緑二次林内に生えている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の環境変化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

キンポウゲ目キンポウゲ科

ヒメバイカモ

Ranunculus kadzusensis Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵2

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

生育場所が限定されており、その生育場所で河川改修やツルヨシによる被陰が進行している。

【概要】

湖沼、溜池、河川などに生育し、国内では本州及び九州にまれに分布。北海道から本州に広く分布するバイカモに比べて葉や花が小形で、葉柄の長さ４－12㎜、葉身の長さ1.5－３㎝、花の直径約１㎝以下。花柄はあまり伸びず、長さ１－３㎝の範囲にあることと、果実に毛が無い点でバイカモと区別することができる。九州にはバイカモが無く、ヒメバイカモのみが分布している。種子または根茎で越冬する。

【県内での生育地域・生育環境】

県西部の高津川水系の上中流域にのみ生育。

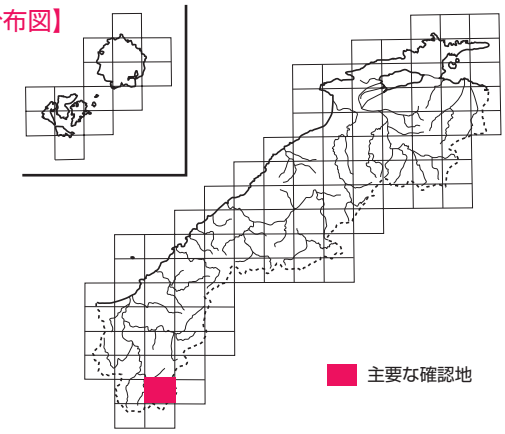
【存続を脅かす原因】

河川改修、ツルヨシによる被陰。

【特記事項】

平成24年３月に「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」に基づく指定希少野生動植物に指定されている。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎				○															

キンポウゲ目キンポウゲ科

バイカモ

Ranunculus nipponicus (Makino) Nakai var. *submersus* Hara

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵2

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育場所が限定されており、河川改修や水質汚濁が進行している。一河川では長年にわたって多数のパッチが確認されているものの、農業用水路などでは衰退が目立ってきていることから、今回ランクをこれまでの絶滅危惧Ⅱ類から絶滅危惧Ⅰ類に変更した。

【概要】

冷涼な清流中や湧水池に群生する日本固有の多年生沈水植物。

北海道及び本州各地に広く分布するが、水温が通年20℃を越えない冷涼な環境を好むため、本州南西部ではその生育場所は河川の上流や湧水のある場所に限られる。糸状に細裂する葉は互生し、葉身の全長は３－７㎝、葉柄の長さは0.5－２㎝で房状になる。白色５弁の花は水面または水上に出るが、流れの速い場所では水中で開花し結実する。種子による繁殖のほか、節から不定根を出し、切れもによる栄養繁殖も行う。

【県内での生育地域・生育環境】

三瓶山とその周辺の限られた河川や水路中にのみ生育。

【存続を脅かす原因】

河川改修。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○					○															

キンポウゲ目メギ科

サンカヨウ

Diphylleia grayi Fr. Schm.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価：分布限界種（南限）
環境省：－

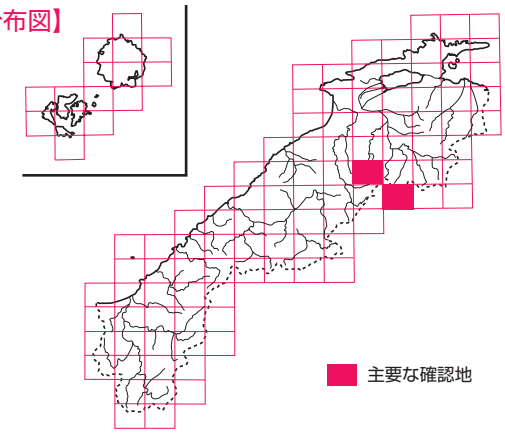
【選定理由】
生育地が極限されていて、将来でのこの種の県内での存在が危惧される。

【概要】
冷温帯の林内に生える多年草。植物体は草丈30cm前後で、茎の上部に大小２枚の葉をつけ、茎の先に径２cm程の白花を数個つけて咲く。実は径１cm程で藍色に熟し、時に美しく見える。北海道から中国山地にかけて分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県東部の中国山地脊梁部、主としてブナ林内に群生する。

【存続を脅かす原因】
森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎				○																	

キンポウゲ目スイレン科

オニバス

Euryale ferox Salisb.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵2
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】
県内での現在の産地が１ヵ所に限定されており、除草剤並びにザリガニやウシガエルなど移入種による食害によって産地の環境が悪化している。

【概要】
１属１種で本州、四国、九州に分布。植物体全体が長さ１－３cmほどの鋭い棘で覆われる１年生の浮葉植物で、やや富栄養化した泥深い池沼や用水路に生育する。塊状の茎から太いひげ根を多数泥中に伸ばし、時に直径２m以上にもなる大型の浮葉を叢生する。光沢のある葉の表面にはしわが多数あり、裏面は濃紫色を帯び、葉脈が桟状に隆起する。花には水中で自家受粉して結実する閉鎖花と、水面上で開花する開放花の２つあり、花弁の色は赤紫色で美しい。果実は長さ５－15cm、幅５－10cmの楕円形で、熟すと分解して寒天質の仮種皮によって包まれた直径約１cmの黒色の種子を多数放出する。種子は仮種皮が腐るまでの１～２日間水面に浮かび、その間に分散する。種子は埋土種子として数十年間にわたって休眠状態を保つことが報告されている。

【県内での生育地域・生育環境】
昭和30年代までは松江城の堀にも群生していたが、現在は松江市内の１つの溜池にのみ自生している。

【存続を脅かす原因】
除草剤と移入種による食害。

【特記事項】
日本各地の自生地で保護・保全のための施策が取られ始めており、島根県では平成22年12月に「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」に基づく指定希少野生動植物に指定されている。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎																	○				

ウマノスズクサ目ウマノスズクサ科

マルバウマノスズクサ

Aristolochia contorta Bunge

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵3

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

生育地が極限されていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

多年生の蔓草で、枝分れして数mに伸びる。葉は卵形で基部は心形、長さ５cm前後で互生する。花は葉の腋に数個ずつ着き、萼筒は球形で先が細長く伸びる特徴的な形である。実は緑色で長さ３cm程の卵形、３－４cmの柄があって下垂する。

朝鮮半島、中国北部に分布が続く大陸系の植物である。日本で最初に気づかれたのは島根であり、松江市八雲町岩坂で採集されたものである。現在でも、岩坂地内には生育地が確認されている。国内では長野、山形、群馬、岐阜、島根だけに分布する。

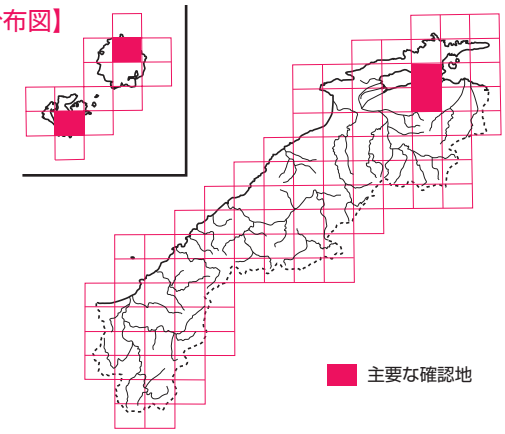
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部と隠岐諸島にだけ生育地が知られていて、路傍、林縁、川土堤などに生える。

【存続を脅かす原因】

草地の刈り取り、諸土地造成。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			◎						○		○			○		○					

ウマノスズクサ目ウマノスズクサ科

ウスバサイシン

Asiasarum sieboldii (Miq.) F. Maek.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵3

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地は限られていて、生育地での個体数がきわめて少なく、まれである。

【概要】

多年生の草本で、普通は地際に２枚の葉をつけて生える。葉は卵状で基部心形、長さ７－８cm程。花は早春、地際に咲いて、径１cm前後、濃紫色。萼筒は半球形で萼裂片は３枚で外側に反り返る。

本州、四国、九州に生える。

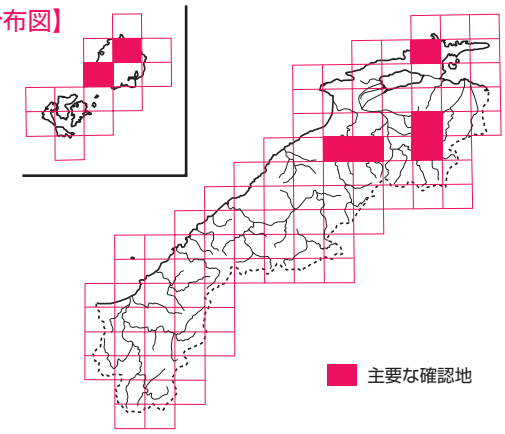
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐（島後）、東部に生育地が点在して、主として夏緑樹林内に見られる。

【存続を脅かす原因】

森林伐開、森林の照葉樹林化、諸土地造成及び、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			◎	○																	

オトギリソウ目ボタン科

ベニバナヤマシャクヤク

Paeonia obovata Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵3

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

生育地は極限され、生育地での個数もきわめて僅かである。

【概要】

夏緑樹林内に生える多年草で草丈は30－50㎝程。葉は２回３出複葉で２～３枚着き、径５－６㎝の薄桃色の花を１個咲かせる。

朝鮮半島から中国東北部に分布が続く大陸系の植物で、国内では北海道から九州まで分布する。

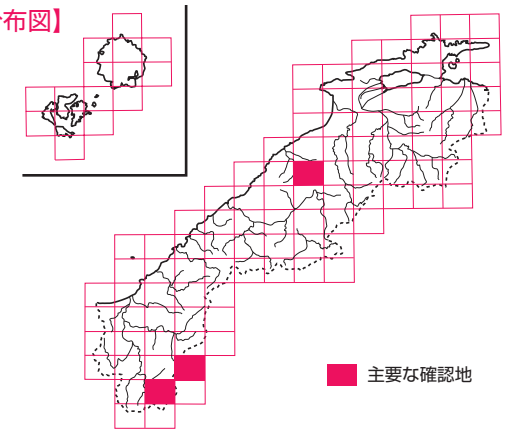
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中部、西部の中国山地沿いの夏緑林内に分布するが、生育地はまれである。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

オトギリソウ目マタタビ科

シマサルナシ

Actinidia rufa（Sieb. et Zucc.）Planch. ex Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

生育地が極限されていて、個体数もまれである。

【概要】

夏緑性の蔓性木本で、多く分枝して周りに絡みつき、繁茂する。葉は楕円形で長さ15㎝前後、巾５㎝前後で互生する。花は白く径1.5㎝程で、雄花、雌花、両性花をつける。果実は秋に熟し、楕円形で、長さ３－４㎝程。

分布は本州の南部、中国地方西部から南、四国、九州、南西諸島の範囲にある。

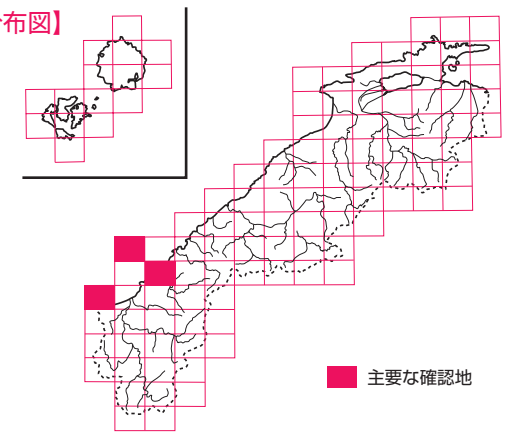
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部西部にのみ分布し、日本海沿岸の暖地の主として林縁に生育する。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																○			

オトギリソウ目オトギリソウ科

ダイセンオトギリ

Hypericum asahinae Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵3

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地がきわめて限られ、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

草丈20－30cmの多年生草本。葉は楕円形で、長さ２－３cm、巾５mm前後で対生し、多くは十字対生状にやや密に着く特徴がある。花は径２cm程で黄色５花弁に黒点、黒線がある。

北陸から中国地方の高地に分布する植物。

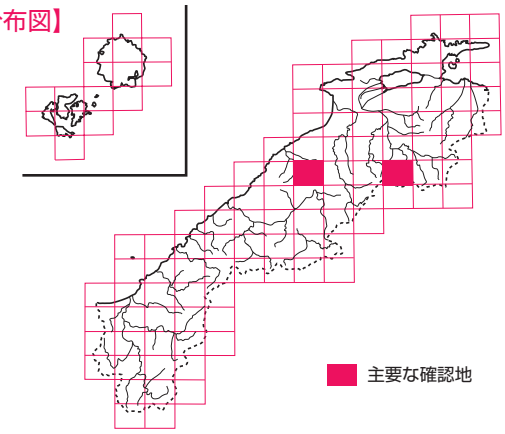
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部、中部の山地高所に僅かに分布し、主として山頂、尾根筋の露岩地状の乾燥する立地に生える。

【存続を脅かす原因】

草原化、樹林化等の遷移と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○																

バラ目ユキノシタ科

ツルネコノメソウ

Chrysosplenium flagelliferum Fr. Schm.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地はきわめてまれで、個体数も僅かである。

【概要】

夏緑樹林内の沢沿い湿り気の強い岩上などに生える草本。走出枝があって径１cm程の葉を互生して、高さ５cm程の花茎を立て頂部に黄緑色の花を集散花序に２～３個ずつつける。花後、走出枝が伸びて、先端に根生葉をもつ新株をつくる。

国内では四国に分布して、本州では近畿以北、北海道にあり、少しばかり北方系の種のようである。

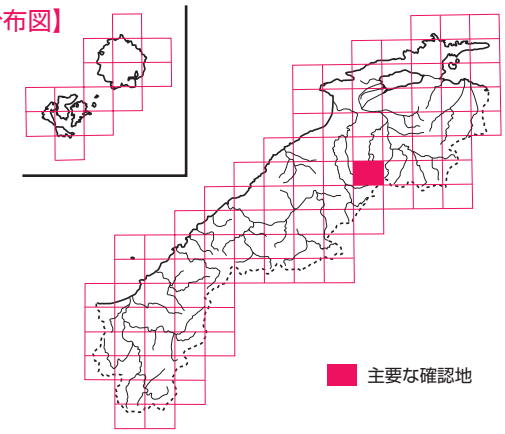
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部にきわめて僅かな産地があり、個体数も限られている。冷温帯夏緑樹林内の谷川沿いの水湿な岩上に生育する。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開、趣味園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

バラ目ユキノシタ科

キレンゲショウマ

Kirengeshoma palmata Yatabe

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵3

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

生育地はきわめて限られており、生育個体数も限られている。

【概要】

夏緑林内の湿り気の強い地に生える多年草。草丈は1m前後になるやや大形のもので、葉は浅く裂けたほぼ円形で径15cm前後あって、対生する。茎の先端部に筒状の黄色5花弁、長さ3－4cmのやや大きな花を多数つけて咲く。

国内では紀伊半島から四国、九州に分布し、いわゆる襲速紀要素の代表的植物として知られる。

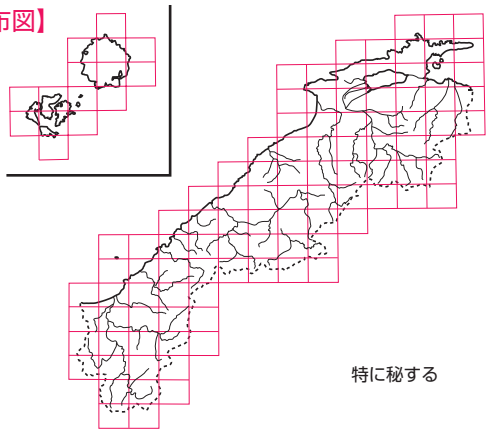
【県内での生育地域・生育環境】

県内では西部中国山地にのみ生育地が知られ、冷温帯林の沢筋深山の崖錐地に群生する。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

バラ目ユキノシタ科

ザリコミ

Ribes maximowiczianum Komarov

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地がきわめて限られており、個体数も僅かである。

【概要】

夏緑性の低木で枝を多く分けて、2m程の高さで叢生する。葉は多くは大きく3裂して概形は五角形である。雌雄異株の植物とされ、雄花序には黄緑色の小花を10個ばかり、雌花序には2～3個つける。果実は径2㎜程で赤く熟す。

国内では東北地方から中国地方、四国の冷温帯林域に分布する。

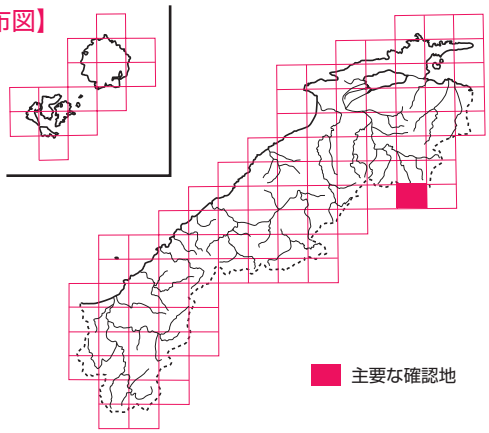
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部の中国山地脊梁部ブナ林内、露岩地に生えている。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

バラ目バラ科

ヒロハノカワラサイコ

Potentilla nipponica Th. Wolf

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵3

島根県固有評価：分布限界種（南限）

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数は明らかに減少している。

【概要】

植物体は地際に根生葉を数枚つける。葉は単羽状複葉で､小葉はさらに中裂する。開花株では数本の茎を出し、花は夏に咲き、径1.5cmばかりの黄色５弁で、時に美しく見える。陽当りのよい河原や砂質草地に生える夏緑性の多年草である。

北海道と本州中部以北の地に分布する。

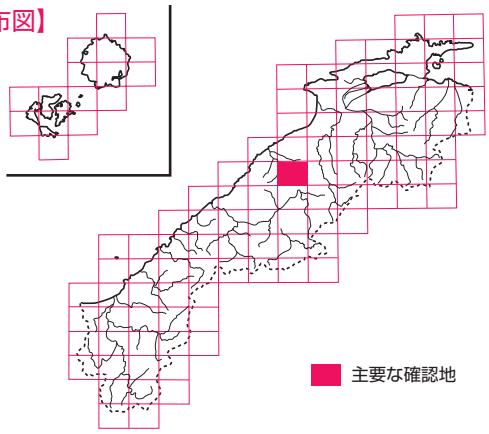
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部の一部（三瓶山）の山地尾根筋に限られた個体数をみる生育地がある。過去には草原（三瓶山西ノ原）内にも多くの個体が生育していたが、草原の樹林化により絶滅してしまった。主要な分布地は北陸地方以北にあり、県内に存在するものはきわめて貴重な存在のものと考えられる。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の樹林化、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

バラ目バラ科

ハマナス

Rosa rugosa Thunb.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵3

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。主要な生育地のものは県指定天然記念物とされているが､自然災害等により絶滅が心配される状況である。

【概要】

海岸の砂丘に生える夏緑低木としてのバラ類の一種。植物体は高さ１m程で根際で枝を分け株となる。枝には大小多くの刺が生えて特徴的である。葉は４～５対の小葉を持つ羽状複葉で、表面は皺状である。花は初夏に咲き、枝先に数個、花茎７－８cm程の大きな紅紫色５弁花をつける。果実も大きく径２－３cmの扁球形、赤橙色に熟れて、時に美しい。

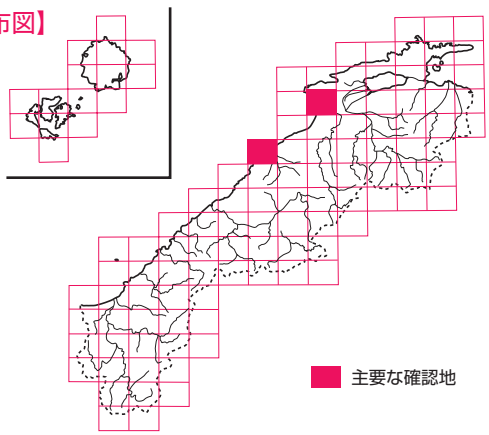
【県内での生育地域・生育環境】

中部の海岸砂地に生育地が知られていて、保護されている。

【存続を脅かす原因】

波浪等による自然災害、遷移、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○																		○	○	

バラ目バラ科

サナギイチゴ

Rubus pungens Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

生育地はきわめて限られており、個体数もきわめて僅かである。

【概要】

夏緑性の小低木で茎は細く地に這い、普通は刺がある。葉は長さ10cm程の奇数羽状葉で２～３対の小葉に分かれ、二重鋸歯縁をもつ。花は枝先に１～３程がつき、径約２cmの白色５花弁。果実は径約１cm、赤く熟す。

本州、四国、九州のブナ林域に生育して、本来まれな植物とされる。

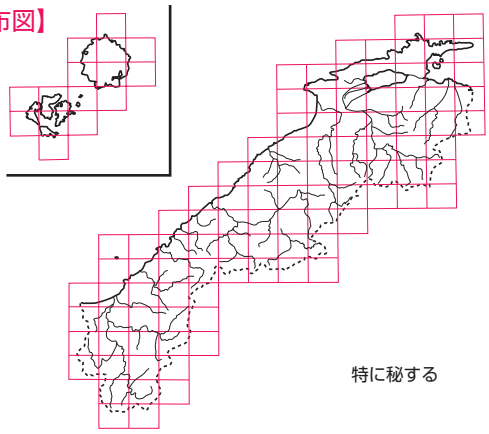
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中部に生育地があるが、ブナ林域より下部でウラジロガシ林域の渓谷沿いの地に生育するものである。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

バラ目バラ科

ホウロクイチゴ

Rubus sieboldii Blume

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での分布は県西にのみあり、生育地での個体数も僅かである。生育地には分布北限地がある。

【概要】

常緑の低木で、茎は蔓状に伸びて、先端が地につけば、根をおろす。葉は広卵形で長さ10－20cmと大きい。葉裏は黄白色～黄褐色のものが密生する。茎、葉面に刺がある。花は春に咲き、径３－４cmで５弁の白花。果実は径２cm程で赤く熟れる。

本州の中部以西、四国、九州、南西諸島に分布する。

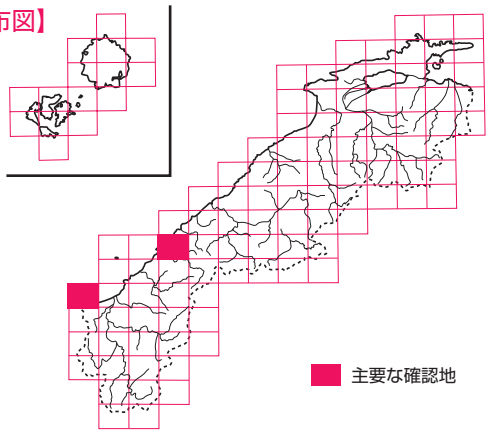
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は県西部にのみ見られる。海岸沿いにのみ生育して、海岸の砂礫地から後背の斜面、崖地に生え、群生する。

【存続を脅かす原因】

道路拡幅工事その他の造成工事による生育地の破壊。刈り取り。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																○	○		

バラ目バラ科

コジキイチゴ

Rubus sumatranus Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:−
環境省:−

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

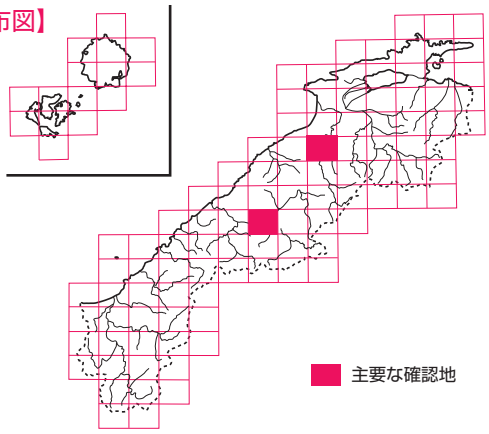
【概要】
茎は叢生して、高さ1−2m程の夏緑の低木。葉は互生し、3〜7小葉の奇数羽状複葉で長さ10−20cm程。茎、枝、羽軸には暗紅色の長軟毛が密生し、鉤刺が疎生していて特徴的である。花は初夏の頃に咲き、枝先に長さ20−30cmばかりの散房状から円錐状に花序を出し花をつける。花軸や小花柄にも長腺毛が密生する。萼は披針形で反り返り、背面に長軟毛がある。花弁は倒卵形で長さ1cm程、白色。果実は長楕円形、長さ1cm程で黄赤色に熟れる。

本州の関東地方以西、四国、九州から朝鮮半島南部、中国に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では出雲、石見部の山地に2〜3の生育地が知られる。林冠が破壊された林床や渓側に生えるが、いずれの生育地でも個体数はきわめて僅かである。

【存続を脅かす原因】
遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○					○					○										

バラ目バラ科

アイズシモツケ

Spiraea chamaedryfolia L. var. *pilosa* (Nakai) Hara.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:−
環境省:−

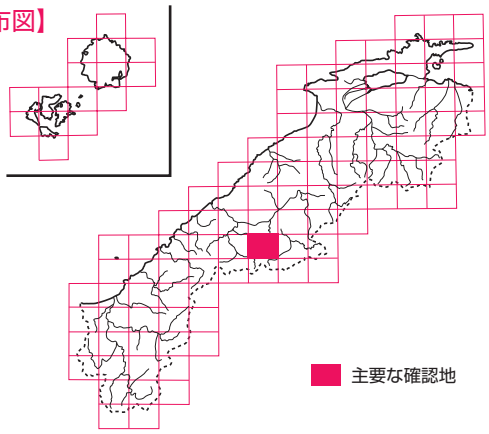
【選定理由】
県内での生育地はまれなものであり、あまりにも僅かな生育株のものであって、このままでは将来必ず絶滅するものと考えられる。

【概要】
高さ1−2cmの夏緑低木のシモツケ属の一種、葉は長さ4−5cm、幅2cmばかり。葉は卵形で上半部重鋸歯縁。花序散房状で、花は白色、径1cmばかり、萼列片花時に反曲し、宿存するのが特徴的である。分布は東アジア、シベリアにあって、国内では北海道から本州中部以北の地、さらに離れて九州、熊本にも生育地があるらしいものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
石見中央部山地、岩上に僅かな個体数からなる生育地があるだけである。

【存続を脅かす原因】
遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○														

バラ目マメ科

ハマナタマメ

Canavalia lineata（Thunb.）DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵3

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では波浪等による生育地の消滅があって、現状として確実な生育地は明らかでない。

【概要】

海岸の砂礫に生える蔓性多年草。葉は羽状３小葉。小葉は四形から広側卵形で径10cmばかり。花は淡桃色、豆実は長さ10cmばかりで２～５個の種子がある。

国内では本州、関東以西、四国、九州から南西諸島、中国に分布するとされる。

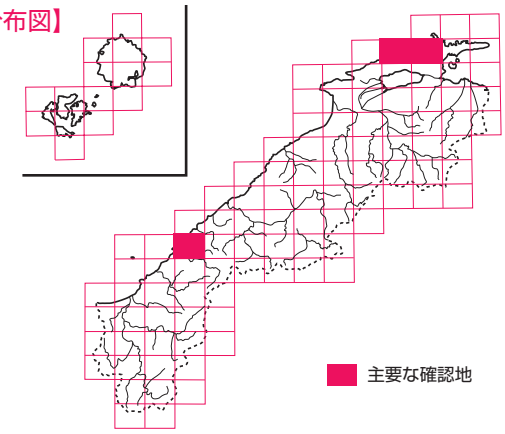
【県内での生育地域・生育環境】

県内海岸礫地のあちこちで生育するもののようであるが、安定して生存することがまれである。

【存続を脅かす原因】

波浪による生育地破壊、冬期の気温低下などの気象異変。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○																	○	○	

バラ目マメ科

タヌキマメ

Crotalaria sessiliflora L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

草丈の低い草地に生える高さ20－30cmの１年生草本。植物体は全体に褐色の毛が多い。葉は狭長楕円形で長さ５cm、幅１cm前後のもの。花は夏から秋にかけて咲き、茎頂に青紫色の花を10個ばかりつけ、時に美しく思われる。果実は豆果で長さ１cmばかり、長楕円形で萼片に包まれた特異な形態で特徴的である。

本州の東北地方南部から四国、九州、南西諸島に分布域がある。

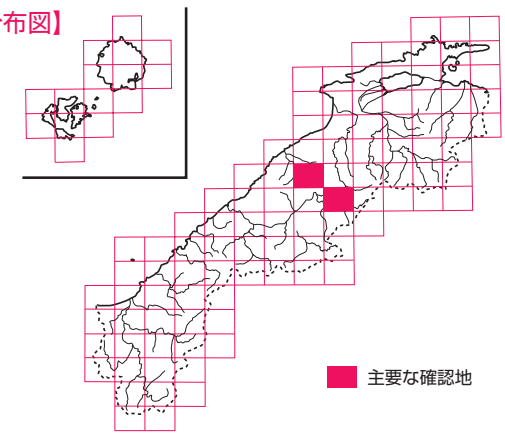
【県内での生育地域・生育環境】

県内では全域の山間の草原や、時に耕作地周辺の草刈場などにまれに生育地が存在する。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。耕作地周辺での生育地については、休耕、草刈りの中止などによる遷移により、個体群が消滅した場がある。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○																

バラ目マメ科

ミソナオシ

Desmodium caudatum（Thunb.）DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

夏緑性の低木で、高さは１mばかりになり、枝を多く分けて叢生状になる。葉は３小葉で、小葉は長さ５－10cm、幅２－３cmで濃緑色、常緑種に見える。花は夏から秋にかけて咲き、緑白色で長さは１cmに満たない目立たない花である。果実は節果できわめて扁平、長さ10cmばかりで７～８個の小節果よりなり、全面にかぎ状の短毛があって人の衣服に奇妙な程によく着き、特徴的である。

本州の関東以西、四国、九州、南西諸島、さらに中国大陸に分布する。

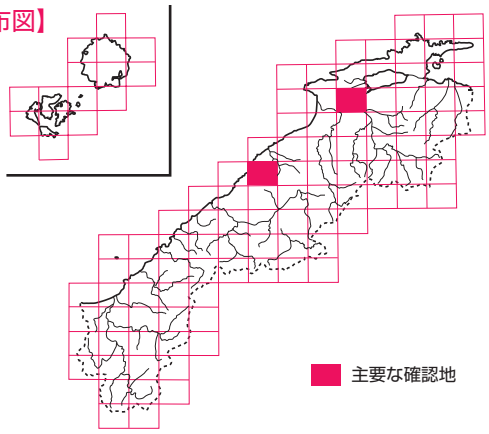
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部にまれに生育地が知られている。石見部にも生育地があるように思われるが、今のところ不明である。出雲部での生育地の内、消滅した場があって、きわめてまれな状態となっている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開などによる生育地の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○				○													

バラ目マメ科

オオバヌスビトハギ

Desmodium laxum DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

常緑の多年草で草丈50cmばかり、葉は茎の下部に着き、３小葉で、小葉は卵形で、長さ５－10cm、幅３－５cmばかり、やや硬い感じがある。花は夏から秋に咲き、茎頂に長く花序を伸ばし、先端部に薄紫色の小花をまばらに10個ばかりつける。果実は節果で、３～４個の小節果からなる。小節果は長さ１cm程で、長三角形で特異な形で目立つ。

本州は関東地方以西、四国、九州の暖地林内に分布する。

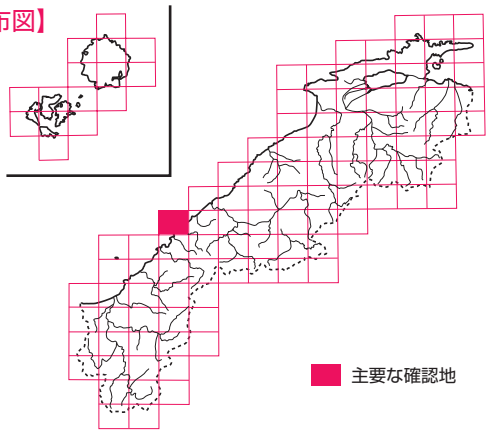
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部の一部に生育地が知られているが、個体数が激減して、きわめてまれな状態となっている。照葉樹林のより自然的な状態の樹林に生えている。石見部に同じような自然的に優良な樹林が他にも存在していて、この植物の分布の可能性がある。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

バラ目マメ科

サイカチ

Gleditsia japonica Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:−
環境省:−

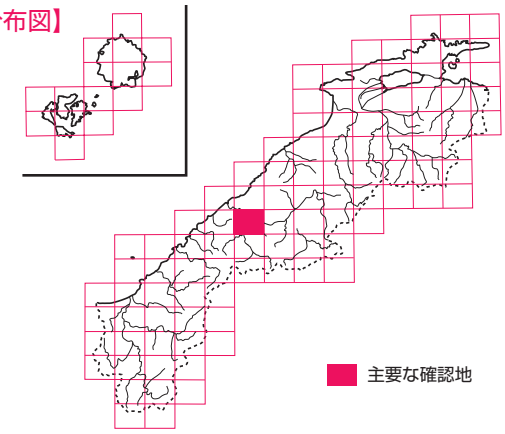
【選定理由】
県内での生育地はまれで、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】
高さ10数mになる夏緑性の樹種で、幹、枝には枝が変形した太い刺がある。葉は2形あって、長枝には2回羽状の複葉、短枝には単羽状の複葉がつく。短枝の単羽状複葉は、小葉がほぼ楕円形で長さ4−5㎝、幅1−2㎝、10対ばかりがつく。花は春に咲き、花弁は4枚、黄緑色の小花で枝先の総状の花序に多くつく。果実は豆果で長さ20−30㎝、曲りくねった特異な形が特徴的である。
本州、四国、九州に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では石見部に生育地が存在する。出雲部では生育地が消滅したようである。川沿いの地に生えるものが多い。

【存続を脅かす原因】
樹林伐倒。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○			○										

ミカン目ヒメハギ科

ヒナノカンザシ

Salomonia oblongifolia DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:分布限界種(北限)
環境省:−

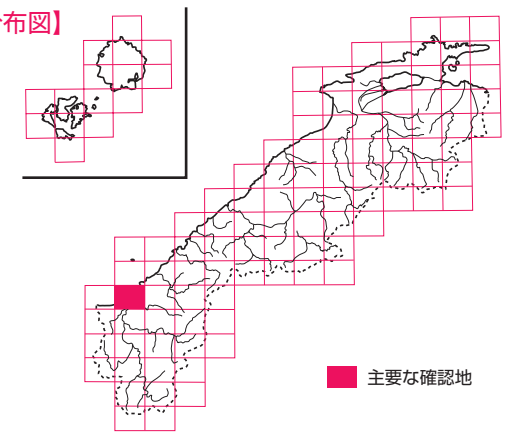
【選定理由】
生育地がきわめて限られていることに加えて、生育地の植生遷移により絶滅が危惧される。

【概要】
湿地に生える草丈10㎝前後の小形の1年生草本。葉は長さ1㎝前後で長楕円形、互生する。夏から秋に茎頂の穂状花序に長さ2㎜程の薄紫色の小花を多数つける。
本州の太平洋側、四国、九州以南に分布域がある。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では西部にのみ生育地が知られている。池畔の草地にイヌノハナヒゲ類などと混生している。

【存続を脅かす原因】
草地の遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○					○														

ムクロジ目カエデ科

テツカエデ

Acer nipponicum Hara

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:−
環境省:−

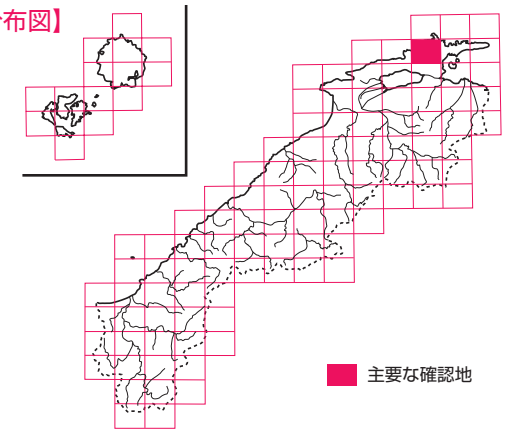
【選定理由】
県内ではきわめてまれである。

【概要】
山地に生える夏緑性の高木。葉は正常なもので長さ、巾ともに15cm前後、先端部は浅く3−5裂する。葉の表面は脈が裏側に落ち込んで、裏側の脈腋、脈をはじめ全体に赤褐色の毛が密に生える。
日本固有の種で東北地方から四国、九州に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では東部の一部にのみ生育地があり、アカガシ林域の林内に生える。

【存続を脅かす原因】
森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

ニシキギ目モチノキ科

ナナミノキ

Ilex chinensis Sims

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:−
環境省:−

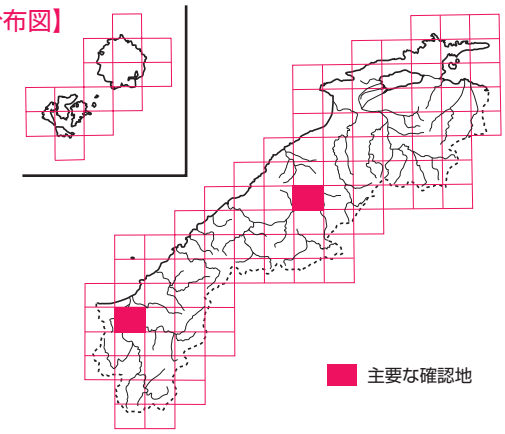
【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】
常緑の樹種で、樹高は10数mになる。葉は長楕円形で、長さ10cm、幅3cmばかりで両面無毛平滑、鋸歯も弱く疎い。雌雄異株で、花は初夏の頃、葉腋に短い花序をつけて小花を咲かせるが、あまり目立たない。果実は秋に、楕円形で長さ1cm程、赤く熟れて目立つ。
国内では東海地方以西、四国、九州に分布し、中国にも分布が続くものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は県西部から中央部にかけての山地にややまれに知られる。おもに露岩状地や崖錐地などの不安定な立地に生えて、しばしばアラカシ林に伴われて出現する。石見部の一部では県立自然公園内の樹林内にあって生育地が保護されている場もある。

【存続を脅かす原因】
森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○				○													

モチノキ目モチノキ科

ミヤマウメモドキ

Ilex nipponica Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

生育地での自然な遷移により絶滅が考えられる。

【概要】

本来、近畿地方北部から中部地方、東北地方に分布し、湿地に生える雌雄異株の夏緑低木である。

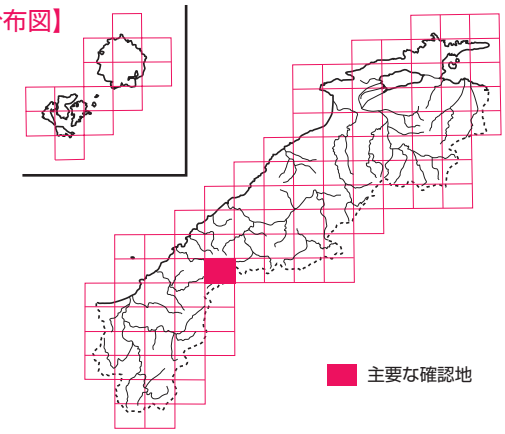
【県内での生育地域・生育環境】

石見地方の山地の一部に僅かな個体が分布している。

【存続を脅かす原因】

生育地での自然な遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○					○														

ニシキギ目ニシキギ科

イワウメヅル

Celastrus flagellaris Rupr.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られている。生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

夏緑性の蔓性木本である。葉はほぼ円形で、長さ、幅ともに4－5㎝で、鋸歯は細かく、先が芒状にとがることが特徴の一つ。托葉が刺となって残ることも特徴である。花は春に咲き、雌雄異株であって、雄株では雄花が2～3花ずつ、雌株では雌花が1花ずつつく。果実は球形、径5㎜程で黄色に熟れる。

国内での分布は関東以西、四国、九州にあって、朝鮮半島から中国東北地方に続く。

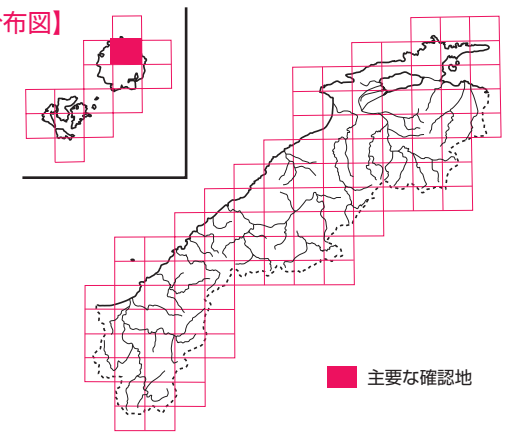
【県内での生育地域・生育環境】

県内での明らかな生育地は隠岐諸島にのみ知られて、出雲部、石見部での生育地については不明である。隠岐諸島では山地の夏緑二次林の林縁に生育地がある。林内にも個体が見られるが、生育は不明である。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

クロウメモドキ目クロウメモドキ科

ヨコグラノキ

Berchemiella berchemiaefolia（Makino）Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はやや限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑の樹種で高さは10数mになる。葉は長楕円形で、多くは波状縁で、葉裏は粉白色である。特徴的なことは葉のつき方で、互生で左右２列につくが、見た目には２枚ずつ続いて同じ側につく、奇妙なつき方をすることである。花は初夏の頃に咲いて、葉腋に短い集散花序で数個の黄色小花をつけて咲くが､枝の先端部では葉がなく、花序だけがつく状態となるのも特徴の一つである。果実は赤色に熟れる。

分布域は本州、四国、九州にあるが、本来ややまれな植物である。

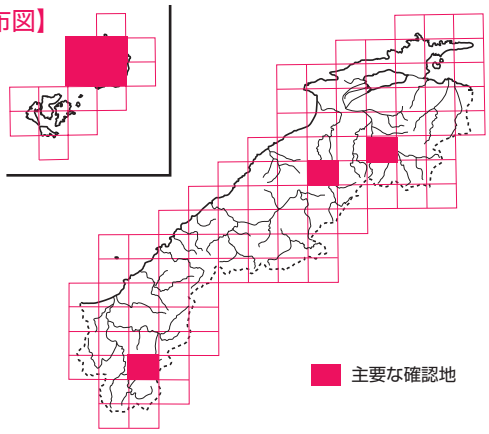
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の一部に生育地があって、隠岐諸島に分布している。隠岐諸島では奇妙に多くの生育地が存在する。山地の斜面に生えるが、時に渓谷の渓流沿いにも生えている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

クロウメモドキ目クロウメモドキ科

ホナガクマヤナギ

Berchemia longeracemosa Okuyama

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）
島根県固有評価：分布限界種（南限）
環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もまれである。

【概要】

夏緑性の低木であって高さは３mばかりの樹種である。葉はほぼ楕円形であって長さ５－６cm、幅２－３cmばかりで互生する。花期は夏で、枝先きに長さ10cmばかりの総状花序を出し、花は緑色の目立たない小花を多くつける。果実は秋に熟れて、長楕円形、長さ１cm弱で、赤く熟れて目立つが、最後は黒く熟れる。日本海側の山地にのみ生えるものとされる。島根の生育地は分布の南（西南）限にある。

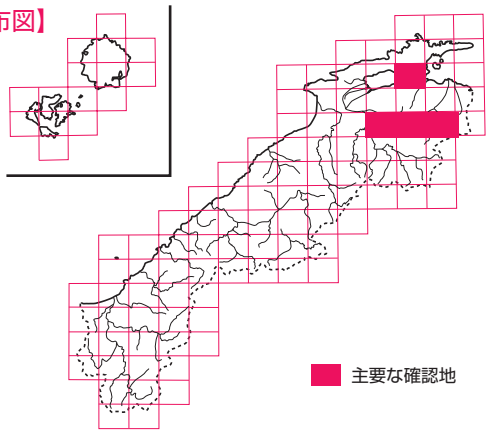
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部山地に知られていて、多くは夏緑二次林内に生えて、時に林縁にも見られて、果時にその果実が目立つことがある。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

クロウメモドキ目ブドウ科

ウドカズラ

Ampelopsis leeoides（Maxim.）Planch.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵4

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて限られている。

【概要】

蔓性の夏緑性木本で、周囲の樹種に巻ひげで絡まり伸び上がる。葉は大きく、長さは30cm程にもなり、２～３対の羽状複葉であるが、最下の羽片だけは、２回羽状となる特徴がある。小葉は１cmばかりの柄があって、楕円形で長さ10cm、幅５cmばかりになる。花は初夏の頃に咲き、花序は集散形で黄緑色の小花を多数つける。果実は球形。赤く熟れ、さらに黒く熟れる。

国内の近畿南部、中国地方、四国、九州に分布するものとされる。

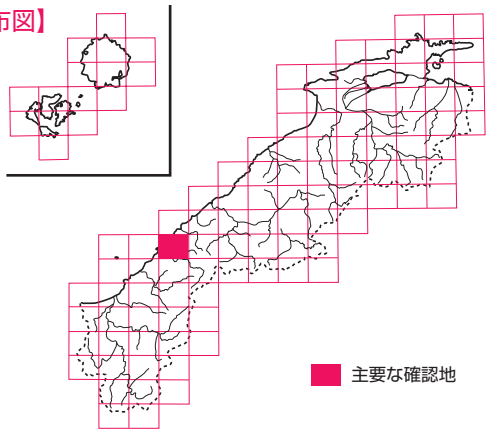
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部の一部にきわめてまれな生育地がある。照葉樹林域の山中、谷間に生えている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

絶滅　野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

アオイ目アオイ科

ハマボウ

Hibiscus hamabo Sieb. Et Zucc.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵4

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も少ない。また国内での分布の北限である。

【概要】

海岸の砂泥地に生える落葉低木または小高木。高さは１～２mになる。葉は円形から広卵形で、長さ４～７cm、幅３～６m、葉柄は１～２cmである。花期は７～８月で、枝の上部に、直径５cm前後の中心が赤褐色の黄色い花をつける。

国内では、本州（千葉県以西）、四国、九州、奄美大島に分布する。人家や庭園に栽培される場合もある。これまでの日本海側の分布北限は、山口県萩市笠山のものとされる。

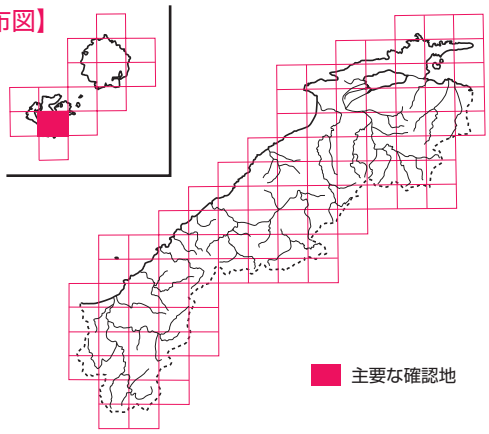
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島の一カ所に生育地がある。海岸沿いの砂礫地に生育している。

【存続を脅かす理由】

園芸採取、周辺樹木による被陰、周辺波浪による消失。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○																○		

ジンチョウゲ目ジンチョウゲ科

キガンピ

Diplomorpha trichotoma（Thunb.）Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の低木で高さは１mばかりのもの。葉は楕円形で長さ５cm、幅３cm前後で対生する。花は夏に咲き、枝先の短い花序に数花をつける。花は多くは黄色、萼筒は長さ１cmばかり、萼筒は先で４裂して平開する。

本州の近畿地方と中国地方西部、四国、九州に分布する。

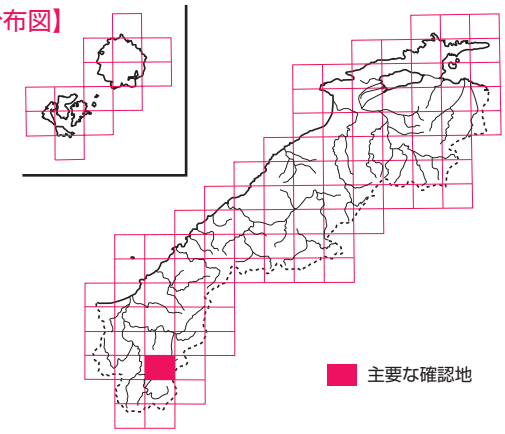
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はきわめてまれであって、石見部にのみ知られていて、出雲部、隠岐諸島での生育地は不明である。石見部での生育地の一つであった三瓶山西の原では、近年、個体が確認されない。草地の遷移による樹林化が原因となっていることが考えられる。県内では山地草原、冷温帯樹林内から林縁にややまれに生える。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の環境変化、特に周囲の樹種による被陰。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△		○		○	○																

ジンチョウゲ目グミ科

ナツアサドリ

Elaeagnus yoshinoi Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

夏緑性の低木、葉は互生して、倒卵状楕円形、長さ５－６cm、幅２－３cmばかりで、表面には星状毛多く、裏面も黄褐色の星状毛に赤褐色の星状毛が散生して特徴的である。花は春に咲き、葉腋に数花が束生し、萼筒は長さ１cmばかり、萼裂片も長さ５mmばかりある。果実は長さ１cmばかりで、上半部は扁円錐で赤く熟れる。

本州の兵庫県以西、中国地方に分布する。

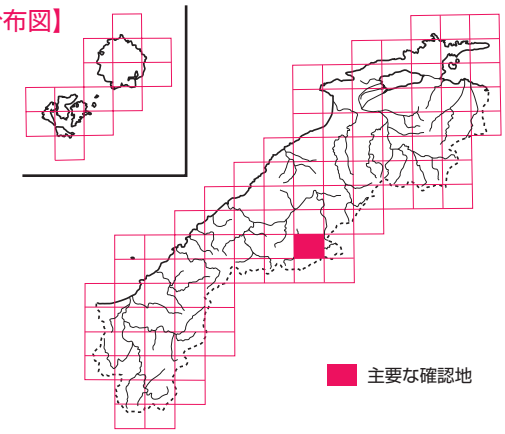
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はまれで、県中央部に知られている。山地の明るい夏緑二次林内にまれに生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と生育地の遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

セリ目ウコギ科

ウラジロウコギ

Acanthopanax hypoleucus Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑の低木で、高さは２m程で茎には長さ５㎜程の細い刺が多い。葉は小葉５枚の掌状複葉で、互生する。小葉は楕円形で長さ10cm、幅４cmばかり、裏面は白色を帯びていて特徴的である。花は夏に咲き、枝先に伸びる花序軸に２～３の散形花序をつけ、多数の小花を咲かせる。先端の花序は雌花、側生の花序は雄花である傾向が強い。

本州の関東以西、四国、九州の山地に生え、石灰岩地域にあることが多いとされる。

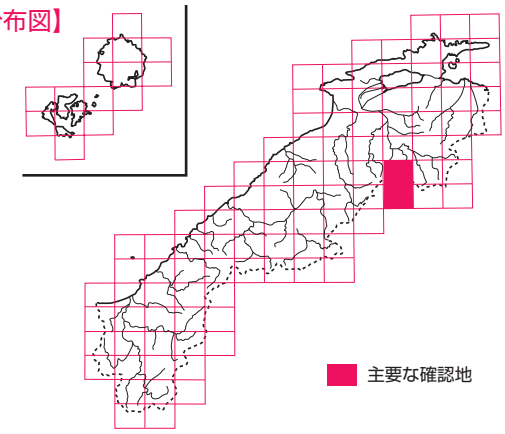
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部の中国山地脊梁部にのみ、きわめてまれに見られる。山地の露岩地、岩角地に生える。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化、森林開伐。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

セリ目セリ科

エゾノヨロイグサ

Angelica anomala Lallemant

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

【概要】

植物体は２～３回３出羽状複葉を根生して草丈30－50cm程のものであるが、開花株では花茎を高さ１m程に伸ばし、枝を分けて枝先に複散形花序に白色小花を多数つける。

国内では本州（中部地方以北）、北海道に分布するが、鳥取県(大山)、本県(隠岐諸島)にも分布が知られている。

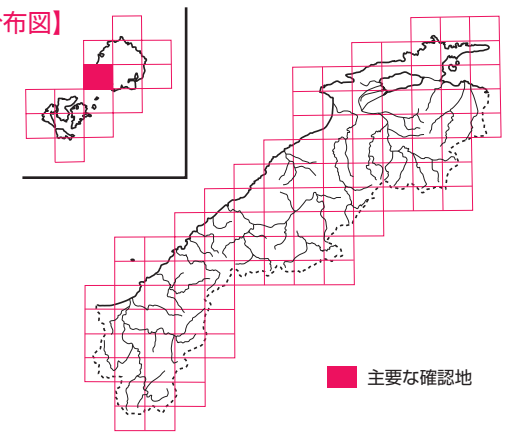
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐（島後）にのみ生育地が知られ路傍、林縁の草地に生える。

【存続を脅かす原因】

道路拡幅工事などによる路傍、林縁の草地の破壊。この５年間に道路拡幅工事により２ヵ所の生育地が破壊、消失した。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○		○																

セリ目セリ科

ヨロイグサ

Angelica dahurica (Fisch.) Benth. et Hook

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は局限されており、生育地での個体数も激減している。

【概要】

植物体は２～３回３出羽状複葉で根生し、草丈は50cm程であるが、開花株は花茎を２－３cm程に伸ばし、枝を分けて枝先に大形の複散形花序をなして白色小花を多数つける。

国内では本州、九州に分布するが、朝鮮半島、中国東北部からシベリアにかけての範囲に分布域のある大形の草本である。

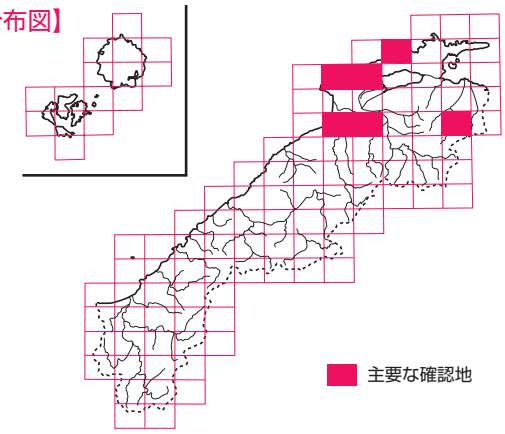
【県内での生育地域・生育環境】

県東部から中央部にかけての範囲に生育地が知られるが、生育地は山地林縁、路傍の草地であり、草地の遷移により生育地が消失した所もある。また、近隣の思わぬ所に新たな生育地を見ることもある。

【存続を脅かす原因】

草地の開発、遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○					○																

セリ目セリ科

アマニュウ

Angelica edulis Miyabe

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も多くない。

【概要】

植物体は１～２回３出羽状複葉を根生し、草丈50cm前後。開花株は花茎を１m前後に伸ばし、花茎先端部で２～３の枝を分け、径20cm程の大きな複散形花序に白色の小花を多数つける。

本州の主として中部地方以北に分布し、中国地方、四国にも分布するものとされる。

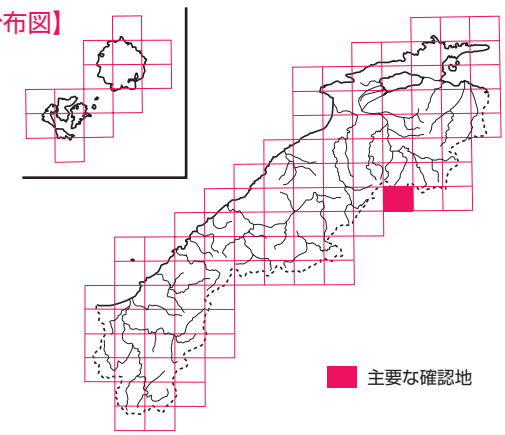
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部の中国山地脊梁部に僅かな生育地が知られる。沢の上部、谷頭の崖錐状地で、サワグルミ、トチノキなどの樹林下に群生する。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎				○																	

セリ目セリ科

タケシマシシウド

Dystaenia takesimana Kitag.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵4

島根県固有評価：

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は一地域のみで、きわめて限られている。

【概要】

山地に生える多年草。葉は２～３回の羽状に分かれ、小葉は卵形で縁に荒く不規則な切れ込みがある。花期は６～７月で、白い花弁をもつ複散形花序となる。本種が含まれるセリモドキ属には、本種とセリモドキの２種のみがあり、本種はこれまで韓国の鬱陵島にのみ生育する固有種であるとされてきた。セリモドキの草丈が30－90cm、花序の直径が５－10cmであるのに対し、本種は草丈が150－200cm、花序の直径も20cmになる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島の一カ所に生育地がある。林縁の草地や道路法面に生育している。

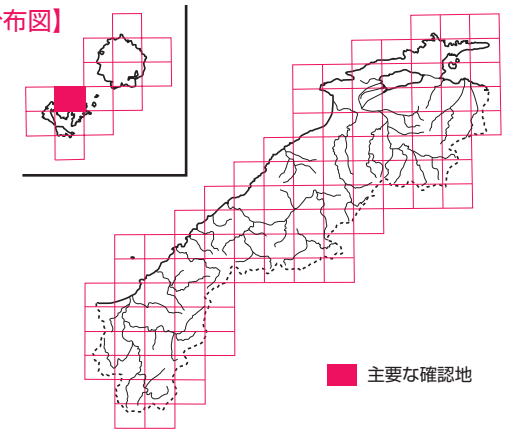
【存続を脅かす理由】

遷移によるヤブ化・樹林化。

【特記事項】

平成24年に海士町の文化財に指定されている。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○						○												

セリ目セリ科

ムカゴニンジン

Sium ninsi L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える草丈50cmばかりになる夏緑性の多年草。葉は単羽状複葉で小葉は円形から線形で互生する。花は秋に咲いて、葉腋に枝を出して先の複散形花序に多くの小花をつける。

北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島から中国に分布が続く。

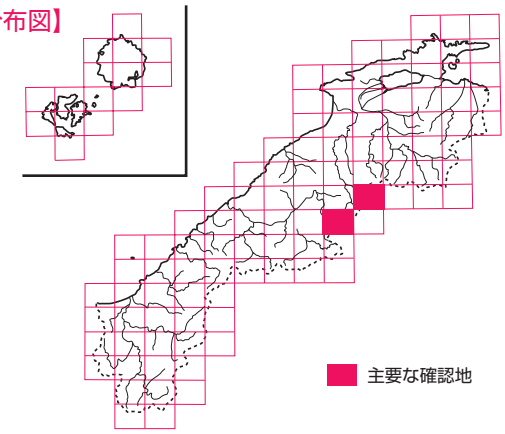
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地山間に溜池などの水湿地にまれに生育地がある。

【存続を脅かす原因】

埋め立てによる生育地の消滅。溜池の放置による生育地での遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○							○														

ツツジ目ツツジ科

イワナシ

Parapyrola asiatica（Maxim.）Kitamura

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

匍匐形の常緑小低木で、茎は枝を分けて地に這う。葉は楕円形で、長さ７－８㎝、巾３㎝前後で両面に短毛があり、葉縁に長毛があって特徴的である。花は春、枝先に筒状の長さ１㎝前後で桃色の花を数個つける。果実は夏前に熟れ径１㎝程、甘くて食べられるといわれる。

北海道西南部から主として日本海側に島根県まで分布するものとされる。

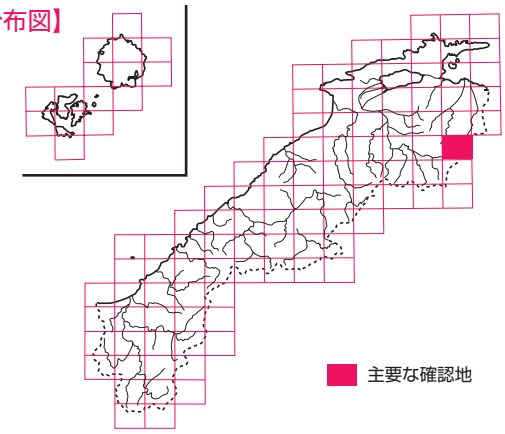
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部東部の一部に生育地が知られている。山地の崖地に生育している。

【存続を脅かす原因】

遷移。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

サクラソウ目サクラソウ科

ハイハマボッス

Samolus parviflorus Rafin.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵４

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える多年草で、草丈は10㎝前後、根元で分枝して、花茎を立てる。葉は倒卵形で、長さ２－５㎝程、巾は１－２㎝、全体無毛。花茎の先に白色小花を10個ばかりまばらにつける。

北海道から本州の海岸に近い場所に生育する。

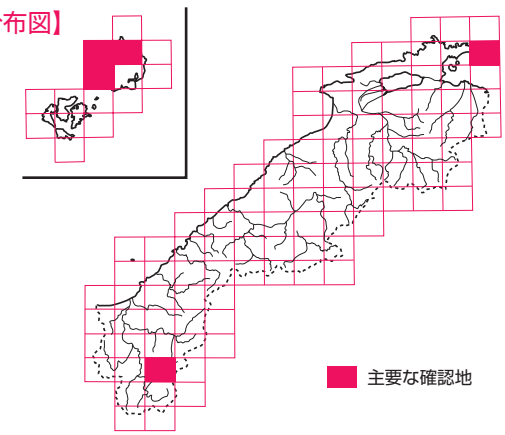
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐（島後）と東部に生育地が知られている。海岸の侵出水がある岩棚などに生えているが、時に海岸に近い溜池の縁や、山中の岩場の水湿地状態の場所にも生える。

【存続を脅かす原因】

溜池などでは草地の遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	◎															○			

イソマツ目イソマツ科

ハマサジ

Limonium tetragonum (Thunb.) A. A. Bullock

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵4

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

海岸の砂地に生えて、越年草とされるもので、花が咲くと枯れる。葉は長楕円形で基部に向かい狭くなる形で多数が根生する。花は秋になって咲き、高さ30－50cm程に花茎を伸ばし、多くの枝を分けて、黄色の小花を多くつける。

本州の東北地方以南、四国、九州の太平洋側から朝鮮半島、中国に分布するものとされる。

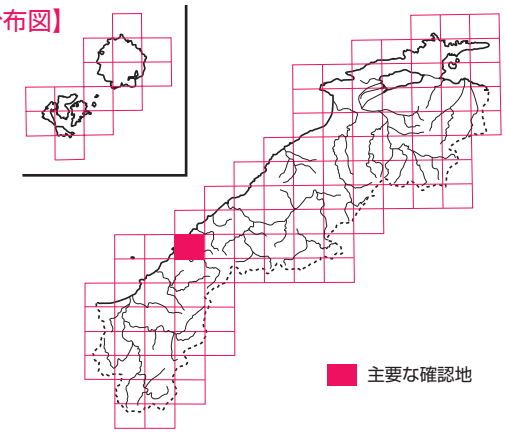
【県内での生育地域・生育環境】

石見部の一部にのみ生育地があり、日本海側での唯一の生育地である。海岸の砂礫浜から岩場の割れ目に生えている。

【存続を脅かす原因】

海岸での開発行為による生育地の破壊、消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																○			

リンドウ目リンドウ科

イヌセンブリ

Swertia tosaensis Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

水湿地に生える１年草または越年草。植物体は草丈30cm前後で、長さ４－５cmの倒披針形の葉を対生する。茎の上部で枝を分かち花をつける。花は秋に咲き、径1.5cm程で､白色に紫色の条がある花弁は５深裂するもので、時に花弁が５枚あるように見える。花は多数ついて夜空に星を見る如くに美しい。

本州、九州に生える。

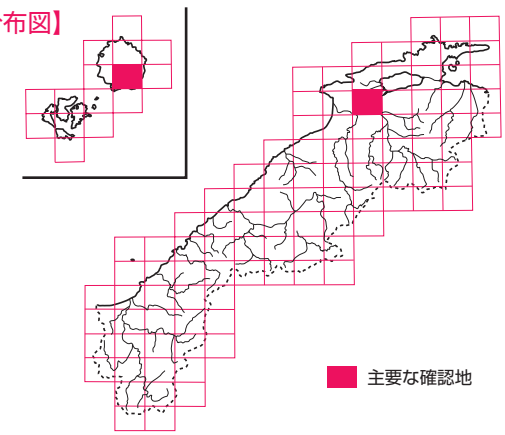
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐（島後）と東部に生育地が知られている。溜池の水辺や水田脇の水湿地に群生していて、他のイネ科草本などと混生して見られる。

【存続を脅かす原因】

水湿地草地の遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○									○					○				

リンドウ目リンドウ科

ムラサキセンブリ

Swertia pseudochinensis Hara

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

陽当りのよい草地に生える１年草または越年草。茎は紫色を帯び、多くは高さ30cm程度で、線形で長さ３cm前後の葉を対生する。花は夏から秋にかけて咲いて、淡紫色で径２cmばかり、花冠裂片は濃紫色の脈がある。

国内では本州の関東地方以西、四国、九州に分布して、朝鮮半島、中国東北部に分布が続く。

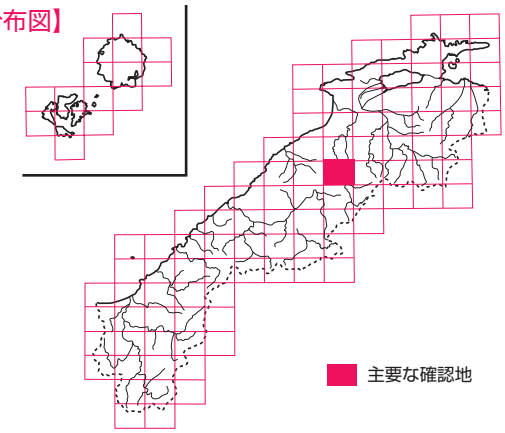
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部山地に生育地が点在し、山地の草原や山道脇の草地などに生える。時には道路法面などにも生えるが、いつしか消滅してしまう。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移による環境変化。抜き取り。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

リンドウ目ミツガシワ科

ヒメシロアサザ

Nymphoides coreana Hara

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での産地が限定されており、圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移や埋め立てによって産地が脅かされている。

【概要】

本州以西の平地の溜池､水田などに生育する浮葉植物。葉、花ともガガブタよりも小形で、ヒメガガブタの別名がある。葉は長さ２－６cm、幅２－４cm、平滑で表面に紫褐色の斑状模様が目立つ。白色の花冠は４～６裂して径８㎜ほど、裂片の縁は毛状に細裂する。花は葉柄の基部に束生し、花柄の長さは１－３cm。果実の中には径１㎜ほどの黒色の種子が詰まっている。

県内では宍道湖と中海を結ぶ大橋川の河口左岸域にある休耕田で1999年８月に初めて発見され、その後２ヵ所の自生地が確認されている。

【県内での生育地域・生育環境】

大橋川河口域左岸の休耕田、中州の水田及び江島の水田。

【存続を脅かす原因】

圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移や埋め立て並びに除草剤による影響。

【特記事項】

これまでに確認されている３ヵ所の生育場所はいずれも小個体数からなり、水田の埋め立てや乾田化、あるいは放棄水田の遷移により消滅寸前の状態である。大橋川河口左岸域はこれまでのところ湿田が保たれ、休耕田にはミズアオイやミズワラビなども生えているので、この地域全体を水生絶滅危惧植物の保護・保全地区とする施策が望まれる。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎															○						

リンドウ目ミツガシワ科

アサザ

Nymphoides peltata（Gmel.）O. Kuntze

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

生育場所が１地域に限定されており、その生育場所で河川改修が進行している。

【概要】

全国各地の湖沼や溜池、水路に群生する多年生の浮葉植物。直径１cmほどの地下茎は蓮根のように多孔質で長く水底を這う。水中茎と葉柄が地下茎から伸び、水面に浮葉を展開する。浮葉は広楕円状心臓形で、長さ５－15cm、幅４－10cm、葉縁はゆるやかに波打ち、基部は葉柄の付け根まで深く切れ込む。浮葉の表面は濃緑色で光沢があり、裏面は光沢が無く淡黄緑色または紫褐色でざらつく。花は杯状の５花弁の合弁花であり、縁に長さ１mm内外の微歯が連なる。キュウリの花に似た黄色の花の直径は２－４cmと大きく、人目を引く。種子は扁平で、長さ４mm、幅約３mm、表面に柱状の突起があり水鳥などに付着する。発芽は水中で抑制され、実生の定着は春先に一時的に干出した場合にのみ起こる。開花しない集団も多く、全国に点在する67地域個体群のうち57地域個体群は１クローンのみで構成されているという報告もある。県内のアサザも開花しない集団であり、１系統と考えられる。

【県内での生育地域・生育環境】

斐川平野の用水路。

【存続を脅かす原因】

河川改修の進行と人為的な刈り取り。

【特記事項】

県内では、ビオトープの造成を目的として、自生地内に他地域のアサザが持ち込まれている。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎																○					

リンドウ目キョウチクトウ科

チョウジソウ

Amsonia elliptica（Thunb.）Roem. et Schult

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える夏緑性の多年草。草丈は50cmばかりになり、長さ10cm程の披針形の葉を互生する。花は初夏に咲き、茎頂に径１cm前後の青紫色の花を多数つける。花冠は狭長な５裂片に裂け、平開して、美しい。果実は円柱状で１花に２本ついて、長さ５－６cm。

本州、九州に分布し、朝鮮半島、中国に分布が続く。

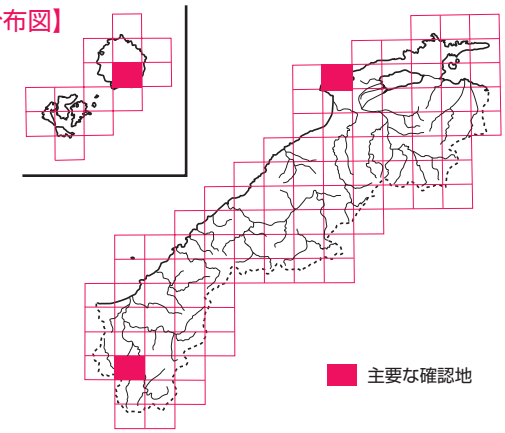
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐（島後）、東部、西部の一部に生育地が知られていたが、西部の生育地については近年消滅してしまった。

【存続を脅かす原因】

遷移。埋立て等の人為的な生育地の破壊。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		△	○									○					○				○

リンドウ目ガガイモ科

クサタチバナ

Cynanchum ascyrifolium (Franch. et Savat.) Matsum.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内では生育地が限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑性の多年草で、草丈は50cmばかり。葉はほぼ楕円形で長さ10cm、幅５cm前後で対生する。花は初夏の頃に咲き、茎の上部の集散花序に、径２cmばかりの白色花を多数つけて、時に美しく咲く。花冠は５裂する。果実は袋果で細長く、長さ５cmばかりのもの。

本州の関東地方以西、四国に分布し、朝鮮半島、中国東北部に続く分布域があるとされる。

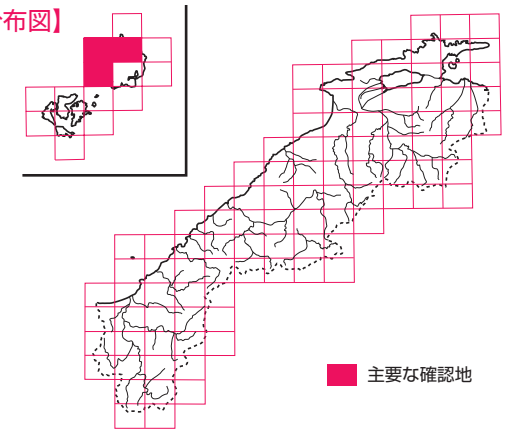
【県内での生育地域・生育環境】

県内では、隠岐諸島にのみ生育地が知られていて、出雲部、石見部での生育地の状況は不明である。隠岐（島後）でも生育地はまれであり、山地の夏緑二次林内にあって、樹林内の遷移により、個体数は減少している。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

リンドウ目ガガイモ科

フナバラソウ

Cynanchum atratum Bunge

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数もまれである。

【概要】

海岸風衝、岩礫地、草地に生える夏緑の多年草。草丈50cmばかり。葉は楕円形で長さ10cmばかり、幅５cmばかりで対生して、全体に毛がある。葉は初夏の頃、径１cmばかり、５深裂花冠の汚紫色で、秋の果実は広披針形で特徴的である。

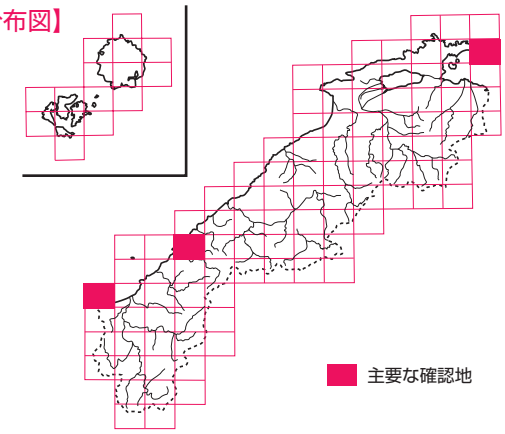
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の海岸付近に生育地が知られている。

【存続を脅かす原因】

草地の自然な遷移による環境変化、人による採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○																	○		

リンドウ目アカネ科

ジュズネノキ

Damnacanthus macrophyllus Sieb. ex Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:ー
環境省:ー

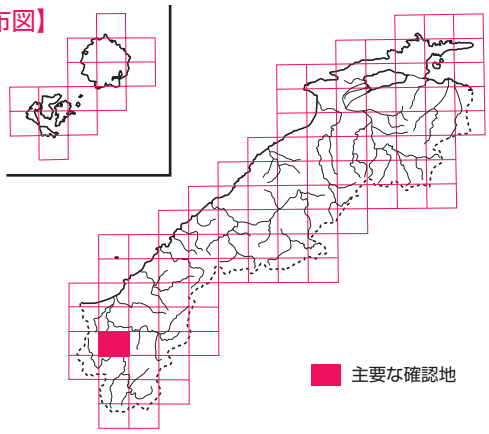
【選定理由】
県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もまれである。

【概要】
常緑の低木で高さ1m前後で、根が細長い数珠状に肥厚する特徴がある。葉は楕円形から長楕円形で長さ10cm、幅3cm程になり、両端がとがり、対生する。春に花が咲き、枝先や葉腋に白色の小花を2個つける。花冠は筒状で長さ1cm程で、先は4裂する。果実は径5mm程で赤く熟れる。
本州の近畿以西、四国、九州に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
石見西部に生育地が知られている。コジイ、イチイガシ林内の低木として少数の個体の生育が認められる。この樹林は優良な神社林であって町の天然記念物として保護の対象となっている。数年前の強い台風によって林分が破壊された部分があったが、ジュズネノキには影響はないようである。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開による生育地の破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

シソ目ムラサキ科

ハマベンケイソウ

Mertensia asiatica (Takeda) Macbride

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:分布限界種(南限)
環境省:ー

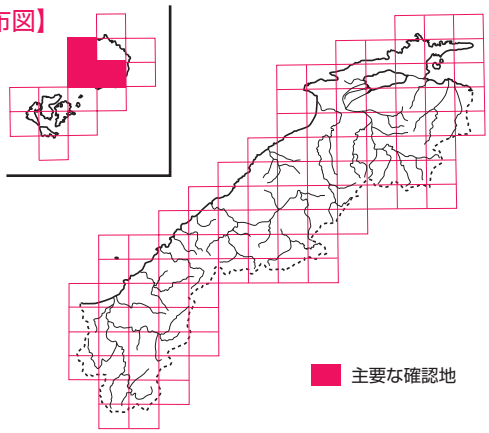
【選定理由】
県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】
海岸の砂礫地に生える多年草。地際から枝を分けて地に這い、葉は楕円形から広卵形で長さ5cm前後、巾3cm前後、互生して青白い色が特徴的である。花は夏に咲き、長さ1cm前後の青色で、枝先に数個ずつつける。
北海道、本州の海岸に分布するが、北方系の植物であり本州では生育地はまれなようである。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では隠岐(島後)に生育地が知られていて、海岸の砂礫の浜に生育している。

【存続を脅かす原因】
波浪等による自然災害、浜の改善工事。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○																	○	

シソ目シソ科

カイジンドウ

Ajuga ciliata Bunge var. *villosior* A. Gray

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵5

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内では生育地が限定され、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の草丈30－50cm程の多年草。葉は卵形で、長さ７－８cm、巾３cm程で、やや大きな４～５対の鋸歯縁をもち対生する。花は初夏に咲き藍色で茎の上部に多くつく。

北海道から本州、九州に分布するものとされる。

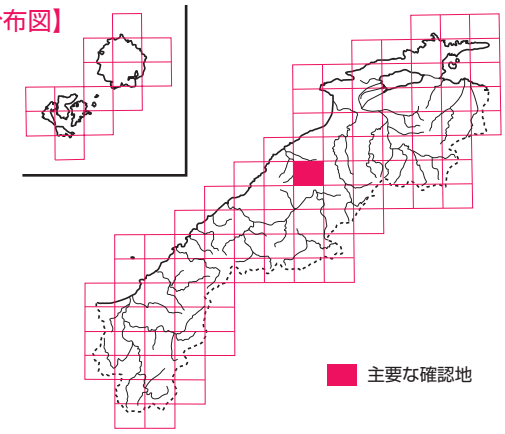
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中央部に生育地が知られているが、生育地は草原状地であって、各種の草本類と混生して、まれに見られる。

【存続を脅かす原因】

草原の遷移、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

シソ目シソ科

シモバシラ

Keiskea japonica Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて限られている。

【概要】

山地林内に生える夏緑性の多年草。草丈は50cmばかり、葉は長楕円形で、長さ10cm、幅３cm前後のもので対生する。花は秋に咲き、葉腋の総状花序に白色小花を多数つける。個々の花は皆、一方の側に向いて咲くのが特徴的である。

本州の関東地方以西、四国、九州に分布する植物とされる。

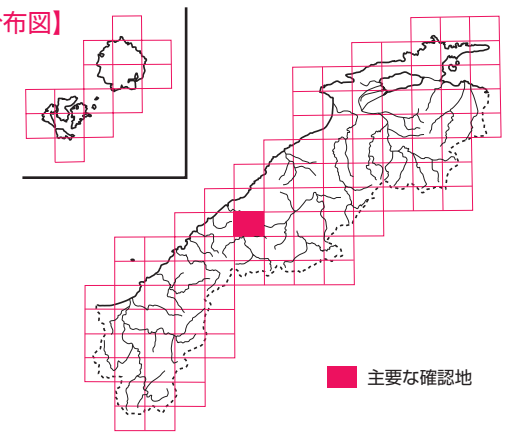
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は県中央部のきわめて限られた地に存在する。生育地は人工林内の林床で、個体数も多くはない。

【存続を脅かす原因】

人工林内の林床の遷移による環境変化、園芸上の採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

シソ目シソ科

オオヤマジソ

Mosla japonica (Benth.) Maxim.var.hadae (Nakai) Kitam.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、全個体数も少ない。

【概要】

ヤマジソの変種とされて、ヤマジソに比べ葉が大きく丸く、葉は直立して高さ10－25cmばかり、開出毛が目立つ。花序の苞が卵円形で、長さ５－15㎜もある点も特徴的である。全国的にもきわめて珍しい植物とされる１年生草本である。

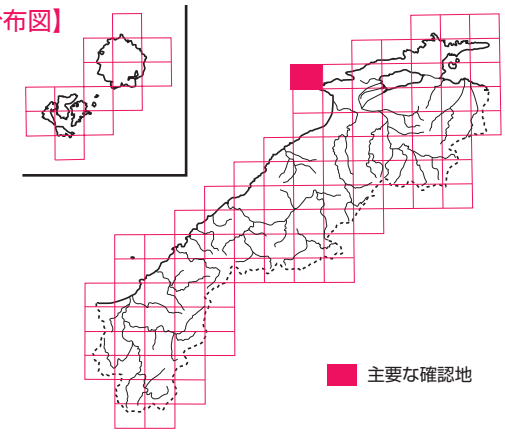
【県内での生育地域・生育環境】

県内では海岸風衝岩場に生育地が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生育岩場は広くないので、この植物にとっての将来は安定した状態のものではないと思われる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																			○		

シソ目ナス科

ヤマホロシ

Solanum japonense Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

【概要】

山地に生えるやや蔓性の多年草。葉は長卵形で長さ５cm、幅３cm前後のもので、時に３－５片に裂けるものがある。花は夏に咲き、小枝にまばらな集散花序を出し、少数の花をつける。花冠は薄紫色で径１cmばかり、先は５裂して反曲して咲く。果実は液果で赤く熟し、楕円形で径５－６㎜のものである。

北海道から四国、九州、朝鮮半島から中国東北部に分布域があるとされる。

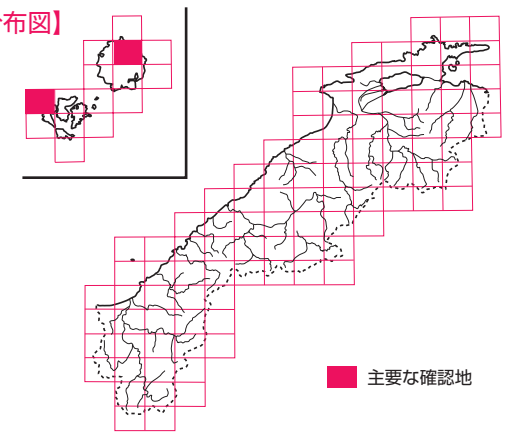
【県内での生育地域・生育環境】

全国に広く分布範囲がある植物であるが、県内での生育地はきわめてまれで隠岐諸島に知られていて、出雲部、石見部では不思議と見られないようである。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開などによる生育地の破壊。生育地での遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

シソ目ゴマノハグサ科

サンイントラノオ

Pseudolysimachion ogurae Yamazaki

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵6

島根県固有評価：島根県固有種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の草丈30cmに満たない、やや小型の多年草で、根際で数本の茎を分枝して株をなす。地上に枝を出して増殖することがこの類の中では特徴あることである。葉は倒披針形で、長さ３cm程、巾0.5cm程で対生する。花は夏に咲き、茎の上部に穂状に青紫色の小花を多数つける。

島根県固有の植物であり、東部、中央に生育地が知られている。

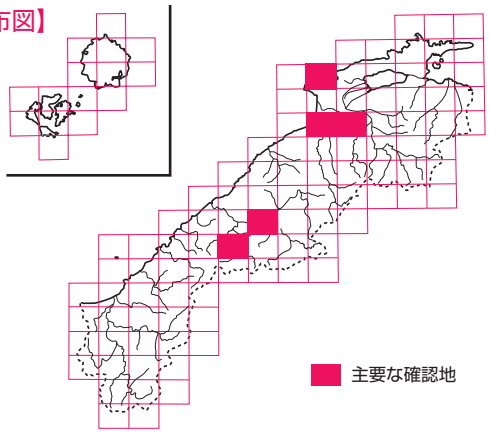
【県内での生育地域・生育環境】

県東部から中部にかけて生育地が知られている。生育地は主として岩上であり、岩山や林縁の露岩崖地に他の露岩地に特有な植物と共に生える。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○							○						○									

シソ目ゴマノハグサ科

ミヤマクワガタ(ダイセンクワガタ)

Pseudolysimachion rotundum (Nakai) Yamazaki var. *subintegrum* (Nakai) Yamazaki

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地がきわめて限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の多年草で、草丈は20cm前後、葉は卵形で重鋸歯があって、長さ３－４cm程で対生する。花は夏から秋に咲き、茎頂に穂状に青紫色の小花をつける。ここに扱うものはダイセンクワガタとされる型のもので、中国地方の山地に固有な分布のものとして存在する。

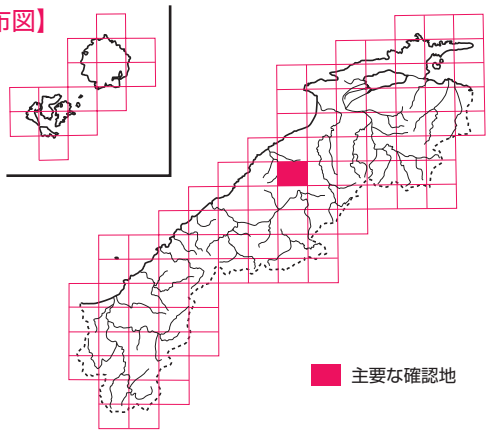
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中部のごく一部の地に生育地が知られるもので、山地の林縁露岩地、岩上に生育するが、時に基盤の崩落による生育地の破壊がある不安定立地のため個体の消滅がある。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然災害、自然系の遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

シソ目イワタバコ科

イワタバコ

Conandron ramondioides Sieb. et Zucc.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

植物体は長楕円形の葉を数枚根生するもので、葉の長さは20cmばかり、巾５－10cm程で光沢がある。花は初夏に、20cmばかりの花茎を立て、先に10個程の紅紫色の小花をつける。

本州の福島県以南、四国、九州に分布する。

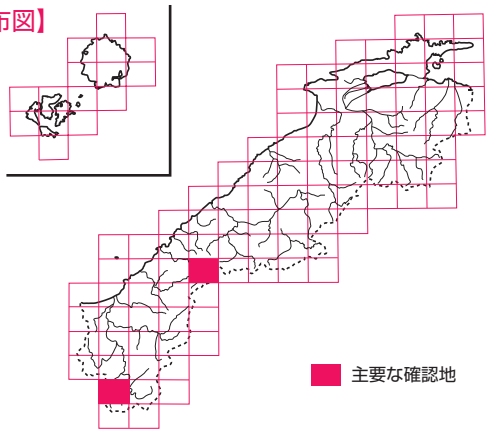
【県内での生育地域・生育環境】

県内では西部山地の一部に２～３の生育地が知られている。山地渓側の陰湿な岩壁など、おもに岩上に生育地がある。

【存続を脅かす原因】

森林伐開、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○				○															

シソ目イワタバコ科

シシンラン

Lysionotus pauciflorus Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵6

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もきわめて僅かであり、絶滅寸前状態である。

【概要】

おもに樹幹に着生し、茎は這い、分枝して、枝先に長さ10cm前後、巾３－４cm程の長楕円形の葉を数枚束生する。植物体全体は高さ20cm程のものが多い。花は夏に咲いて、淡桃色の袋状の花冠は長さ４－５cmで美しい。

太平洋側の暖地、伊豆、四国、九州に分布する。

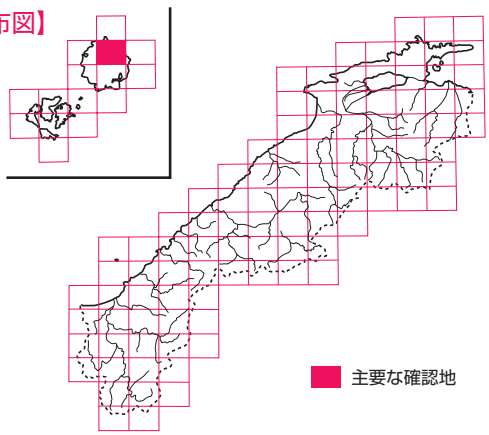
【県内での生育地域・生育環境】

以前より隠岐（島後）に生育地が知られていた。国指定天然記念物「高尾暖地性闊葉樹林」内での記録があるが、現在では絶滅状態である。島内において山草愛好家の間では、近年採取されたものとして採培する人もある。

【存続を脅かす原因】

森林伐開、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

シソ目イワタバコ科

イワギリソウ

Opithandra primuloides B. L. Burtt

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内では生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体はやや小型の夏緑多年草で根生状の葉をつけて株となる。葉は柄があって葉身は長さ５－８㎝程の卵形で、葉縁はやや大きい鋸歯縁で、全体に毛がある。花は初夏に咲き、根茎から葉の間に花茎を出し、先端に10個ばかりの赤紫色の筒状の小花をつけて美しい。

本州近畿地方以西、四国、九州に分布する植物である。

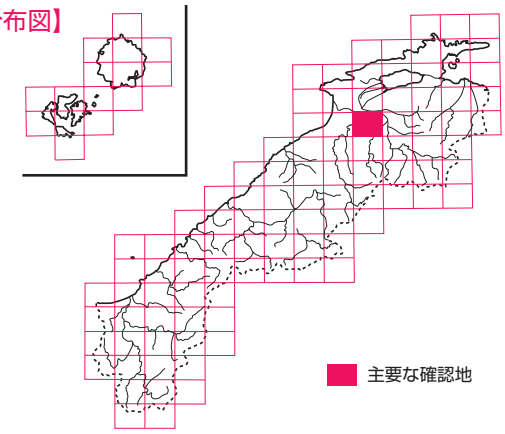
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部にまれに見られて、岩上、岸壁に生える。やや湿り気のある岩上から、時にはかなり乾燥する立地でも生育する。

【存続を脅かす原因】

岩上での遷移、園芸上での採取など。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎								○														

マツムシソウ目スイカズラ科

ダイセンヒョウタンボク

Lonicera strophiophora Franch. var. *glabra* Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑の高さ１m程になる低木である。葉は対生し、卵状楕円形で長さ５㎝、幅３㎝ばかり、葉表は短毛が散生し、葉裏脈上にも毛がある。花は春、葉の展開と同時に咲き、新梢の下部からでる花柄に２花をつける。苞は大きく目立ち、卵形の葉状で長さ２㎝、幅１㎝ばかりである。花冠は漏斗状で長さ２㎝ばかり、緑白色から淡黄緑色で下垂して咲く。果実は液果で球形、径１㎝ばかりで赤く熟れる。県内の生育地のものは子房及び花柱が無毛な型で、オオバヒョウタンボクの変種として扱われ、本州中部以西、四国に分布するものとされる。

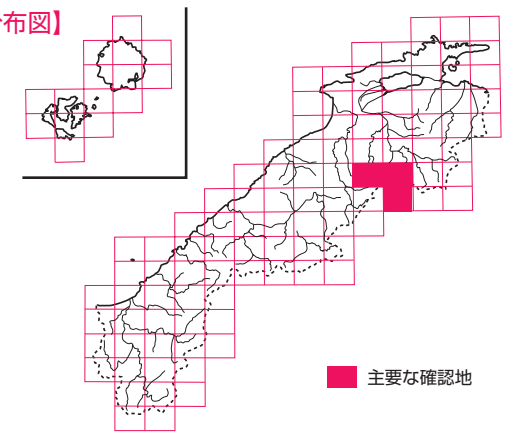
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部中国山地脊梁部にまれに見られるもので、ブナ林内の露岩上に僅かな個体が生えている。

【存続を脅かす原因】

園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

マツムシソウ目スイカズラ科

ヤブウツギ

Weigela floribunda（Sieb. et Zucc.）K. Koch

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の低木で高さ２－３mの植物。葉は楕円形で長さ10cm、幅５cmばかりで対生する。花は春に咲き、枝先の短い散房花序に数個の花をつける。花冠は長さ３－４cmばかり、暗紫紅色で漏斗状、先は５裂片に分かれる。多くは下垂して咲く。果実は長さ２－３cmばかりの蒴果となる。

本州の関東以西、四国に分布域があるが、おもに太平洋側に分布する植物である。

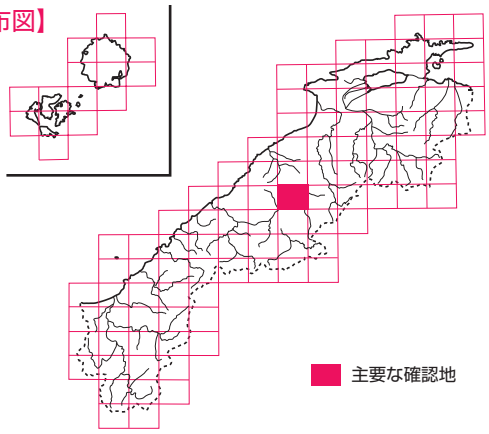
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部にのみ生育地があって、出雲での生育地は知られていない。おもに山地の林縁部に生え、時に川岸の岩場にも生える。

【存続を脅かす原因】

道路拡幅工事、河川護岸工事などによる生育地の破壊。遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○													

キキョウ目キキョウ科

キキョウ

Platycodon grandiflorum（Jacq.）A. DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かとなっている。

【概要】

山地の草原状地に生える夏緑性の多年草。植物体は草丈50cm前後で、葉は長さ５－６cm、幅２cm程で、互生から対生、さらに輪生して着く。花は夏から秋に咲き、茎頂に数個がつく。花冠は広い鐘形で先きが浅く５裂して径４－５cmのもので、多くは青紫色である。

国内では北海道から四国、九州に分布して、朝鮮半島、中国に続く分布域をもつ。

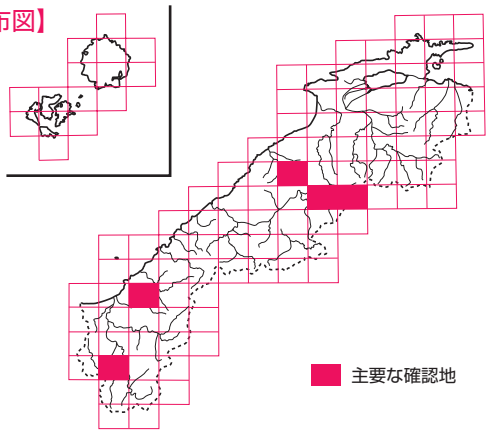
【県内での生育地域・生育環境】

県内の限られた地に生育地が点在し、生育地での個体数もまれであって、あちこちで個体数の消滅がある。

【存続を脅かす原因】

生育地である草原状地としての管理が放棄され、樹林化による影響がもっとも大きいものと考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			○				○												

キキョウ目キク科

チョウジギク

Arnica mallatopus (Franch. et Savat.) Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵6

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑の多年草、草丈は30－50cm程で、葉は長狭楕円形で長さ10cmばかりで対生する。花は秋に咲いて、茎頂に５～10個程のやや小型の頭花をつけて咲く。頭花は長い柄があり、柄には白毛が密に生えていて特徴的である。小花は筒状で、花冠は黄色で時に美しい。

本州、四国の冷温帯に分布している。

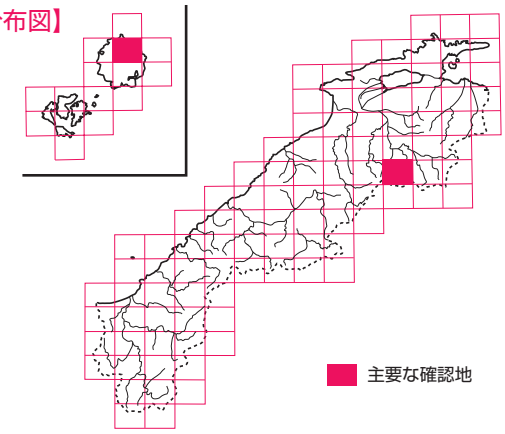
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)、出雲部に生育地が知られている。いずれも深山のやや湿り気の強い岩上、岩壁に生え、時に茎は下垂する。

【存続を脅かす原因】

生育地での自然な遷移と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			◎																		

キキョウ目キク科

ヒゴタイ

Echinops setifer Iljin

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵7

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かとなっている。

【概要】

夏緑性の多年草。葉は長楕円形、長さ20－30cm、羽状に裂け、縁には刺毛があって裏面は白毛があって白色である。花は夏から秋に咲き、高さ１m前後の太い花茎を伸ばし、上部で２－３の枝を出し、球形の頭花に青紫色の小花を多数つけて美しく咲く。

日本と朝鮮半島に分布するが、国内では中部地方の一部から中国地方、九州にかけて隔離的に分布し、氷河時代からの残存する植物とされる。

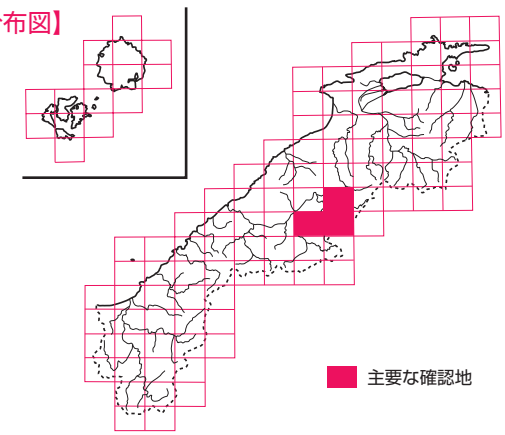
【県内での生育地域・生育環境】

県内での分布は東部、中部の一部に生育地が確認されていたが、現在では東部にだけきわめて僅かな個体数が認められるだけの状態となっている。生育地は林縁の草地などの草原状地であり、過去における草刈場に多くの個体が見られたものである。

【存続を脅かす原因】

遷移、生育地の樹林化。過去においては盆花等に利用されたと聞く。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○																

キキョウ目キク科

ヤナギタンポポ

Hieraccium umbellatum L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵7

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

草丈50cmばかりの多年草。長さ５－10cmばかりの披針形の葉を多く互生する。花は秋に咲き、茎の上部に径２－３cmの黄色舌状花冠（頭花）を散房状に多くつける。国内では北海道、本州、九州に分布し、北半球に広く分布するものとされる。

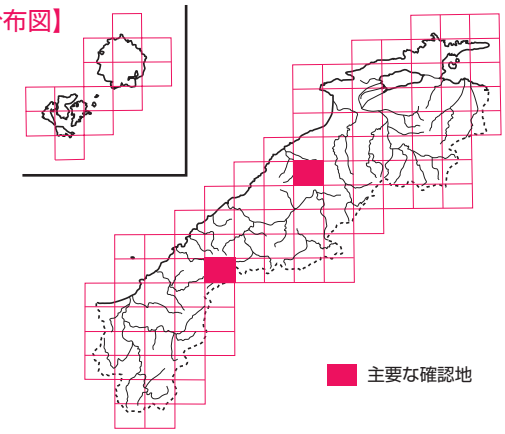
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中部及び西部山地湿生地に分布する。

【存続を脅かす原因】

遷移による樹林化、乾燥化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○					○														

キキョウ目キク科

スイラン

Hololeion Krameri (Franch. et Savat.) Kitam.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、個体数も多くはない。

【概要】

山地の水湿地に地下茎をもって生える多年草。葉は披針形で長さ20cm前後で数枚が根生状に着いて、多くは垂直に立ち上がる。花は秋に咲く。開花株は高さ50cm前後に花茎を立て、上部で枝を分かち、枝先きに径３cmばかりの淡黄色の頭花をつける。

国内では本州の中部以西から九州にかけて分布する植物とされる。

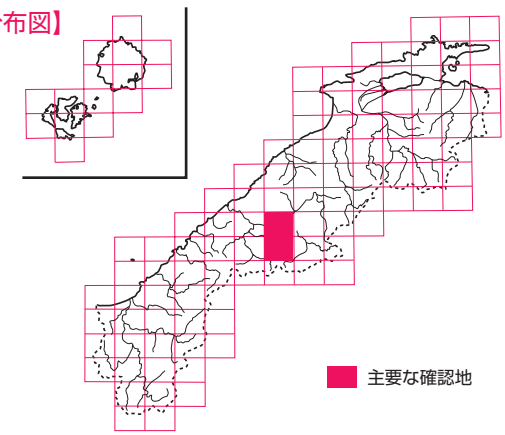
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は中央部の山地の一部に確認された場がある。山間地の水田跡、水田脇の水湿地、溜池の上流部での水湿地、また成因不明な山中湿地などで、他の水湿地特有な植物群と共に生育する。

【存続を脅かす原因】

水湿地の遷移による環境変化、埋め立てによる生育成地破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎												○									

キキョウ目キク科

オオダイトウヒレン

Saussurer nipponica Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:－
環境省:－

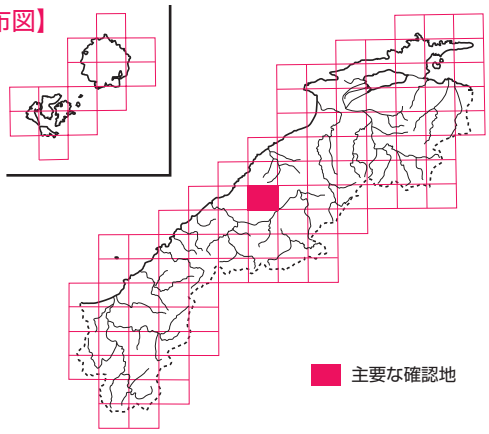
【選定理由】
県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】
山地林内に生える夏緑性の多年草で、根生葉は長い柄があって葉身は卵形から卵状三角形で長さ10cm、幅５cm前後。茎は高さ50cmばかりで、じ上部に散房状の枝を分け、先にやや疎らに頭花をつける。花は夏から秋にかけて咲き、頭花は長さ１cmばかり、総苞外片は短く反曲する。小花は筒状で淡紅紫色である。
国内では近畿地方から中国地方の山地に分布する植物とされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では石見東部の山地に限られた生育地が知られている。生育地はやや標高の高い所で、ミズナラなどの夏緑広葉樹林内にまれに生えるが、一部では山道の傍らの草地に20～30株程のまとまった個体群もみられ、林内の林床よりも林縁などの明るい環境を好むように思える。

【存続を脅かす原因】
樹林の遷移や伐開による環境変化。園芸上での個体採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

キキョウ目キク科

キクアザミ

Saussurea ussuriensis Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:－
環境省:－

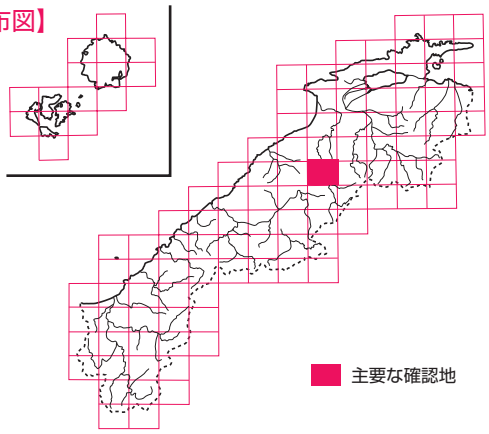
【選定理由】
生育適地となるような草原状地が遷移により消滅しつつあることにより、生育地の消滅、個体の消滅により絶滅の心配が大きくなっている。

【概要】
山地草原状地に生え、草丈30－50cmばかりの多年草。葉柄部は長さ10cmばかり、葉身部は長さ10－20cmばかりで、葉は羽状浅裂－中裂のやや堅い質のもの。花は秋に咲き、頭花は10個ばかり散房状につく。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では石見東部の山地草原に限られた生育地が知られている。

【存続を脅かす原因】
生育地での遷移による樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

キキョウ目キク科

オカオグルマ

Senecio integrifolius (L.) Clairville var. *spathulatus* (Mig.) Hara

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれである。

【概要】

根生葉は長楕円形、長さ５－10cmばかりのものが５～10枚ばかりロゼット状をなし、草丈は30－50cm。茎頂部に初夏の頃、径２cmばかりの頭花黄花を10個ばかり散房状につける。

国内では本州、九州に分布し、朝鮮半島、中国などにも分布域があるものとされる。

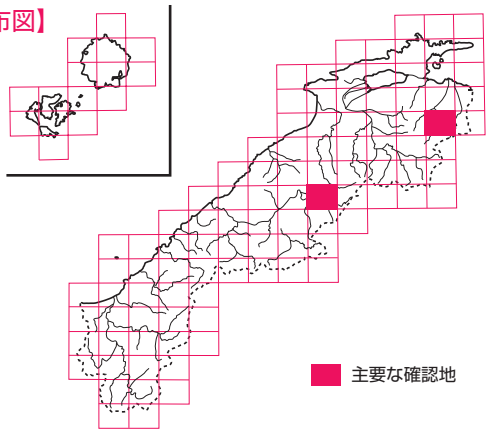
【県内での生育地域・生育環境】

乾燥気味の路傍、露岩状草刈り場などにまれな生育地があるが、いずれの場所も将来のこの植物の存続が心配される状態である。

【存続を脅かす原因】

遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○				○												

キキョウ目キク科

ハチジョウナ

Sonchus brachyotus DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

海岸に生える多年草で、長さ10cmばかりの長楕円形の葉を互生して、草丈50cmばかりになる。花は夏から秋にかけて咲き、茎頂部で枝を分けて、径３cm程の黄色花の頭花を着ける。やや北方系の植物で、国内では北海道から本州、九州に分布域があるが、本州中部以北の海岸に多く分布するものである。

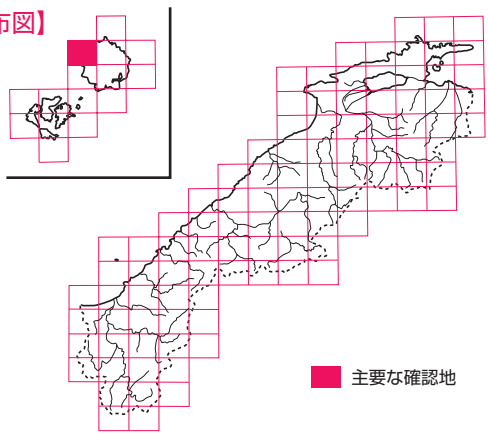
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐（島後）の一部に分布するものが知られているが、生育地は多くはない。出雲部にも生育地があるとされるが詳細は不明である。石見部についても不明。

【存続を脅かす原因】

波浪等による自然災害や海岸の環境整備による生育地の破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○																	○	

キキョウ目キク科

キビシロタンポポ

Taraxacum hideoi Nakai ex H.Koidz.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵7

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も少ない。

【概要】

里地の路傍や草地に生える多年草。葉は長さが20～30cm、倒披針形から披針形で、羽状に中裂し、根生する。花茎は30cm程度で、先に薄いクリーム色の頭花をつける。シロバナタンポポに比べると、角状突起がほとんどないこと、頭花が小さいこと、花茎が短いこと、痩果が黒褐色であることなどが相違点である。

近畿地方、中国地方、四国、九州北部に分布する。

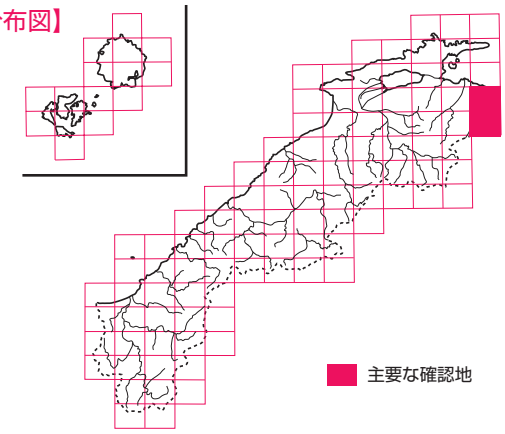
【県内での生育地域・生育環境】

県内では県東部に生育地があり、路傍や畦などに生育している。

【存続を脅かす理由】

圃場整備、土地造成、除草剤散布などの人為的攪乱。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○										○											

オモダカ目オモダカ科

アギナシ

Sagittaria aginashi Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はまれである。

【概要】

湿地、浅い池に葉を５－６枚根生して生えて、草丈は30cmばかりである。葉は水面より上に出たものは葉身の基部が矢じり形に２つ裂け、上の裂けない裂片より短いとされる。夏から秋にかけて、花茎を出し、花を３個ずつ輪生する。花茎の下方に雌花、上方に雄花がつく。

国内では北海道から九州、朝鮮半島に分布するとされる。

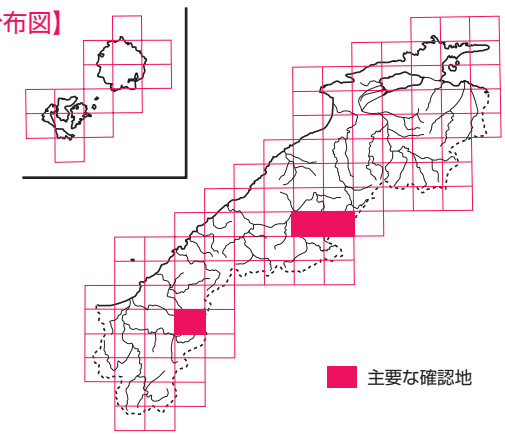
【県内での生育地域・生育環境】

人為干渉の少ない、かなり年数を経た湿地に生育するようであり、県内でもそのような湿地がまれである。

【存続を脅かす理由】

生育地の自然な遷移としての湿地の乾燥化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○					○		○												

イバラモ目イバラモ科

イバラモ

Najas marina L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価:−
環境省:−

【選定理由】
河川改修や水質汚濁による自生地の環境悪化。宍道湖・中海水系内のつばさ池での自生が近年認められなくなったため、ランクをこれまでの絶滅危惧Ⅱ類から絶滅危惧Ⅰ類に変更した。

【概要】
全国の湖沼や溜池、及び流れのゆるやかな河川に生育する1年生の沈水植物で、淡水域だけでなく汽水域にも出現する。水中茎は径1−2㎜で叉状によく分枝し、3輪生あるいは対生の葉をつける。葉茎は硬質であるが、もろくて容易に折れる。葉は無柄でやや扁平、長さ2−6㎝、幅1−3㎜で葉縁に棘状の大きな鋸歯がある。雌雄異株であり、雄株には4室の葯をもつ雄花が葉腋につき、雌株には花被がなく1個のめしべからなる雌花が葉腋につく。

【県内での生育地域・生育環境】
斐川平野の小河川で見られたが、現在は不明。

【存続を脅かす原因】
除草剤の使用及び河川改修などによる生育場所の環境悪化。

【特記事項】
かつて中海の彦名干拓地にある米子水鳥公園内のつばさ池に大きな群落があった。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
○	△	△														○	○					○

ホンゴウソウ目ホンゴウソウ科

ホンゴウソウ

Andruris japonica (Makino) Giesen

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 写真 口絵7
島根県固有評価:−
環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】
県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も限られている。

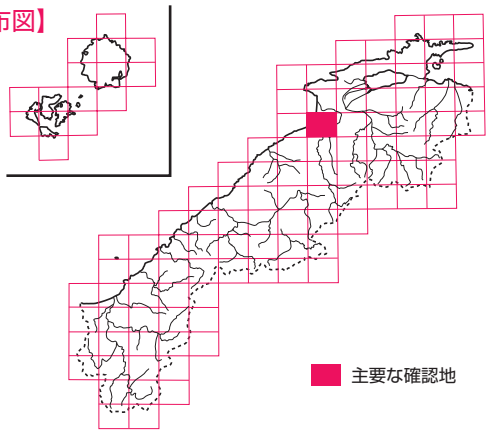
【概要】
林内に生える小形の腐生多年草である。草丈は多くは5−6㎝で、全体が赤紫色で葉は小さい鱗片に退化している。花は夏から秋に咲き、茎の上部の総状花序に10個ばかりの花をつける。花序の下部には径1.5㎜程の球状の雌花、上部には径2㎜程の雄花がつく。

本州の関東以西、四国、九州、南西諸島の範囲に分布域がある植物とされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内での分布はきわめてまれで、出雲部の一部の山地樹林内の狭い範囲に生育地があり、落葉や他の稚樹などと共に生えている。小形で、奇妙な腐生植物であるので一般にはあまり認識されにくく、生育があまり知られていないものと思われる。

【存続を脅かす原因】
森林伐開、一部の山道の傍らに生育するものについては、山道の整備、踏圧による消滅が心配される。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○													

ユリ目ユリ科

ホソバナコバイモ

Fritillaria amabilis Koidz

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵7

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地林内に生える多年草で、草丈15cm前後、葉は長楕円形で長さ５－６cm、幅１－２cm、対生または３輪生。花は春先きに咲き、茎頂に１個の長さ２cmばかりの鐘形、花糸と花柱に毛状突起がある。いわゆる早春植物で５月中に果実成熟、地上部は枯れる。

本州の中国地方から四国、九州に分布域がある。

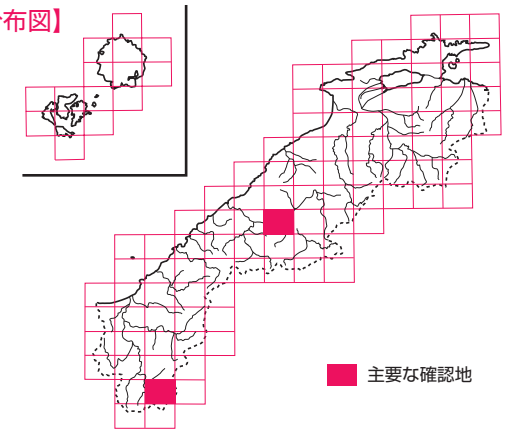
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中央部から西部に生育地が知られているが、きわめて狭い範囲である。夏緑広葉樹林内から林縁に生える。

【存続を脅かす原因】

森林伐開、園芸上での採取。生育地での自然遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○				○													

ユリ目ユリ科

イズモコバイモ

Fritillaria ayakoana Naruhashi

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵7

島根県固有評価：島根県固有種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地林内に生える多年草で、草丈は15－20cmばかり、葉は長楕円形で長さ５－６cm、幅２cm前後で対生または３輪生。いわゆる早春植物であり、春先きに、茎、葉を地上部に展開、開花、結実の後、周りの樹木の葉が出揃う頃には地上部は枯れてしまう。花は４～５月に咲き、茎頂に普通１個の花をつけて、広い鐘形で花被の長さは２－３cm下垂して開花する。

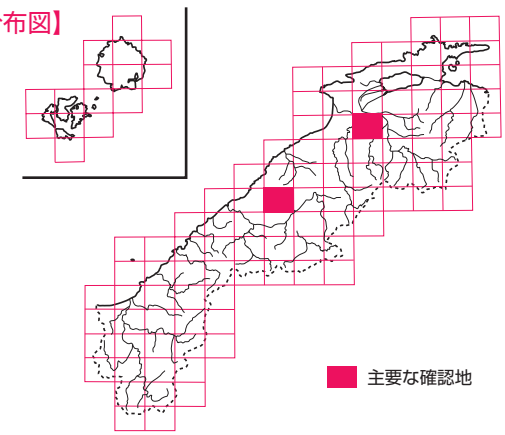
【県内での生育地域・生育環境】

島根県固有種であり、出雲部から石見東部にかけて生育地があり、夏緑樹林内から林縁にかけて生える。森林内の遷移や園芸上での採取による生育地での個体数が激減した場もあるが、一方では自然保護団体や個人による生育地の保護、保全が計られている場もある。

【存続を脅かす原因】

林内遷移、照葉樹林化、園芸用の採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎			○				○													

ユリ目ユリ科

ユウスゲ（キスゲ）

Hemerocallis citrina Baroni var. *vesperitina* (Hara) M.Hotta

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵7

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

本州、四国、九州に分布して、この地方でも以前は山地のそこかしこ生えて、花をつけ目立つ植物であったが、近年、いわゆる里山の植物として急激に全域で激減し、絶滅状態といえる状態となっている。

【概要】

山地草原、林縁草地に生える多年草。葉は線形で、長さ50cm、幅１cmばかりで根生する。夏に高さ１m前後の花茎を立て、径10cm前後の黄花を次々に咲かせ、目立つ。

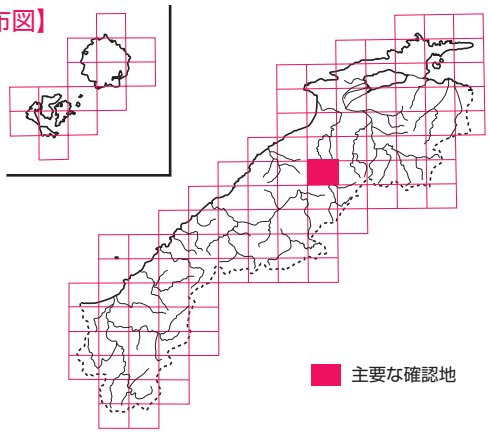
【県内での生育地域・生育環境】

現状では、この植物の生育地を把握することができないものである。それだけ、急激に多くの個体が姿を消してきたものである。

【存続を脅かす原因】

林地への人為干渉の減少。遷移による樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○				○					○				○	○		

ユリ目ユリ科

ニッコウキスゲ

Hemerocallis dumortieri Morr. var. *esculenta* (Koidz.) Kitam.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵7

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は地下の根茎から長さ50cm前後、幅１－２cmの葉を数枚根生して生える多年草。花は夏の頃に咲き、根茎から高さ50cm前後の花茎を立て、茎頂に５～10個の花をつける。花被片は橙黄色で長さ７－８cmばかりのものである。本来、本州中部以北、北海道から千島、樺太の範囲に生えるやや北方の植物である。

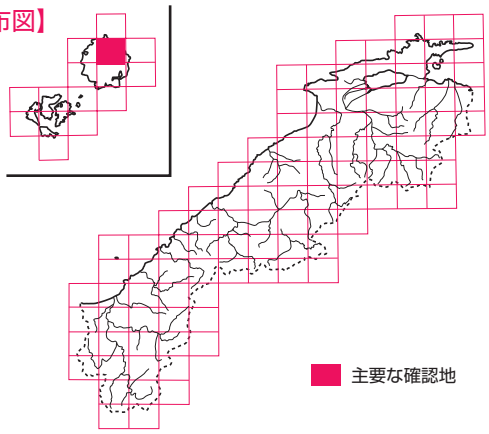
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐諸島にのみ知られているもので、隠岐（島後）でも、ごく限られた場所に生える。生育地はほとんどが山中の露岩状地で崖地や岩棚の土壌が堆積している場所で、多少なりとも上部から浸出水があって、保水状態のよい場所である。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による樹林化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎					○														

目　科

ホソバノアマナ

Lloydia triflora（Ledeb.）Baker.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）

島根県固有評価：

環境省：－

【選定理由】

個体数がきわめて少なく、生育地もきわめてまれで絶滅が心配される。

【概要】

山地の草地に生える鱗茎をもつ多年草。植物体は小型で、根出葉は１枚（長さ１cm、幅３mmばかり）、花茎は20cmばかりで、先端に数個の白色小花（花被片、雄蕊６個）をつけて咲く。

国内では、北海道から九州まで、国外では朝鮮半島、中国大陸、シベリア、カムチャッカ、北アメリカと、広い範囲にあるものとされる。

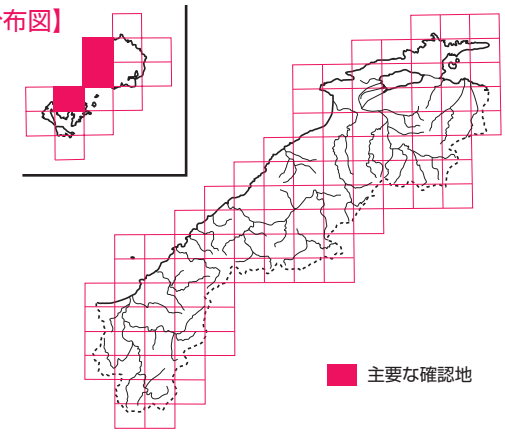
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島の一部にのみ生育地が知られているものである。林縁、路傍の岩質基盤の草地にまれに生育するものが見られる。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移で、種々の高茎草本が侵入することが一番の原因と思われる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○		○																

ユリ目ユリ科

キンコウカ

Narthecium asiaticum Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は地下の根茎から葉を根生し、草丈30cmばかりの夏緑多年草で、葉は線形で長さ20－30cm、幅１cmばかりのものである。花は夏に咲き、高さ30cm前後の花茎を伸ばし、上部に総状花序に径２cmばかりの黄色花を多数つける。

本州の中部以北、北海道に分布範囲をもち、山地の湿地に生える日本固有の植物とされる。

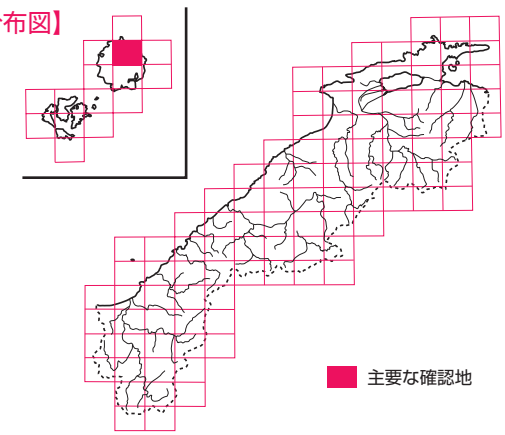
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐諸島にのみ知られているもので、隠岐（島後）でもきわめて限られた場所に生育している。生育地は山中の露岩状地で露岩崖地や岩棚の土壌が堆積している場所であって、多少なりとも上部から浸出水があって、保水状態のよい場所である。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による樹林化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○		○			○														

ユリ目ユリ科

ハナゼキショウ

Tofieldia nuda Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵8

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は山地の露岩上に生えて、葉を根生し、草丈20cmばかりのやや小型の夏緑多年草である。葉は線形で長さ20cm前後、幅３－５㎜ばかり。夏期に葉より長い花茎を伸ばし、花茎の上部に総状花序をなして白色の小花を多数つける。花被片は線状長楕円形で長さ３－４㎜で６枚。

本州の関東、北陸地方以西から九州に分布域があり、日本固有の植物とされている。

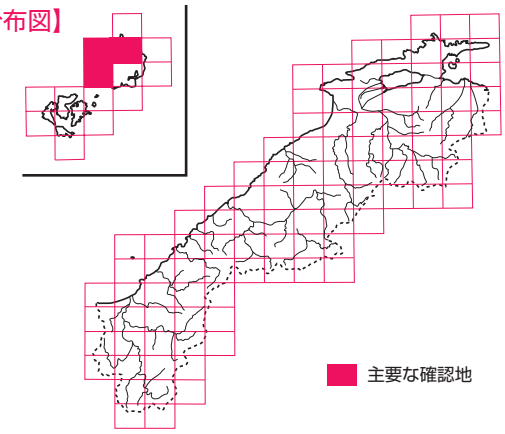
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐諸島にのみ知られているが、隠岐（島後）でも生育地はかなり限られている。生育地は山中の露岩地であり、湿り気の強い岩上からかなり乾燥した岩上まで、適応範囲はかなり広い植物のようである。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による樹林化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○					○						○									

ユリ目ユリ科

バイケイソウ

Veratrum grandiflorum (Maxim.) Loes. fil.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体はやや大形で１mを越し、長さ20－30cmの広楕円形の葉を互生する夏緑の多年草である。花は夏に咲き、茎頂に大きな円錐花序に緑白色の小花を数多くつける。

分布はやや北方系の植物で、国内では本州から北海道に分布して、朝鮮半島、樺太から大陸に分布がつながる。

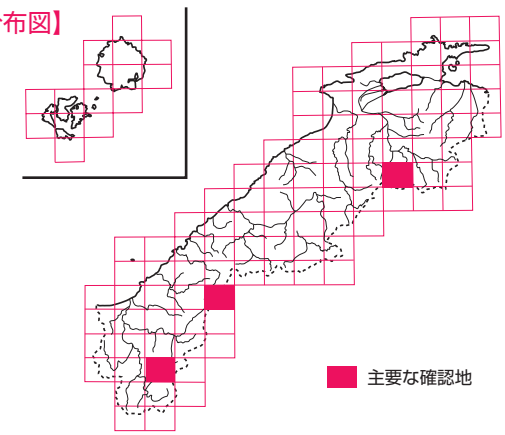
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部から石見部の中国山地沿いにまれに存在している。本来湿草原に生育する植物であり、県内の生育地も山中の湿地状態の窪地などである。

【存続を脅かす原因】

遷移による樹林化。人為による埋め立て等の生育地の破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○			○				○												

ユリ目ヒナノシャクジョウ科

ヒナノシャクジョウ

Burmannia championii Thwaites

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

草丈10cmばかりの小型の腐生植物である。植物体全体が白色で、葉は退化して長さ３㎜ばかりの鱗片状で互生する。花は夏から秋にかけて、茎頂に５個程の白色の小花を頭状につける。

本州の関東以西、四国、九州から南西諸島、さらに南方に分布域があるものとされる。

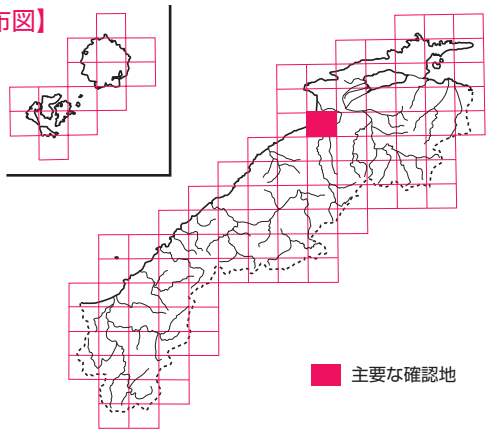
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲にきわめてまれな生育地が確認されている。照葉樹林内から一部人工林の林縁に生え、落葉や他の種の稚苗などと共に生えている。きわめて小型の植物であり、一般にはあまり認識されていないように思われる植物であり、詳細な調査がなされれば県内での生育地は他所にも存在する可能性がある。

【存続を脅かす原因】

林伐開または諸開発による生育地の破壊。人の踏みつけ等。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○													

ツユクサ目ホシクサ科

ツクシクロイヌノヒゲ

Eriocaulon nakasimanum Satake

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:分布限界種(北限)

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える１年草で、植物体は長さ15cmばかりの線形の葉を根際から根生状に多数つけるものである。花期は夏から秋にかけてで、高さ20cm程の花茎を多数伸ばして、それぞれに頭花を１個ずつつける。頭花は倒円錐形で径５㎜程のものである。総苞片は長楕円形で頭花より短かい。頭花は雌花、雄花が混生し、雌花、雄花ともに萼は仏炎苞状に合着して黒藍色であり、花床は無毛である。

九州と中国地方の一部に分布する植物である。

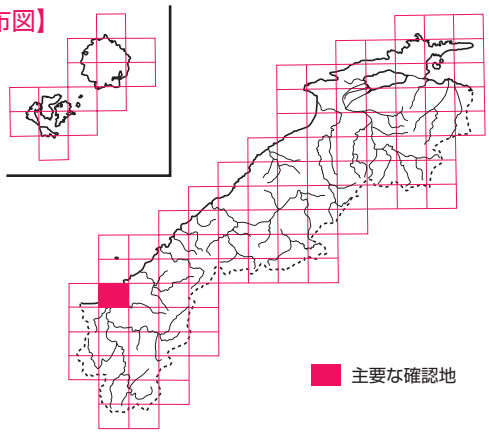
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部の一部にのみ生育地が知られているが個体数は多くはない。溜池の縁に生える。

【存続を脅かす原因】

溜池の管理放棄。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○										○					○				

タコノキ目ミクリ科

オオミクリ

Sparganium macrocarpum Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られている。

【概要】

水湿地に生える夏緑多年草。植物体は草丈１m前後のやや大型の抽水植物で、葉は線形で、長さ50㎝、幅１㎝前後のものが直立してつく。花は夏に咲き、葉間に伸びる太い茎に互生する葉の葉腋に枝を出し、下部には球状で雌性の頭状花序を数個つけ、上部には雄性の花序を数個つけて咲く。果実は倒円錐形状で数条があって長さ７－８㎜、幅６－７㎜、20～30果ばかりが球状の集合果として熟す。

国内では本州に分布して、朝鮮半島、中国東北部にも分布するものとされる。

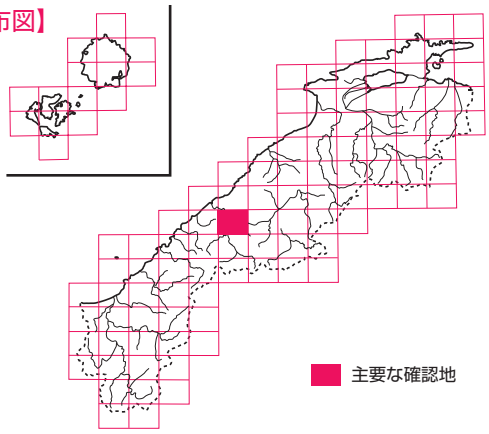
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部、石見部にきわめてまれに存在する。溜池や、小河川の浅い水域に群生するのが見られる。

【存続を脅かす原因】

溜池や河川の管理放棄による遷移、改修工事などによる生育地の破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○															○	○				

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

スジヌマハリイ

Eleocharis equisetiformis B. Fedtsch.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵8

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地も遷移の進行や人為の干渉により、消滅した地もあり、この種の存続が心配される。

【概要】

水湿地に生育する夏緑性の多年草であり、草丈は50㎝ばかりのものである。植物体は幅２㎜ばかりの柱状の茎を伸ばすだけのもので、葉は葉鞘だけに退化したものとされ、茎の基部に鱗片状に付着するものになっている。茎には縦に数条があるのが特徴である。花は夏前に咲くが、茎頂に１個の小穂をつけ、長さ1.5－２㎝程で、花の刺針状花被片は無いか、または４個であるとされる。

国内では本州の一部と九州に分布して、朝鮮半島、中国から中央アジアに分布域があるとされる。

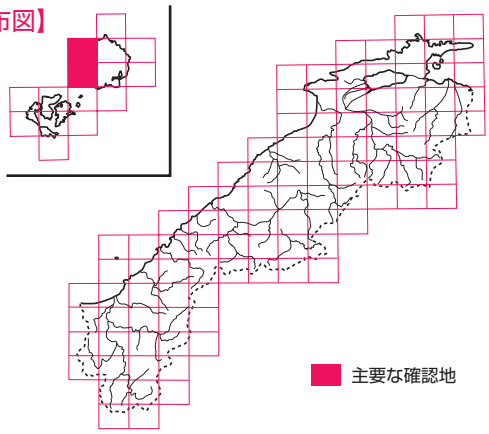
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐（島後）にのみ生育地が知られている。池沼、休耕田などの水湿地に生育している。

【存続を脅かす原因】

池沼、休耕田における遷移による乾陸化による生育適地の消滅。埋め立て。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○				○														

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

サギスゲ

Eriophorum gracile Koch

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地の環境変化により、植物体の消滅が心配されるものである。

【概要】

湿地に生える多年草で、植物体は地下に細く長い根茎があり、２～３枚の針状葉を付け、草丈は20－30cm、まばらに生えて全体として群生する。春早く、株から１本の花茎を立て、先端に２～５個程の小穂をつけて花が咲く。多数の花被片があって、これが果時には長さ２cm程の白い綿毛となり、全体として綿の様に見える。果時に青草の中に散ばる白い綿毛の塊が青田の遠くに白鷺の立つ姿にも見えて、時に美しい。

国内では中部以北、北海道に分布して、北半球に広く分布するものとされる。

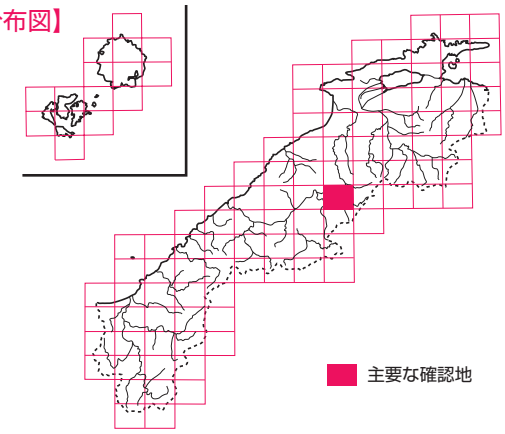
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部の中国山地沿いの湿地に生育地が知られている。湿地はもと水田であり、耕作が放棄された地である。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移が進行することにより、生育地の乾燥化が心配される。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○												○									

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

ノグサ

Schoenus apogon Roem. et Schult.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれである。

【概要】

海岸寄りの地に生えていて、茎は高さ10－20cmばかりで針状の葉を１－２枚つける。一年草であって、それとなく目立つ植物ではないようであるが、まれな分布のものとして、この地から絶滅させてはならないものである。本州（宮城県以南太平洋側)、四国、九州、南西諸島、インドネシアに分布するとされる。

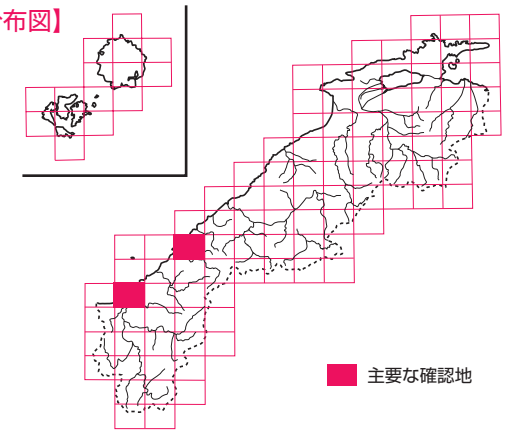
【県内での生育地域・生育環境】

県内では益田市内に生育地が知られている。海岸に近い場での斜面裸地・草地に群生することが多い。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																	○		

ラン目ラン科

マメヅタラン

Bulbophyllum drymoglossum Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はまれであり、生育地での生育範囲、個体数ももともと僅かなものである。

【概要】

樹幹や岩上に着生する小型の植物で、細い根茎を這わせて、長さ、幅とも径１㎝程の円形の葉をややまばらにつける。花は初夏の頃に葉のもとに１花を咲かせ、淡黄色で長さ１㎝程のものである。

国内では関東地方以西、四国、九州に分布するものとされる。

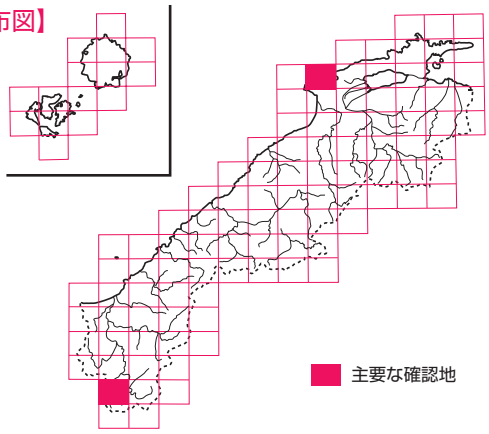
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は過去においてはあちこちに知られていたようであるが、現在ではきわめてまれな状態となっている。出雲部、石見部の一部に僅かに知られるのみである。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開、園芸上での採取も考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○						○													

ラン目ラン科

ムギラン

Bulbophyllum inconspicum Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はかなりまれな状態となっていて、生育地での生育範囲ももともと僅かで存続の危険性大である。

【概要】

樹幹や岩上に根茎を這わせて着生する小型の植物である。葉は根茎につく偽球茎の先に１枚がつき、楕円形～長楕円形で長さ２－３㎝、幅１㎝弱程でやや厚く硬いものである。初夏の頃に偽球形のもとに黄白色の小花を１花だけつける。

国内では関東地方以西、四国、九州の範囲に分布するものとされる。

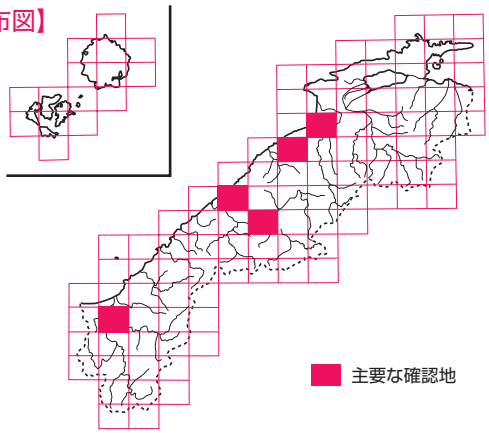
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は以前は全域にかなり見られたが、現在ではまれな状態となっている。山地渓谷状地での照葉樹の樹幹からかなり乾燥気味の山地露岩上にも生える。

【存続を脅かす原因】

森林伐開による着生樹木の伐倒、山地露岩地の遷移による樹林化等、生育地の破壊、消滅。園芸上での採取も考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○						○									

ラン目ラン科

キンセイラン

Calanthe nipponica Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

根際に長さ20cmばかり、幅３cmばかりの細長い葉を５～６枚つけて生える多年草。夏前に、葉間より高さ20－30cmの花茎を出し、薄黄色の花を10個ばかり咲かせる。

北海道から九州に分布域がある植物で深山の林内に生える。

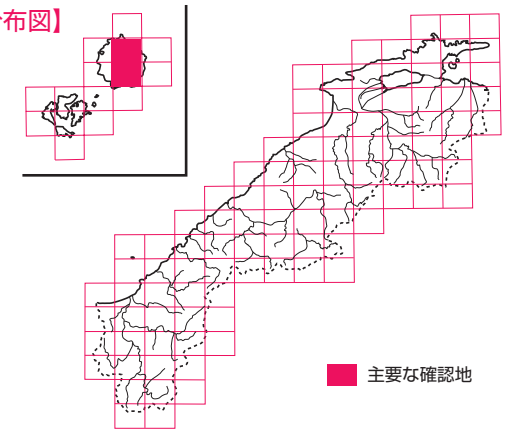
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐（島後）にのみ生育地が知られているが、限られた範囲にあって個体数は激減している。照葉樹林内から露岩状地での針葉樹林内に生育地がある。出雲部奥地の老令な針葉樹林（人工林）内にも生育地があったが、樹木伐採により消滅した。石見部での生育地については不明である。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地破壊、環境変化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

ラン目ラン科

キエビネ

Calanthe sieboldii Decne.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内での生育地が限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

長さ30cmばかり、幅７－８cmばかりの広楕円形の葉を数枚根生して生える多年草。春早く、新葉を出すと同時に花茎を高さ30cm程に伸ばして、多くの淡黄色の花を美しく咲かせる。

国内では本州西部、四国、九州に分布して、韓国の済州島にも分布するとされる。

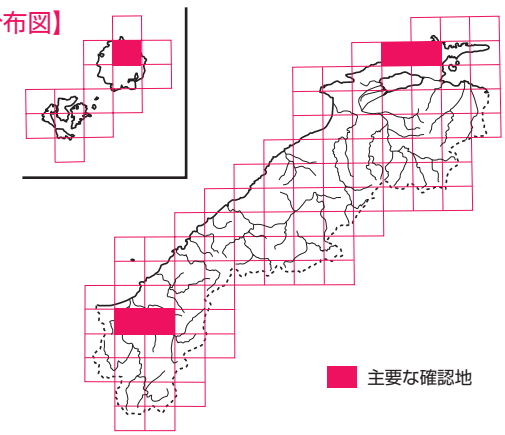
【県内での生育地域・生育環境】

県内においては全域に生育地が点在するようであるが、限られている。山地の樹林内、時には低海抜地の樹林内にも見られ、多くは夏緑樹林内に生えるが、人工林内にも生えるのが見られる。いずれも生育地での個体数は少ない。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

ラン目ラン科

サルメンエビネ

Calanthe tricarinata Lindl.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育での個体数もまれである。

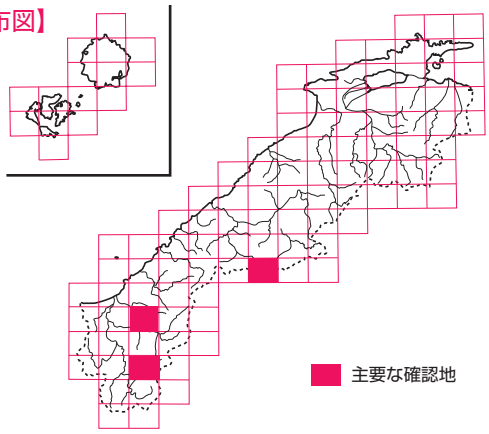
【概要】
植物体は長さ30cmばかり、幅７－８cm程の倒長楕円形のやや大型の葉を数枚根生するもので、早春、新葉を出すと同時に高さ30cm前後の花茎を伸ばして、10花ばかりの特徴ある美しい花をつける。花の萼片や側花弁は黄緑色であるが、唇弁は紫褐色系の独特な色相で全体として奇妙な美しさを有するものである。栽培する人も多く、自生、野生品は珍重され、山野での採取により個体数は激減し、生育地が消滅した地もある。

国内では北海道から九州までの冷温帯林に分布するものであり、台湾、さらにヒマラヤ地方にまで分布域があるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は石見部に知られているが、出雲では詳細は不明である。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

ラン目ラン科

ユウシュンラン

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudo) Ohwi

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵8
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】
県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

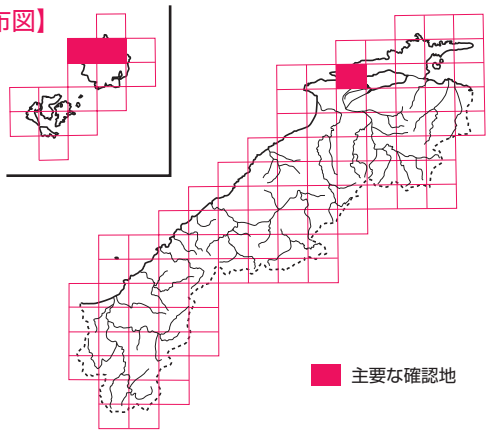
【概要】
植物体はやや小型で、草丈20cm程度、葉は退化して鱗片状から長さ２－３cm程のものが互生する。初夏の頃に茎頂部に白色の花を２～３個つける。ギンランの変種として扱われるが、時に腐生植物のようにも見える植物である。

北海道から九州までの範囲に分布するもので、ややまれなもののようである。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では隠岐（島後）、島根半島に生育地が知られていて、低地の照葉樹林内及び照葉樹と夏緑樹、針葉樹の混生林内に生える。生育での個体数はきわめてまれである。

【存続を脅かす原因】
森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○													

ラン目ラン科

マヤラン

Cymbidium nipponicum（Franch. et Savat.）Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】
県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もきわめてまれである。

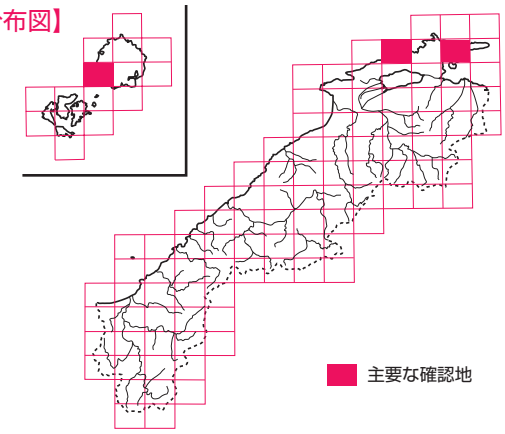
【概要】
暖地に分布する無葉の腐生蘭であり、平常は地中に根茎を持ち、地上には開花のための地上茎のみが出現して、花期にのみ気づかれる植物である。花期は夏であり、地上茎は高さ20－30cmで、茎頂部に数個の花をつける。花被片は２cmばかりで、白色に赤茶色を帯び、時に美しく見える。

本州の関東以西の太平洋側から南西諸島にかけて分布域がある植物である。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では隠岐（島後）と出雲部の一部に生育地が知られていて、いずれも、照葉樹林内に生育し、まれである。

【存続を脅かす原因】
森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			◎	○				○													

ラン目ラン科

クマガイソウ

Cypripedium japonicum Thunb.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵8
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】
県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も限られている。

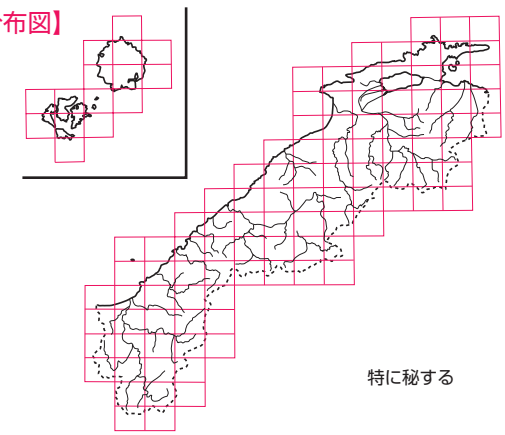
【概要】
植物体は地下の根茎より高30cmばかりに茎を立て、先端に扇形の葉を２枚つけた特異な姿の夏緑性、多年草である。花は春に咲いて、茎頂の２枚の葉の上にさらに花柄を立てて、大きな花をつける。花は長さ５cm程、楕円形の萼片が目立ち、その下にさらに目立つ大きな袋状の唇弁があり、特徴的である。

北海道西南部から九州までの範囲に分布し、さらに朝鮮半島、中国にも分布するとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では隠岐諸島、出雲部、石見部にそれぞれ僅かな範囲の生育地が知られている。いずれも山地の夏緑樹林内であり、一部、スギ人工林内にも生育している。

【存続を脅かす原因】
森林伐開による生育地破壊、環境変化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎	○	○																	

ラン目ラン科

サギソウ

Habenaria radiata（Thunb.）Spreng.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵8

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える植物で、地中に球茎があって、未開花株では草丈５cmばかりで長さ３cm程の披針形の葉を数枚互生する。開花株は高さ20－30cmばかりに地上茎を伸ばし、夏に茎頂部に白色の花を数個つける。花は白鷺が舞い飛ぶ姿に似て、特徴的であり、一般によく知られている。唇弁が３深裂して、側裂片の縁がさらに多くの細裂片となり、白鷺の羽根を広げた姿に似ていて美しい。

日本全土から朝鮮半島、台湾に分布域があるとされる。

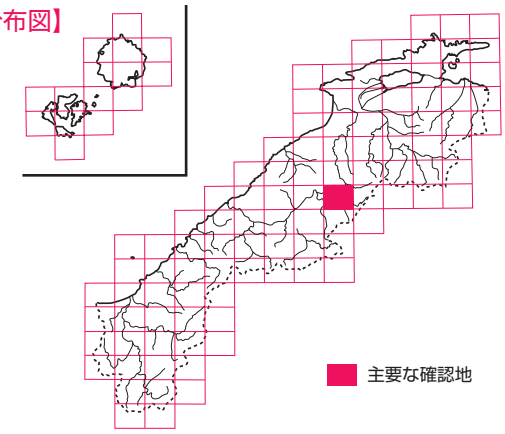
【県内での生育地域・生育環境】

県内での明らかな生育地は出雲部にのみ知られていて、県の自然環境保全地域に指定されている湿地である。

【存続を脅かす原因】

県の自然環境保全地域に指定されてはいるが、自然な湿地での遷移や盗採により、個体数は明らかに減少している。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎							○														

ラン目ラン科

フガクスズムシソウ

Liparis fujisanensis F. Maekawa

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵8

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

草丈は10cmばかりで、多くは長さ５cm前後の楕円形の葉を２枚展開する植物である。多くはブナの大木の支幹分枝上に生えるコケ植物の基盤上に生育するものである。花はスズムシソウに似るが、スズムシソウとクモキリソウとの自然雑種であるとする資料もある。

富士山や近畿地方に分布することが知られている珍奇な植物である。

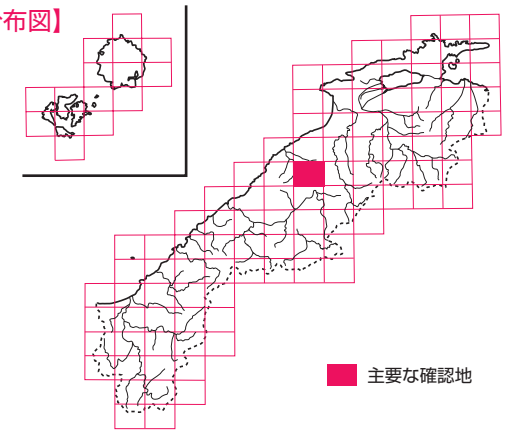
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は県中央部にきわめてまれである。生育地は国立公園内であって、それなりに保護、保全策がとられているものである。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎			○																	

ラン目ラン科

ジガバチソウ

Liparis krameri Franch. et Savat.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は草丈10cmばかりで、多くは長さ５－10cmばかりの広卵形の葉を２枚対生状につけて生える。花は初夏で、葉間より花茎を20cmばかりに伸ばし、先端部に２～３花をつける。花被片は線形で淡緑色で赤茶色を帯びる部分もある。山地の樹林内、露岩状地に多くはコケ類を伴なった基盤に生える。

北海道から九州まで広く分布域があるようである。

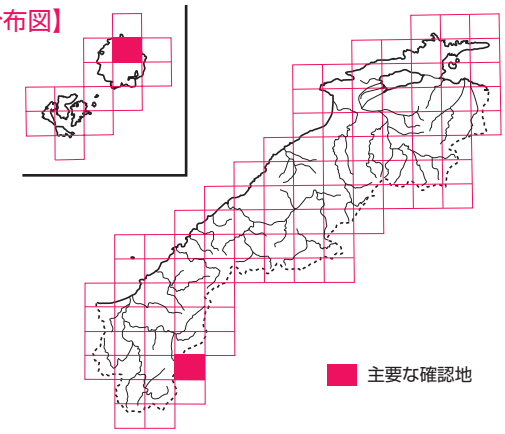
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はまれであって、隠岐諸島、石見西部に知られているが他の地域での生育地については不明である。生育地はいずれも露岩状地でやや乾燥気味の立地である。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による照葉樹林化と園芸上での採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○	○	○																	

ラン目ラン科

ウチョウラン

Orchis graminifolia (Reichb. fil.) Tang et Wang

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

岩壁などの露岩上に生え、草丈10cm前後のやや小型の多年生草本である。植物体は地中に球状の塊根を持ち、葉は線形で長さ５cm程、幅５cm程で数枚がつく。花は夏に咲き、葉より少しばかり長い花茎の先に赤紫色の花を５～６個つける。

国内では関東以西の本州、四国、九州に分布域が知られている。

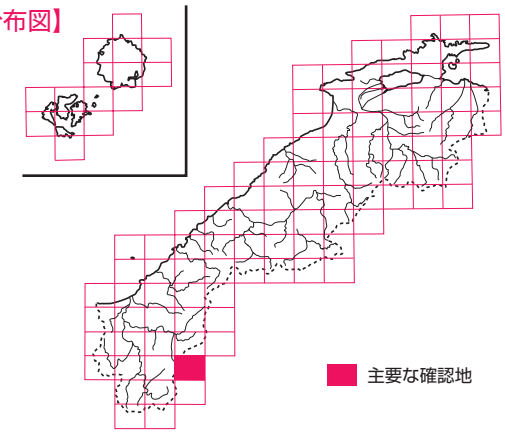
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部に生育地が知られているが、きわめて限られた場所に生える。陽当りのよい岩場の僅かな土壌が認められる小さな岩棚に生育する。

【存続を脅かす原因】

岩場の自然な遷移による草原化、樹林化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○														

ラン目ラン科

ミズチドリ

Platanthera hologlottis Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

湿地に生え、開花株は草丈50cm前後になる草本である。葉は線状披針形で、茎の下の方には長さ10cm前後、幅２cm程の葉がつくが、上方に向いしだいに小さい葉となって、その先に穂状花序をなして花が着く。花期は初夏の頃で、花は径１cmばかりの純白色の小数で、数多く咲いて、夏の青草の中に時に美しく目立つものである。

北海道から九州までの範囲に分布域があるとされる植物である。

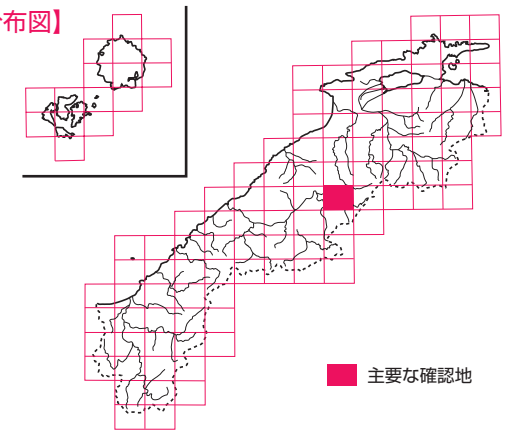
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部山地に生育地が知られているが、他の地域での生育地は不明である。出雲部での生育地は県の自然環境保全地域に指定された範囲の中にあるが、その中でもごく一部であり、他の水湿地の高茎草本と混生し、さらに近年ススキが侵入し、絶滅が心配される。

【存続を脅かす原因】

湿原、湿地での自然な遷移による乾草原化による生育地の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○							○														

ラン目ラン科

コバノトンボソウ

Platanthera nipponica Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:－

環境省:－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

湿地に生え、開花株は草丈30cm前後に細い茎を立てる草本である。葉は茎の下の方に１枚が目立ち、広線形で長さ５cm、幅１cmの程のものである。花期は夏で、茎の上部に淡黄緑色の小花が疎らに数個つけて咲く。唇弁の距が長さ２cmに近いもので上にはね上がるのが特徴的である。

北海道から九州の範囲に分布域があるものとされる。

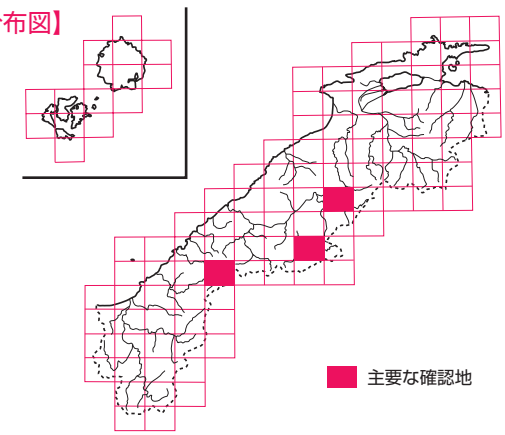
【県内での生育地域・生育環境】

県内では山地の湿原状地に若干の生育地が認められるがまれな分布のものである。出雲部、石見部の山地の限られた湿地にみられるが、個体数は僅かであり、湿原の自然な遷移の中で、乾草原化、樹林化その他の人為的な生育地破壊により絶滅が心配される。一部の生育地は県の自然環境保全地域に指定された場の中にある。

【存続を脅かす原因】

湿原の乾燥、樹林化と埋立て等による生育地の破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎						○														

ラン目ラン科

トキソウ

Pogonia japonica Reichb. fil.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵8

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体も多くはない。

【概要】

湿地に生えて、地中に這う根茎から線状長楕円形の長さ10cm、幅１cmばかりの葉を１枚、垂直に立てて生える草本。花は初夏に咲く。開花株は茎を高さ20cm程に立てて、葉は中程につき長さ５cmばかり、茎頂に薄紅紫色の花を１個だけ咲かせる。花には長さ２cm程の葉状の苞が目立つ。

国内での分布は北海道から九州までの範囲に生えるものとされる。

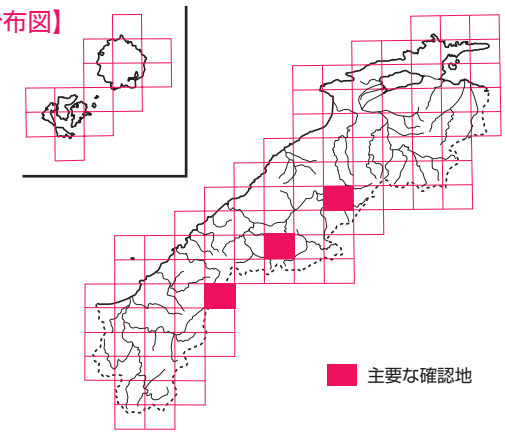
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部から石見部の山地湿原状地にまれに存在する。日陽りのよい湿地で、草丈の低い草本が出現する中に混生する。一部の山地では放棄水田にも生えるが、遷移による湿地の乾燥化により絶滅状態の場もある。また、一部は県の自然環境保全地域内に生えるものがあるが、これも乾燥化による絶滅が心配される。

【存続を脅かす原因】

遷移による湿原の乾燥、樹林化と埋め立て等による生育地の破壊。採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○						○														

ラン目ラン科

カシノキラン

Saccolabium japonicum Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は長さ５cm、幅１cmばかりの葉を左右２列に互生し、根は細い気根が互いに撚れ合い樹幹に着生する。時には枝先に着いて下垂する個体も見られる。花期は夏で、短い総状花序に10個ばかりの淡黄色の小花をつける。多くは照葉樹につく常緑の草本である。

国内では本州の千葉県以南から南西諸島に分布域があるとされる。

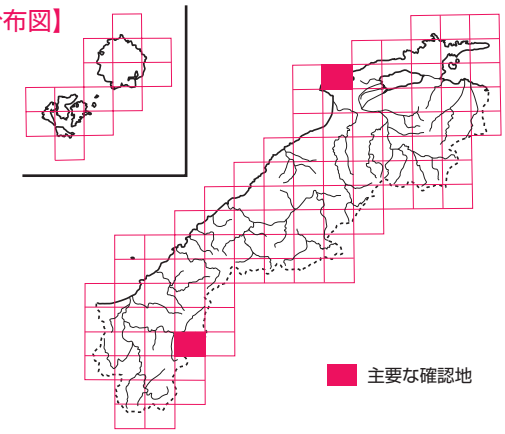
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部、石見部にまれに存在する。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

ラン目ラン科

マツラン

Saccolabium matsuran Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

樹幹に着生する小型の植物である。植物体は全体としての長さは５cmに満たないもので、葉は２列に互生し、長さ２cm、幅３mmばかりである。花は春に咲き、葉腋から出る花茎に数花の小花をつける。

国内でのこの種の生育地の範囲は東北地方南部から四国、九州にあるものとされる。

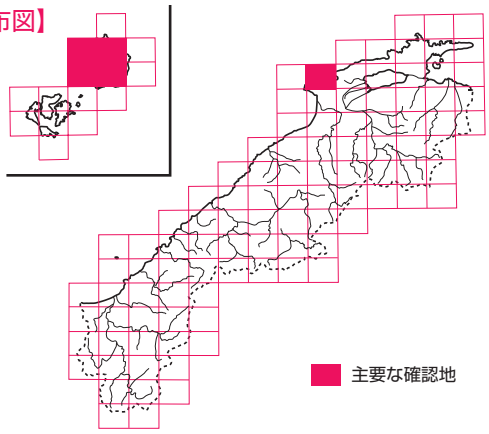
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は多くはなく、出雲、隠岐諸島に知られているが、特に隠岐（島後）の山地ではモミの樹幹に多く着生するものが見られる。モミ以外ではウラジロガシの古木の樹幹に着生することが多い。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○																	

ラン目ラン科

カヤラン

Sarcochilus japonicus (Reichb. fil.) Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)　写真 口絵8

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もまれである。

【概要】

植物体は樹幹に着生して生活する。葉は披針形で長さ３cm、幅５mmばかりで左右２列に互生し、気根は葉のもとから出て、茎に沿うように下方に伸びて樹幹に着生する。常緑樹の樹幹に着生し、時に枝先に下垂して生育する個体もある。花は春に咲き、葉腋から花茎を出し、淡黄色の小花を数個つけて咲く。

国内での分布は本州は東北地方以南、四国、九州にあるとされる。

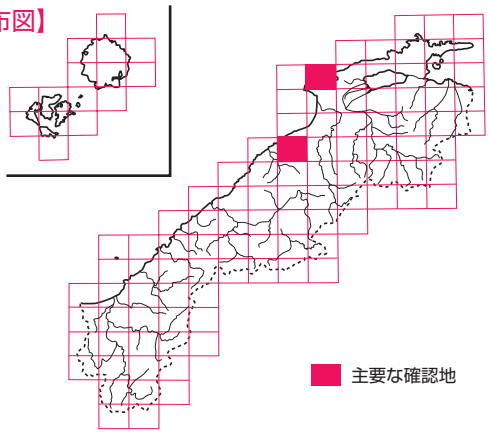
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はまれであり、東部での生育地が知られているが、他の地域では不明である。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

ラン目ラン科

ナゴラン

Sedirea japonica（Linden et Reichb. fil.）Garay et Sweet

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵9

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は樹幹に太い着生根でつき、多くは長さ10cm、幅３cm前後の長楕円形の厚い葉を４～５枚、左右２列につける常緑、多年草である。花期は夏で、葉より長く花茎を出し、総状に５～６花をつける。側萼片と唇弁には紫色の横縞紋、斑紋がある。花には強い芳香があり好まれる。

国内での分布は太平洋側の暖地（伊豆七島、南畿）、四国、九州から南西諸島にあるものとされる。

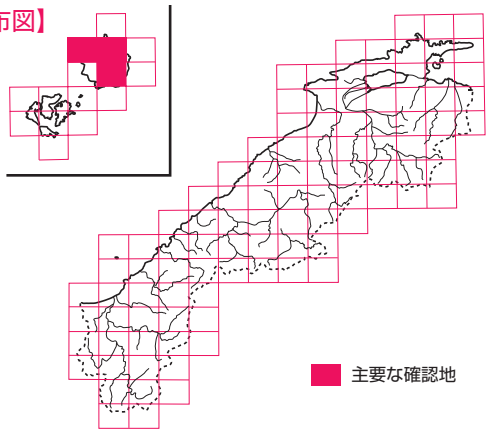
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐（島後）に限られている。多くはモミ、ウラジロガシの樹幹に着生してみられるが、隠岐諸島での奇異な状態として、クロベ、ヒメコマツ、クロマツの樹幹にも着生するものが見られる。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

ラン目ラン科

クモラン

Taeniophyllum glandulosum Blume

島根県:絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）　写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もまれである。

【概要】

樹幹に着生して生育する明らかな葉を持たない奇妙な植物である。樹皮上に長さ３cm程の平らな根を放射状に這わせているだけの植物体であるので一般には気づかれることがないが、花期に認識されることが多い。花は初夏に咲くが、樹幹に直接奇妙な花がつく感じで、数花の淡緑色の小花がつく。照葉樹林内、スダジイやタブノキ、ウラジロガシの樹幹によく着生するようである。

国内では本州の関東以西、四国、九州に分布する種のようである。

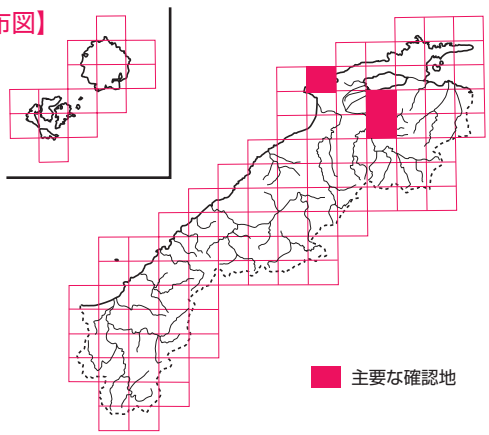
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はあまり知られていない。植物体が特異な形態のものであることによる点もあると思われる。山地の谷筋にあって、かなりな大木からなる照葉樹林内に見られることが多い。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

ラン目ラン科

イイヌマムカゴ

Tulotis iinumae (Makino) Hara

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

山林の林内に生える夏緑の多年草である。草丈は開花株で30cm前後のもので、葉は披針形～長楕円形で、長さ10cm、幅２cmのものを２～３枚つける。花は夏に咲き、茎頂に淡緑色の小花を数多くつける。

国内でのこの種の分布は北海道南から、本州、四国、九州の範囲にあるものとされるがもともと、まれな植物のようである。

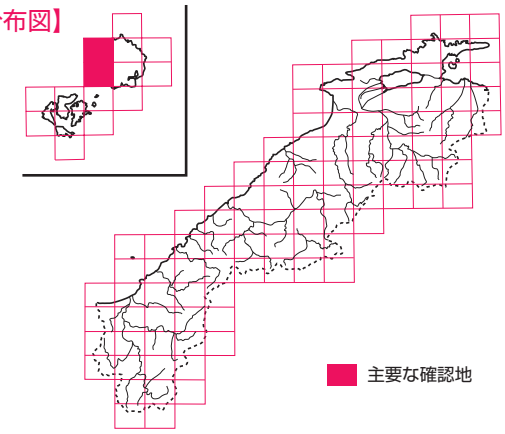
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐（島後）にのみ知られている。現状としては夏緑広葉樹の二次林内に生えるものが多いが、本来の生育環境がどのような状態の場のものか明かでない。隠岐諸島においては人為の影響がある場所の一部に生存可能な場があるようにも思われる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と自然なこの地での遷移、照葉樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

ラン目ラン科

ショウキラン

Yoania japonica Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地、深山の地表に生える腐生、無葉の奇妙な植物。植物体は白色～薄紅色で草丈20cmばかり、夏の頃、径３－４cmの少しばかり大きい淡紅紫色の花を数個つけて咲く。花は長い柄があるので特徴的である。

国内では北海道西南部から本州、四国、九州に分布する植物であり、多くは冷温帯林内に生え、まれに見られる。

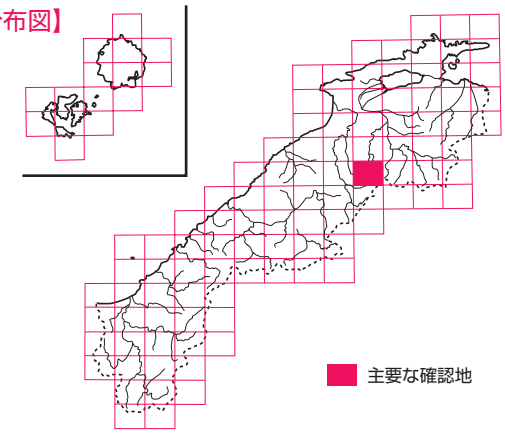
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は中国山地脊梁部の山地樹林内にまれに見られる。樹林内の腐生植物の一種であり、できる限り、人出の影響が入らぬ山野の下生植物として生育する種であり、生育地での人為の影響がない環境がつくられることが望まれる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

シダ植物ミズニラ科

ミズニラ

Isoetes japonica A.Braun

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内の産地はまれであり、個体数が少ない。また、全国的にも生育地は少なく、減少傾向が著しい。

【概要】

夏緑性の水草で、葉は長さ15－30㎝で断面は４稜のある円柱形で先はしだいに細くなる。葉の基部は広がり卵状になり、中に胞子嚢が存在する。大胞子は白色で表面には薄い網状突起があり、ハチの巣状となる。小胞子の表面は平滑、時に低い瘤状突起を持つ。従来、ミズニラと考えられてきたものは現在ミズニラとミズニラモドキに分けられている。ミズニラモドキは大胞子の網状突起が長く、密に生じ、小胞子の表面に針状突起があることが区別できるという。ミズニラは６倍体有性生殖種で、国内では本州と四国の低地に広く分布し、中国や韓国に分布する。ミズニラモドキは８倍体有性生殖種で東北・関東の太平洋側各県と瀬戸内海各県の各地に生じる。

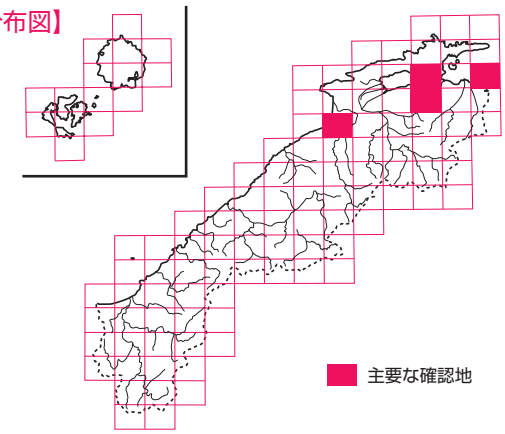
【県内での生育地域・生育環境】

出雲部の溜池に数ヵ所産地が知られていたが、現在確認できないところも多い。個体数も非常に少ない。

【存在を脅かす原因】

溜池の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎												○									

シダ植物ハナヤスリ科

ヒロハハナヤスリ

Ophioglossum vulgatum L.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

全国的に個体数が少なく、県内でも生育地が限定され、個体数が少ない。

【概要】

山地や原野に群生する小型のシダであり、春に葉を生じ、夏には地上部は枯れてしまう。葉は１枚で高さ10－30㎝であり、栄養葉は長さ６－12㎝、幅2.5－７㎝、広披針形～広卵形で先は鈍頭から円頭、基部は切形から心形で胞子葉の柄を包む。胞子葉は長さ10－20㎝で穂の長さは３㎝内外である。

国内の分布は北海道から九州の各地で、北に多く、山地の林床、林縁、路傍などに群生する。国外での分布は近縁種との関係が十分には検討されていないようである。

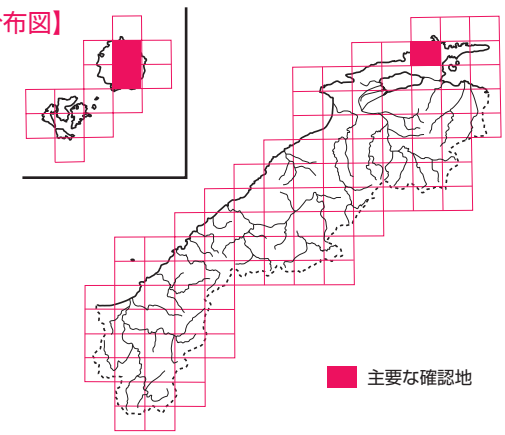
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島や東部の広葉樹林の林下や林縁に生育が知られている。

【存在を脅かす原因】

広葉樹の伐採等で生育地が変化すれば絶滅する。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			◎					○													

シダ植物ゼンマイ科

ヤシャゼンマイ

Osmunda lancea Thunb.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）　写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地が渓谷の岩場と限定され、生育する環境が少なく、個体数も多くはない。

【概要】

渓流沿いの水しぶきがかかるような場所に生じる夏緑性のシダであり、ゼンマイより小型である。栄養葉は同じく２回羽状複葉であるが、小羽片の形が細く、卵状楕円形であること。基部の形が切型に対して、鋭形からくさび形であることで区別できる。

国内では北海道南部から九州東部にかけて広く見られる。日本の固有種である。

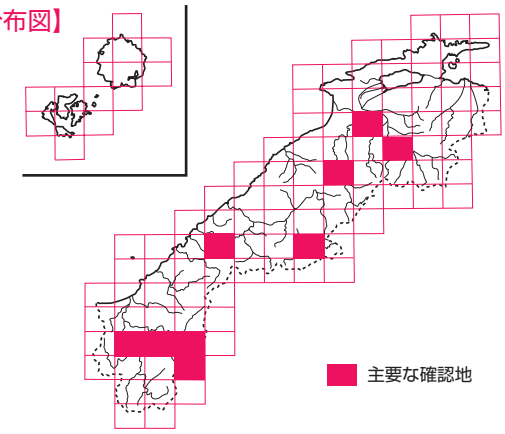
【県内での生育地域・生育環境】

県内では、隠岐諸島を除く渓流沿いに見られるが、とくに西部では生育地は多い。

【存在を脅かす原因】

河川改修、土砂堆積。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○					○										

シダ植物コケシノブ科

ウチワゴケ

Crepidomanes minutum (Bl.) K.Iwats.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では生育地が少なく、個体群が限られている。

【概要】

岩上、樹幹などに群生し、常緑性の小型のシダである。葉身はうちわ形で長さ７－15㎜で胞子嚢群は葉縁につく。

国内では北海道から南西諸島、小笠原まで生育し、北部ではややまれのようである。

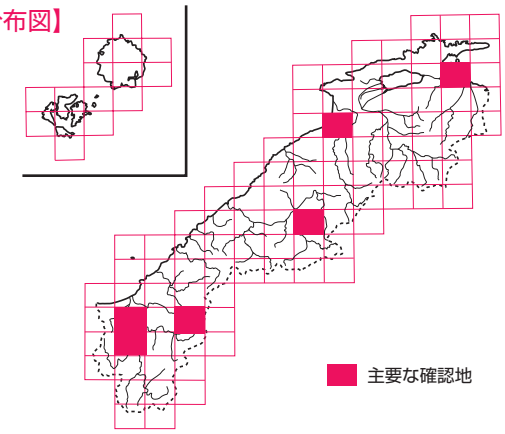
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島を除く県内各地に若干の生育地がある。湿度の高い谷間などの林下の岩上や樹幹に生育する。

【存在を脅かす原因】

生育地の森林伐採による乾燥等。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○		○				○													

シダ植物オシダ科

ツクシイワヘゴ

Dryopteris commixta Tagawa

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地・個体数ともに少ない。

【概要】

常緑性のシダで根茎は太く短く、直立して葉を叢生する。葉柄の鱗片は黒褐色であり、羽片は単羽状複生し、浅裂～中裂する。近縁のイワヘゴによく似ているが、羽片の数が少なく、20対以内であり、胞膜の発達が悪いのが特徴である。

本州（石川県・房総半島・伊豆半島・東海地方・大阪府・岡山県・島根県・広島県・山口県）・四国・九州に知られており、日本固有種である。

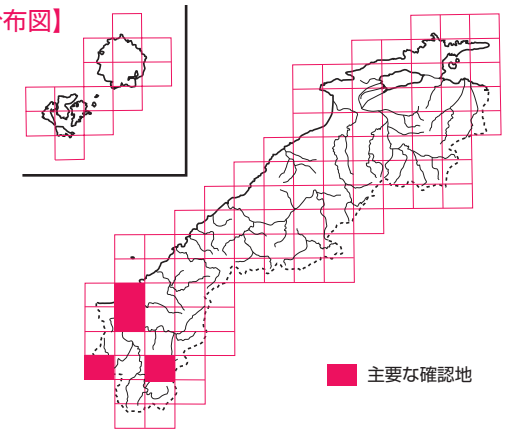
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部に知られ、個体数は少ない。林下の林床に生育する。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○				○													

シダ植物オシダ科

ツクシオオクジャク

Dryopteris handeliana C.Chr.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

自生地が限られ、個体数も少ない。分布の北限である。

【概要】

常緑で根茎は短く、葉を叢生する。葉身は長さ40－70㎝である。羽片は下部２/３の両側がほぼ平行で、それから先で急に狭くなり、鋭尖頭、辺縁の切れ込みは浅く、上部の羽片は急に短くなり頂羽片状になる。胞子嚢は辺縁に沿って２－３列に並ぶ。山地の林下に生育し、九州の各地と高知県、山口県で生育が確認されている。

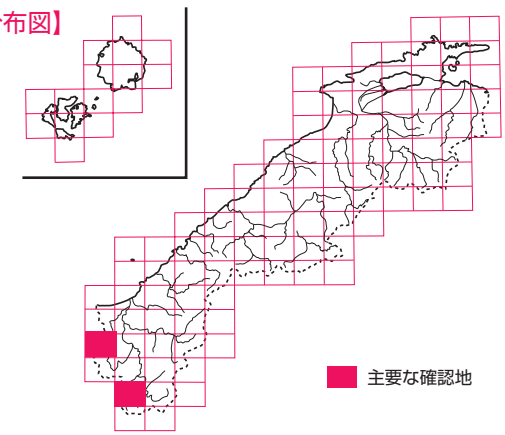
【県内での生育地域・生育環境】

西部の林下に数カ所の分布が知られているだけである。産地が限定されており、森林伐採により全滅する危険性もある。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物オシダ科

ヌカイタチシダモドキ

Dryopteris indusiata (Makino) Makino et Yamam.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
自生地が限られ、個体数も非常に少ない。

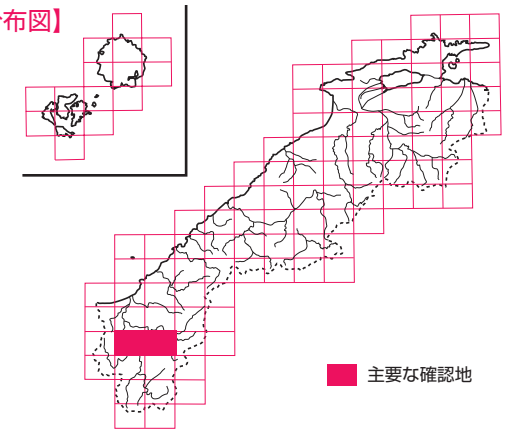
【概要】
常緑で根茎は短く、葉を叢生する。葉柄はわら色で長さ20－30cm。基部の鱗片は黒色～黒褐色。葉身は20－40cm。幅15－30cmで、広卵状三角形、２回羽状複生。羽片はほぼ対生でほとんど無柄。小羽片も無柄で長楕円状～三角状披針形。胞子嚢群は小羽軸と辺縁の中間かやや小羽軸に並ぶ。低山地の林床に生育する。

本州（静岡県以西）・四国・九州で、沖縄や台湾に生育する。

【県内での生育地域・生育環境】
西部の数カ所に生育することが知られている。

【存在を脅かす原因】
森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物オシダ科

ミヤマクマワラビ

Dryopteris polylepis (Fr.et Sav.) C.Chr.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内では産地が限られている。

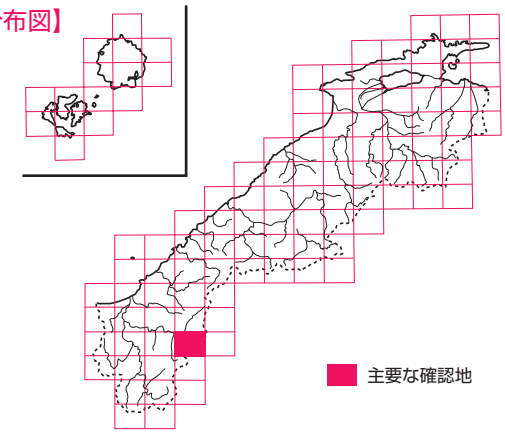
【概要】
夏緑性のシダで根茎は短く斜上し、葉を叢生する。葉柄や中軸には黒褐色から黒色の鱗片を密生する。葉身は単羽状複生で、倒披針形。羽片は線状披針形で、先端近くまで平行し、先は尖る。胞子嚢群は葉身の先端部につき、裂片の辺縁寄りに１列に並ぶ。

本州・四国・九州で主として温帯林の林床に生じる。国外では朝鮮半島に記録されている。

【県内での生育地域・生育環境】
西部の温帯上部の谷部に数カ所群生しているのが知られている。

【存在を脅かす原因】
森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物オシダ科

イワイタチシダ

Dryopteris saxifraga H.Ito

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

自生地が限られ、個体数も非常に少ない。

【概要】

常緑で根茎は短く、葉を叢生する。葉身は大きくとも長さ20－30㎝で、深山の陰湿な森林中の湿った岩壁に生育する。近縁の種とは、生育地と葉柄の鱗片が密に直角またはやや下向きに開出して先端が上をむくことが異なる。この鱗片の色は黒褐色から黒色である。

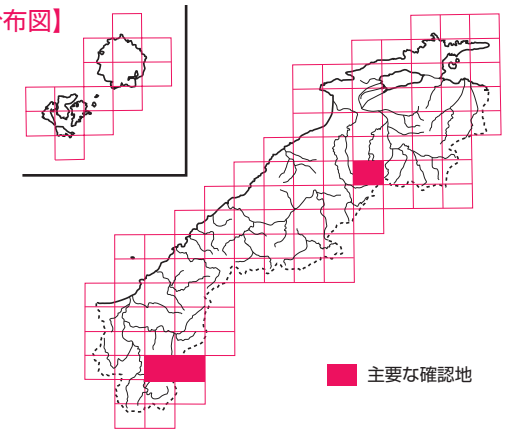
【県内での生育地域・生育環境】

中国山地に若干の分布が知られており、個体数は非常に少ない。

【存在を脅かす原因】

森林の伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎		○																	

シダ植物オシダ科

ナンカイイタチシダ

Dryopteris varia (L.) O.Kuntze

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

個体数が少なく、国内での分布の北限を形成している。

【概要】

常緑性のシダで葉柄基部の鱗片は赤褐色から黒褐色であり、葉身は広卵形から五画状広卵形で先端は急に細くなって、頂羽片を形成する。２回羽状複生で、最下羽片の基部数対の羽片は大きい。葉質がやや厚く、光沢があるといわれるが、県内のものは光沢がなく青緑色になっている。胞子嚢群は大型で中間生である。

千葉県南部以西の暖地から南西諸島にいたる各地の海岸に近いところの斜面に生じる。国外では朝鮮半島・中国・台湾・インド/インドシナ・フィリピンなどに産する。

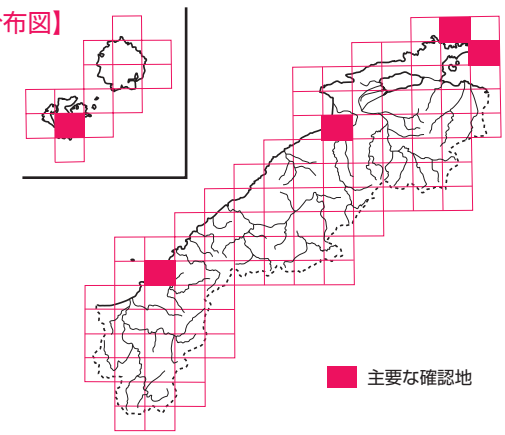
【県内での生育地域・生育環境】

古くから隠岐諸島での自生は報告されていたが、現状不明である。現在は、出雲・石見各地の海に近いやや乾燥した崖地にまれに生育していることが分かっている。

【存在を脅かす原因】

土壌堆積、道路拡張。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎	△															○			

シダ植物ヒメシダ科

テツホシダ

Thelypteris omeiensis (Bak.)Ching

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）　写真 口絵9

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内の生育地は、国内では分布の北限域を形成し、個体数も少ない。

【概要】

夏緑性で根茎は長く横走する。葉柄は通常20－40cmで葉身は広披針形で、円頭から鈍頭で長さは30－50cmである。ホシダに似ているが頂羽片はない。

国内では本州（静岡県・紀伊半島・福井県・島根県）・四国・九州・南西諸島に分布し、明るい湿地に生じ、しばしば群生する。世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。

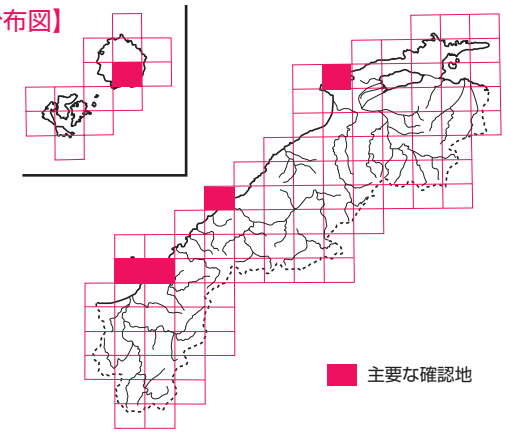
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島を含む県内の海岸部の湿地に点在している。国内の日本海側での分布は福井県と島根県のみであり、隠岐諸島の分布は福井県とともに分布の北限となる。

【存在を脅かす原因】

遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
◎		◎	◎																○			○

シダ植物イワデンダ科

ツクシイヌワラビ

Athyrium kuratae Serizawa

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）　写真 口絵9

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内で生育地・個体数ともに少なく、国内での分布の北限を構成している。

【概要】

常緑性で根茎は直立し、数枚の葉を叢生する。似ているタニイヌワラビが、小羽片が鋭頭で、基部はほとんど無柄、葉柄基部の鱗片が茶色から茶褐色であるのに対し、葉質がやや厚く、小羽片はやや鈍頭で、基部は羽軸に流れることが多いこと、基部の鱗片が茶色から茶褐色であることで区別される。

国内では本州（中部地方以西および伊豆諸島）・四国・九州で山地のやや陰湿な林下に生じる。国外では台湾・中国に産する。

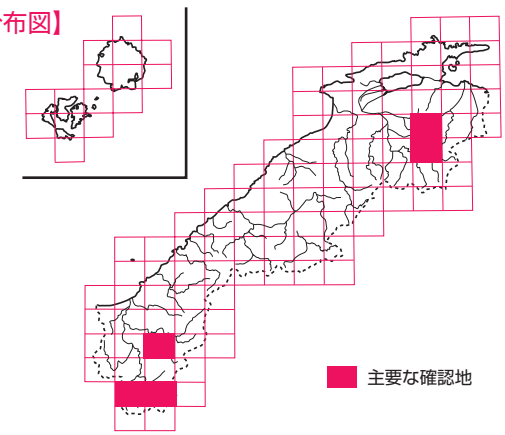
【県内での生育地域・生育環境】

石見西部の奥地に若干生育することが知られていたが、近年東部でも生育が確認された。林下の陰湿な斜面の若干土壌の堆積した場所に生えている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
◎		◎		○																		

シダ植物ウラボシ科

ヒメノキシノブ

Lepisorus onoei (Fr.et Sav.)Ching

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では生育地・個体数とも少ない。

【概要】

根茎は長く這い、葉をまばらにつける。葉柄は短く、葉身は線形で基部は円形から心形で先端が鈍頭のことが多い。胞子嚢群は数個で葉身の上部の中肋と辺縁の中間に並んでつく。

北海道西南部から九州（奄美大島）の各地に生育し、やや明るい林中の岩上や樹幹に生じる。

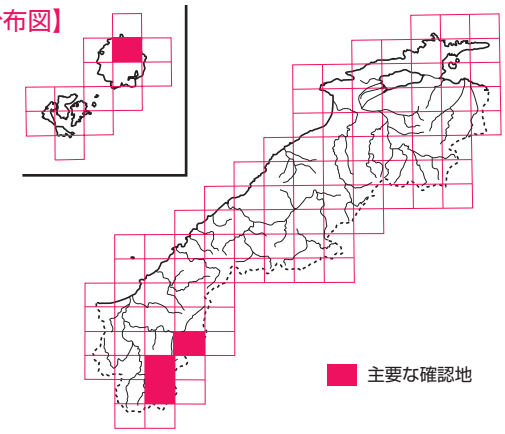
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐（島後）の山地の岩に生育するのが知られる。また、石見西部でも採集されている。

【存在を脅かす原因】

遷移による被陰化。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎	◎					○														

シダ植物ウラボシ科

サジラン

Loxogramme duclouxii Christ

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県下で確認されている場所も少なく、個体数も非常に少ない。

【概要】

常緑性のシダで根茎は長く這う。葉身は倒披針形で先は尖る。葉質は厚く、暗緑色で、毛は無い。胞子嚢群は葉身の上半分について斜上し、長さ４㎝くらい。イワヤナギシダと似ているが、葉柄の基部が黒褐色で葉がやや広いこと、胞子嚢群と中肋との角度がやや広いこと。胞子嚢群の重なりが大きいこと、全体に大きさが大きいなどで区別できる。

本州（福島県以西）・四国・九州の暖帯上部の林中の岩上や樹幹に着生する。国外では、ヒマラヤ・中国西南部・タイ・台湾・韓国（済州島）に分布する。

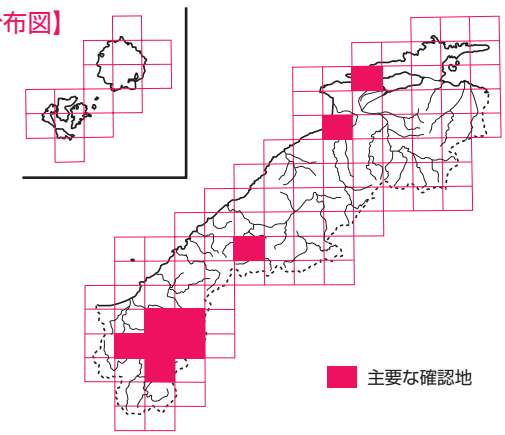
【県内での生育地域・生育環境】

県内各地に点在するがどこも個体数は少ない。隠岐諸島での分布は確認されていない。林中の岩上や樹幹に産する。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎		○				○													

シダ植物ウラボシ科

ビロウドシダ

Pyrrosia linearifolia（Hook.）Ching

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地が限られ、個体数も少ない。

【概要】

常緑性の小型のシダで、根茎は長く伸びる。葉身は線形で、先端は円頭であり、長さ２－15cmになる。全面に黄褐色から灰褐色の星状毛が密生する。胞子嚢群は円形で中肋の両側にだいたい１列にならぶ。

北海道から九州（中・北部）と沖縄県に分布し、陰になった岩上やまれに樹幹に着生する。国外では朝鮮半島と中国東北部に分布する。

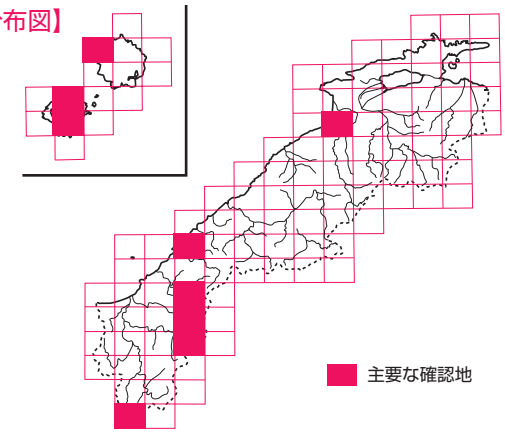
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島を含む、県内全域のやや乾いた岩上に点々と分布が確認されているが、絶滅した場所も多い。浜田市では市の天然記念物とされている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎	◎					○						○									

イチイ目イチイ科

イチイ

Taxus cuspidata Sieb. et Zucc.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

常緑針葉樹で高さ20m、径１m以上になる。樹皮は赤褐色で薄く縦裂する。葉は線形で長さ２cm、幅３㎜ばかり。雌雄異株で、花は春に咲き、種子は秋に成熟し、仮種皮は卵形で長さ、幅共に１cm程、赤く熟れて特徴的である。

国内では北海道から本州、四国、九州に分布するが、暖地ではまれな植物のようである。

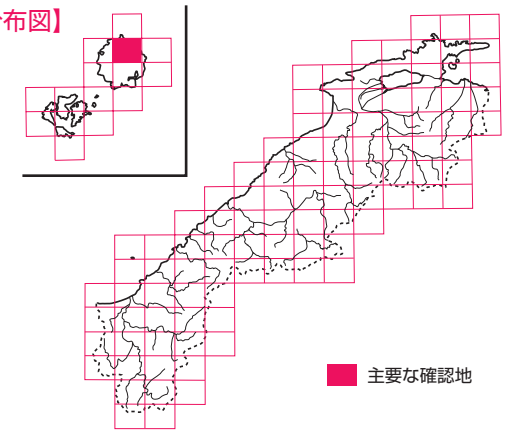
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)に生育地がある。山地の尾根筋で、露岩状地や痩せた地に生える。中国山地にも生育地が存在しているが、島根県側での生育地は不明である。生育地の一部は国指定天然記念物、国立公園内にあり、取りあえず保護されている。

【存続を脅かす原因】

生育地である樹林の伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

イラクサ目イラクサ科

ミヤコミズ

Pilea Kiotensis Ohwi

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

草丈10cm程で葉身も大きいもので、長さ10cm、幅５cm程の水気のある柔らかい一年草である。

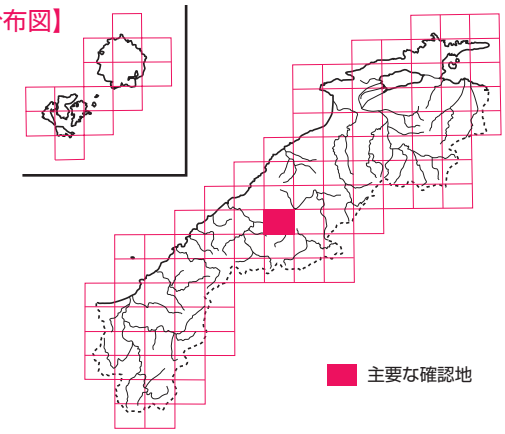
【県内での生育地域・生育環境】

石見部の山地、渓谷、渓流沿いの陰湿な地に生える。

【存続を脅かす原因】

渓流沿いの樹林抜開による育成地の乾燥化がもっとも危険な絶滅要因となるであろう。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

イラクサ目イラクサ科

ミヤマミズ

Pilea petiolaris (Sieb. et Zucc.) Blume

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれである。生育地での個体数も多くはない。

【概要】

草丈50cmばかりで、長楕円形長さ10cm、幅３cm程の葉を対生し、株になって生える多年草。湿り気の強い土地に生え、植物体全体が濃い緑色である。葉の先端が突起状に伸び出して特徴的である。花は夏から秋に咲き、雌雄同株で、葉腋に雄花序、雌花序を別につける。

分布は本州の関東以西、四国、九州の暖地にある。

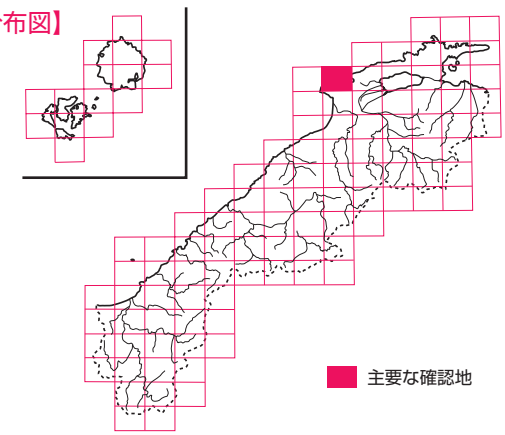
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部の一部に限られていて、石見部での生育地については不明である。山中の川の砂礫堆積地や砂防堤上流部での砂泥が堆積した場所などに生えている。

【存続を脅かす原因】

洪水による生育地の破壊、植物体の流失が考えられる。河川工事。生育地での遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○											○										

ビャクダン目ヤドリギ科

ホザキノヤドリギ

Hyphear tanakae (Franch.et Savat.) Hosokawa

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

【概要】

夏緑広葉樹に寄生する夏緑生性の低木であり、枝を分けて長楕円形、長さ２－３㎝、幅１㎝ばかりの葉を対生し、繁る。

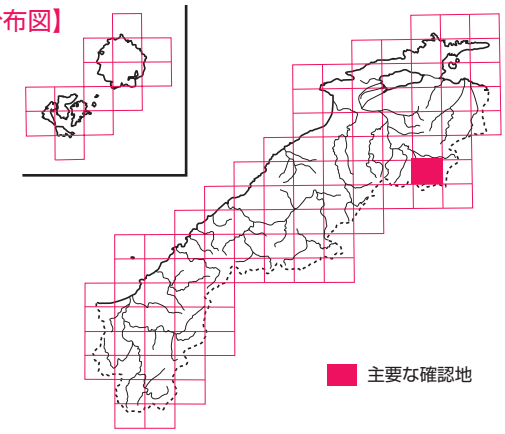
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部中国山地沿いの山地林内のコナラの樹幹に寄生したものが大小数株知られたが、その他に知られていないのできわめてまれなもののようである。

【存続を脅かす原因】

生育地の樹木伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

タデ目タデ科

ハルトラノオ

Bistorta tenuicaulis (Bisset et Moore) Nakai

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれである。

【概要】

根茎が地を這い、先端で長さ10㎝、幅３－５㎝ばかりの葉を１～２枚つけて生える夏緑性の多年草。根茎は地に浅く這い、ところどころに膨れた節がある。花は春に咲き、高さ５－10㎝ばかりの花茎を出し、２～３枚の葉をつけ、葉腋の短い花序に白色の小花を数個から十数個つける。

本州、四国、九州に分布域があるとされる。

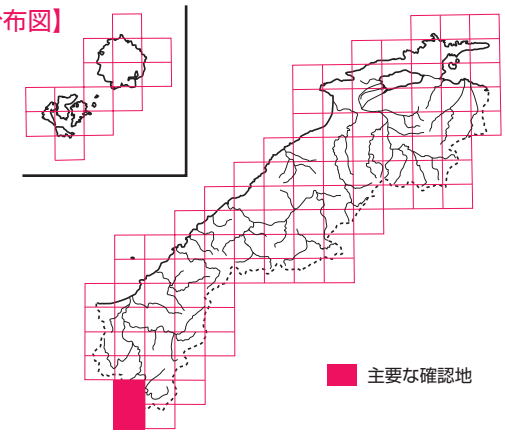
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部の中国山地沿いの深山谷間にまれに生育地が見られる。出雲での生育地は不明である。夏緑樹林内の渓流沿いから斜面下部にかけて生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

タデ目タデ科

ナガバノヤノネグサ

Persicaria breviochreata (Makino) Ohki

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれである。

【概要】

草丈20－30cmの１年生草本で、葉は広披針形～長楕円形で、基部は矢じり形で三角形の耳状片があり、長さ５cm、幅１－２cmばかりで互生し、托葉鞘は短く、長い縁毛がある。花は夏に咲き、２～３個の小花をまばらにつける。

本州の関東以西から四国､九州に生えるものとされる。

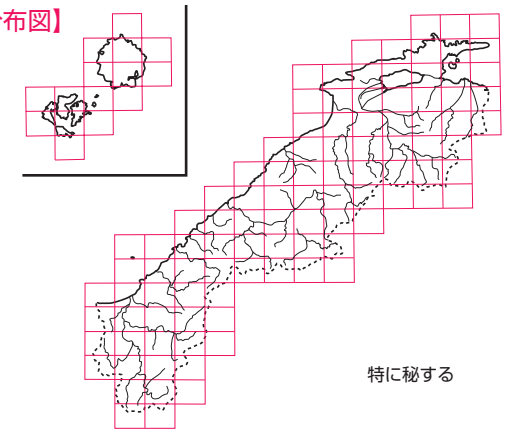
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見西部にまれに存在する。照葉樹林域での山中谷間のやや湿り気のある地にまれに生えるが、時にスギ林内で密に生えることもある。県内の生育地には分布北限があると思われる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

アカザ目ナデシコ科

ハマナデシコ

Dianthus japonicus Thunb.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はややまれであり、生育地での個体数は多くはない。

【概要】

海岸の岩上や崖地に生える草丈30cmばかりになる多年草である。葉は地際に根生葉が束生して、数本の枝を分けて茎が立つ。茎葉は倒披針形から長楕円形で長さ５cm、幅２cmばかりであるが、根生葉は茎葉より少しばかり大きい。葉は強い光沢がある。花は夏から秋にかけて咲き、茎頂に集散花序をなして多くの花をつける。花弁は紅紫色で美しく時に栽培され、掘り取る人がある。

本州、四国、九州、南西諸島に分布し、中国にも分布するとされる。

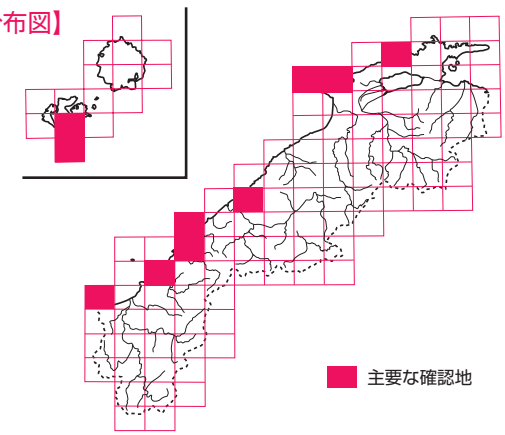
【県内での生育地域・生育環境】

県内ではほぼ全域の海岸に、生育地が点在するが、ややまれである。海岸の岩場や崖地に生えていて、生育地での個体数は多くはない。

【存続を脅かす原因】

海岸崖地の自然崩壊や、波浪等による自然災害と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	△															○	○		

アカザ目ナデシコ科

オオヤマフスマ

Moehringia lateriflora (L.) Fenzl

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

草丈10cmばかりの小型の多年草。山地草原内に生える。葉は倒披針形から楕円形で長さ２cm、幅0.5cmばかりで細い茎に対生する。花は夏に咲き、茎の上部の葉腋に花序を立て、２～３個の白色５弁、径１cmばかりの花をつける。

国内では北海道から四国、九州に分布する。

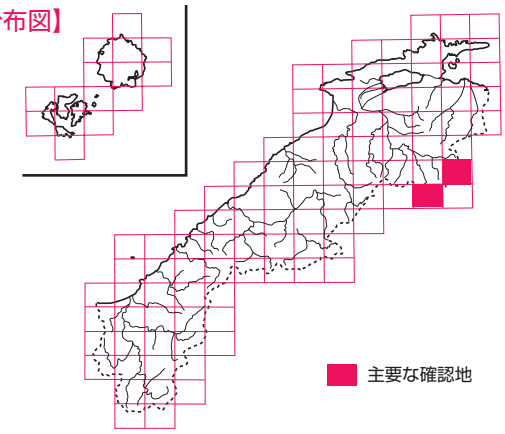
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部中国山地に生育地が知られている。山地の放牧地起源の草地や、人の踏み跡による草地に生えている。石見部での生育地については不明である。

【存続を脅かす原因】

山地草原での遷移による樹林化や、人による踏圧などによる消滅が考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○					○																

アカザ目ナデシコ科

ワチガイソウ

Pseudostellaria heterantha (Maxim.) Pax

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

草丈10cmばかりの小型の多年草である。茎は基部で２～３の枝を出して立ち上がり、葉は倒披針形から楕円形で、長さ２－３cm、幅１－２cmばかりで対生する。花は春に咲き、茎の上部の葉腋に長い花柄を出し、柄の先に白花５弁の小花を１個だけつける。夏緑樹内に生える。

本州の東北地方南部から四国、九州に分布域があり、中国大陸にも分布するとされる。

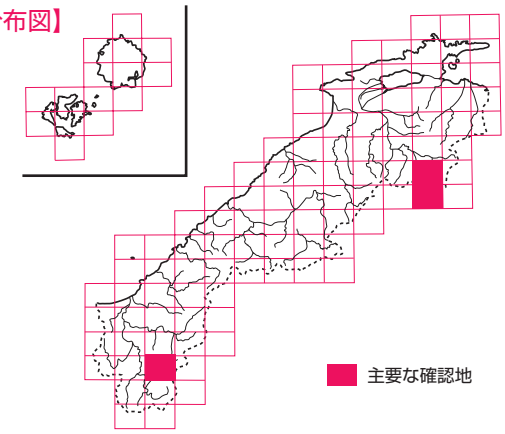
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部の中国山地の一部に生育地が知られていて、冷温帯夏緑林内に生える。

【存続を脅かす原因】

森林伐開による生育地の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

キンポウゲ目キンポウゲ科

サンヨウブシ

Aconitum sanyoense Nakai

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

多くは冷温帯の山中に生える夏緑の多年草。茎は多くは直立せず斜めに伸びて、葉は円腎形で長さ10cm、幅15cmばかりで、５－７片に中裂し、互生する。花は秋の頃に咲き、淡紫色から濃紫色で長さ５cmばかりで、多くて10花ばかりがつく。

本州の関東地方以西から四国にかけて分布するとされる。

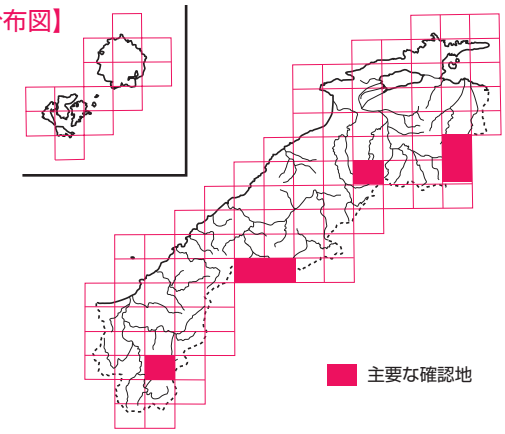
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地の谷間に生育地が存在する。冷温帯夏緑林内のやや陰湿な環境の場に生える。生育地では個体数が減少してきている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の環境変化。園芸上での採取も考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

キンポウゲ目キンポウゲ科

ニリンソウ

Anemone flaccida Fr. Schm.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地林内、林縁に生える夏緑性の多年草。地中に這う根茎に２～３枚の根生葉をつける。葉は10cm前後の葉柄があって、先に３小葉の葉身をつける。葉身は大小の欠刻状に裂ける。花は春に咲く。花は高さ20cmばかりの花茎の先に３枚の茎葉をつけ、２～３花をつける。花は径２cmばかりであるが、萼片５～６枚が楕円形、白色で花弁状であって目立つ。

北海道から四国、九州に分布し、さらに朝鮮半島、中国東北部に続く分布域があるとされる。

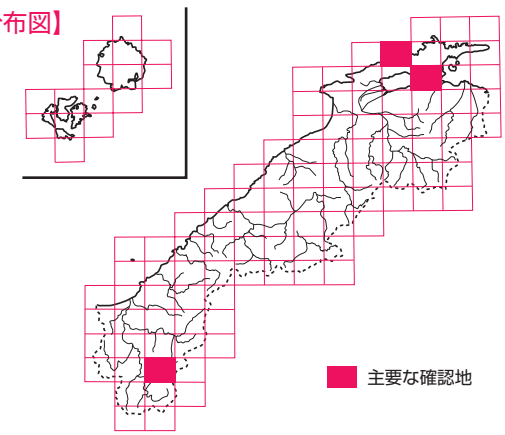
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部から石見部にかけての山地夏緑二次林内、林縁に生育地が点在するが、限られている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の環境変化。園芸上での採取も考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

キンポウゲ目キンポウゲ科

アズマイチゲ

Anemone raddeana Regel

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑林内に生える草丈20cmばかりになる多年草。地中を這う根茎があって、２回３出の複葉を根生する。花は春に咲き、花茎を立て、３枚の茎葉を輪生して、茎頂に径３cmばかりの１花をつける。花被は長楕円形で白色から淡紫色で10枚ばかりがつく。夏には地上部はすべて枯れる。

国内では北海道から四国、九州に分布し、樺太、朝鮮半島に続く分布の植物とされる。西日本での分布はまれなようである。

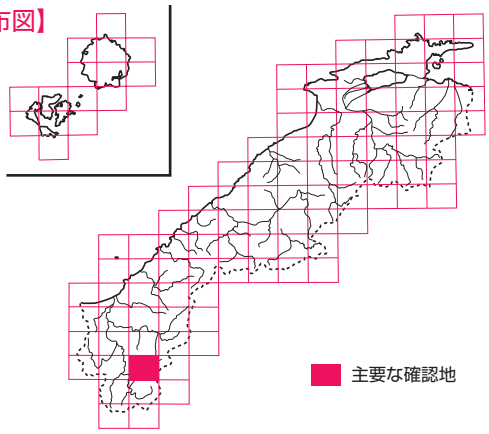
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見西部にまれであり、明るい夏緑林内の林床、林縁に生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の環境変化と園芸上での採取が考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○							○												

キンポウゲ目キンポウゲ科

リュウキンカ

Caltha palustris L. var. *nipponica* Hara

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵9

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える夏緑性の多年草で、葉は根生葉としてつき、長い葉柄があって葉身は円形～楕円形で、長さ、幅とも５－10cmばかり、無毛で光沢がある。花は早春、葉が展開すると同時に咲く。長さ20－30cmの花茎を出し、先端で２～３の枝を分け、枝先に１花をつける。花は花弁がなく、黄色の萼片５枚が径４cmばかりの大きさで咲き、美しい。

本州及び九州の一部、朝鮮半島に分布域のある植物であるが、本来、寒冷な地に生えるもので、西日本ではまれな植物である。

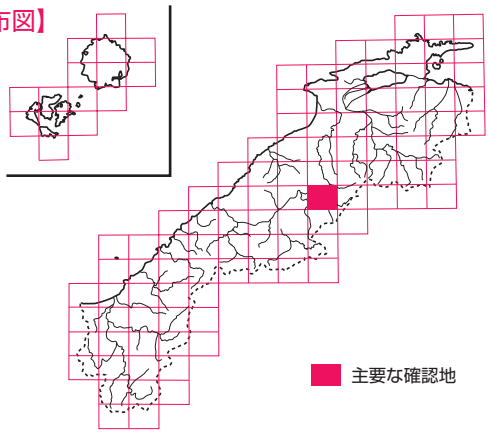
【県内での生育地域・生育環境】

県内での分布は出雲部の一部にのみ限られて、生育地は県の自然環境保全地域に指定され、保護されている。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎							○														

キンポウゲ目キンポウゲ科

オキナグサ

Pulsatilla cernua (Thunb.) Sprenger

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はかなりまれな状態となっている。生育地での個体数も激減している。

【概要】

本来、草原に生える草丈20cmばかりの多年草である。植物体は全体に白毛が多く、葉は２回羽状葉で根生する。開花株では高さ30cmばかりに花茎を立てて１茎に１花をつける。花は横向きから下向きに咲く習性があって、萼片６枚で外面は白毛に被われ、内面は赤紫色で、時に美しく咲く。花後、花茎はやや伸びて立ち上がり、茎頂に果実を球状につける。花柱が長く伸び、白毛を密生して特異な形状となる。園芸上での人気があり、栽培する人が多い。

日本、朝鮮半島、中国の範囲に分布域がある。

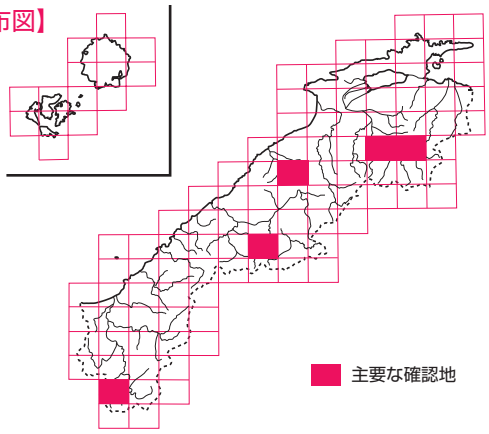
【県内での生育地域・生育環境】

全県に生育地が点在するが、生育地が消滅した地も多い。山地草原から林縁の草地、耕作地及び溜池の土堤、河川の河原などに生える。

【存続を脅かす原因】

草地の遷移による環境変化。河川での洪水。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			○	○				○	○										

ウマノスズクサ目ウマノスズクサ科

フタバアオイ

Asarum caulescens Maxim.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地も僅かな範囲である。

【概要】

山地のおもに夏緑樹林内に生え、草丈20cmばかりになる夏緑性の多年草。植物体は茎が地を這い、分枝して、枝の先端に普通は２枚の葉をつける。茎は円柱形で赤茶色を帯び、葉は長い柄があってほぼ円形、心脚で径５－10cmばかり。春、出葉と同時に葉の基部に花をつける。花は花弁はなく、３枚の萼片が筒状になって、先の裂片が外側に反り返り、筒部に接する奇妙な形態となる。色は赤茶色である。

本州、四国、九州に分布域がある。

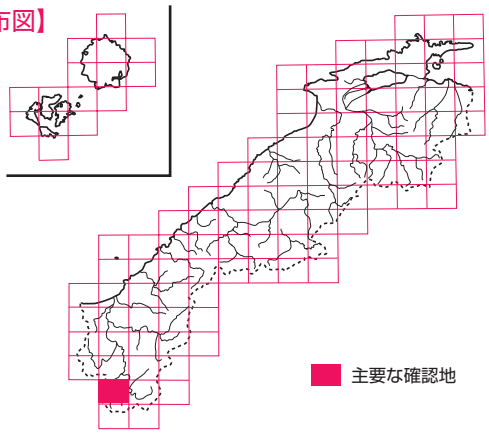
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見西部の山地にまれにあって、谷間のやや陰湿な環境の地に生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による環境変化と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

ウマノスズクサ目ウマノスズクサ科

タイリンアオイ

Heterotropa asaroides Morr. et Decne.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地林内に生えて、草丈20cm程のやや小型の植物であり、葉はほぼ卵形で基部は深い心形、長さ10cm、幅５cm前後、常緑で根生状につく。葉面には様々な独特な雲紋があって特徴的である。花は春に咲き、地際にこの類としては大きな径３－４cmばかりで、ほぼ球形の萼筒からなる花をつける。萼筒の上部で強くくびれ３片の萼裂片がある。

分布は狭い範囲で、本州西端部（島根、山口）と九州北部にかけて生える。

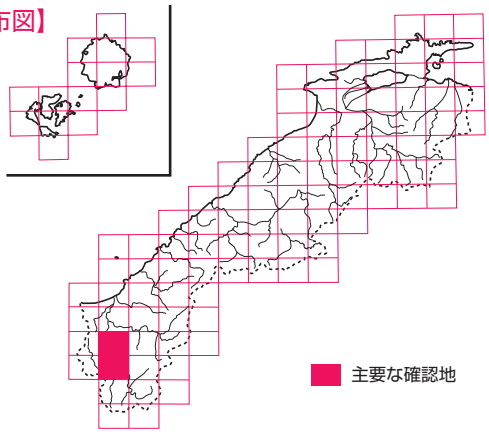
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部にのみ生育地が知られている。本来、照葉樹林内のものと思われるが夏緑二次林内にも生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による環境変化、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

オトギリソウ目オトギリソウ科

トモエソウ

Hypericum ascyron L.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地の多くが消滅し、個体数も激減している。

【概要】

水湿地に生える草丈50cmばかり、時に１m程にもなる夏緑性の多年草。葉は披針形で長さ５－８cm、幅２－３cm程で対生する。花は夏に咲き、径５cmばかりで、花は黄色５弁で、花弁が巴形に曲がるのが特徴的である。

北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国に続いて分布する。

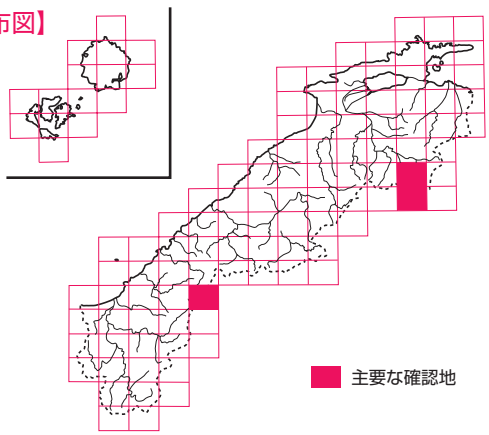
【県内での生育地域・生育環境】

全県の山間の水湿地に生育地がかなり存在したものと思われるが、現状はきわめてまれな状態となっている。

【存続を脅かす原因】

山間の水湿地の遷移による環境変化。山間の水田脇や林縁の生育地は水田の区画整理や休耕、廃田などにより生育地その場の破壊や消滅、その場の遷移が個体の激減、消滅につながってきていると思われる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○				○	○				○	○									

バラ目ベンケイソウ科

アオベンケイ

Hylotelephium viride (Makino) H. Ohba

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれな状態となっている。本来、生育地での個体数は多くはないものである。

【概要】

樹幹、岩上に生える草丈20cm前後の夏緑性の多年草。葉は卵形で長さ５－６cm、幅３－４cmばかりで対生する。花は秋に咲き、茎の先端の散房花序に汚黄白色の小花を多数つける。

国内の本州中部地方以西、四国、九州に分布範囲があるとされる。

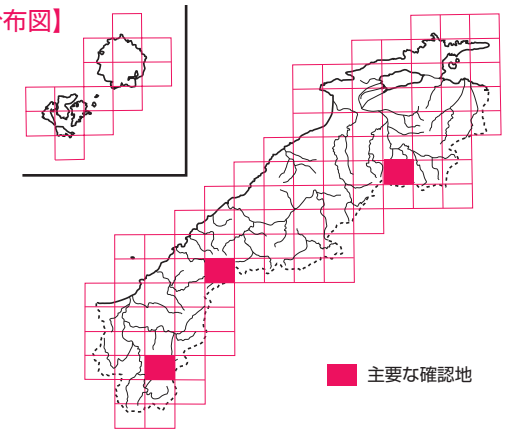
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地脊梁部に生育地が僅かに点在する。多くはブナの古木の樹幹に生え、イワガラミ、ツルアジサイ、ツタウルシなど着生した中に見られる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と着生樹の伐倒。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

バラ目ユキノシタ科

シラヒゲソウ

Parnassia foliosa Hook. fil. et Thoms.var. *nummularia* (Maxim.) T. Ito

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山間の水湿地に生える夏緑性の多年草。植物体は根際に径４－５cmのほぼ円形の葉を４～５枚束生し、２～３個の花茎を立てる。花茎はほぼ円形で、径２－３cmばかりの葉をつける。花は夏に咲いて、径２－３cmばかりで、花弁は白色５弁で、縁は糸状に裂けているのが特徴的である。

本州、四国、九州に分布する。

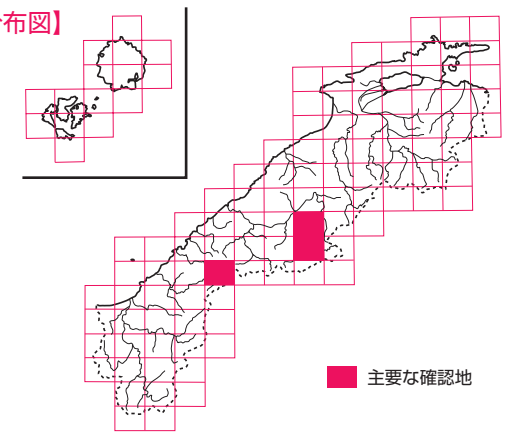
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部に限られた２～３の生育地が存在する。山間の小さな湿地や流れの縁に生えているが個体数は多くはない。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。園芸上での採取があれば絶滅するであろう。湿地も近い将来樹林化して消滅する心配がある。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○						○					○									

バラ目ユキノシタ科

タコノアシ

Penthorum chinense Prush

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はかなり限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える夏緑性の多年草。植物体は茎の高さ50cmばかり、時に１m程にもなるやや大形のもので、長さ10cmばかり、幅１cm程の細長い葉を互生する。花は夏に咲き、茎の先端部の花序の枝に黄緑色の小花を多くつける。花序の枝は初め外側に渦巻き状に巻いていて、伸びながら花が咲く。花序の枝の形状がタコの足によく似た姿にも見えると思われる。秋には植物体全体が赤く色づき、よく目立つ。

東アジアに広く分布するものとされ、国内では本州から四国、九州、南西諸島に分布する。

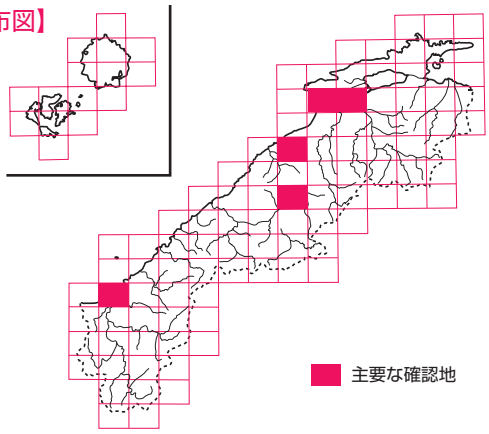
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部に生育地が点在するが、多くはない。多くは河川の流水際の砂泥堆積地に生えている。

【存続を脅かす原因】

河川改修工事で生育地が消滅した場もある。生育地での遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○									○					○					

バラ目ユキノシタ科

ヤシャビシャク

Ribes ambiguum Maxim.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

樹幹に着生して生きる夏緑性の小木で、枝を分けて株状になり、高さは大きいもので50cmばかりになる。葉はほぼ円形で、基部は深く切れ込み、全面に毛がある。花は春に咲くが、緑白色で目立たず、果実が熟しても緑色で目立たないが、果実には全体に刺状の毛が生えているのが特徴的である。

本州から四国、九州に分布し、中国大陸にかけて分布が続くものとされる。

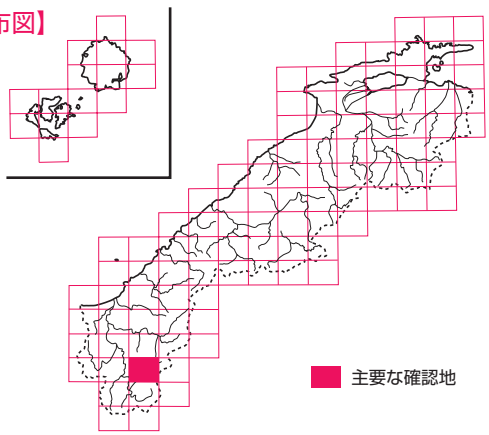
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部の西中国山地内にまれに生育地が確認される。多くはブナの古木に着生している。石見部東部から出雲部にかけての生育地は確認されていないが、生育の可能性が考えられる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による着生木の伐採は致命的である。園芸上での採取も考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

バラ目バラ科

シロヤマブキ

Rhodotypos scandens（Thunb.）Makino

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

写真 口絵10

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

夏緑性の低木で高さ１－２mばかり、少しばかり叢生して株をつくる。葉は卵形で長さ５cm、幅３cmばかり、対生する。花は春に咲いて白色、４弁で径４cmばかり、小枝の先に１花ずつつける。雌蕊は４個の離生心皮からなり、１花に４個の黒色果実をつける。古くより庭園に植えられ、茶花などにも愛でられ、知る人には知られた植物である。

本州の中国地方に分布し、朝鮮半島、中国に分布が続くものとされる。

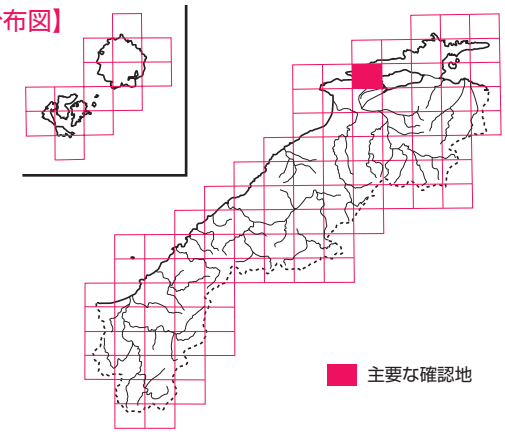
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部の一部にのみ生育地が知られている。海岸に近い山地の斜面に僅かな個体が存在する。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による照葉樹林化。園芸上での掘り取り。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

バラ目バラ科

キビナワシロイチゴ

Rubus yoshinoi Koidz.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内に生育地が存在することは明らかであるが、県内全域での生育地や個体数の現況が明らかでない。

【概要】

山地林内から林縁に生える夏緑の小低木である。茎はやや細く、長く伸びて鉤刺がある。葉は多くは３小葉の複葉であり、小葉は長楕円形で長さ６－７cm、幅２－３cmのもので、裏は白毛があって白い。花は春に咲き、花弁は淡紅紫色、果実は球形で、径１cmばかり、赤く熟れる。

国内では本州の東北地方、中部地方の一部や、中国地方、九州の一部に分布する植物とされる。

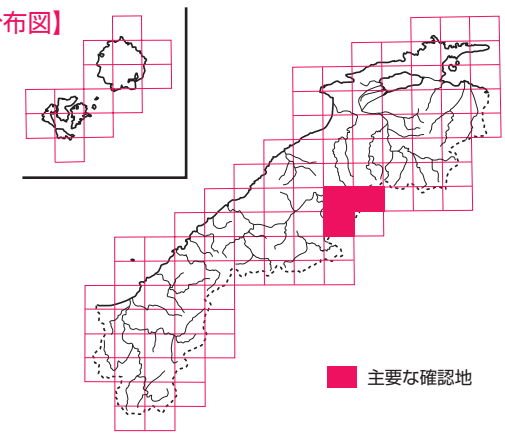
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部の中国山地沿いの山地で生育が知られているが、石見部での分布が明らかでない。出雲部での生育地も個体数が激減しているように思われる。

【存在を脅かす原因】

樹林伐開や林縁樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

フウロソウ目フウロソウ科

ビッチュウフウロ

Geranium yoshinoi Makino

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵10

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数は多くはない。

【概要】

山間の水湿地に生える夏緑性の多年草。植物体は径５－10cm程の葉を５～６枚根生して草丈50cmばかり、葉は１～２回３出状に裂け、全面に薄く毛があって、10cmばかりの長い柄がある。花は夏から秋にかけて咲き、株元から伸びる花茎は多く分枝して、枝の先に径２cmばかりの薄紫色の花をつける。

本州の中部地方南部、近畿地方北部から中国地方にかけて分布する植物とされる。

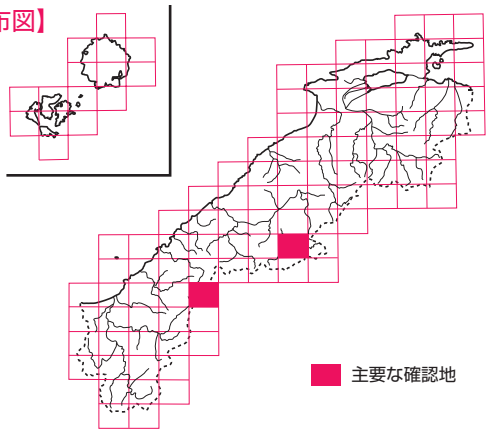
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地山間の水湿地、湿原にまれに生育地がみられる。時に山間の水田脇の水湿地にも生える。

【存続を脅かす原因】

水湿地、湿原での遷移による樹林化などの環境変化。水田脇の水湿地などは休耕、廃田によって生育地が樹林化し、個体群が消滅した場もある。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○					○														

フウロソウ目トウダイグサ科

カンコノキ

Glochidion obovatum Sieb. et Zucc.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では生育地が限られていて、生育での個体数も限られている。

【概要】

海岸沿いの地に生える夏緑あるいは半夏緑性の樹種である。樹高は５－６mになり、枝の短枝がしばしば刺となる特徴があって、全体に刺の多い樹木である。葉は狭倒卵形で長さ５cm、幅２cmばかり、多くは先端部がもっとも幅が広く、逆三角形の形で互生する。雌雄異株、ときに同株とされるが、花は夏に咲き、花は小さく白色で葉腋に束生する。果実は扁球形で、種子は赤橙色で目立つ。

本州の近畿地方以西、四国、九州、南西諸島に分布域があるとされる。県内に分布するものは分布北限地のものとなる。

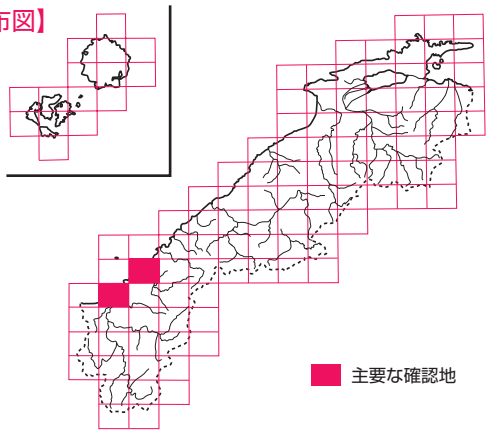
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部の海岸に近い地にまれに見られる。照葉樹二次林内、林縁に見られる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。道路拡幅などによる樹木伐倒。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

ムクロジ目カエデ科

カジカエデ

Acer diabolicum Blume ex Koch

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も限られている。

【概要】

高さ10数mになる夏緑樹。葉は長さ５－10cmばかりの葉柄があって、葉身は多くは五角形状であり、大きく３中裂し長さ、幅とも10cmばかりで対生する。雌雄異株で、花は春に咲き、雌、雄の花序に５－10花ばかりをつける。夏には熟し、分果は長さ３cmばかりである。

東北地方南部以南、四国、九州に分布する。

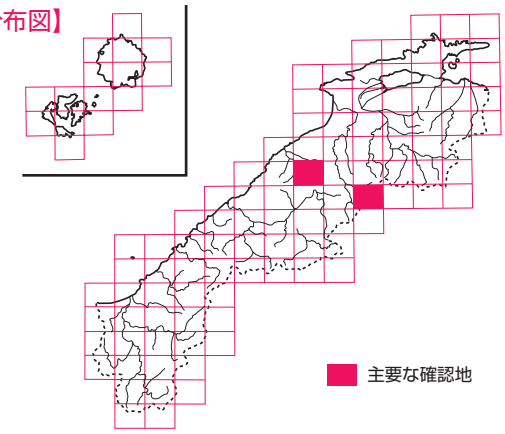
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲、石見部の山地の一部に存在する。夏緑二次林内にまれに生え、個体数は僅かである。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○																	

ムクロジ目カエデ科

メグスリノキ

Acer nikoense Maxim.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

樹高20m程になる夏緑性の樹種。葉は３小葉で、葉柄は３－５cmばかり、さらに長さ２－３mmから１cm程の小葉柄があって小葉身がつく。葉柄は毛が密に生えて特徴的である。小葉身は長さ10cm、幅５cm程のものである。雌雄異株の樹種で、花は春に咲く。花序は散形だが、雌、雄花とも花は数個しかつかない。果実はカエデ類の中では大型で分果は径１cm程あり、翼がついて長さ４－５cmのものである。紅葉して美しい。

東北地方南部から四国、九州に分布域がある。

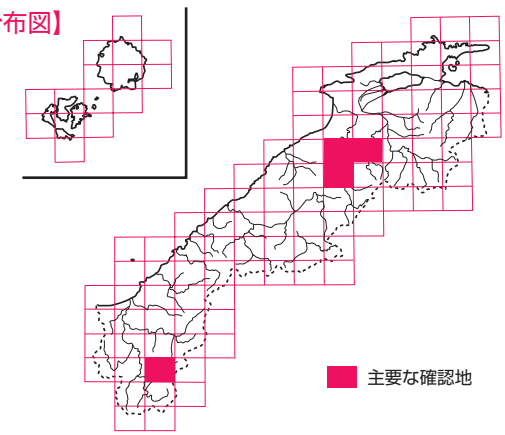
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の山地にまれな生育地がある。本来、夏緑林内のものと思われるが、出雲部では照葉樹域内に生育していて珍しい。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

ニシキギ目モチノキ科

シイモチ

Ilex buergeri Miq.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はややまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

樹高は10数mになる常緑の樹種。葉はほぼ楕円形で両端はとがり、長さ７－８㎝、幅２－３㎝。互生する。雌雄異株の樹種。雄花序には10花、雌花序には３～４花の黄緑色の小花を束生する。果実は径５㎜程で赤く熟れて美しい。

本州は中国地方西部と九州にのみ分布域がある。

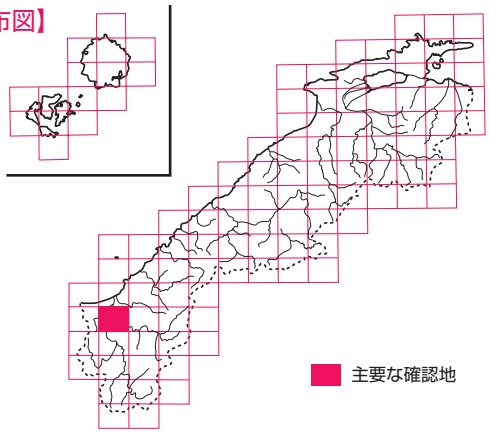
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見西部の海岸寄りの土地にのみ存在する。照葉樹林域内に分布するが、優良なより自然的なスダジイ林内には生育するものが見られない。コジイ若令林やスダジイが少ない夏緑二次林内など、また、コジイ－イチイガシ林と認められる社叢林内にも生育地がある。この社叢林は町指定の天然記念物として保護の対象となっている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

ジンチョウゲ目ジンチョウゲ科

カラスシキミ

Daphne miyabeana Makino

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も限られている。

【概要】

常緑性の低木で、多くは高さ0.5m程にしかならない。葉は倒披針形で長さ10㎝、幅２㎝前後で、枝先に集まり互生する。雌雄異株の植物で枝先に短い総状花序に数個の花をつける。果実はほぼ球形で径１㎝ばかり、赤く熟れて目立つ。

北海道、本州の日本海側の山地に分布する。

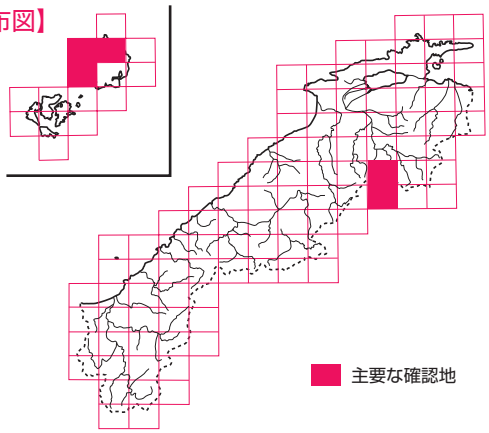
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島と出雲部の中国山地脊梁部に生育地がある。隠岐（島後）では山地高所の夏緑二次林内、アカガシ林内の林床、クロベが優占する林分内でオキシャクナゲが生育する中などに生える。中国山地脊梁部ではブナ林内、ミズナラ二次林内にまれに見られる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○																	

ジンチョウゲ目ジンチョウゲ科

コガンピ

Diplomorpha ganpi (Sieb. et Zucc.) Nakai

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵11

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の低木で高さは0.5m程のもの。葉は長楕円形で長さ３－４㎝、幅１－２㎝で互生する。夏に花が咲き、枝の先に短い花序をつくり、数花をつける。花は筒状で長さ１㎝ばかり白色から淡紅色である。

本州の関東以西、四国、九州、南西諸島に分布する。

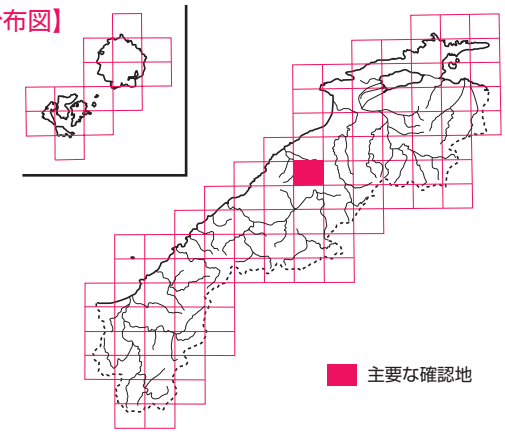
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部、石見部の一部にまれに存在する。山地の草原や崖地に生える。出雲部では道路法面や山地の山崩れ起源の崖地に群生した場があったが、その場の遷移により樹林化して消滅してしまっている。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○				○																

スミレ目スミレ科

ダイセンキスミレ

Viola brevistipulata (Franch. et Savat.) W. Becker var. *minor* Nakai

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵11

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も限られている。

【概要】

鳥取県の大山を中心とした中国山地脊梁部に特産する黄花のスミレ類の一型である。林縁から草原状地、岩礫地に生える。

植物体は草丈10cmばかりの小形なもので、葉は卵形で長さ１－２㎝、数枚をつける。花は初夏の頃に咲き、葉腋に径１㎝ばかりの黄花をつけて、美しい。茎は普通、濃い紫色を帯びていて特徴的である。

本州の中国地方に分布し、中国山地の脊梁部を中心に生える。

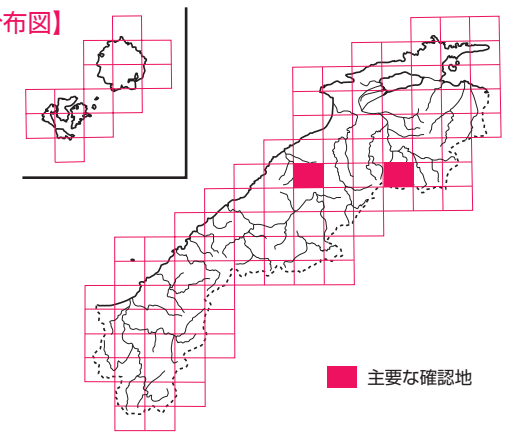
【県内での生育地域・生育環境】

県内では、中国山地脊陵部にまれに生育地があり、三瓶山にもまれな生育地がある。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。生育地の崩土などの自然災害。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○																

フトモモ目アリノトウグサ科

オグラノフサモ

Myriophyllum oguraense Miki

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU） 写真 口絵11

島根県固有評価：要注意種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】

本州以西の湖沼、溜池などに生育する多年生の沈水植物。水中茎がつる状に伸び、よく分枝する。沈水（水中）葉はあざやかな緑色で無柄、全長２－４㎝の葉身は羽状に全裂し４～５輪生。花季には花序となる高さ10㎝ほどの気中葉を水面上に直立する。雌雄同株で上部に雄性花序、下部に雌性花序がつく。気中葉は線形羽状で緑白色、全長数㎜と沈水葉に比べて小さく、花も葉に隠れて目立たない。夏から秋にかけて越冬用の殖芽を形成する。全体が、同属のフサモとよく似るが、フサモの気中葉が緑色であること、殖芽がオグラノフサモでは６－８㎝の長い棒状であるのに対し、フサモでは1.5－３㎝の棍棒状であることなどで識別できる。従来我が国でフサモと同定されてきたものの多くが、実はオグラノフサモであるという。

【県内での生育地域・生育環境】

池沼及び溜池。タヌキモの仲間やヒツジグサなどが生えている池で一緒に見られることが多い。

【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△											○					○				

セリ目セリ科

ホタルサイコ

Bupleurum longiradiatum Turcz.var. *elatius* (Koso－Polj.) Kitagawa

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数は多くはない。

【概要】

林縁などの陽当りのよい草地に生える夏緑性の多年草。植物体は長楕円形の長さ20㎝ばかりの葉を５～６枚根生し、葉間より花茎を立て、草丈50㎝ばかりになる。花は夏に咲き、茎頂と葉腋からの枝に複散形花序をつけて、黄色の小花が数多く咲く。

本州、四国、九州に分布域がある。

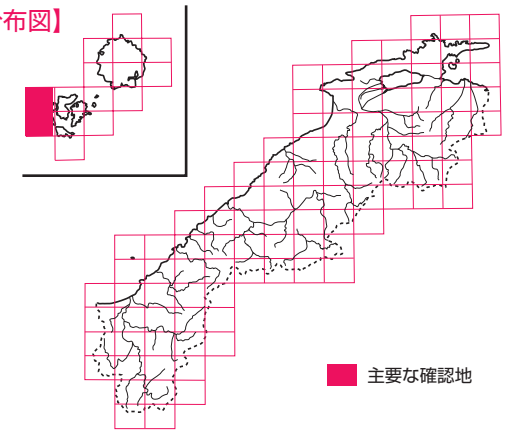
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐諸島にのみ知られていて、海岸の草原から山地の林縁、崖地の草地などに生えている。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による照葉樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○																○		

セリ目セリ科

サケバゼリ

Oenanthe javanica (Blume) var. *japonica* (Maxim.) Honda

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

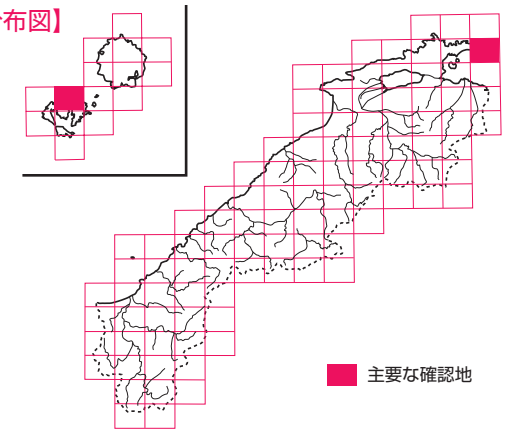
【概要】
比較的海岸に近い山間の林縁での水湿地に生える草丈30cmばかりになる夏緑の多年草。葉は１～２回羽状の複葉で、４～５枚が根生する。小葉は広卵形で長さ１cmばかり、葉表は脈が裏側にくぼみ、条が目立ち、葉裏にかなり突き出る。鋸歯は細く、鋭頭である。花は夏に咲き、花茎の先の複散形花序に多くの白色小花をつける。

本州の紀伊半島以南、四国、九州、南西諸島に分布し、台湾、マレーシアに続く分布範囲のものである。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では島根半島と隠岐諸島の一部にまれな生育地が知られている。海岸に近い山地の林縁部での水湿地となっている場所に生えている。

【存続を脅かす原因】
生育地での遷移による照葉樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○									○									

ツツジ目ツツジ科

サラサドウダン

Enkianthus campanulatus (Miq.) Nicholson

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：－

写真 口絵11

【選定理由】
県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

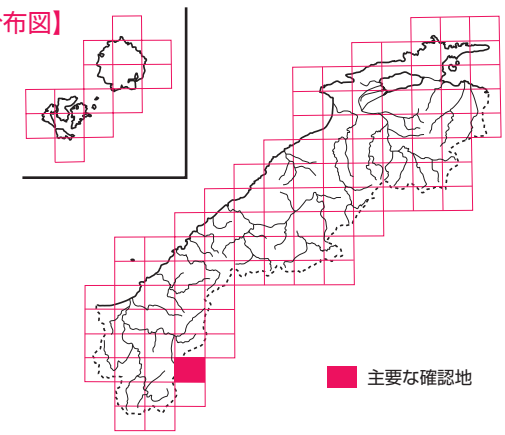
【概要】
夏緑性の高さ２－３mばかりの低木で、葉は長さ４－５cm、幅２cmばかりの倒卵形、枝先に５～６枚束生状につく。花は初夏の頃に咲き、花冠は鐘形で長さ１cmばかり、先は浅く裂けて、裂片の先は丸い。花色は白地に花冠裂片部が淡紅色で、さらに紅色の条が目立つ。枝先に10花程が鈴を下げたように垂れて咲き、美しい。

分布は北海道南部から本州、四国、九州の一部にあるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では石見部の西中国山地脊梁部にまれに生育地がある。生育地は国定公園内にあり、それなりに保護されていて、盗掘等の心配はないものと思われる。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

ツツジ目ツツジ科

ベニドウダン

Enkianthus cernuus（Sieb. et Zucc.）Makino

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵11

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑性の低木で高さ２－３mばかりになる樹種。葉は長さ３－４cmで、倒卵形、多くは枝先に５～６枚が互生して束生状につく。花期は初夏で枝先に花穂を垂れ５～６個の赤色、鐘状の花をつけ美しく咲く。花冠の先端は細い裂片となり特徴的である。果実は楕円形で長さ５mmばかりで上向きにつく。

本州の関東以西、四国、九州に分布する。

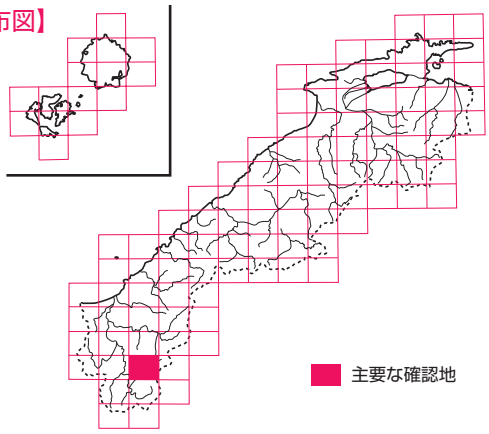
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見西部の中国山地寄りの土地にまれに存在する。おもに山地斜面の岩場、露岩状地に生える。

【存続を脅かす原因】

生育地の一部においては、遷移による環境変化が考えられる。また、園芸上での採取も考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

ツツジ目ツツジ科

ホンシャクナゲ

Rhododendron metternichii Sieb.et Zucc.var. *hondoense* Nakai

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

常緑の低木で、高さ２－３mになり、山地の露岩状に生える。葉は１－２cmの葉柄があって長楕円形で長さ15cm、幅４－５cm、多くは枝先に束状に互生する。ツクシシャクナゲの変種として扱われることが多く、葉裏に毛がないものである。花は春に咲いて、枝先の総状花序に10花ばかりをつける。花冠は漏斗形で径４－５cm、紅紫色で先端部は７片に裂ける。

国内での分布は本州の北陸地方以西、四国の一部にあるとされる。

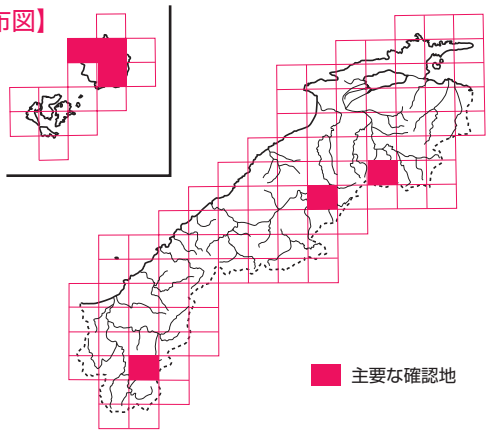
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部および隠岐（島後）の山地に小規模な生育地が点在する。隠岐（島後）のものはオキシャクナゲ（品種または変種）の名で区別されることがある。生育地はいずれも、渓谷状地の露岩、岩壁等の不安定立地にある。

【存続を脅かす原因】

森林伐開による生育地の破壊、園芸上での採掘。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○														

ツツジ目ツツジ科

アラゲナツハゼ

Vaccinium ciliatum Thunb.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵11

【選定理由】

県内での生育地は限られている。一部では遷移により絶滅が危惧される。

【概要】

夏緑の低木、葉は広楕円形で長さ７－８㎝、巾３－５㎝で互生し、表面は脈が裏側に落ち込み、裏面にはあらい毛が生える。花は初夏、枝先の総状花序に筒状の白色を多くつける。果実は径５－７㎜程の球形で藍色に熟し、萼筒の口が小さいことが特徴的である。

本州は福井県以西の日本海側、北九州の山地に分布域がある。

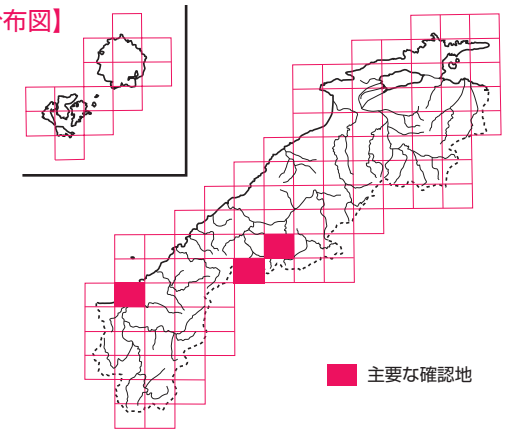
【県内での生育地域・生育環境】

県内では西部、中央部に生育地が知られているが、隠岐諸島、東部では見られないようである。生育地は林縁部や草原状地であって、林内ではほとんど見られない。

【存続を脅かす原因】

植生遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎	○		○				○													

モクセイ目モクセイ科

ハシドイ

Syringa reticulata（Blume）Hara

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の低木で高さは５m程の樹種。葉は１－２㎝の葉柄があって、広卵形、長さ10㎝、幅５㎝前後で対生する。花は初夏の頃に咲き、枝先の円錐花序に白色の小花を多数つける。花冠は径５㎜ばかりで先が４裂する。果実は蒴果で長楕円形で長さ２㎝ばかり、熟れて２裂する。県内に見られるのは、葉に毛がないマンシュウハシドイ var. mandshurica (Maxim.) Haraとして扱われる型のものである。

北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島に続いて分布するとされる。

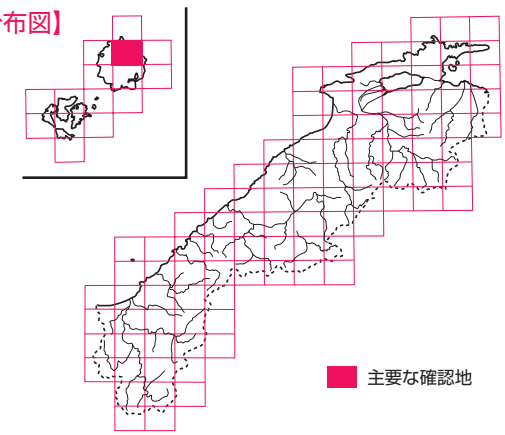
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐（島後）にのみ知られている。山地の夏緑樹林内、特に谷筋のサワグルミ林分にまれに生えている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の直接的な破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

リンドウ目ミツガシワ科

ミツガシワ

Menyanthes trifoliata L.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵11

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地によっては遷移により消滅した部分もある。

【概要】

水湿地や浅い水中に生える夏緑の多年草で、太い根茎を持ち、先端に長い柄をもった３小葉からなる葉を数枚、根生状につけて、草丈は30－40cm程のものである。小葉は楕円形で、長さ10cm、幅５cm程になる。花は早春に咲き、葉が展開すると同時に高さ30cmばかりに花茎を立て、径１－２cmの白色、漏斗状花冠の花を多数つける。花冠は５深裂して、裂片内側には毛がある。

国内では北海道、本州、九州、そして北半球に広く分布する。中国地方ではきわめてまれな分布となる。

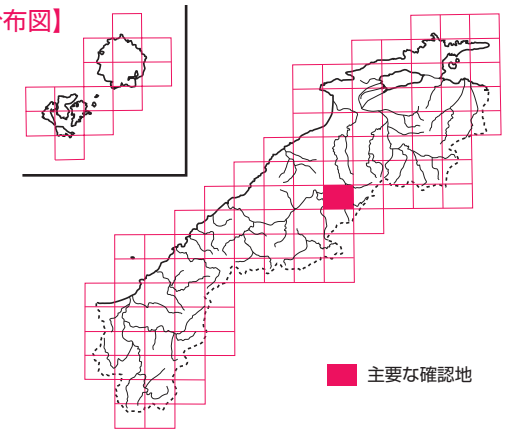
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部の一部山間の放棄水田起源の湿地や溜池に存在している。一部は県の自然環境保全地域内にあって個体群が保護の対象となっている。

【存続を脅かす原因】

水湿地の遷移による環境変化によって個体群が衰退する。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○							○														

リンドウ目キョウチクトウ科

サカキカズラ

Anodendron affine（Hook. et Arn.）Druce

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

常緑の蔓性の木本で、周囲の樹木等に絡みついて高く伸び上がる。葉は長楕円形で長さ10cm、幅２－３cmばかりで対生する。花は春に咲き、枝先の円錐状花序に淡黄色の花を数多くつける。花冠は筒状で先で細長い５裂片に裂け、径１cmばかりである。果実は特徴的で円柱状披針形の袋果で、長さ10cm、幅２cmばかりあって、多くは２個が左右に開いてつく。

本州の関東以西、四国、九州、南西諸島に分布して、中国大陸に続く分布のものとされる。

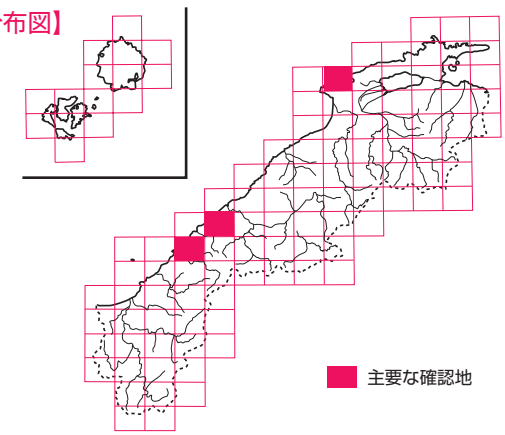
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の海岸沿いの地域にまれに生育地が存在する。おもに照葉樹林内から林縁に生えるが、時に路傍に生えるのも見られる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開、造成工事等による生育地の直接的な破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎		○				○													

リンドウ目アカネ科

カギカズラ

Uncaria rhychophylla（Miq.）Miq.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

写真 口絵11

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

常緑の蔓性木本で、葉の腋に対生してつく強く湾曲する太い刺で周囲の樹木に絡みつき、高く、長く伸びる。葉は長さ10cm、幅５cmばかりで楕円形、裏は白色を帯びる。花は初夏の頃に咲き、花序は葉腋に長さ３cmばかりの柄があって球形に多くの小花をつける。果実は蒴果である。

本州の関東地方以南、四国、九州に分布するものとされる。

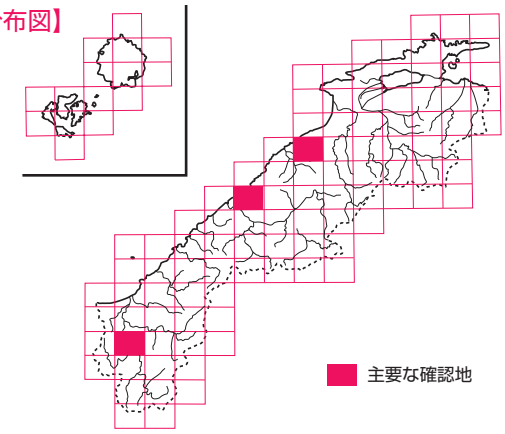
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見部の照葉樹林域の山中、時に林縁にまれに存在する。主として渓谷状地の谷間に生えて、あたりにはびこり、目立つことがある。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○				○													

シソ目ムラサキ科

サワルリソウ

Ancystrocarya japonica Maxim.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はかなり限られていて、生育地での個体数はきわめてまれである。県内全域での生育地、個体数とも正確には確認できない。

【概要】

山中林内に生える夏緑の多年草。草丈は30－50cmばかりで、長さ10cm、幅５cmばかりの長楕円形の葉を互生する。花は春に咲いて、茎頂の総状花序に白～淡青色の筒状花をつける。花冠は先で５裂する。

国内では本州の関東以西の太平洋側から四国、九州に分布し、日本固有の植物とされる。

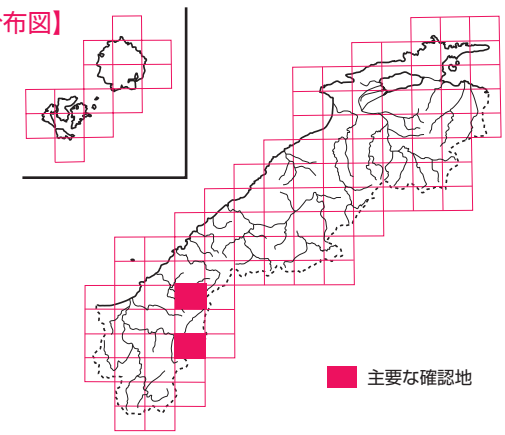
【県内での生育地域・生育環境】

県内ではおもに石見部山地に生育地があって、谷筋のやや陰湿な地から斜面上部の夏緑二次林内に生えている。生育地ではいずれも、個体数はきわめて少なく、まれに生えている感じである。県内全域でのこの植物の分布状況が確認できない。

【存在を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

シソ目クマツヅラ科

カリガネソウ

Caryopteris divaricata（Sieb. et Zucc.）Maxim.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地は明らかに減少しているものと思われるが、その状況は不明な点が多い。

【概要】

山地に生える草丈１m程になる多年草。茎は４角で、長さ10cm、幅５cmばかりの広卵形の葉を対生する。花は夏に咲き、茎の上部で腋生の集散花序にまばらに花をつける。花冠は青紫色、１cm程の花筒があって先で５裂し、下の１枚は大きく反り返る。雄蕊は長さ３cmばかりで花柱とともに下向きに曲がり花外に突き出て特徴的である。植物体全体に強い独特な臭気があることも特徴的である。

北海道から本州、四国、九州、そして朝鮮半島、中国に分布域がある。

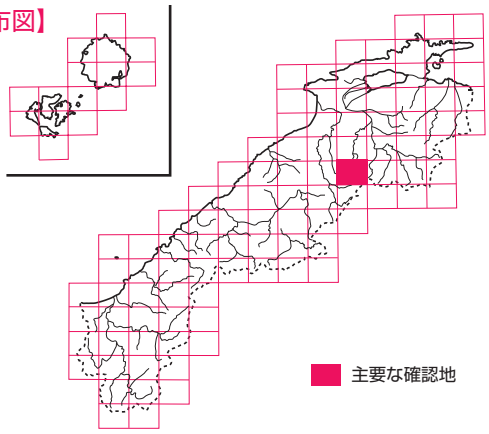
【県内での生育地域・生育環境】

県内には広く生育地があったと思われるが、今まで知られていた生育地の多くが消滅し、県内での分布状況が明らかでなくなっている。

【存在を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○																	

シソ目シソ科

オウギカズラ

Ajuga japonica Miq.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、遷移による生育地の消滅が心配される。

【概要】

山地の林内に生える夏緑性の多年草。植物体は、草丈10cm前後で、葉は４－５cmの葉柄があって、ほぼ五角形で浅い切れ込みがある。茎の下部に走出枝が出て、長く地表を這う。花は春に咲いて、茎の上部の葉腋に薄紫色の花を、まばらにつける。花冠は筒状で、上唇は２裂、下唇は３裂する。

本州、四国、九州に分布する植物である。

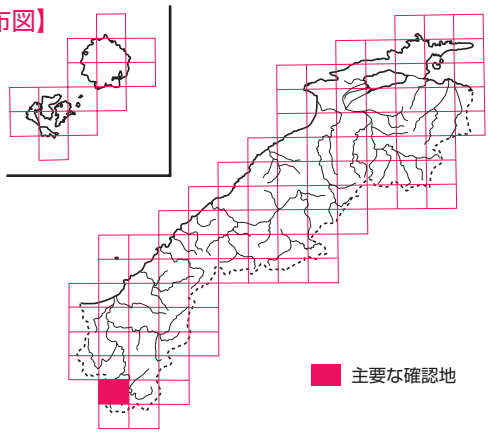
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はきわめて限られていて、石見西部の山地、谷筋の夏緑二次林内に生える。

【存続を脅かす原因】

樹林の遷移による環境変化が、個体群の消滅につながる心配がある。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

シソ目シソ科

コナミキ

Scutellaria guilielmi A. Gray

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

海岸の岩上などの草地に生える多年草。草丈は20cm前後で地中に走出枝をもつ。葉は卵形で長さ、幅とも１－２cmのもので対生する。花は春に咲き、葉腋に白色筒状の小花を単生する。

本州の関東以西、四国、九州、南西諸島に分布域がある。

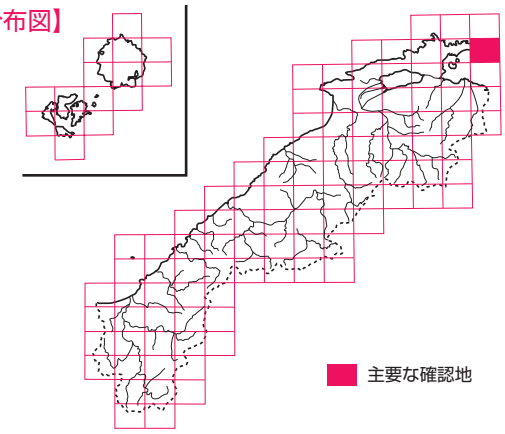
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は島根半島の一部にのみ知られていて、石見部海岸にも生育適地があり、分布が考えられるが、今のところ不明である。海岸の岩棚などの草地に生えている。島根半島での生育地は道路拡幅や、護岸工事によりかなり破壊され、個体数は激減している。

【存続を脅かす原因】

諸工事による生育地の破壊。釣人など、人の踏み込みによる影響。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																			○		

シソ目ゴマノハグサ科

ホソバママコナ

Melampyrum setaceum（Maxim.）Nakai

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵12

島根県固有評価：分布限界種（西限）

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は草丈は最大で50cmばかりで、披針形から広線形で、長さ５－６cm、幅１cm前後の葉を対生する。全体がやや紫色を帯びる。花は夏から秋にかけて咲き、茎頂、枝先に紅紫色の筒状花冠を有する花をつける。花冠は先で２唇形となり、下唇は３裂して、内面に２つの隆起部があって白色の班となっている。

国内では中国地方西部から四国北部、九州北部に分布して、朝鮮半島、中国東北部にかけての分布域のある植物。

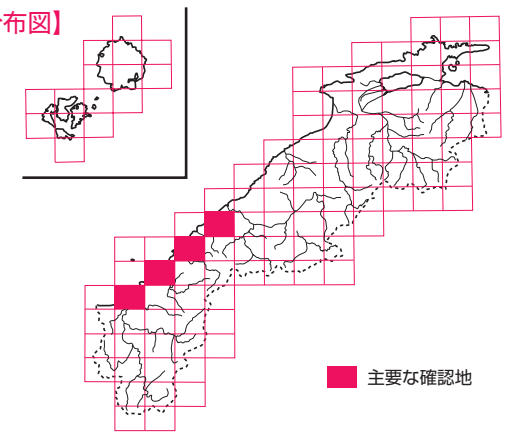
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部の海岸寄りの地に生育地がある。アカマツ林などの明るい林内から林縁に生育している。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移による環境変化により生育地によっては個体数が消滅した所もある。開発による生育地の破壊、消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○							○												

シソ目ゴマノハグサ科

ゴマノハグサ

Scrophularia buergeriana Miq.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

草原状地にはえる多年草で、茎は四角で高さ１m前後になる。葉は１－２cmの葉柄があって葉身は卵形、長さ７－８cm、幅３－４cmで対生する。花は夏に咲き、茎の上部に枝を分けて、総状花序に多くの花をつける。花冠は壺形で、先は唇形で、上唇は２裂、下唇は３裂して長さ６－７mm、黄緑色である。

国内では本州の関東地方から中部地方、中国地方そして九州に分布し、朝鮮半島、中国東北部に続く分布域がある。

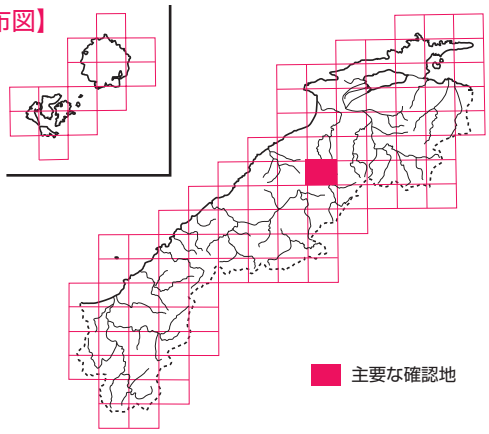
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中央部の山地草原に生育地が知られている。三瓶山の草原では人為的に攪乱された環境に群生している。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

シソ目ゴマノハグサ科

サンインクワガタ

Veronica muratae Yamazaki

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育はかなり限られていて、生育地での個体数も多くはない植物であるが、生育地の環境もさまざまであって、分布状況がはっきりと確認できない。

【概要】

山地に生えるやや小型の夏緑多年草である。植物体は茎が基部で分枝して、長さ10cmばかりに這い、草丈は５cmばかりにしかならない。葉は卵形で長さ２－３cm、幅１cmばかりで対生する。花は春に咲き、茎の上部の葉腋に短い花序に数個の花をつける。花冠は皿形で４裂し薄桃色、果実は蒴果で特徴的な扇形である。

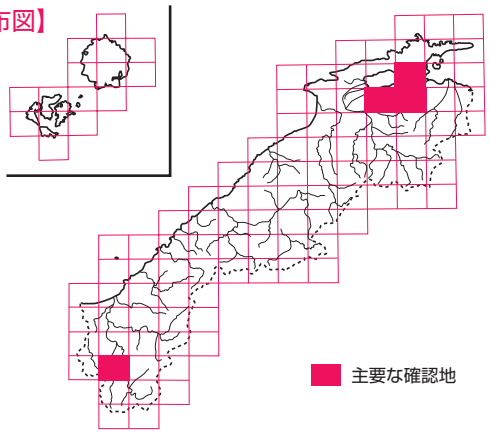
【県内での生育地域・生育環境】

国内の京都府あたりから島根県にかけて分布するとされるが、県内では特に出雲部に生育地が点在するが山地谷間、斜面、山地路傍、時にやや湿り気のある岩上にも生える。

【存在を脅かす原因】

樹林伐開、生育地乾燥化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

シソ目タヌキモ科

ノタヌキモ

Utricularia aurea Lour.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

特にこれまで多く見られた宍道湖湖北ため池群で衰退しているため、ランクをこれまでの準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類に変更した。

【概要】

本州以西の湖沼や溜池に群生する１年生の浮漂植物で弱酸性の水体を好む。長さ３－８㎝の葉は毛筆状にふさふさと立体的に分裂。花は淡黄色でイヌタヌキモに比べてやや小さい。種子はプリズム状で、縁に鈍い５～６稜がある。

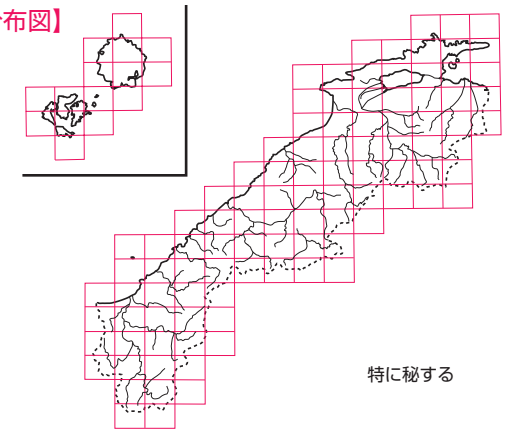
【県内での生育地域・生育環境】

宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部の溜池などにジュンサイやガガブタなどとともに生育。

【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△											○					○				

シソ目タヌキモ科

タヌキモ

Utricularia vulgaris L.var. *japonica* (Makino) Tamura

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

生育場所が限られているうえ、減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】

全国各地の湖沼や溜池、湿原などに生育する多年生の浮漂植物。葉は互生し密に付き、基部で２分枝し、さらに２～４回羽状に分裂、各裂片は細い糸状で同一平面上にあり、輪郭の長さ２－６㎝。節から高さ10－30㎝の花茎を水面上に直立させ、頂部に２～15個の黄色の唇形花を次々に咲かせる。国内では不稔集団がほとんどで、秋に植物体の先端に形成される殖芽（越冬芽）によって無性的に繁殖している。

イヌタヌキモとよく似るが、タヌキモの花茎の断面の中央部には小さな穴があるのに対しイヌタヌキモは中実であること、タヌキモの殖芽が濃緑色で５－20㎜ほどの大きさであるのに対しイヌタヌキモの殖芽が暗褐色で３－10㎜ほどの大きさであることなどで識別される。

【県内での生育地域・生育環境】

平野部及び丘陵部の池沼や溜池。

【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足。

【特記事項】

タヌキモは、イヌタヌキモと北海道にのみ生育が確認されているオオイヌタヌキモとの雑種である可能性が高いという最近の報告もあり、タヌキモ属の分類が再検討されている。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○						○					○					○				

シソ目タヌキモ科

ミミカキグサ

Utricularia bifida L.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：－

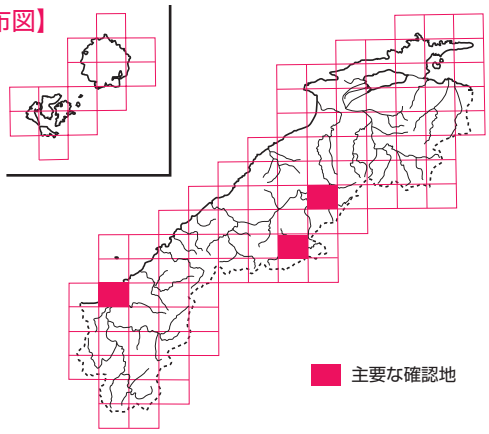
【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地によっては個体群が消滅しつつある。

【概要】
湿地に生える小型の多年草。植物体は泥土中を這う細い糸状の茎に長さ１㎝ばかりの地上葉を多数つけるだけのものである。夏から秋にかけて花をつける。高さ10㎝ばかりの花軸が地上に伸び、黄色で長さ３㎜ばかりの小花が数個ついて咲く。花後の全体の姿が耳掻きに似る。
国内では本州から四国、九州にかけて分布し、中国、マレーシア、オーストラリアなどに分布域があるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は限られているが、出雲部、石見部に点在し、山間の湿地や、池畔に生える。しばしばムラサキミミカキグサとともに生える。

【存続を脅かす原因】
生育地での遷移による草原化。湿地の埋め立てなどによる生育地の消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○					○					○									

シソ目タヌキモ科

ムラサキミミカキグサ

Utricularia yakusimensis Masam.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

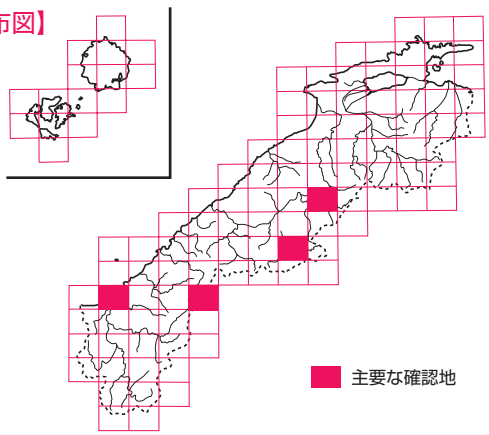
【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地によっては個体群が消滅しつつある。

【概要】
湿地に生える小型の多年草。植物体は泥土中を這う糸状の茎に長さ５－６㎜ばかりの地上葉を多数つけるだけのものである。夏から秋にかけて花をつける。泥土中の茎から高さ15㎝ばかりに花軸が地上に伸び、花軸の先に紫色で長さ３㎜程の小花が数個ついて咲く。
北海道から本州、四国、九州は屋久島までの範囲にかけて分布する植物とされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は限られているが、出雲部、石見部に点在し、山間の湿地や池畔に生える。しばしば、ミミカキグサとともに生える。

【存続を脅かす原因】
生育地での遷移による草原化、樹林化。湿地の埋め立てなどによる生育地の消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○					○					○									

マツムシソウ目スイカズラ科

ヤマヒョウタンボク

Lonicera mochidzukiana Makino var. *nomurana* (Makino) Makino

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑の低木で高さ１m程のもの、枝は四角で稜がある。葉は楕円形で長さ５cm、幅３cm程で薄く、軟かく、対生する。花は春に咲き、葉腋の短い花序に２花をつける。花冠は２唇形で長さ１cmばかり、白色から淡黄色である。果実は夏に赤く熟れる。

本州の東海地方以西、四国、九州に分布域があるものとされる。

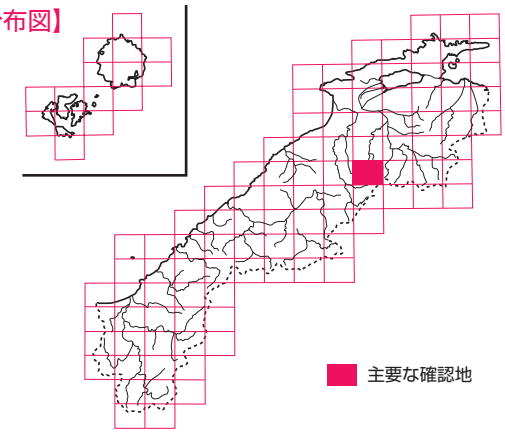
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部の中国山地脊梁部にのみ、きわめてまれに見られる。ブナ林内にきわめてまれに生える。国内での他地域では、時に石灰岩地や蛇紋岩地に見られるものとされることなどから考えて、県内での生育地は少しばかり、特異的な状態であることも考えられる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

マツムシソウ目スイカズラ科

ヒョウタンボク

Lonicera morrowii A. Gray

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑の低木で、高さは１－２mになるものとされるが県内での生育地では50cmにも満たないものである。葉は対生して、広楕円形、長さ５cm、幅３cmばかりで、多くは円頭、円脚である。葉裏には軟毛が密生する。花は春に咲き、葉腋の短かい花序に２花をつける。花冠は５裂して、裂片は線形で長さ１cm、幅２mm前後で花径約２cm。白く咲いて後黄色に変わる。果実は液果で赤く熟れ、ほぼ球形で径６－７mm。

北海道南西部から本州の日本海側に分布するとされる。

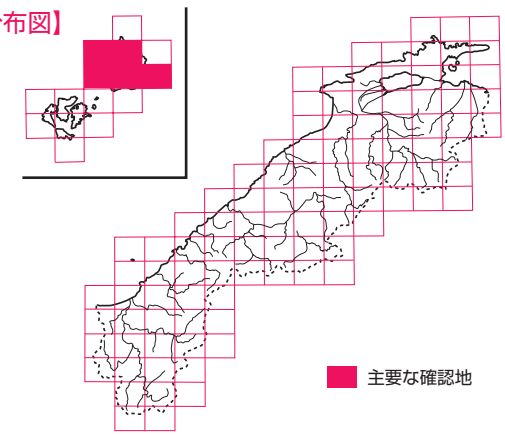
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐（島後）にのみ知られていて、海岸の砂礫地に生えている。出雲部、石見部での生育地は不明である。

【存続を脅かす原因】

砂礫地での遷移と波浪等による生育地の自然破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○																○		

マツムシソウ目スイカズラ科

カンボク

Viburnum opulus L. var. *calvescens* (Rehder) Hara

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

夏緑性の低木で、高さ３mばかりになる樹種。葉は広卵形で長さ、幅とも10cm前後で、上部で３中裂し、対生する。花は初夏の頃に咲き、枝先の散房花序に多くの小花をつける。花序の外側の花は不稔の花で大きく５深裂して径３cmばかり、白色で、裂片は広倒卵形で径１cm程である。内側の正常花は径５mmばかりの黄白色の小花である。果実は核果でほぼ球形、長さ１cm程で赤く熟れる。

北海道から本州中北部に多く、本州西部にも分布するがまれとなる。

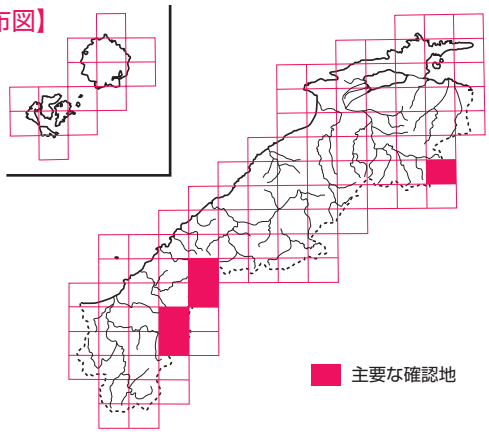
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の山地にまれに生育地が存在する。おもに冷温帯林域にあって、谷筋の湿り気の強い立地に生えるが、一部では山地尾根筋のやや乾燥立地にも生えている。

【存続を脅かす原因】

遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			○		○				○										

キキョウ目キキョウ科

フクシマシャジン

Adenophora divaricata Franch. et Savat.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地の草原状地に生える夏緑性の多年草。植物体の草丈は、茎が高さ50cmばかりで、葉はほぼ楕円形で長さ５－６cm、幅２－３cmばかり、輪生し、多くは３輪生である。花は夏から秋にかけて咲き、茎の上部で円錐状にまばらに花をつける。花冠は鐘形で、長さ２cm程、先は少しばかり広がり、浅く５裂して薄紫色である。

国内では本州中北部から、中国山地に分布し、朝鮮半島、中国東北部に続く分布域がある。

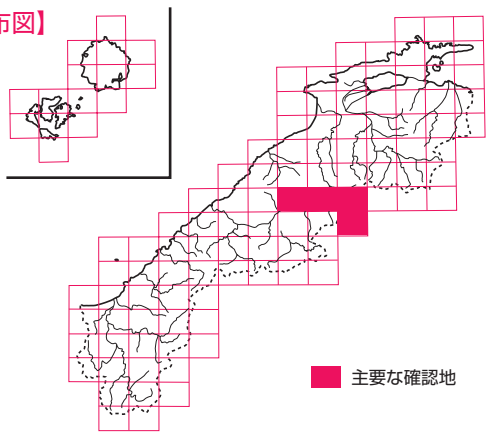
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地沿いの地、特に出雲部の山地にまれに生育地が存在する。多くは林縁の草原状地、山道などのかたわらで、しばしば道や耕作地の管理のために刈り払いがされる場所に生える。

【存続を脅かす原因】

山道、林縁の管理放棄による生育地での遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○	○			○	○												

キキョウ目キキョウ科

サワギキョウ

Lobelia sessilifolia Lamb.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

湿地に生える夏緑性の多年草。植物体は、茎が高さ50cmから時に１m程にもなる大形のもので、葉は披針形で長さ５－６cm、幅１cmばかりで互生し、茎の上部では小型の葉となる。花は夏から秋にかけて咲き、茎の上部に総状花序となって多数の花がつく。花冠は長さ３cmばかりの唇形で、濃い紫色で美しい。上唇は２裂、下唇は３裂して裂片の縁には長い毛が生える。

国内では北海道から四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国、千島、樺太などにも分布が続く。

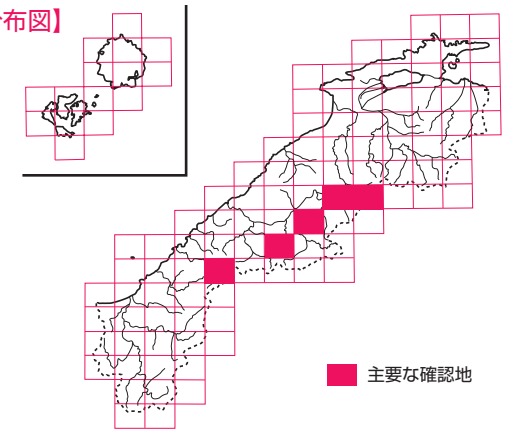
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の山間湿地、湿原状地や池畔にややまれに生える。生育地の中には遷移によって樹林化し、消滅した場もある。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○						○														

キキョウ目キク科

ヒッツキアザミ

Cirsium congestissimum Kitamura

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵12

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も減少している。

【概要】

山地草原に生える夏緑多年草であり、アザミ類の一種である。

植物体は長楕円形の長さ20cmばかりの葉を数枚根生するもので、開花株は高さ１mばかりに伸び、長楕形で多くは羽状中裂の葉を互生し、上部で短く分枝して頭花をつける。頭花は幅２cmばかりで短い柄か、あるいは無柄で数個が集まりつくことが特徴的である。総苞片の先は鋭く反り返る。

本州の近畿地方と中国地方の高所に分布する。

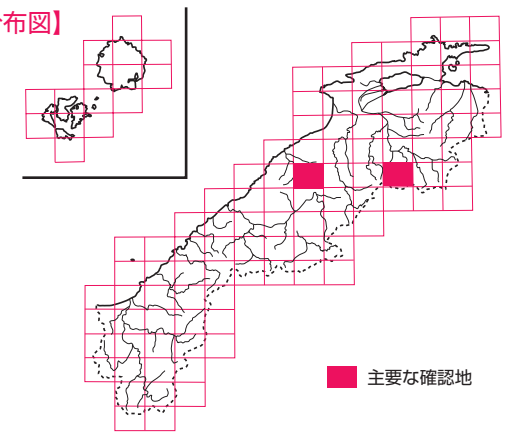
【県内での生育地域・生育環境】

県内では三瓶山と中国山地脊梁部にまれに生育地がある。山地尾根筋の登山道などの傍らの草原状地などに生える。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移、特に樹林化による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○																

キキョウ目キク科

モリアザミ

Cirsium dipsacolepis（Maxim.）Matsumura

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も激減している。

【概要】

山地草原に生える夏緑多年草であり、アザミ類の一種である。

植物体は長楕円形で長さ20cmばかりの葉を数枚根生するものである。開花株は高さ１m程になり、長楕円形で多くは羽状に裂ける葉を互生し、上部で分枝し、枝先に頭花をつける。花は秋に咲き、頭花は幅３－４cmあって、総苞片は幅広く、長く開出するのが特徴的である。

国内では本州、四国、九州に分布域がある。

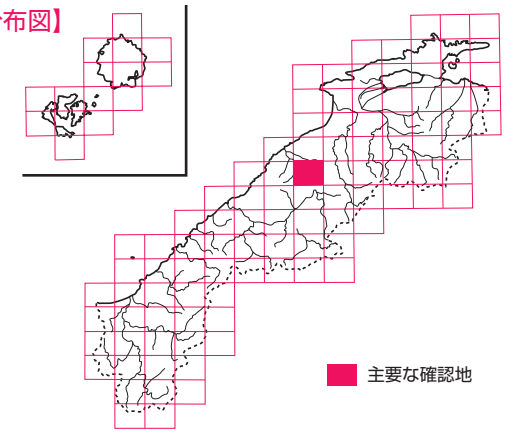
【県内での生育地域・生育環境】

県内での明らかな生育地は三瓶山山頂部にあるが、その他の地域でのことは明らかではない。

【存続を脅かす原因】

草原の樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

キキョウ目キク科

テリハアザミ

Cirsium lucens Kitamura

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山間の川辺などのやや水湿地に生える多年草で、大型のアザミ類の一種である。

植物体は長さ50cm、幅も20cm前後の大きな葉を多数根生するもので、葉はさらに羽状に中裂するものである。花は秋に咲き、高さ50cm以上、時には１m以上にもなる太い花茎を伸ばし、分枝して、枝の先に頭花が点頭してつく。

本州では中国地方に分布し、四国、九州に分布するものとされる。

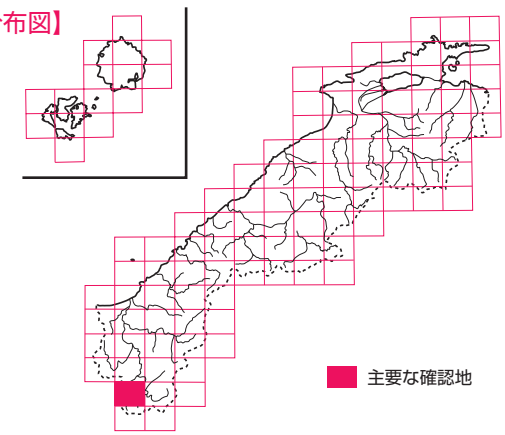
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部の一部にだけ分布して、きわめてまれな植物である。川辺の砂泥堆積地から斜面下部の水湿地に生えている。

【存続を脅かす原因】

樹林の伐開による生育地の環境変化と洪水による生育地の破壊、個体の流失などが考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○				○															

キキョウ目キク科

サンベサワアザミ

Cirsium tenuisquamatum Kitamura

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵12

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られてきている。生育地での個体数も少なくなってきている。

【概要】

山間の川岸などのやや湿り気の多い土地に生える夏緑性の多年草。アザミ類の一種である。

葉は長楕円形、長さ30cm、幅10cmばかりで、羽状中裂し、根生する。花は秋に咲き、高さ30－50cm程の花茎を立てて、少しばかりの枝を出し、枝先きに頭花をつける。頭花は径５cm程で、この地方のアザミ類の中ではもっとも大きい方である。頭花は開花時点頭して、花後に直立する。

中国地方固有の植物であり、島根、鳥取、岡山、広島県にのみ生育地が知られている。

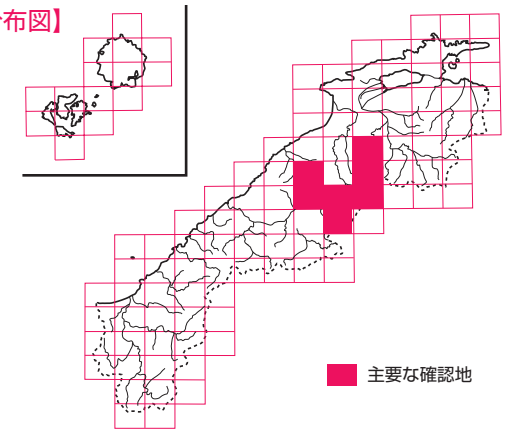
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部西部から石見部東部にかけての山間に分布し、水田脇の畔、川土堤など、比較的人為の影響がある土地に多く生えていた。

【存続を脅かす原因】

水田区画整理、農道整理などによる影響。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○					○				○	○										

キキョウ目キク科

オオモミジガサ

Miricacalia makineana（Yatabe）Kitamura

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

【概要】

深山渓側に生える夏緑性の多年草である。植物体は幅30cmばかりにもなるやや大きなほぼ円形の葉を根生し目立つ。葉は掌状に中裂し10片程の裂片に中裂し、基部は深い心形であり、両面に毛が多いものである。花は夏から秋にかけて咲き、高50cm程から時にそれ以上の高さに花茎を立て、10個ばかりの頭花をつける。頭花は20個ばかりの筒状花だけからなり、花冠は黄色で、時に美しい。

本州の東北地方南部から四国、九州に分布し、日本特産の植物である。

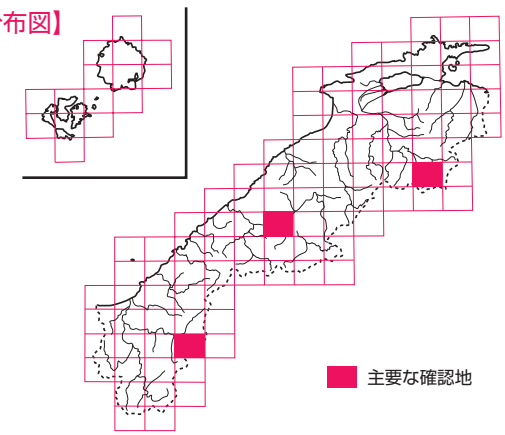
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地沿いの深山渓側に２～３の生育地が知られているが、もともと、生育地での個体数は僅かである。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の環境変化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

キキョウ目キク科

カシワバハグマ

Pertya robusta（Maxim.）Beauv.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：－

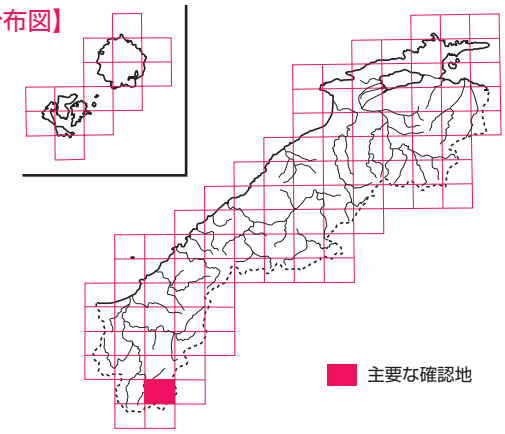
【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も僅かである。

【概要】
山地林内に生える夏緑性の多年草。草丈は開花株で50cmばかり、葉は広楕円形で、長さ10cmばかり、茎の中程に互生して集まりつく。花は秋に咲き、茎の先端部に数個の頭花をつける。頭花は長さ３cm程で、10花ばかりの筒状花からなる。花冠は５裂して、裂片は線形で白色。
本州、四国、九州に分布する植物。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では石見部にのみ生育地が知られていて、その他の地域では不明である。崖錐状地でやや林床が乾燥する立地に生える。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開による生育地の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

キキョウ目キク科

ヤマザトタンポポ

Taraxacum arakii Kitamura

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵12

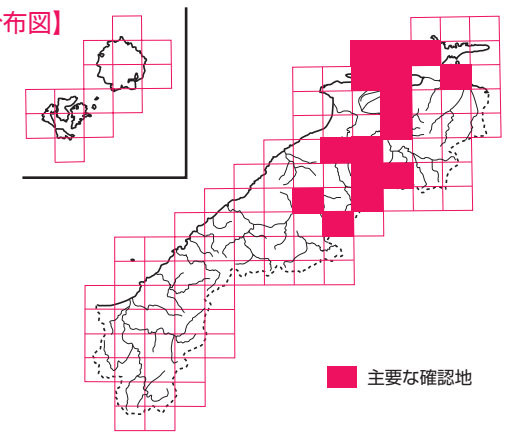
【選定理由】
県内での生育地は少なくなり、限られてきている。生育地での個体数も多くはない。

【概要】
里地から山地の陽当りのよい草地に生える多年草。長さ20cmばかりになる倒楕円状披針形で羽状に中裂する葉を多数根生して、葉腋から花茎を数本立てて、先に１個ずつ頭花をつける。頭花は径３cmばかり、総苞は花時に長さ２cm、幅１cmばかり。外片は内片の半長に達し、長楕円状披針形で、縁は膜質半透明で、先端部に小角突起がある。
本州の近畿地方、中国地方から四国にかけて分布するとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内ではおもに出雲部に生育地があって、里地から山地にかけて、耕作地周辺及び山際の草地に生える。石見部にもまれに分布している。耕作地周辺の草地では近年、生育地が消滅した場が多い。

【存続を脅かす原因】
土地区画整理、除草剤散布など人為による生育地破壊や個体群消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○								○	○				○	○						

キキョウ目キク科

クシバタンポポ

Taraxacum pectinatum Kitam.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類VU

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵12

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も少ない。

【概要】

里地の路傍や草地に生える多年草。葉は長さが20～30cm、線状披針形で、典型的な個体では櫛状に深裂する。花茎は葉腋より多数立てて、上端に密毛が生える。頭花は3.5～４cmで、総苞は長さ約２cmで、卵形または卵状長楕円形である。本州の富山県以西、四国に分布する。

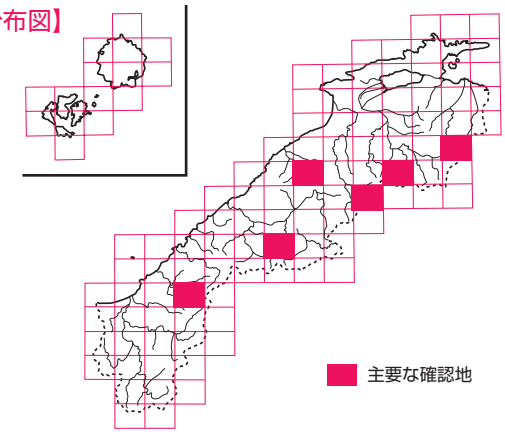
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部および石見部に点々と分布する。日当たりの良い路傍や耕作地の畦などに生育する。

【存続を脅かす理由】

圃場整備、土地造成、除草剤散布などの人為的攪乱。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○							○	○											

リンドウ目トチカガミ科

トチカガミ

Hydrocharis dubia（Bl.）Backer

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵12

【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や水路の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】

北海道を除く全国各地の富栄養化した湖沼、溜池、水路などに群生する浮遊性の多年生植物。水中茎が水面直下を横走し、節から発根して水中に垂らす。長さ５－20cmの葉柄をもつ葉身は初めは巻いているが、成長すると径５cmほどの心臓形の浮葉となる。浮葉の表面は緑色で光沢があり、裏面には泡沫様の気嚢があり、淡緑黄色で光沢は無い。花には雄花と雌花があり、どちらも花弁は３枚で白色。秋から冬にかけて水中茎の先端が長さ２－５cmの殖芽となり、水底に沈んで越冬する。時として水面を密に覆いつくすことがあり、その場合には葉は気中葉となり、気嚢は目立たない。ホテイアオイのように水中に根を伸ばすため、栄養塩濃度の高い水体を好む。もともと県内での産地は多くないようである。

【県内での生育地域・生育環境】

富栄養化した溜池。

【存続を脅かす原因】

除草剤の使用並びに埋め立てによる生育地の消滅。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○										○		○			○		○				

イバラモ目トチカガミ科

セキショウモ

Vallisneria asiatica Miki

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育場所が限られている。

【概要】

全国各地の湖沼溜池、及び比較的きれいな流水中に群生する多年生の沈水植物。

径２㎜ほどの細い平滑な地下茎（走出枝）を伸ばし、各節から長さ10－80㎝、幅５－８㎜の線形リボン状の葉を叢生する。やや黄色みがかった葉は軟質で、上縁に微鋸歯があるが、下方では鋸歯がなくなる特徴がある。雌雄異株で雄花と雌花があり、雌株は糸状の長い花柄を水面まで伸ばし、小さな白色の雌花を水面に浮かべる。雄花は株の基部に生じ、長さ１－３㎝の花柄の先の薄い袋状の包鞘中に多数詰まっている。セキショウモは典型的な水媒花で、成熟すると包鞘の上部が破れて雄花が水面に浮上し、花粉を放出する。受粉後に雌花の花柄はらせん状に短縮して水中に沈み、水中で結実する。果実の内部には長さ２－４㎜の種子が多数形成され、透明な粘液に包まれている。セキショウモの形態は同属のコウガイモや沈水性のミクリ属と似ているが、鋸歯の有無や葉脈を観察することで容易に識別される。ミクリ属は葉縁に鋸歯が無く、葉脈は目立たず長方形の細胞が規則的に並ぶが、セキショウモは数本の葉脈が明瞭。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部の溜池と宍道湖。

【存続を脅かす原因】

富栄養化並びに護岸工事による浅場の消失。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○												○					○				

イバラモ目ヒルムシロ科

オヒルムシロ

Potamogeton natans L.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育場所が限定されている。

【概要】

全国各地の湖沼や河川中に群生する多年生の浮葉植物で、浮葉と沈水葉を持つ。浮葉は長さ15－20㎝の葉柄を持ち、葉身は全縁で長さ10－15㎝、幅４－７㎝の長楕円形あるいは広楕円形。表面は平滑で光沢があり、裏面は緑褐色で５～７脈がやや隆起して顕著。水中の葉は暗褐色で、長さ15－30㎝、幅２－３㎜の硬く細長いひも状であり、この点で似たような浮葉をもつヒルムシロやフトヒルムシロと区別できる。沈水葉の断面は半月状。夏に浮葉の葉腋から長さ５－10㎝の花茎が上方に伸び、その先に長さ４－６㎝の黄褐色の穂状花序をつける。

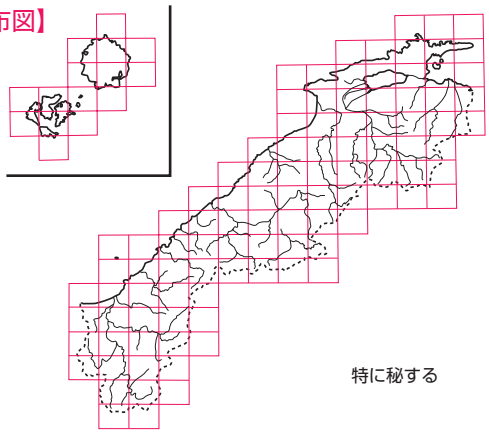
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島、県西部の河川、用水路など。

【存続を脅かす原因】

河川改修と人為的な刈り取り。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○	△			○	○				○	○				○	○				

イバラモ目ヒルムシロ科

リュウノヒゲモ

Potamogeton pectinatus L.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】
汽水域という限られた場所にのみ生育すること。遷移による生育地の水質変化及び河川改修による自生地の消失。

【概要】
全国各地の湖沼や河川、水路に生育する多年生の沈水植物。海水と淡水の入り混じる河口汽水域が主要な生育場所であるが、内陸部であっても、水中のイオン濃度の高い湖沼にはしばしば生育する。

水中茎は盛んに分枝し、無柄で全縁、長さ５－15cm、幅0.5－１㎜の針状の沈水葉を互生する。葉の基部は托葉と合着して茎を抱き、長さ１－３cmの葉鞘となる。６～10月の花季には水中茎の上方の葉腋から長さ５－20cmの花茎を水面に伸ばし、長さ１－４cmの花穂をつけるが、花茎は細い糸状なので直立せず、水面に横たわって受粉する。秋頃に地下茎の先端部が肥厚し、長さ５－15㎜の塊茎が形成される。

【県内での生育地域・生育環境】
中海の干拓地内の排水路や池、及び神西湖の流入河川などから報告がある。生育場所となっている干拓地内の排水路と池の塩分は年々低下するため、いずれエビモなどの淡水の種に置き換わると予想される。近年、大橋川や宍道湖でも観察されている。

【存続を脅かす原因】
遷移による汽水環境の消失及び河川改修。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
◎	○																				○	○

イバラモ目ヒルムシロ科

カワツルモ

Ruppia maritima L.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

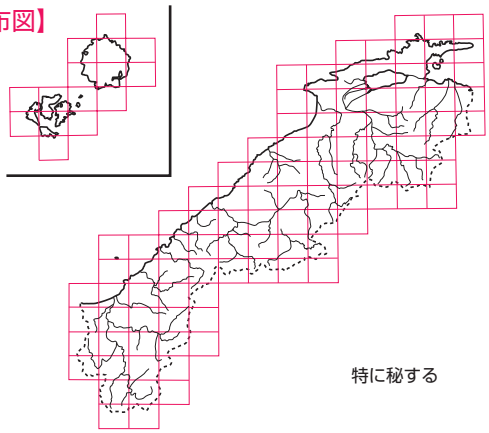
【選定理由】
汽水域という限られた場所にのみ生育すること。遷移あるいは人為的な要因による生育地の水質変化及び河川改修による自生地の消失。

【概要】
全国各地の海岸沿いの湖沼や河川河口域、あるいは干拓地内の一時的な水溜まりなどに生育する多年生（または１年生）の沈水植物。地下茎の各節から水中茎が伸びる。葉は長さ５－15cm、幅約0.5㎜の糸状で先端は鋭頭、基部は葉鞘となり茎を抱く。葉縁に鋸歯があることでリュウノヒゲモとの区別点となる。生活環の長い間にわたり、次々と特徴のある散形花序を展開する。

【県内での生育地域・生育環境】
中海とその干拓地内の排水路や池、及び日本海に面した池などから報告がある。中海本庄水域内ではほぼ全域にわたって点々と分布し、特に宮ケ鼻・弁慶島付近には大きな群落が形成される。近年、大橋川にも生育。

【存続を脅かす原因】
遷移あるいは人為的な要因による汽水環境の消失及び河川改修。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
◎																					○	○

イバラモ目イトクズモ科

イトクズモ(ミカヅキイトモ)

Zannichellia palustris L.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】
汽水域という限られた場所にのみ生育すること。遷移あるいは人為的な要因による生育地の水質変化及び河川改修や埋め立てによる自生地の消失。この数年で産地が拡大したため、ランクをこれまでの絶滅危惧Ⅰ類から絶滅危惧Ⅱ類に変更した。

【概要】
全国各地の海岸沿いの湖沼や河川、水路に生育する多年生（または１年生）の沈水植物。海水と淡水の入り混じる河口汽水域が主要な生育場所であるが、リュウノヒゲモ同様、内陸部であっても水中のイオン濃度の高い湖沼には生育する。地中を這う地下茎から径１㎜以下の糸状の水中茎が伸び、無柄で長さ２－８㎝、幅0.5㎜ほどの線形の葉が対生または輪生する。雌雄同株で雄花と雌花が同じ葉腋に並んでつき、受粉は水中でおこる。果実は特徴的で、長さ４－７㎜の三日月形で背面にまばらに波状の突起がある。果実の無い状態ではしばしばイトモあるいはホソバミズヒキモと誤同定されている。

【県内での生育地域・生育環境】
宍道湖と日本海を結ぶ佐陀川で1994年７月に再発見され、その後中海のいくつかの干拓地での自生が確認され、最近では大橋川や天神川でもみつかっている。

【存続を脅かす原因】
遷移あるいは人為的な要因による汽水環境の消失。

【特記事項】
鳥取県で絶滅危惧Ⅰ類、広島県で絶滅危惧種に指定されている。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																○	○				○

イバラモ目イバラモ科

イトトリゲモ

Najas japonica Nakai

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

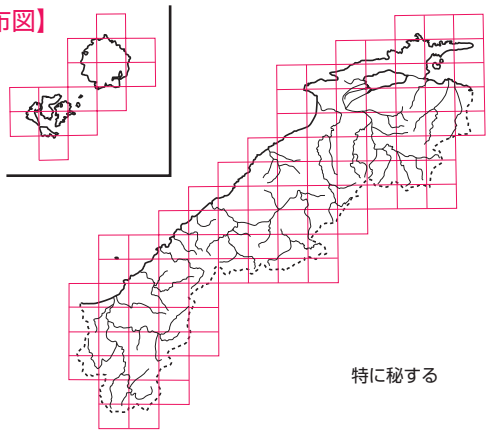
【選定理由】
除草剤の影響のほか、減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や側溝の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】
全国各地の溜池や水田、溝に生育する沈水植物。茎は糸状で、全長10－30cmほど。葉は５輪生で葉身は長さ１－２㎝、幅約0.2㎜の糸状、葉縁に鋸歯がある。各節の葉腋に雄花１つと雌花２つが並んでつき、果実は２個ずつ並んでできる。種子は長楕円形で長さ約２㎜、表面に縦に長い長方形の網目模様がある。同属のホッスモとは、ホッスモの葉鞘の先が耳状に突き出て尖ることのほか、葉腋の種子の数と種子の模様で区別できる。

【県内での生育地域・生育環境】
県東部の溜池で記録があるが、中部・西部では詳しい調査が行われていない。

【存続を脅かす原因】
除草剤の使用及び農業形態の変化による溜池の管理不足と水路のコンクリート化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△								○					○						

ユリ目ユリ科

カタクリ

Erythronium japonicum Decne.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は地中深くに鱗茎があって、それから軟らかく長い柄を持った広楕円形の葉身がつくもので、葉身だけが地上にみられる。葉は未成熟な個体では１枚、成熟した個体ではほとんどが２枚つく。葉身には独特な斑紋がある。花は春に咲く。開花株では高さ20－30cmの花茎を出し、先端に一花がつく。花冠は紅紫色で、花は下向きに咲き、花被片は６枚で、上にそり返る形で咲く。花被片のつけ根には独特な濃紫色の斑紋がある。夏までに地上部は枯れる。

国内では北海道から本州、四国、九州に分布するが北海道などの北方に多く生える。樺太、朝鮮半島、中国にも分布する。

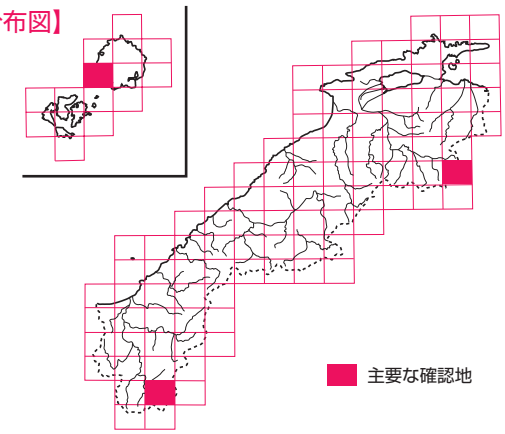
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地や隠岐（島後）にまれに生育地がある。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による環境変化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	○	○																	

ユリ目ビャクブ科

ヒメナベワリ

Croomia japonica Miq.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地林内に生える多年草で、草丈は30cmばかり。葉は卵状楕円形で長さ10cm、幅５cmばかりで、６－７枚を互生する。花は春に咲き、葉腋に長さ３cmばかりの細い花柄を垂らし、先に黄緑色の小花をつける。花も下向きに咲く。

本州の中国地方から四国、九州、南西諸島に分布する植物である。

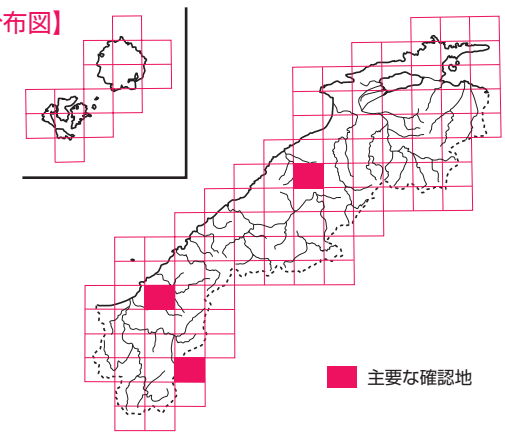
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部に生育地が点在する。夏緑二次林から夏緑樹の多い照葉二次林、さらにスギ人工林内にも生えるが、いずれの場合も個体数は多くはない。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

ユリ目キンバイザサ科

コキンバイザサ

Hypoxis aurea Lour.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵13

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地に生える夏緑性のやや小型な多年草。地中の塊状の根茎から長さ10cmばかりで線形の葉を数枚束生する。植物体全体に長い毛がある。初夏の頃に花をつける。花は葉腋から出る長さ10cmばかりの細い花茎の先に数個がつく。花被片は６枚で長さ５㎜ばかりで黄色である。果実は蒴果で長楕円形、長さ１cm程のものである。

本州の関東地方以南、四国、九州、南西諸島に分布し、中国、マレーシア、インドなどの南方に分布域があるとされる。

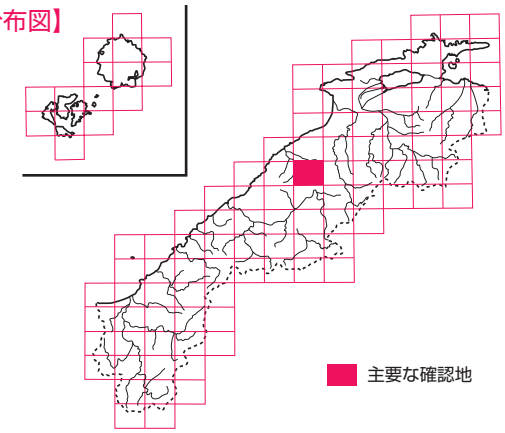
【県内での生育地域・生育環境】

県内では現在、三瓶山にだけ生育地が知られている。シバスゲなどの高さの低い草原内に生えている。

【存続を脅かす原因】

人為的な草原の破壊、遷移による樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

ユリ目ミズアオイ科

ミズアオイ

Monochoria korsakowii Regel et Maack

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

除草剤による影響のほか、近年では県内各地の圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移によって生育場所が減少。

【概要】

全国の池沼、水路、休耕田などに生育する１年生の大形抽水植物。葉は根生し、高さ30cmから時に１ｍを越える。葉はスペード形で葉身の長さと幅は５－20cmで先が尖る。葉柄基部の葉鞘から葉の高さを越えて花茎が立ち、頂部にヒアシンスの花形に似た長さ10－15cmの総状花序をつける。花径は2.5－３cmで１花序に数個から数10個の花がつく。花は匂い、花被片は鮮やかな青紫色。花後、花茎が下向きに折れ曲がり、円錐または三角錐状の果実ができる。果実は熟すと３裂して、１㎜ほどの黒色の種子を多く出す。

【県内での生育地域・生育環境】

斐川平野の水田。大橋川河口左岸域の休耕田や神西湖に流入する河川と周辺の休耕田で以前その生育が確認されているが、近年は確認されていない。

【存続を脅かす原因】

除草剤による影響及び水田の乾田化と放棄水田の増加。小河川や水路のコンクリート化。アメリカザリガニ等による食害。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○															○						

ユリ目アヤメ科

ヒメシャガ

Iris gracilipes A. Gray

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、本来、県内での自生のものか不明な点がある。

【概要】

根茎は地中または地上を這い、分枝して枝の先端に数枚の葉を２列につける。葉は淡緑色で、長さ20－30cm、幅１cm程の線形葉で先端はやや垂れる。花は春に咲くが、細く硬い花茎を葉より少し長く出し、２～３の枝を分けて花がつく。花被片は淡紫色で、外花被片が大きく、濃紫色の條と黄色の斑紋がある。

北海道西南部から本州、四国、九州北部に分布域があるとされるが、中国地方では分布が知られていないとする資料もある。

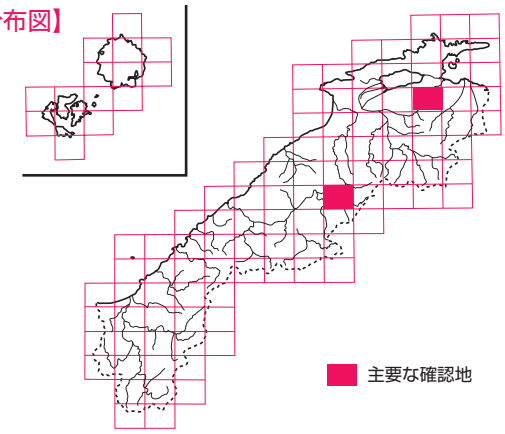
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部に生育地が知られていて、山林内から林縁の草地に自生状態として見られる。しかし、山林内のものも過去における峠の茶屋が存在したとされる場であり、林縁のものも民家に近く、本来の自生のものとしては疑わしい点もある。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

ツユクサ目ホシクサ科

オオホシクサ

Eriocaulon buergerianum Koernicke

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える１年草で、地際に線形の長さ10cmばかりの葉を根生状に多数つける。花は夏に咲き、高さ20cm程の花茎を多数立てて、それぞれに頭花を１個ずつつける。頭花は半球形で径５㎜前後のもの。総苞片は広倒卵形で頭花より短い。頭花は白色で、花苞の上半部背面には白色の短毛が多いが、萼裂片には上縁にのみ白色短毛があって背面にはない。

本州の近畿地方以西、四国、九州、南西諸島から中国に分布域があるとされる。

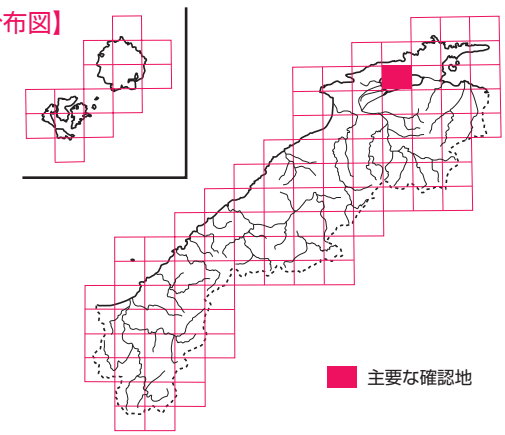
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部の一部にのみ生育地が知られていて、その他の地域での分布状況は不明である。溜池の池畔に生える。

【存続を脅かす原因】

溜池の管理放棄。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																	○				

イネ目イネ科

トウササクサ

Lophatherum sinense Rendle

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も限られている。

【概要】

山地に生える夏緑の多年草。地中の根茎から２～３枚の葉をつけて生え、開花株は高さ50cmばかりに稈を立て、長さ20cm、幅３cmばかり広披針形の葉をつけ、上部の円錐花序に小穂をつける。花は夏から秋にかけて咲き、小穂は長さ８mm程でやや扁平となり背面がふくれてきて、特徴的な形状となる。

本州の中部以西、四国、九州に分布して、中国中部にも分布するものとされる。

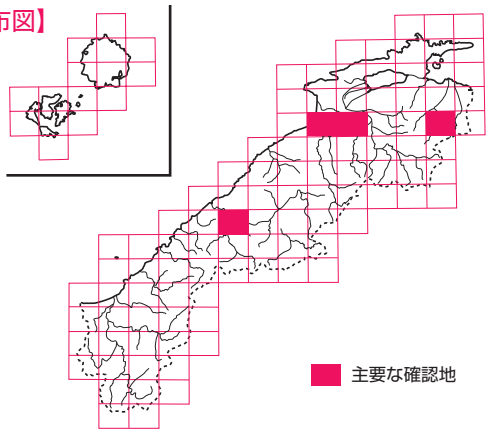
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部に２～３の生育地が知られている。隠岐諸島での分布状況は不明である。県内での生育地はいずれも山地の林縁部にあって、中には路傍にあって、消滅の危険性が大である。

【存続を脅かす原因】

路傍、林縁の管理による生育地の破壊、遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○				○													

タコノキ目ミクリ科

ヒメミクリ

Sparganium stenophyllum Maxim.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれな状態となっている。

【概要】

浅い水中から水湿地状態の土地に生える抽水植物の一種である。植物体は草丈50cmばかり、葉はほぼ線形で、下部の葉は長さ30cm、幅５mmばかりあるが、上部のものは短い。花は夏前に咲き、茎に互生する葉の葉腋に球状の花序をなしてつく。下方につく１～３個の花序は雌雄花序で、上部に５～６個の雄性花序をつける。

分布としては日本全国から朝鮮半島、中国東北部の範囲にあるものとされる。

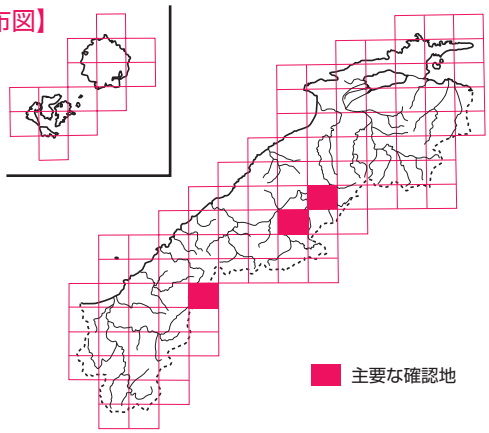
【県内での生育地域・生育環境】

県内では山地の水湿地や溜池などの池沼に生育地が点在するが、きわめてまれな状態となっている。特に溜池では池の管理放棄によって遷移して個体群が消滅してきている。

【存続を脅かす原因】

水湿地、溜池の管理放棄による遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○						○					○									

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

マシカクイ

Eleocharis tetraquetra Nees

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

水湿地に生える草丈50cmばかりの多年草。植物体は地中の根茎から高さ50cmばかりの４稜形の稈を多数束生するだけのものである。葉は稈の基部に葉鞘だけに退化したものがつく。花は夏から秋にかけて咲き、稈の先端に１個だけつく小穂につく。小穂は卵状長楕円形で長さ１cm、幅３－５㎜ばかりで、刺針状花被片は６本、下向きの刺針が密生する。

本州の中国地方から四国、九州、南西諸島に分布し、さらに中国からマレーシアなどの南方に分布が続くものとされる。

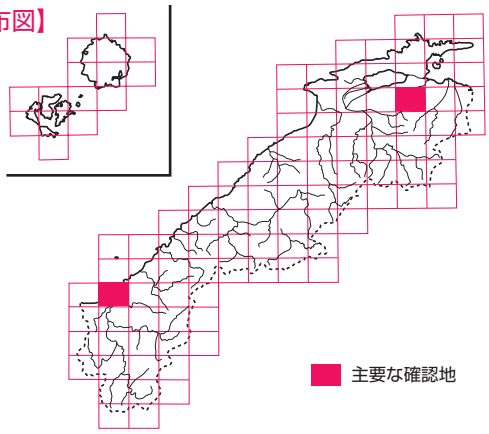
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部西部に明らかな生育地が知られるが、他の地域でのことは不明である。島根半島にも分布したが、これは開発により消滅した。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による樹林化、水湿地の埋め立てなど。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○										○					○				

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

アンペライ

Machaerina rubiginosa（Spreng.）T. Koyama

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地はいずれもきわめて小規模なものである。

【概要】

水湿地に生えるやや大形の多年草である。葉は円柱形で径３㎜ばかり、長さは１m程になって、地下茎に数枚が根生する。花は夏前に咲き、葉とほぼ同長な茎の先端に少しばかりの枝を分けて、多くの小穂につく。

国内の本州東海地方以西、四国、九州、南西諸島から熱帯アジアに分布する。

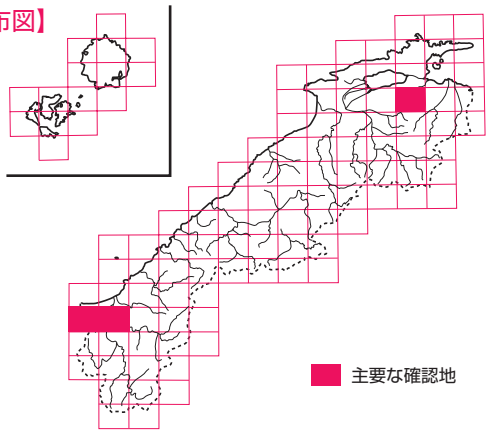
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部と石見部の一部に生育地が知られている。いずれの生育地も溜池の池畔であって、浅い水中から岸辺の砂泥堆積地に生え、群生する。

【存続を脅かす原因】

溜池の埋め立て、改修工事による生育地の消滅。管理放棄による生育地の遷移による樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○										○					○				

ラン目ラン科

ヒナラン

Amitostigma gracile (Blume) Schltr.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内での生育地はややまれで、近年、消滅した生育地が多い。

【概要】

植物体は長さ５㎝前後、幅１－２㎝程の長楕円形の１枚の葉をもつやや小型のものである。花期は初夏の頃で、花茎を10－15㎝程の高さに薄紫色の小花を10花程つける。多くは露岩地、岩壁に生え、時には人工的な岩壁にも生えることもある。

国内では関東地方以西から四国、九州に分布するものとされる。

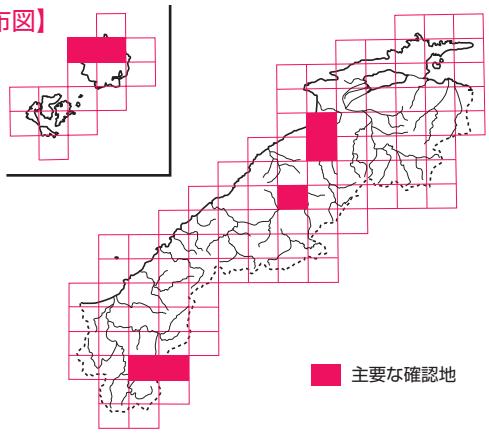
【県内での生育地域・生育環境】

県内では全域の山地に生育地が点在している。過去においては路傍の人工的な岩崖などにも生育するものが見られたが、多くはその場の遷移による草原化、樹林化や道路の拡幅工事などにより生育地の破壊などがあって、生育地は明らかに減少してきている。

【存続を脅かす原因】

山地岩場での樹林化、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○					○						○									

ラン目ラン科

エビネ

Calanthe discolor Lindl.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内全般に分布域があって生育地もかなり知られているが、いずれも生育地での個体数は僅かであり、生育地及び個体群の消滅が心配される。

【概要】

山地林内の林床に生える夏緑の多年草で、地中に球形の偽球茎をもち、長卵状楕円形の長さ20㎝、幅５㎝前後の葉を２～３枚地上に展開させる草丈20－30㎝程の植物。春先に葉間から高さ30㎝ばかりの花茎を立てて10～20花程の花をつけ美しく咲く。花被片は暗褐色であるが、唇弁は白色から淡紅色である。

北海道西南部から本州、四国、九州、南西諸島に広く分布域がある。古来より栽培する人が多く、山野に自生するものの採取が続いている。

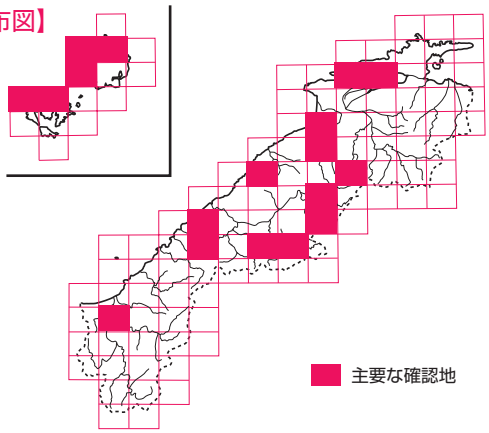
【県内での生育地域・生育環境】

県内にはかなりあちこちに生育地が知られて、おもに夏緑樹林に生えるが、時にはスギ人工林内にも生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と園芸上での採集による生育地及び個体群の消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○					○								

ラン目ラン科

ナツエビネ

Calanthe reflexa Maxim.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU） 写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内全域に分布域があって生育地もかなり知られているが、いずれも生育地での個体数は僅かであり、生育地及び個体群の消滅が心配される。

【概要】

山地林内の林床に生える夏緑の多年草で、地際に球形の偽球茎をもち、長楕円形で長さ20cm、幅５cm前後の葉を４～５枚展開させ、草丈30cm程の植物である。花期は夏で、葉間に葉より高い花茎を伸ばし、淡紫色の花を10～20個程つけて、美しく咲く。

国内では本州、四国、九州に分布域があるとされる。古来より栽培する人が多く、山野に自生するものの採取が続いている。

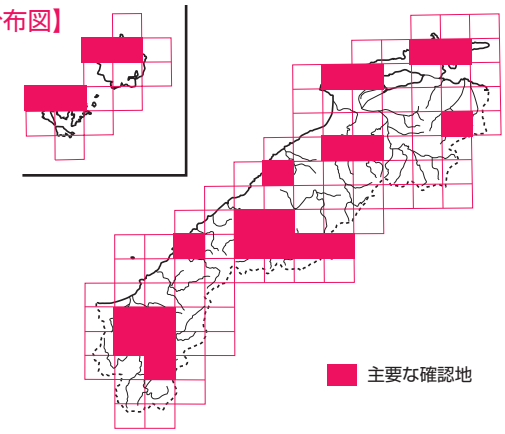
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はあちこちに知られていて、谷間のかなり湿り気の強い場所などに生え、時に倒木の朽木上に生えるものも見られる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開や園芸上での採取による生育地の破壊、個体群の消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

ラン目ラン科

ギンラン

Cephalanthera erecta（Thunb.）Blume

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はかなりまれな状態となっていて、個体数も多くない現状である。

【概要】

山地山林内、時に林縁、山中路傍にも生える草丈30cm前後の夏緑多年草である。葉は楕円形で、長さ５cm、幅３cm前後で４～５枚が互生する。花は春に咲き、茎頂に５～６個の白花をつける。時に花が目立つので採取されることが多い。

国内では本州から四国、九州に広く分布域があり朝鮮半島にも分布するとされる。

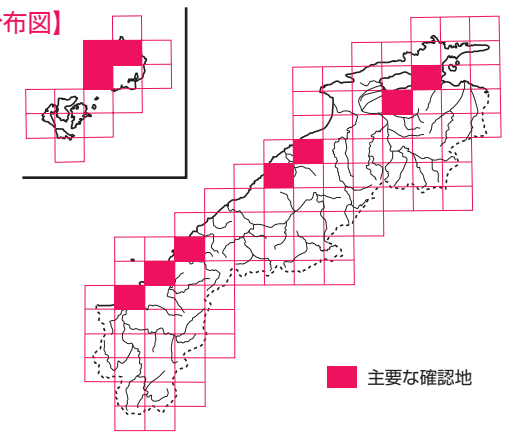
【県内での生育地域・生育環境】

県内では全域に生育範囲のある植物であり、各地に生育地が知られたが、現在ではそれらの生育地に今でも生育が確認されることはほとんどない状態である。明るい夏緑樹林内からかなり暗い照葉樹林内にも生えることがある。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移による環境変化による生育地破壊。園芸上その他での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

ラン目ラン科

キンラン

Cephalanthera falcata（Thunb.）Blume

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はなかりまれな状態となっていて、個体数も多くはない現状である。

【概要】

山地山林内、時に林縁に生える草丈50cmばかりの夏緑多年草である。葉は楕円形で長さ10cm、幅５cm前後で５～６枚が互生する。花は春に咲き、茎頂に10花程の黄花をつける。時に花が目立つので採取されることが多い。

国内では本州、四国、九州に広く分布域があり、朝鮮半島、中国大陸に続いて分布している植物である。

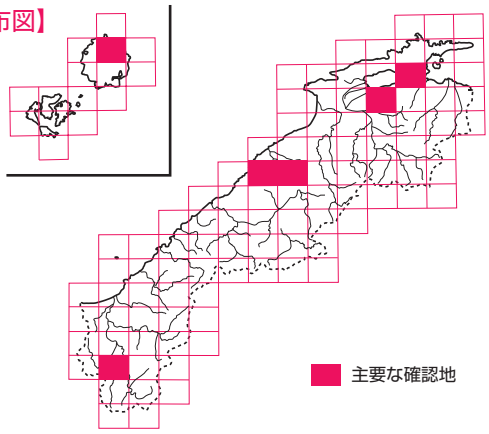
【県内での生育地域・生育環境】

県内においては全域に生育範囲のある植物であるが、生育地は点在し多くはない。多くは夏緑樹林、時に照葉樹林内での林冠破壊部の明るい場に生える。山中の山道の傍にも生える。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移による照葉樹林化等、生育地の環境変化による消滅の危険。園芸上その他による採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

ラン目ラン科

トケンラン

Cremastra unguiculata（Finet）Finet

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地はもともとまれであり、生育地の破壊等により生育地が消滅することが多い状態である。

【概要】

樹林内に生える草丈20cmばかりの夏緑多年草である。植物体は地下に径２cmばかりの球形の偽球茎が細長い地下茎でつながり、偽球形から１～２枚の長楕円形で長さ10cm、幅３cm前後の葉をつけるものである。葉は多くの紫色の斑点をもつ個体群が多い。花は春に咲き、高さ20cm程の花茎を立て、長さ２cm程の線状披針形の花被片をつけて、10個ばかりの花がつく。花被片にも紫色の斑点があって、時に美しく見える。

北海道から本州、四国に分布域があるとされる。

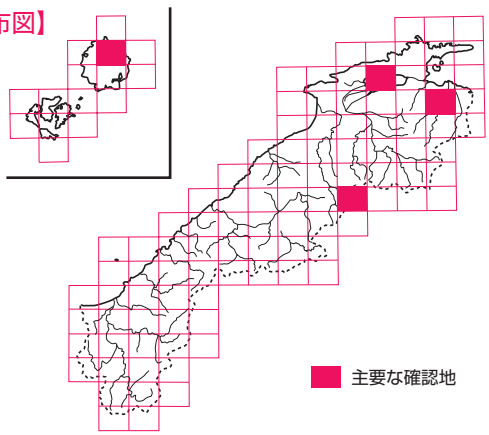
【県内での生育地域・生育環境】

県内全域に分布域があり海岸域から中国山地脊梁部にまで生育地が点々と知られている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開、土地造成、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○													

ラン目ラン科

セッコク

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はかなりまれな状態となってきている。園芸上での採取が多く生育地及び個体群の消滅が心配される。

【概要】

樹幹や岩上に生えるやや小型の多年草。植物体は茎が束生して株状となり、多くの根を出して着する。茎は円柱形で高さ20cm前後のものである。葉は披針形で長さ５cmばかりで数枚が互生する。花は初夏の頃に咲き、２～３年前の葉の落ちた古い茎の先に数個の花がつく。花は多くは白色から淡桃色で、芳香があり好まれる。

国内では本州から四国、九州、南西諸島に広く分布する植物である。

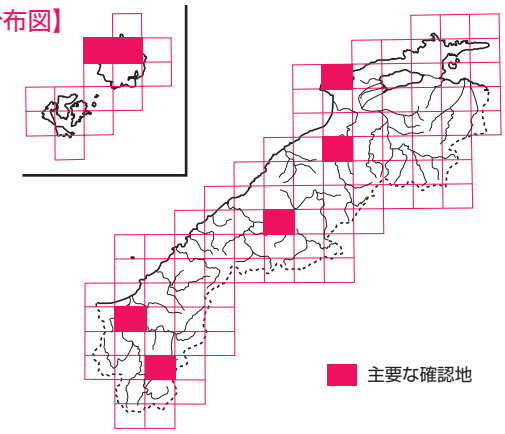
【県内での生育地域・生育環境】

県内では全域の山地に生育地が知られているが、かなりまれな状態となっている。

【存続を脅かす原因】

森林伐開による着生樹木の倒伐。山地露岩上の生育地での遷移、樹林化による生育地の消滅。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○					○						○									

ラン目ラン科

カキラン

Epipactis thunbergii A. Gray

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はかなり知られていたが、現在では多くの生育地が消滅してまれになってきている。

【概要】

陽あたりのよい湿地に生える草丈30－50cm程の夏緑の多年草。葉は卵形で基部は葉鞘となって茎を巻き、長さ10cm、幅３cmばかりで互生して７～８枚がつく。花は初夏から夏に咲き、茎頂に橙黄色の花を10花ばかりをつける。

国内では北海道から四国、九州の範囲に分布域があるとされる。

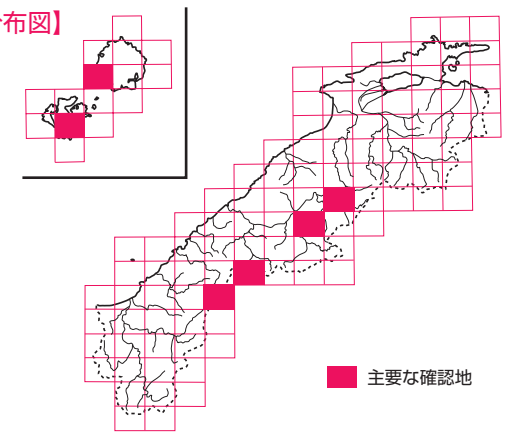
【県内での生育地域・生育環境】

県内では全域に分布範囲があって海岸部から中国山地まで広く分布する植物であるが、多くの場で生育地そのものが破壊、消滅して、かなりまれとなってしまっている。山地水湿から水田傍の湿地にも生えたが、遷移による乾草原化により、ほとんどの場で消滅している。

【存続を脅かす原因】

現状としてもっとも危険なことは遷移による生育地の環境変化が考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		○				○												

ラン目ラン科

ベニシュスラン

Goodyera macrantha Maxim.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：－

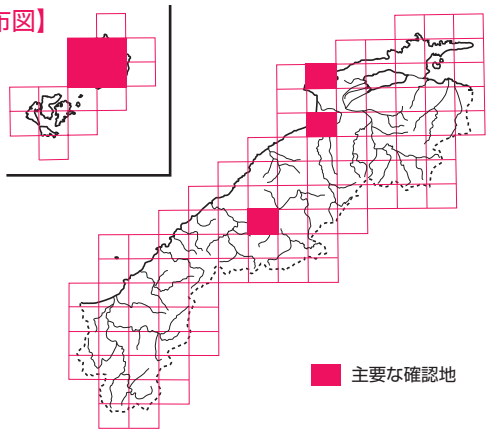
【選定理由】
県内での生育地はもともとまれであって、生育地での個体数も多くはない。

【概要】
山地林内の林床に生える小型の植物で、茎の下部は短く、地に這い、上部は短く立ち上がり、葉を４～５枚つけて、草丈は10㎝にみたないものである。葉は長さ３－４㎝、幅２㎝ばかりの楕円形で互生し、表面は濃緑色で少しばかり縮子の表面に似て、裏面は赤味がある。花は夏に咲き、茎頂に淡紅色で長さ２㎝程の植物体としては大きい花を２～３個つけて、時に全体として美しく見える。
国内では関東以西、四国、九州に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内全域の山地にまれに生育地がある。おもに照葉樹林内の陰湿な林床で、多くは蘚苔類と共に生える。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開による生育地の環境変化。園芸上での採取も考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○		○	○				○													

ラン目ラン科

ヤマトキソウ

Pogonia minor (Makino) Makino

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
島根県固有評価：－
環境省：－

写真 口絵14

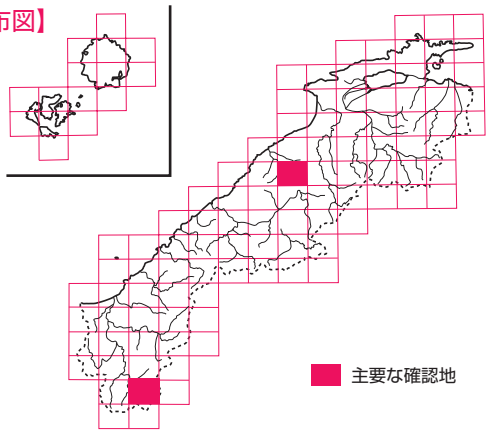
【選定理由】
県内での生育地は昭和60年代には、出雲部だけでも数ヵ所が知られていたが、現在ではその生育地は消滅していて、全県での生育地の状況は明らかでない。石見部での生育地が確認されたという情報もある。

【概要】
山地の草地に生えるやや小型の多年草で、地を這う根茎から地上茎を出し、草丈10㎝ばかり。茎の中央部に長楕円形の葉を１枚つけ、茎頂に一花をつける。花は夏に咲く。淡紅色の披針形の花被片をもつ花を上向きにつけるが、花被片はほとんど開かないという特徴がある。
国内の北海道から、本州、四国、九州、そして朝鮮半島に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内での過去の生育地は山地内での路傍崖地や草刈り場に存在したが、遷移による樹林化により消滅したと思われる。

【存在を脅かす原因】
生育地の樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○			○																

シダ植物ヒカゲノカズラ科

ミズスギ

Lycopodium cernuum L.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では生育地・個体数とも少ない。

【概要】

匍匐する茎は長く這い、ところどころで直立した茎を出す。直立茎は分枝して樹木状になる。小枝の葉は線状披針形で全縁。胞子嚢穂は小枝の先に１－２個頂生し、卵形で長さ３－10㎜、径2.5－３㎜下向きにつく。

本州（伊豆諸島・伊豆半島・東海地方以西の暖地）・四国・九州・南西諸島・小笠原に生育し、石川・富山・長野・神奈川・東北・北海道でも限られた場所に生育する。世界の熱帯・亜熱帯に分布する。やや湿った向陽の地に生じる。

【県内での生育地域・生育環境】

県西部では産地・個体数とも若干多いが、東部の分布は限られており、隠岐諸島での分布は知られていない。池の土手や明るい斜面などに生育するのが知られている。

【存在を脅かす原因】

遷移。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		○							○					○							

シダ植物ハナヤスリ科

ナツノハナワラビ

Botrychium virginianum (L.)Sw.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県下では個体数が少ない。

【概要】

山地林下に生じる夏緑性のシダで、葉は高さ25－75㎝、担葉体の長さは15－35㎝で、ふつう葉の高さの半分をこえ、ほとんど無毛。栄養葉は無柄で３－４羽状に細裂し、広い五角形状で基部は切形からやや心形。胞子穂は３－４回羽状に分岐する。北海道から九州北部までの各地に生育し、国外では北半球の温帯から暖帯にかけてと、中南米に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

各地に産地が点在する。やや陰湿な山地の林床に生育する。

【存在を脅かす原因】

遷移、採集。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○				○													

シダ植物コバノイシカグマ科

イシカグマ

Microlepia strigosa (Thunb.)Presl

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

個体数が少なく、日本海側での分布の北限となる。

【概要】

常緑性で、根茎は長く匍匐し、葉柄は密に毛をつける。葉は２回羽状複生でかための黄緑色をしている。胞子嚢群は小葉の辺縁近くにつく。本州（千葉県南部・伊豆諸島・伊豆半島から西にかけての海岸沿い）・四国・九州・南西諸島・小笠原で、国外ではヒマラヤ・スリランカからポリネシアにかけての旧世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

各地に点々と分布し、日本海側での北限となる。西部では生育地が点在するが、東部ではきわめてまれであり、隠岐諸島の分布は知られていない。海岸近くのやや乾燥した斜面や林床に生育する。

【存在を脅かす原因】

遷移。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○						○					○					○			

シダ植物コバノイシカグマ科

オオフジシダ

Monachosorum flagellare (Maxim.ex Makino)Hayata

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では自生地・個体数ともに少ない。

【概要】

地上生または岩上生の常緑のシダで、根茎は短く斜上し、葉は三角状広披針形で葉は薄く、鮮緑色、２－３回羽状複生する。胞子嚢群は裂片の辺縁からすこし内側に寄ってつく。本州（栃木県および中部地方以西）・四国・九州で暖地の林下に生じる。国外では中国に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県西部の山地の陰湿な林下に若干の生育地が見られる。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、遷移。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○				○													

シダ植物シノブ科

シノブ

Davallia mariesii Moore ex Baker

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県下では個体数も少なく、採集等で激減している。

【概要】

夏緑性で根茎は岩上や樹幹上を長く這って、線状披針形の鱗片が根茎に密につく。葉はまばらにつき、３－４回羽状に細裂する。胞子嚢群は裂片に１個つく。

北海道から南西諸島の山地に生育し、朝鮮半島南部・中国・台湾に分布する。シノブ玉として鑑賞され、各地で採集され、個体数が減少している。

【県内での生育地域・生育環境】

県内各地の樹幹や岩上に生育するが、採集や遷移などにより減少している。

【存在を脅かす原因】

採集、遷移。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	◎	○				○					○								

シダ目ミズワラビ科

ミズワラビ

Ceratopteris thalictroides (L.) Brongn.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

除草剤による影響のほか、近年では県内各地の圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移によって生育場所が減少。

【概要】

本州、四国、九州の水田や池沼などの浅水中に生育する１年生の水生シダ植物。葉には栄養葉（裸葉）と胞子葉（実葉）の２型があり、栄養葉は淡緑色の柔らかい草質で数回羽状に切れ込み、胞子葉は栄養葉よりも硬く、裂片は細長い（幅１－２㎜）。胞子のうは葉の裏面の葉脈上に並んで付き、反転した葉で包まれる。胞子による増殖のほか、栄養葉に生じる無性芽（不定芽）によって無性的に増える。全国的に分布域が減少している水草のひとつである。

【県内での生育地域・生育環境】

水田及びその周辺の畦・水路など。

【存続を脅かす原因】

除草剤による影響及び圃場整備による乾田化と水路のコンクリート化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	△							○					○						

シダ植物シシラン科

シシラン

Vittaria flexuosa Fee

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

産地・個体数ともに少ない。国内での自生の北限を構成している。

【概要】

常緑性で、根茎は短く匍匐し、葉を密につけ、葉は革質、線状で長さ15－45cm、幅４－８㎜程度である。胞子嚢群は辺縁に近い葉裏の溝に生じる。関東地方以西から琉球にかけての暖地の山林中の岩上や樹幹に着生する。国外では朝鮮半島・ヒマラヤからマレーシアにかけて分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

西部に産地が多く、東部には非常に少ない。隠岐諸島では記録はあるが、現状は不明である。山地の林下の岩に群生して着生している。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、土砂の堆積、採集。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	◎	○				○													

シダ植物イノモトソウ科

ナチシダ

Pteris wallichiana Ag.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

個体数・生育地共に少なく、国内での分布の北限を形成している。

【概要】

根茎は短く、葉柄は１ｍに達し、葉身は基部で３つに分かれ、側枝は後ろ側に短い枝を出して、５角形となる。２回羽状深裂する。裂辺は線状披針形でやや鎌型になる。胞子嚢群は葉裏の縁につく。本州（千葉県以西の暖地）・四国・九州・南西諸島の山地の陰湿な林床に生じる。国外ではアジアの熱帯・亜熱帯に広く分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

生育地は点在しており、総個体数は多くない。近年、隠岐諸島にも自生が確認された。県内の産地は国内での分布の北限である。南方では常緑性であるが、県内では冬季に地上部が枯死する。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、遷移。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎	◎	○				○													

シダ植物チャセンシダ科

ホウビシダ

Asplenium hondoense Murakami et Hatanaka

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では個体数が少なく、国内での分布の北限を形成している。

【概要】

常緑性の小型のシダで、根茎は長くのび、葉軸は赤褐色から黒褐色で光沢がある。葉は単羽状で披針形から長楕円状披針形。胞子嚢群は裂片の中肋近くにつく。本州（石川県・千葉県以西）・四国・九州で渓流近くの湿った岩上に生じる。国外では韓国（済州島）と中国に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

西部には点々と産地が知られるが、東部での分布は非常にまれである。隠岐諸島の分布は知られていない。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、土砂の堆積。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○		○				○													

シダ植物チャセンシダ科

コバノヒノキシダ

Asplenium sarelii Hook.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
生育地・個体数ともに少ない。
【概要】
常緑性の小型のシダであり、葉を叢生する。葉身は２－３回羽状複生し、広披針形から長楕円形で、下部の羽片がやや短くなる。胞子嚢群は裂片に１－３個互いに接近してつく。本州（東北地方南部以西）・四国・九州で明るい山野や路傍の岩上や石垣上に生じる。
【県内での生育地域・生育環境】
県内数ヵ所の岩上に少数生育しているのが知られている。コンクリート崖の生育も知られ、本来の自生なのか疑われる場所もある。
【存在を脅かす原因】
土壌堆積、遷移、採集。

生育地域				山地地域				里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎											○									

シダ植物チャセンシダ科

クルマシダ

Asplenium wrightii Eaton ex Hook.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
生育地が少なく、国内での分布の北限を形成している。
【概要】
常緑性で根茎は斜上し、葉を叢生する。葉身は単羽状複生で広披針形、濃緑色。葉質は厚く、軟らかい。羽片は10－20対で披針形でやや鎌状になる。胞子嚢は線形で長い。本州（伊豆半島・東海以西）・四国・九州に分布し、山林中の比較的湿った地上やまれに岩上に生じる。国外では、朝鮮半島・台湾・中国・インドシナとフィリピンに産する。
【県内での生育地域・生育環境】
県西部に数ヵ所群生地が知られている。林下の土壌のやや堆積した湿った斜面に生育する。
【存在を脅かす原因】
森林伐採。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○				○													

シダ植物シシガシラ科

オオカグマ

Woodwardia japonica (L.fil.) Sm.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：－

【選定理由】
産地が限られ、国内での分布の北限を形成している。
【概要】
常緑性で、根茎は太く、斜上から横走し、葉を叢生する。葉身は狭長楕円形から卵状披針形で２回羽状中裂する。胞子嚢は羽片の裂片の中肋に沿って並ぶ。紀伊半島から中国地方西部・四国・九州の平地から低山地のやや乾燥した林下に生じる。国外では韓国（済州島）・台湾・中国・ビルマ・インドシナに分布する。
【県内での生育地域・生育環境】
県西部にいくつかの産地が知られており、低地のやや乾燥した林下に生育している。
【存在を脅かす原因】
森林伐採。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎						○					○					○			

シダ植物オシダ科

シノブカグマ

Arachniodes mutica（Fr.et Sav.）Ohwi

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県下では個体数が非常に少なく、分布の南限を構成する。

【概要】
常緑性のシダ植物で、根茎は短く、葉を叢生する。葉柄は短く、長さ15－35cm、淡褐色から黒褐色の鱗片を密につける。葉身は卵状長楕円形で長さ40－60cm、幅15－25cm、３回羽状全裂～中裂すし、表は濃い緑色で、裏面はやや白っぽい緑色。小羽片は長楕円形、２－3.5cm、幅７－12㎜で羽状に深裂する。胞子嚢群は上部からつき、包膜は円腎形。北海道・本州・四国の山林中に産する。国外では朝鮮半島とロシア東部に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
中国山地の山陽側では点々と知られているが、島根県側では西部では報告があるが、東部では確実な生育の報告はない。

【存在を脅かす原因】
森林伐採。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物オシダ科

ハチジョウベニシダ

Dryopteris caudipinna Nakai

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
低地の社寺林などの森林がよく保存された環境に残存する植物で、そのような環境はあまり残されていないことから、生育地が少なく、希少な植物である。

【概要】
ベニシダに似た常緑のシダで、小羽片が線状披針形から線形で細く、多少鎌状に曲がる。胞子嚢群は小型でやや密生してつく。ベニシダは３倍体無融合生殖であるが、ハチジョウベニシダは二倍体有性生殖種である。神奈川県南部・伊豆半島・伊豆諸島に知られていたが、九州南部に知られ、島根県に分布することが気づかれてから、日本海側での自生が注意されるようになった。現在は山口県から福井県まで分布が知られている。

【県内での生育地域・生育環境】
隠岐諸島や東部においては各地に生育が知られている。西部での分布については形態的に可能性のあるものがあったが、精査されていない。生育地は低地の保存状態のよい社寺林などの照葉樹林下に生育している。

【存在を脅かす原因】
森林伐採・下草刈り。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	◎		○					○					○								

シダ植物イワデンダ科

ウスヒメワラビ

Acystopteris japonica（Luerss.）Nakai

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内では個体数が少ない。

【概要】
夏緑性のシダで根茎は横に伸び、先端から葉を叢生する。葉身は三角状卵形で３回羽状に複生し、薄い草質である。葉柄や葉軸が暗褐色から紫褐色であることが特徴で、淡褐色の鱗片をまばらにつける。胞子嚢群は裂片の辺縁近くにつく。
東北地方南部から屋久島までの山地の森林中の地上に生じる。国外では台湾から中国南西部に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
隠岐諸島を除き、各地に生育地が点在しているが、個体数は多くない。比較的西部で多く見られる。山地の湿度の高い杉林などの林床で見られる。

【存在を脅かす原因】
森林伐採。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎		○				○													

シダ植物イワデンダ科

ミヤコイヌワラビ

Athyrium frangulum Tagawa

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価－：

環境省：－

【選定理由】

産地・個体数ともに多くない。

【概要】

夏緑性で、全体にみずみずしい印象をうける。根茎は直立し、葉を叢生する。葉柄は緑色またはやや紫かかり、葉身は卵形から楕円形で３回羽状に複生する。羽辺は斜めにつき、柄が長い。胞子嚢群は中肋近くにつき、鉤形のものが多い。本州（関東地方以西）・四国・九州に分布し、山地の川沿いの多湿な林床に生じる。

【県内での生育地域・生育環境】

産地は県西部の山地に限られ、川沿いの杉林林床などの陰湿な地に点々と確認される。県下では生育時、葉の軸が緑色のものがほとんどである。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物イワデンダ科

ハコネシケチシダ

Cornopteris christenseniana（Koidz.）Tagawa

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵14

【選定理由】

産地が少なく、とても希少である。

【概要】

夏緑性で根茎は這う。葉柄は淡緑色でわずかに赤紫色を帯びる。葉身は三角状から楕円形で３回羽状深裂する。裂片は長楕円形胞子嚢群は長楕円形から線形で、裂片の中肋と辺縁の中間生。本州・四国・九州に点在し、山地の湿った林中の林床に生じる。

【県内での生育地域・生育環境】

東部の山中に産地が知られており、やや群生している。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎				○																	

シダ植物イワデンダ科

ムクゲシケシダ

Deparia kiusiana（Koidz.）M.Kato

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

産地・個体数ともに少ない。

【概要】

夏緑性で根茎は地中に長く伸びる。葉は単羽状に深裂する。セイタカシケシダに似ているが、葉に鱗片と毛が密にあり、小羽片の先端は切形、包膜は扁平であることで区別される。本州（山形県および関東地方以西）・四国・九州に産する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部・西部にわずかながら自生が知られる。スギ林下の湿った環境に自生する。

【存在を脅かす原因】

森林の伐採、踏みつけ。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎						○													

シダ植物ウラボシ科

ヒメサジラン

Loxogramme grammitoides (Bak.)C.Chr.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地が限られ、個体数も少ない。

【概要】

常緑性の小型のシダで、根茎は長く這う。葉は倒卵形で先端に近いところの幅が最大になり、暗緑色。胞子嚢群は長楕円形から線形で葉の上半部で中肋に近く、ほぼ平行してつく。北海道から屋久島にかけて広く分布するが北ではまれのようである。深山の岩上に生じる。国外では朝鮮半島・台湾・中国に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島を除く、県内各地に点在し、林中の岩上に生じる。

【存在を脅かす原因】

森林伐採・採集。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎		○																	

シダ植物ホウライシダ科

カラクサシダ

Pleurosoriopsis makinoi (Maxim.ex Makino)Fomin

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

産地・個体数ともに少ない。

【概要】

非常に小型のシダで、根茎は長く、コケの間を匍匐し、葉身は長さ1.5－7㎝の小型の葉をつける。両面は褐色の毛をつけ、深緑色。胞子嚢群は裂片の裏面に広がる。北海道から九州にかけての各地で、山中の岩上や樹幹につき、湿ったコケの中にある。国外ではシベリア東部と中国・朝鮮半島に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

産地は県下の山中に点在して見られるが、特に西部のブナの樹幹では比較的多くみられる。隠岐諸島にも分布する。小型のシダで空中湿度の高い場所の岩上や樹幹にコケに混じって生育しているのでその気になって探さないとなかなか確認できないシダである。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○	◎	○				○													

シダ植物ウラボシ科

アオネカズラ

Polypodium niponicum Mett.

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育地・個体数ともに少ない。

【概要】

夏に落葉する冬緑性のシダで、根茎は長く伸びる。葉身は広披針形から卵状長楕円形で側列片は15－25対あり、葉質は厚く、やわらかい。表はまばらに裏面はやや密に開出毛がある。胞子嚢群は中肋近くにつき大きい。本州（富山県・関東地方西部以西）・四国・九州で低山地の樹幹や岩上に着生し、暖地に多い。国外では中国南部に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

全域の低山地の樹幹や岩上に着生しているのが知られるが、東部・隠岐諸島では非常にまれである。特徴的な姿から観賞用に採集される場合も多いと考えられる。

【存在を脅かす原因】

採集。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	◎	○																	

シダ植物アカウキクサ科

オオアカウキクサ

Azolla japonica Fr.et Sav.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】
各地で減少が著しい。
【概要】
小型の浮遊性の水生シダで、アカウキクサによく似ているが、やや大型になり、根毛は早落性で、葉の表面がほとんど平滑か、わずかに小突起がつく程度である。似たアカウキクサは根毛があり、密に小突起がつくので区別できる。秋に全体が赤色になり、冬は先端を残して枯れる。本州・四国・九州に分布し、日本固有種である。
【県内での生育地域・生育環境】
かつては、各地の田に生育していたが、水田除草剤の影響で少なくなっている。また、近年、宍道湖の船溜りやこれに流入する河川などで早落性の根毛をもつAzolla属が見られる。これは根毛や植物体の形や大きさではオオアカウキクサに分類できるが、葉の表面に突起が密に見られるので、アメリカオオアカウキクサ（Azolla caroliniana Willd.）か、ニシノオオアカウキクサ（Azolla filiculoides Lam.）との雑種ではないかと推測される。
【存在を脅かす原因】
除草剤の使用。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○										○					○						

イチイ目イチイ科

カヤ

Torreya nucifera（L.）Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。
【概要】
常緑針葉樹で高さ20m、径１m以上の大木になる樹種。樹皮は灰褐色～褐色で縦に裂け、薄皮が細長くはげる。葉は線形で長さ２－３㎝、幅２－３㎜、先端は鋭くとがり、硬い。雌雄異株とされ、花期は春で、種子は翌年の秋に熟れる。種子は緑色の仮種皮に包まれて、後に紫褐色に熟れる。材はきわめて有用であり、碁盤、将棋盤に利用されてよく知られる樹種である。
【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は限られていて、隠岐諸島、出雲、石見の山地の一部に存在する。山地の尾根筋や露岩状の痩せた土地に生育する。
【存続を脅かす原因】
生育地での樹林伐開や、樹木の伐倒。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	○	○																	

ヤナギ目ヤナギ科

バッコヤナギ(ヤマネコヤナギ)

Salix bakko Kimura

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。
【概要】
高さ10m程になる夏緑の樹種。葉は長楕円形で長さ10㎝、幅３㎝前後で互生し、葉縁は細かい波状縁で、葉脈は裏側にくぼむ。葉裏は粉白色で白毛が密に生える特徴がある。花は春に咲き、葉に先立って咲き、雄花穂は長さ５㎝、幅３㎝程で大きく、雌花穂も長さ４㎝、幅1.5㎝程で、全体として銀白色に輝き美しい。国内では北海道西南部から近畿地方、そして四国に分布するものとされるが、中国山地にもまれに分布している。
【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は出雲部の一部にのみ見られる。中国山地の斜面に僅かな範囲に群生している。
【存続を脅かす原因】
樹林の遷移による環境変化と人為による樹林、樹木の伐開、伐倒。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

ブナ目カバノキ科

サクラバハンノキ

Alnus trabeculosa Hand.－Mazz.

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はかなり限られていて、いずれも狭い範囲のものである。

【概要】

水湿地に生える樹高20m、幹茎30cm前後に生長する夏緑の広葉樹である。葉は長楕円形から広楕円形で、長さ７－８cm、幅４－５cmで互生し、表面の脈は裏側にくぼみ、裏面の脈は隆起する。花は早春、葉の出る前に雄花序は枝の先に５個程を下垂して咲き、雌花序はそのもとに３～５個つけて咲く。ハンノキとよく似ているが、成木の樹皮は灰白色で、ほとんど平滑であり、縦に裂けるハンノキとはかなり異なる特徴である。国内では東北地方南部以西の本州と九州の一部に分布し、中国南東部に分布がつながるものとされている。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部の谷間の水湿地にのみ生育地が知られる。

【存続を脅かす原因】

水湿地の遷移による乾燥立地化、埋め立てによる土地造成などが考えられる。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎					◎					○									

イラクサ目イラクサ科

キミズ

Pellionia scabra Benth.

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵14

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はやや限られていて、生育地での個体数は少ない。

【概要】

山中谷間に生え、茎のもとの方は木質となっている半低木で高さ50cmばかりになる。茎には白色の短毛が密に生える。葉は楕円形で長さ５cmばかりで先は尾状にとがり、互生する。花は春に咲き、雌雄同株とされる植物であり、雄花序は集散状、雌花序は球状に小花をつけるが目立たない。本州の関東以西から四国、九州、南西諸島の暖地に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の海岸寄りの照葉樹林域内で谷間等の陰湿な地に生育地が点在する。生育地での個体数は多くなく、大きく群生することはない。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○		○		○			○										

イラクサ目イラクサ科

コケミズ

Pilea peploides (Gaudich.) Hook. et Arn.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、人為の影響を受けやすい場である。

【概要】

陰地に生える１年草で、草丈は５－10cm程の小型の柔かい植物である。葉は卵円形で長さ５－10mm程で対生する。花は春から秋に咲き、雌花と雄花が混生して頭状花序をなして葉腋につく。雌花被片は２枚、雄花被片は４枚ある。本州の東北地方から四国、九州、南西諸島に分布して、中国、さらに南方に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では島根半島に生育地が知られているが、他の地域にもあってもよいと思われる。主として海岸に近い地に分布していて、陰地の崖や、集落の用水路の縁や、石塔などに生えるものも見られる。

【存続を脅かす原因】

民家周辺での清掃活動などによる生育地の破壊。

生育地の乾燥。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																		○			

タデ目タデ科

マダイオウ

Rumex madaio Makino

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、人為の干渉を受けやすい場である。

【概要】
川端などの水湿地に生えるやや大型の多年草。開花株は高さ１m前後に茎を立て、長楕円形で長さ30cm、幅10cmばかりの葉を互生する。花は初夏の頃に咲き、茎の上部に枝を分け、円錐花序状に多くの花をつける。本州、四国、九州に分布する日本特産の植物とされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では出雲部に少しばかりの生育地が知られる。山間の水田脇や小川の辺りの湿地に生える。

【存続を脅かす原因】
用水路、小河川の改修工事。水田の区画整理の際に生育地が消滅した所もある。洪水による自然災害。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○										○	○										

モクレン目クスノキ科

シロモジ

Lindera triloba（Sieb. et Zucc.）Blume

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて少数である。

【概要】
夏緑の低木。葉は広倒卵形で長さ、幅共に10cm前後であり、３行脈が顕著で、３中裂して裂片の先は多くはするどくとがることが特徴的である。花は早春、葉が出る前に咲く。花は前年枝の葉腋に芽に散形状に黄色の小花を数個ずつつける。果実は秋に熟し、球形で径１cmばかり、大きな種子が１個ある。本州の中部以西、四国、九州に分布域がある。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では石見西部の西中国山地の一部で、もともと太平洋側分布のもので山陰側に僅かに越して分布しているようにも思える。中国山地脊梁部の尾根筋に生えるものもあれば一部では渓流沿いに生える個体群もある。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

モクレン目クスノキ科

バリバリノキ

Litsea acuminata（Bl.）Kurata

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。生育地の中には分布北限地がある。

【概要】
山地に生える常緑の大木となる樹種である。葉は長楕円形で長さ15cm、幅３cm前後、互生する。花は夏に咲き、枝先の葉腋に黄白色の花をつける。雄花、雌花があり、果実は翌年の夏前に黒く熟す。本州は関東以西、四国、九州、南西諸島の暖地に分布するものとされている。

【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は石見部、出雲部、隠岐諸島にそれぞれ限られた地に見られる。隠岐諸島では島後にきわめて少数の個体が存在する。県内ではおもに渓谷斜面に生育地があって、他の照葉樹種と混生する。出雲部、石見部での生育地の一部には県立自然公園内に存在していて、それなりに保護された地もある。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○																	

キンポウゲ目キンポウゲ科

ユキワリイチゲ

Anemone keiskeana Maxim.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られている。

【概要】

山地林内、林縁に生える。地中に這う根茎に数枚の根生葉をつけて、草丈は10cmばかり。葉は10cmばかりの葉柄があって、三角形で３小葉に裂けている。小葉は卵状菱形で長さ５cm、幅３cm前後のもの。葉は秋の終りに出て、初夏には枯れるが、表面に独特な白い班があるのが特徴的である。花は早春に咲き、高さ20cm前後の花茎を立て、上部に３枚の茎葉をつけ、その先に径３cmばかりで淡紫色の花を１個つける。花は長楕円形の萼片10枚程が花弁状であって目立つ。

本州の近畿地方以西、四国、九州にかけて分布する植物である。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部から石見部にかけて生育地が点在するが、限られている。隠岐諸島での生育地は不明である。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の環境変化。園芸上での採取。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○													

キンポウゲ目キンポウゲ科

サンインシロカネソウ

Dichocarpum ohwianum（Koidz.）Tamura et Lauener

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地の渓側に生える草丈20cmばかりの軟かい多年草。葉は茎の上部に対生して、扇状か、または３小葉に裂けて、縁は欠刻状に浅く裂ける。葉はやや黄緑色にちかい特徴的な色である。花は春に咲き、萼片５枚が花弁状で、倒卵形、長さ１cm弱、淡黄色で、基部に暗赤色の部分があって目立つ。花弁も５枚あるが線形で萼片より小さく目立たない。花後に２～３の地上走出枝を出すことが特徴的である。

本州の福井県から島根県までの日本海側に特有な分布の植物である。

【県内での生育地域・生育環境】

おもに出雲部の山地樹林内の渓側、湿気のある崖地などに生えている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開などによる生育地の環境変化。園芸上での採取も考えられる。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

キンポウゲ目スイレン科

ジュンサイ

Brasenia schreberi J.F.Gmel.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】

北海道から九州に至るまで広く分布。多年生の浮葉植物で、腐植栄養湖など酸性の止水域に生育する。地中を匍匐する根茎から細長い水中茎を伸ばし、楕円形の葉をつける。葉の表面は淡黄緑色で光沢があり、裏面は赤紫色を帯び、若い時期には寒天様のぬるぬるした粘液質の物質に被われる。暗紫色の直径１cmほどの花を水面に咲かせる。秋になると養分の貯蔵のために水中茎の先端部が肥厚し、親植物から離脱して越冬用の殖芽となる。

【県内での生育地域・生育環境】

宍道湖・中海周辺の溜池や三瓶山の姫逃池などに生育。

【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○					○					○					○				

キンポウゲ目スイレン科

コウホネ

Nuphar japonicum DC.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

全国的には普通種であるが、県内では溜池の管理不足や河川の改修によって自生地が減少している。

【概要】

全国各地の湖沼、溜池、水路などに生育する抽水植物。根茎は太い海綿質で葉柄痕が目立ち、先端部から葉を展開する。異形葉を持ち、沈水（水中）葉は膜質で淡緑色、浮葉と気中葉は肉質で光沢がある。黄色の花は直径５－７㎝、球形の果実は水中で結実・裂開し、仮種皮に被われた径５㎜ほどの種子を分散する。流水中では沈水葉だけの群落を形成することがある。

【県内での生育地域・生育環境】

溜池及び小河川。

【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足と河川改修によるコンクリート化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	○	○								○	○				○	○				

キンポウゲ目スイレン科

ヒツジグサ

Nymphaea tetragona Georgi

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】

全国に広く分布している多年生の浮葉植物で、酸性の止水域に生育する。塊状の根茎から春先には薄い膜質の沈水（水中）葉を展開し、後に基部が深く切れ込む広楕円形の浮葉を水面に展開する。浮葉の裏面は紫色を帯びる。花には芳香があり、その直径は３－６㎝、柱頭とおしべは黄色で花弁は白色。果実は水中で熟し、数10個から100個ほどの仮種皮に包まれた種子を形成する。

【県内での生育地域・生育環境】

宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部の溜池などに生育。

【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	△				○					○					○				

コショウ目ドクダミ科

ハンゲショウ

Saururus chinensis（Lour.）Baill.

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は、遷移によって消滅することが多い。

【概要】

暖地の水湿地に生えるやや大型の多年草。地中に太い地下茎があって、茎は高さ50㎝程から時に１m程にもなり、長さ10㎝、幅５㎝ばかりの葉を互生する。夏に花が咲く。花序は総状で長さ10㎝ばかりで、茎の上部の葉に対生するようにつく。開花期には花序がつく茎の上部の葉は下半部が白くなり、目立つ特徴である。花は小さく、両性だが花弁はない。本州、四国、九州、南西諸島から中国、フィリピンにかけて分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の低地に生育地が点在する。多くは溜池の縁に生え、群生する。近年では休耕田が一時的な生育地として見られることもある。

【存続を脅かす原因】

溜池の管理放棄、休耕田などの生育地での遷移による環境変化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○										○									

ウマノスズクサ目ウマノスズクサ科

サンヨウアオイ

Heterotropa hexaloba（F. Maek.）F. Maek.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】
山地林内、林縁に生える常緑性の多年草。植物体はほぼ卵形で長さ10cm、幅５cm前後の葉身をもつ葉を数枚根生して生える。葉は長い葉柄があって、葉身の表面は、さまざまな雲紋があって特徴的である。花は春に咲き、径２cm弱の倒円錐状の萼筒からなる花で、萼筒の頭部には６個の瘤状膨出部があるのが特徴である。萼筒は白色で、頭部で著しくくびれて、先に萼裂片となり、裂片は３片で長さ１cmばかり、紫褐色である。本州の中国地方西部から九州北部に特産する植物である。四国の一部にも分布するとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では石見西部にのみ生育地が存在する。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開による生育地での環境変化。園芸上での採取もある。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

バラ目マンサク科

コウヤミズキ

Corylopsis gotoana Makino

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、いずれも狭い範囲である。

【概要】
夏緑の低木で高さは４－５mばかりで株立ちする樹種。葉は卵円形で長さ10cm、幅８－９cm程のものが互生する。花は早春、葉が出る前に長さ４－５cmの花序を下垂して10個ばかりの黄花をつけて美しく咲く。花序軸は無毛である。本州中部地方以西、四国にかけて分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は出雲部、石見部の山地の一部に存在している。いずれも夏緑広葉樹二次林からなる山地の谷間から谷頭にかけての地形上に生育地が見られ、生育地によっては生育地内に県道、町道が通り、道路拡幅等による個体群への影響、個体数減少が心配される。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開、各種工事等による生育地の直接破壊。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○																	

バラ目マンサク科

イスノキ

Distylium racemosum Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：－

写真 口絵15

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】
樹高20m前後の大木になる常緑の樹種。葉は葉身が長さ６－７cm、幅３cmばかりで厚く、硬い感じで互生する。花期は春。葉腋から出る長さ５cmばかりの総状花序に両性花と雄花をつける。果実は広卵形で長さ１cmばかりのもの。葉にはしばしば大きな虫瘿が、時に多くつき、果実と間違うことがある。国内では関東南部以西、四国、九州、南西諸島にかけての暖地に分布するとされ、中国大陸にも分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では出雲部、石見部の沿岸部の一部に生育地が知られている。神社、仏閣の古い森の中、スダジイ林及びウラジロガシ林内に混生する。県内にはこの種の自生分布北限地があって貴重である。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○				○													

バラ目ベンケイソウ科

ミツバベンケイソウ

Hylotelephium verticillatum (L.) H. Ohba

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

露岩上に生える夏緑性の多年草。茎は高さ20－50cmばかりで、葉は楕円形で長さ５cm、幅３cm前後で多肉質、多くは３－４輪生し、時に対生または５輪生のものもある。花は夏に咲き、茎頂部の複散房花序に黄白色の小花を多数つける。

国内では北海道から本州、四国、九州にかけて分布し、さらに樺太、千島、朝鮮半島、中国などにも続く分布域があるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内全域においてきわめて僅かな生育地しか知られていない。渓流沿いの露岩地、山地路傍の岩場、海岸沿いの岩場など、さまざまな生育環境での生育地が見られる。

【存続を脅かす原因】

岩場での遷移による環境変化。

生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○	○	○				○	○					○									

バラ目ベンケイソウ科

ツメレンゲ

Orostachys japonicus (Maxim.) Berger

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地は本来、多くはない。生育地での個体数は多い地もあるが、ほとんどの生育地では限られている。

【概要】

多くは乾燥する岩上に生える多肉質の植物である。葉は長さ４－５cm、幅５㎜ばかりの細長い形で多数が根生状に束生する。花は秋に咲き、開花株は高さ20cmばかりの花茎を立てて、穂状に白色の花を多数、密生して咲かせる。開花株は果後枯れる。国内では本州の関東地方以西、四国、九州に分布して、さらに朝鮮半島、中国に続く分布域をもつ。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は各地に点在する。露岩崖地、岩峯の岩場に生える。園芸上での価値もあるとみえて、採取されることがあり、生育地によってはほとんど採りつくされた地もある。しかし、危険な採取困難な場もあって、多くの個体が生存する生育地もある。

【存続を脅かす原因】

園芸上での採取。各種工事による生育地の破壊。

生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○					○						○									

バラ目ベンケイソウ科

オオメノマンネングサ

Sedum rupifragum Koidz.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：島根県固有種

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

島根県固有の植物であるが、生育地は狭い範囲に限られている。

【概要】

多くは岩上に生える草丈20cmばかりの夏緑多年草で、植物体全体が多肉質である。茎は下部で分枝して、長さ２－３cm、幅３－４㎜の針状披針形の葉を多数互生して、株状をなす。花は春に咲いて、茎頂の集散状の花序に径５㎜ばかりの黄色の小花を多数つける。花期にはこの黄色の集まりが美しく目立つ。島根県に固有な種である。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部の一部の狭い範囲に限られて存在する。陽当りのよい乾燥する立地を好むが、かなり陰湿な地でもよく生育している。

【存続を脅かす原因】

園芸上での採取があるが、採取困難な危険な岩場もあって、多くの個体が生存する生育場所もある。各種工事による生育地の一部の破壊、個体群の消失。一部では遷移による樹林化が心配される。

生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○						○									

バラ目バラ科

オオヤマザクラ(エゾヤマザクラ)

Prunus sargentii Rehder

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数はきわめて少ない。

【概要】

樹高20cmを越す大木となる夏緑の樹種。成木の樹皮は横に長い皮目をもつ。葉は長さ２cm前後の葉柄があって、葉柄上部に腺があり、葉身は楕円形で長さ10cm、幅６－７cm前後、鋸歯は一部で２重鋸歯となる。花は春に咲き、多くは葉が出る前に葉腋の部分に散形状に数花を咲かせる。花は大きく径４cmばかりになる。北海道から本州、四国に分布するが、本州では近畿以西ではまれとなる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は限られていて、隠岐諸島と出雲部の中国山地沿いにまれに見られる。多くは夏緑樹二次林内にあって、コナラ、ミズナラ等の夏緑樹と混生している。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○																	

バラ目バラ科

ナンキンナナカマド

Sorbus gracilis (Sieb. et Zucc.) C. Koch

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地によっては個体数が激減して、生育地が消滅する危険性がある。

【概要】

夏緑性の高さ３m程になる低木で、葉は奇数羽状複葉で３～５対の小葉を対生し、全体は倒卵形の長さ20cm、幅10cm程のもので対生する。宿在性の托葉が１対あることが特徴的である。花は春に咲き、枝先きに５－６cmの長さの花序を出し、10花ばかりの小花をつける。果実は楕円形で長さ１cmばかり、赤く熟れる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はおもに石見部山地にあって、出雲部、隠岐諸島での生育地は不明である。露岩状地やチャート岩盤などの特殊な不安定な立地に多く生育地があるように思われる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と一部では遷移による環境変化によって生育個体が消滅することもある。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

バラ目バラ科

シモツケ

Spiraea japonica L. fil.

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、個体数が激減しつつある。

【概要】

高さ１m程の夏緑の低木。葉は多くは卵形で、長さ３－４cm、幅１－２cmばかりで互生する。花は初夏の頃に咲き、今年枝の先端に複散房状の花序に淡紅色から濃紅色の小花を多数つけ、時に美しい。国内では本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国にも分布するものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐諸島、県中部から石見に生育地があるが、まれである。明るい夏緑二次林内や林縁、山地草原、山中路傍の草地などに生える。生育地によってはその場の遷移による環境変化によって個体が消滅しつつある状態も見られる。

【存続を脅かす原因】

山地草原の樹林化などの遷移による環境変化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○		○	○	○			○	○												

フウロソウ目トウダイグサ科

イワタイゲキ

Euphorbia jolkinii Boiss.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

海岸の岩場、砂礫地に生える多年草。茎は30cmばかりで長楕円形で長さ４－５cm、幅７－８mmの葉を多数互生する。花は春に咲く。茎頂部に多くの葉を輪生し、その先に多くの枝を腋生し、特有な杯状花序に花をつける。国内では本州の関東地方以西、四国、九州、南西諸島に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島の一部に生育地が知られている。出雲部、石見部の海岸にも分布していると思われるが、不明である。隠岐諸島での生育地では波浪などによる自然災害で個体群が消滅した場所もあり、不安定な状態である。

【存続を脅かす原因】

波浪などの自然災害。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
			○																			○

ムクロジ目ムクロジ科

モクゲンジ

Koelreuteria paniculata Laxm.

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑性の樹木で、かなりな大木となる樹種である。葉は１回羽状複葉、長さ30cm、幅15cmばかりで、小葉は長さ７－８cm、幅４－５cmで７～８対。花は初夏の頃、枝先に円錐状の大きな花序に黄色の小花を多数つけて、時に美しく咲く。果実が特徴的であって、長さ５cm、幅３cm程で卵形の風船状に膨れたもので、中に黒色球形の種子が数個ある。国内での分布は本州のおもに日本海側の海岸にあって、朝鮮半島、中国に続く分布のものである。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島と出雲部の海岸に生育地がある。多くは海岸の露岩崖地や崖錐地などの不安定立地に生育している。国内での分布は自生かどうか不明であるとする資料もあるが、県内での生育地の状況からは自生としてもよいように思える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開、海岸の開改行為。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
○			○															○				○

アオイ目ホルトノキ科

コバンモチ

Elaeocarpus japonicus Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は石見地方西部にのみ知られていて、生育地での個体数も限られたものである。

【概要】

常緑の樹種で、樹高10数mになり、樹皮は灰白色で、ほとんど平滑である。新梢は緑色で、葉は長さ10cm、幅３－５cmばかりの楕円形で、互生する。年間を通じて、一部の葉が紅色を帯びて紅葉状態のものがみられるのが特徴的である。雌雄異株とされる樹種であり、花は初夏の頃に咲き、前年枝の葉腋につく総状花序に淡黄緑色の目立たない小花をつける。国内では本州太平洋側、四国、九州、南西諸島に分布し、中国に分布域がつながる植物である。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は県西部にのみ知られている。照葉樹林としてのスダジイ林内から林縁、一部では夏緑二次林、照葉樹萌芽林内にも生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
		○		○				○														

アオイ目シナノキ科

ヘラノキ

Tilia kiusiana Makino et Shirasawa

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑の樹種で樹高は10数mとなる。葉は葉身が三角状卵形で長さ６－８㎝、幅３－４㎝ばかりで基部は左右が不対称形であることは特徴的である。先端は尾状に伸びる。葉柄は１㎝程と短い。花は初夏の頃に、葉柄の基部に長さ５㎝ばかりの花序をつけて淡黄色の小花を10個ばかりつける。仮雄蕊が花弁状で目立つ。総包葉は狭長楕円形で、この植物の仲間の特徴的な形のものである。果実は径５㎜程の球形で白色の短毛が密生する。分布は本州では兵庫、奈良、山口、そして四国の一部と九州にあり、本州ではまれな植物である。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部に生育地が知られている。夏緑二次林内の斜面に生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

フトモモ目アリノトウグサ科

タチモ

Myriophyllum ussuriense Maxim.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】

全国各地の湖沼、溜池、湿地などに群生する多年生の両生植物。異形葉を持ち、水中と陸上で顕著な形態の可塑性を示す。陸生の場合にはふつう５－20㎝ほどの高さしかないが、沈水状態の植物の草高は時に50㎝にも達する。水中葉（沈水葉）は羽状に細裂し、陸生形の葉（気中葉）は長さ４－10㎜の線形またはやや羽状。雌雄異株で花は気中葉の葉腋に付く。冬季、陸生型は越冬芽（殖芽）を形成して植物体は枯れる。

【県内での生育地域・生育環境】

宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部の溜池などの止水域に生育。

【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△										○					○				

フトモモ目アリノトウグサ科

フサモ

Myriophyllum verticillatum L.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】

全国各地の湖沼、溜池、水路などに生育する多年生の沈水植物。茎がつる状に伸び、よく分枝して繁茂する。これまで県内ではホザキノフサモと絶滅危惧Ⅱ類のオグラノフサモの報告はあったが、フサモの報告は無かった。今回、県東部の溜池でその生育が確認されたことから、情報不足から準絶滅危惧にランクを変更した。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部の溜池。

【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の環境変化と管理不足。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○												○					○				

セリ目セリ科

ボタンボウフウ

Peucedanum japonicum Thunb.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

海岸に生えるやや大型の多年草。葉は１～３回羽状複葉で、少しばかり青白い色が特徴的である。花は夏に咲く。花茎は高さ50㎝ばかり、時に１m程にもなり、先で２～３の枝を出し、枝先の複散形花序に白色の小花を多数つける。

国内では本州の関東地方以西、四国、九州、南西諸島に分布して、中国、フィリピンに分布が続くものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部の海岸の一部に生育地がある。生育地は海岸の路傍で、急な崖地にある。

【存続を脅かす原因】

道路管理上での何らかの影響、あるいは生育地そのものの破壊が心配される。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																	○		

ツツジ目ツツジ科

レンゲツツジ

Rhododendron japonicum（A. Gray）Suringar

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はやや限られていて、生育地及び個体数が減少しつつある。

【概要】

夏緑性の樹木で高さ１－２mばかりの低木である。葉は倒披針形で長さ７－８㎝、幅２－３㎝で枝先に束生する。花は春に咲いて、枝先の短い総状花序に径５㎝ばかりのやや大きい赤橙色の色を５～10花ばかりつけて目立ち、時に美しく咲く。国内では本州、四国、九州に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県内全域の山地に小規模な生育地が点在する。多くは湿地、湿原状地に生えるが、しばしば、やや乾燥気味な山地草原、林縁草地にまで生える。

【存続を脅かす原因】

園芸上での採取も考えられるが、遷移による樹林化等の生育地の環境変化が大きく考えられる。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○		○		○				○												

ツツジ目ツツジ科

ゲンカイツツジ

Rhododendron mucronulatum Turcz. var. *ciliatum* Nakai

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内では生育地がきわめて限られている。一部では植生遷移により絶滅が危惧される。

【概要】

夏緑低木のツツジ類の一種類で、多くは岩上に生育し、基部から多くの枝を出して叢生する。葉は長さ５㎝程、巾２－３㎝の楕円形で先端に腺状突起がある。花は早春、葉に先立って咲き、径４㎝ばかり、淡紫紅色で５深裂の花冠を有する。本州の中国地方、四国、九州の北部から朝鮮半島にかけて分布域がある。

【県内での生育地域・生育環境】

県西部にのみ生育が知られ、個体が群生する地は露岩地の岩上で上層を樹木が被うことのない場所である。

【存続を脅かす原因】

遷移による樹林化、園芸上での採取。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

サクラソウ目ヤブコウジ科

タイミンタチバナ

Myrsine segwinii Lev.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地はまれであり、生育地での個体数は限られている。
【概要】
常緑の高さ10m程になる樹種。葉は狭倒卵形から狭長楕円形で長さ15cm、幅３cm前後で、側脈が不明瞭であって、互生する。花は春に咲き、葉腋に５～10花ばかりの白色小花を束生する。果実は径５mmばかりの球形、黒く熟れる。本州の関東以西、四国、九州、南西諸島に分布するとされ、太平洋側の暖地照葉樹林内にはきわめて普通の植物であるが、日本海側ではまれなものとなる。
【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は石見西部から中央部にかけてきわめてまれに存在する。本来、暖地の植物であり海岸に近い地の照葉樹林域の林内または林縁に生える。
【存続を脅かす原因】
森林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

カキノキ目ハイノキ科

クロバイ

Symplocos prunifolia Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。
【概要】
常緑の高さ10数mになる樹種。若木の樹幹には特徴的な白点状の皮目があって目立つ。葉は楕円形で長さ７－８cm、幅３cmばかりで互生する。花は春に咲いて、前年枝の葉腋に５cmばかりの花序を出し、径１cmばかりの白色花を総状に10花程つける。春の照葉樹林内に白色の樹冠はこの樹種の存在を目立たせる。果実は長さ６－７mmの卵形で黒く熟れる。本州の関東地方以西、四国、九州、南西諸島に分布する。日本海側ではまれで、県内には分布北限の生育地がある。
【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地は県全域の照葉樹林域内に点在している。分布北限地は隠岐諸島にある。
【存続を脅かす原因】
森林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	○	◎				○													

モクセイ目モクセイ科

ヤナギイボタ

Ligustrum salicinum Nakai

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。
【概要】
夏緑性の高さ５m程になる低木である。葉は楕円形で両端はとがり、長さ10cm、幅３－５cmばかりで対生する。花は初夏に咲き、枝先の大きい円錐花序に白色小花を多数つける。花冠は筒状で中程から先で４裂し、裂片は開花時にやや反曲して咲く。果実は黒く熟れる。国内では本州の近畿以西、四国、九州に分布し、朝鮮半島南部にも分布するとされる。
【県内での生育地域・生育環境】
県内では隠岐諸島、出雲部山地に生育地が知られているが、石見部では不明である。多くは山地の夏緑二次林内、崖錐状地に生えている。
【存続を脅かす原因】
樹林伐開と生育地の照葉樹林化による環境変化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎		◎	○																	

リンドウ目マチン科

ホウライカズラ

Gardneria nutans Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数はきわめて僅かである。

【概要】

常緑の蔓性の木本植物である。林内、林縁に生えて、周囲の樹種に絡みつき、長く伸び上がり林冠にまで達する。葉はほぼ楕円形で両端はとがり、長さ10cm、幅５cm前後で、対生する。若い枝は緑色である。花は初夏に咲き、葉腋に１～２個の白色花をつける。花冠は５裂して、開花時にはその裂片が強く外側に反り返るのが特徴である。果実は径１cm程の球形で赤橙色に熟れて美しい。本州の房総半島以西、四国、九州に分布域があり、主として太平洋側の暖地に生育する。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は全域の沿岸寄りの照葉樹林域内の山地に点在して見られる。時に樹冠にまで伸び上がる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

リンドウ目ミツガシワ科

ガガブタ

Nymphoides indica（L.）O. Kuntze

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】

本州以西の池沼や溜池に群生する多年生の浮葉植物。塊状の根茎から葉柄あるいは茎を伸ばし、ハート型の浮葉を水面に展開する。浮葉の大きさは大小さまざまで大きなものは直径20cmを越える。浮葉の表面は淡緑色で全縁、裏面は淡紫色を帯び粒状の腺点が目立つ。花は葉柄の基部に束生し、５裂する花冠は白色で径約15mm、各花弁の内側に白毛を多数生じる。秋季にバナナの房状の特徴ある殖芽を形成して、冬を越す。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部、県中部の池沼や溜池。

【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○											○					○				

リンドウ目ガガイモ科

スズサイコ

Cynanchum paniculatum（Bunge）Kitagawa

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

生育地は県全域に点存しているが、生育地での個体数は激減または消滅寸前の場合が多い。

【概要】

陽当りのよい草地に生える夏緑性の多年草。茎は高さ30－50cmばかりで、線状長楕円形で、長さ７－８cm、幅１cm前後の葉を対生させる。花は夏に咲き、茎の上部の葉腋につく集散状の花序に黄褐色の花をまばらにつける。果実は袋果で披針形、長さ５－８cmばかりである。

北海道から本州、四国、九州に分布して、朝鮮半島、中国に続く分布がある。

【県内での生育地域・生育環境】

県内の山地草原、林縁の草地、溜池の土堤などの草地に生える。林縁や溜池の土堤などの草地では遷移によって個体群が消滅した所が多くある。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の環境変化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		○				○												

リンドウ目アカネ科

イナモリソウ

Pseudopyxis depressa Miq.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】
山地に生える多年草。植物体は地を這う根茎があって、先で直立する地上茎となり、卵形で長さ３－４㎝、幅２－３㎝の葉を対生して、草丈は５㎝前後のもの。花は春に咲いて、多くは葉腋に１個の淡紅紫色の花冠をもつ花をつける。花冠は筒状で長さ２㎝あまり、先は５裂片に裂け、開く。本州は関東地方以西、四国、九州に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内での生育地はまれであって、出雲部に２～３の生育地が知られているが石見部での状況は不明である。山地での林道沿いの斜面や岩場などに生えている。出雲部では開発事業により、生育地が消滅した場がある。

【存続を脅かす原因】
生育地での遷移による環境変化。人為による生育地の破壊。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○				△													

シソ目ヒルガオ科

アオイゴケ

Dichondra repens Forst.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地は集落周辺にあり、生育地破壊の危険性が大である。

【概要】
地を這う小型の多年草であり、葉は円腎形で、長さ、幅とも１－２㎝程のものである。花は春から夏にかけて咲き、目立たない花であるが、径３㎜ばかりの小花で、花冠は５裂して黄色である。本州の南部から四国、九州、南西諸島に分布して、さらに熱帯にまで続く分布域がある植物である。県内での生育地はこの植物の分布北限域になる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では、出雲部の一部、島根半島の東端部にのみ生育地が知られていて、石見部にも生育地が存在する可能性があるが、今のところ不明である。

【存続を脅かす原因】
生育地のほとんどが集落周辺であり、空地や墓地などにあり、人為による生育地の破壊、消滅が心配される。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○									○												

シソ目ムラサキ科

ホタルカズラ

Lithospermum zollingeri DC.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地はまれであって、生育地での個体数も多くはない。

【概要】
山地の草地に生える多年草。草丈は20㎝ばかりで、葉は狭長楕円形で長さ５㎝、幅２㎝前後で互生する。花は春に咲き、茎の上部の葉腋に径1.5㎝ばかりの青紫色の花をつける。花冠は漏斗状で先が５裂片に裂け、裂片の基部に白い隆起線があり、特徴的である。花後、茎の下部から長い枝が出て、先で発根し、新しい株をつくる。北海道から本州、四国、九州、南西諸島に分布して、朝鮮半島、中国にもある。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では海岸沿いの土地に生育地があり、林縁、山地路傍など崖錐状地の草地に生える。時に海岸クロマツ林内、林縁にも生える。

【存続を脅かす原因】
生育地の遷移による環境変化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○										○			

シソ目ゴマノハグサ科

トウテイラン

Pseudolysimachion ornatum（Monjus.）Yamazaki

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内では隠岐諸島にのみ生育がある植物で、県外の生育地はきわめてまれであって、個体数も多くはなく、絶滅が心配される所もある。

【概要】

海岸のおもに岩上に生える植物で、草丈は50cmばかりとなり、数本の茎を立てて、株状をなす。植物体全体が白色の綿毛に被われていて、特に葉裏は白色そのものである。葉は長楕円形、長さ５cmばかりで対生する。花は夏に咲き、茎の上部の穂状の花序に青紫色の小花を多数つける。粉白の植物体に青紫色の花穂がたいへん美しい。隠岐諸島以外では鳥取県、兵庫県、京都府の日本海側の海岸の一部に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島では全島に生えて、附属の小島などにも多く生える。海岸の岩上に生えるが、時に内陸の露岩上や、時に道路法面の露岩上にも生えることがある。

【存続を脅かす原因】

内陸側での生育地では遷移による環境変化が心配される。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
			○																			○

シソ目ゴマノハグサ科

イヌノフグリ

Varonica didyma Tenore var. *lilacina*（Hara）Yamazaki

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内での生育地は限られている。

【概要】

道端などの草地に生える越年草。茎は分枝して地に這い、草丈は10cmばかりのもの。葉は卵円形で長さ、幅とも１cm前後、対生または互生する。花は春早くに咲く。茎の先端部の葉腋に径３－４㎜の淡紅色の小花を１個ずつつける。国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県内ではおもに海岸沿いの土地に生育地がある。生育地は限られているが、おもに道端に生えていて、時には岩場にも生える。生育地はいずれも狭い範囲であり、生育地によっては、時に消滅して、異なる場所に新たな生育地が生じていることもある。

【存続を脅かす原因】

草地の遷移による環境変化が考えられる。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	○																○		

シソ目ゴマノハグサ科

カワヂシャ

Veronica undulata Wall.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地は点在して、多くはなく、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

おもに川の中や縁に生える越年草で草丈50cmばかりになる。葉は披針形から長楕円状披針形で無柄、長さ７－８cm、幅２cmばかりで対生する。花は春から初夏の頃に咲き、葉腋に長さ10cm前後の総状花序を出し、小花を多数つける。花冠は短い筒があって先は４裂片に裂け淡紅紫色、径３－４㎜である。本州の中部以西、四国、九州、南西諸島に分布し、中国、東南アジアに分布が続く。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では限られてはいるが生育地が点在する。平野部から山地の河川水辺に生育するが個体数は多くはない。生育地は年毎にかなり移動することもあり、消滅する場所、新たに生育が確認される場所がある。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。河川改修工事等による生育地の破壊。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○									○					○						

シソ目タヌキモ科

イヌタヌキモ

Utricularia australis R.Br.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】
減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。
【概要】
全国の湖沼や溜池、水田などに生育する多年生の浮漂植物。タヌキモとよく似るが、タヌキモの花茎の断面の中央部には小さな穴があるのに対しイヌタヌキモは中実であること、タヌキモの殖芽が濃緑色の卵球形で大きさ５－20㎜ほどであるのに対しイヌタヌキモの殖芽が暗褐色の紡錘形で大きさ３－10㎜ほどであることなどで識別される。
【県内での生育地域・生育環境】
平野部及び丘陵部の池沼や溜池。
【存続を脅かす原因】
農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○					○					○				

マツムシソウ目スイカズラ科

ハマニンドウ

Lonicera affinis Hook. fil. et Arn.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。
【概要】
常緑の蔓性木本植物で、分枝して周囲の樹種に絡まり高く樹上に伸び上がる。葉は多くは長さ５－10cm、幅２－４㎝ばかり、楕円形で対生する。葉裏は粉白のものが多い。花は初夏に咲き、葉腋に長さ５㎝ばかりの総状花序をつけて、10花程をつける。花冠は長さ３－４㎝で、筒状で中程で２裂し、上唇は４裂し、はじめ白色で後に黄色に変色する。果実は黒く熟れる。中国地方以西、四国、九州、南西諸島に分布する。
【県内での生育地域・生育環境】
県内では出雲部、石見部の海岸沿いの場に生育地がある。出雲部での生育地には分布北限地がある。
【存続を脅かす原因】
樹林伐開、諸開発工事。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○													

マツムシソウ目スイカズラ科

オニヒョウタンボク

Lonicera vidalii Franch. et Savat.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵16

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。全国的にも分布がまれな植物である。
【概要】
夏緑性の低木で、葉はほぼ楕円形で長さ10cm、幅５cm程になり、表面はやや光沢があって対生する。花は５～６月頃に咲き、葉腋に多くは２花ずつつく。花は筒状で先で２唇形となって、白色花、後にやや黄色を帯びてくる。果実は液果で赤く熟れ、ほぼ球形、２果が基部で合着する特徴がある。果実は有毒であるとされる。本州の東北地方から中国地方までの間に隔離的に分布している植物である。
【県内での生育地域・生育環境】
県内では隠岐諸島にのみ生育地が知られていて、出雲部、石見部での生育地は不明である。夏緑二次林内に生える。
【存続を脅かす原因】
樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

マツムシソウ目スイカズラ科

チョウジガマズミ

Viburnum carlesii Hemsley var. *bitchiuense* (Makino) Nakai

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。全国的にも分布地は限られている。

【概要】

夏緑性の低木で高さ２－３mのもので、葉は楕円形から広楕円形で長さ10cm、幅７－８cmばかり、対生する。花は春に咲き、枝先に集散花序をなして20花程の小花がつく。蕾は紅色を帯びて美しい。花冠は筒状で、先端は５裂し、開花時には外に開き白色である。花には強い芳香があって特徴的である。果実は楕円形、長さ１cmばかり、初め赤く熟れ後に黒く熟れる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島と出雲部に生育地が知られている。出雲部での生育地はきわめてまれである。生育地の多くは海岸または海岸に近い岩場である。出雲部ではやや内陸の岩場に生育地がある。

【存続を脅かす原因】

遷移による樹林化が心配される。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○										○			

マツムシソウ目オミナエシ科

カノコソウ

Veleriana fauriei Briq.

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれな状態となっている。生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地の少しばかり湿り気のある草地に生える多年草で草丈は50cmばかりになる。葉は対生するが、茎の下部につく葉は長い葉柄があって羽状に２～３対の小葉があり、上部では柄も短く、羽状に全裂しない小形のものとなる。花は春から初夏にかけて咲き、茎の上部の集散花序に小花を多数つける。花冠は径３mmばかりで淡紅色である。北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国に分布が続く植物である。

【県内での生育地域・生育環境】

県全域に生育地が点在するが、近年、これらの生育地が消滅しつつあって、かなりまれな状態となっている。以前、林縁路傍などのやや陰湿な地に生育していた個体群などは現在はほとんど消滅してしまっている。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移、樹林伐開などによる環境変化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

マツムシソウ目マツムシソウ科

ナベナ

Dipsacus japonicus Miq.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はまれとなっていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

【概要】

山地に生えて、茎の高さは１mばかりになるやや大型の越年草。葉は頭大羽状に全裂し、対生する。植物体全体に刺状の剛毛が生える。花は夏に咲く。茎の上部に枝を多く分けて、先に長さ２－３cmの頭状花序に花をつける。総苞片は線形で反り返る。小花の花冠は長さ５－６mmで先は４裂する。国内では本州、四国、九州から朝鮮半島、中国東北部に分布が続く。

【県内での生育地域・生育環境】

県内の山地の林縁部や川辺りなどの草地に生育地がまれに存在する。また、時に山中での崩土、崩壊地に群生するのが見られることもあるが、長年にわたって生育地が存続することはまれなようである。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。人為による生育地破壊。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○		○															

キキョウ目キク科

ヒロハヤマヨモギ

Artemisia stolonifera (Maxim.) Komarov

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵16

【選定理由】

県内での生育地はややまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地の草原や林縁の草地に生える草丈50cmばかりの多年草。葉は多くは卵状長楕円形で長さ10cm、幅５cmばかりで羽状に浅く裂けて、互生する。葉の裏は綿毛があって白色である。花は夏から秋にかけて咲く。茎の上部に多くの枝を出し、多くの頭花をつける。頭花は小さく、長さ４－５㎜、幅３－４㎜、鐘球形である。国内では本州の中国地方から北九州にかけて分布し、さらに朝鮮半島、中国東北部に続く分布域をもつ。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地沿いの山地に生育地が点在する。やや乾いた草原状地に生え、ときに山間の耕作地の周りでの草刈場などにも生育地が存在する。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。草刈場などは耕作地の管理放棄による生育地の樹林化から生育地が消滅している。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○																

キキョウ目キク科

ダルマギク

Aster spathulifolius Maxim.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵16

【選定理由】

県内での生育地はやや限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

海岸の岩上、岩壁に生える夏緑の多年草。草丈は30cmばかりになり、根際でいくつかの枝分れがあって、葉は枝の先に多くが束生する。葉は長さ10cm、幅３－５cmばかりの倒卵状楕円形で基部に向かい狭くなり、両面に軟毛が密生する。花は秋に咲き、頭花は径４－５cmで、舌状花は１列で青紫色。筒状花冠は７㎜ばかり、果実は長さ３－４㎜で、冠毛は不同長である。舌状花が白色のものがしばしば見られる。九州から日本海側海岸に分布し、山口県から島根県、さらに朝鮮半島、ウスリーにかけて分布域がある。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部と隠岐諸島に生育地が知られている。海岸の風衝崖地や露岩上に強く生える。

【存続を脅かす原因】

園芸上での価値がかなり高く、採取による個体群の破壊が心配される。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
		○	○																○			○

キキョウ目キク科

オッタチカンギク

Dendranthema indicum (L.) Des Moulins var. *maruyamanum* Kitamura

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

【選定理由】

生育地全体での個体数はかなりな数のものが存在すると思われるが、生育地の範囲が狭く限られたものである。

【概要】

草丈は多くが30－50cm程で、葉は卵形で長さ３－４cm、幅１－２cmで、３～５中裂して、互生する。花は秋に咲き、茎の上部で、ゆるい散房状に枝を分け、頭花をつける。頭花は径２cmばかりで舌状花は黄色に美しく咲く。島根県に固有な型の植物であり、貴重である。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部の一部の狭い範囲に存在する。多くは岩上、岩質の崖地などの植生が貧弱な立地に生えている。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による樹林化。道路拡幅工事などによる生育地の破壊。ただし、拡幅工事による岩質の切り土面では年数を経るにつれて個体群が復元することもある。園芸上での採取も見られるが、人の手が届かない危険な立地もあって採りつくされることは考えられない。

生育地域				山地地域					里地地域						平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○					○			○		○				○									

キキョウ目キク科

ハマベノギク

Heteropappus arenarius Kitam.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数は多くはない。

【概要】
海岸の砂地に生える越年草、時に多年草。植物体は根生葉があって、倒狭卵形で長さ５㎝、幅1.5㎝ばかりで基部は細くなり長さ1.5－３㎝程の葉柄部分がある。茎は基部で分枝して四方に枝をだし、先で立ち上がり、頭花をつける。草丈は20㎝程のものである。花は夏から秋にかけて咲き、頭花は１個つき、径３－４㎝ばかりで淡青紫色の舌状花をつける。舌状花の冠毛は短く、筒状花のものは長い。本州の富山県以西の日本海岸を九州まで分布するものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では石見部の海岸に生育地があって、砂浜から附近の岩上にも生える。

【存続を脅かす原因】
強風による生育地の破壊、海岸における道路等の整備事業等における生育地の破壊。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																		○	

キキョウ目キク科

ナガバノコウヤボウキ

Pertya glabrescens Sch. Bip.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】
山地に生える夏緑の草状小低木で、茎は細いが硬く、枝を分けて長さ１ｍちかくになる。葉は２形あって、１年生の枝には長さ２㎝ばかりの卵形の葉が互生し、２年生の枝には節毎に長惰形で長さ２－５㎝の葉が４～５枚束生する。花は夏から秋にかけて咲き、２年生枝に束生する葉の中央に１頭花がつく。一年生枝には花はつかない。本州の宮城県以南、四国、九州に分布し、蛇紋岩地帯に多い植物とされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では出雲部にまれに生育地が知られていて、その他の地域での分布状況については不明である。生育地はほとんどが山地の路傍、林縁である。

【存続を脅かす原因】
生育地での遷移、特に照葉樹林化による影響。道路拡張その他の人為干渉。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

イバラモ目トチカガミ科

スブタ

Blyxa echinosperma（Clarke）Hooker

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】
減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】
北海道を除く全国各地の水田、溝、溜池などの浅水中に生育する１年生の沈水植物。きわめて短い地下茎から下方にひげ根を多数出すとともに薄い鮮緑色の葉を水中に根生する。葉縁には細鋸歯がある。葉の長さは10㎝から水深の深い場所では１ｍを超すなど、変化に富む。かつては水田雑草であったが、除草剤の使用や水質汚濁の影響により、現在では全国的に減少している。

【県内での生育地域・生育環境】
溜池、水田、水路など。

【存続を脅かす原因】
農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化及び側溝のコンクリート化などの生育地の環境変化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○			○		○			○		○				

イバラモ目トチカガミ科

ヤナギスブタ

Blyxa japonica（Miq.）Maxim. ex Ascherson & Guerke

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や用水路の保全･管理が年々行われなくなっている。
【概要】
北海道を除く全国各地の水田、溝、溜池などの浅水中に生育する１年生の沈水植物。茎が伸張し、植物体の長さ10－30㎝、下部は地下茎となり泥中を匍匐し、節からひげ根を出すとともに無柄で線形、時に紫色を帯びた淡黄緑色の薄い互生葉を密に付ける。全体に軟弱。スブタ同様に、かつては水田雑草であったが、除草剤の使用や水質汚濁の影響により、現在は全国的に減少している。
【県内での生育地域・生育環境】
溜池、水田、水路など。
【存続を脅かす原因】
農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化及び水路のコンクリート化などの生育地の環境変化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○			○		○			○		○				

イバラモ目トチカガミ科

ミズオオバコ

Ottelia alismoides（L.）Pers.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】
主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなるとともに、圃場整備による水田の乾田化が進行している。
【概要】
全国各地の溜池、水路、水田などに生育する１年生の沈水植物。短い茎からひげ根を多数出し、柄をもつ広卵形の柔らかな薄い葉を根生する。ミズオオバコは日本産の水草の中ではもっとも顕著な種内変異を示す種のひとつで、以前は葉の大きさや葉脈の数などでミズオオバコとオオミズオオバコの２種に区分することもあったが、現在は生育環境による違いとされて２種を区分しない。３枚の花弁は白色あるいは薄い桃色。
【県内での生育地域・生育環境】
県内各地の溜池、用水路、溝、水田など。
【存続を脅かす原因】
農業形態の変化による溜池の管理不足や乾田化、水路のコンクリート化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○							○		○			○		○				

イバラモ目ヒルムシロ科

イトモ

Potamogeton pusillus L.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】
生育場所が限られており、開発によって生育が危ぶまれる。
【概要】
全国各地の湖沼、溜池、水路などに生育する多年生の沈水植物。互生する葉は無柄で線形、先は尖る。長さ２－８㎝、幅１－1.5㎜で中央脈が明瞭。秋に葉茎の先端部が長さ1.5－2.5㎝の殖芽となり、水底に沈んで越冬する。同属のホソバミズヒキモがしばしばイトモと誤同定されるので、注意が必要である。
【県内での生育地域・生育環境】
以前から隠岐（島後）の池沼での生育が知られていたが、2003年に県東部丘陵部の沼でも見つかっている。
【存続を脅かす原因】
開発による生育場所の消失。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○				○					○					○				

イバラモ目イバラモ科

オオトリゲモ

Najas oguraensis Miki

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

除草剤の影響のほか、減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や側溝の保全・管理が年々行われなくなっている。

【概要】

本州、四国、九州の湖沼、溜池、水田、溝などに生育する１年生の沈水植物。細い水中茎が２叉状に分枝を繰り返し、葉茎ともに硬いために水中では立体的な構造となるが、茎はもろく容易に折れる。葉身は線形で長さ２－４cm、幅0.5－1.5㎜で多数の鋸歯がある。雌雄同株で雄花は苞に包まれ葯は４室。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部の溜池で記録があるが、中部・西部では詳しい調査が行われていない。

【存続を脅かす原因】

除草剤の使用及び農業形態の変化による溜池の管理不足と側溝のコンクリート化などが考えられる。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△								○		○			○		○				

イネ目イネ科

タキキビ

Phaenosperma globosum Munro

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山際などの草地に生えるやや大型の多年草で株として生える。根生葉は長い柄があって、葉身は50cmばかりで広線形。花は夏から秋にかけて咲く。稈は高さ１mばかりで、稈の上部に枝を分けて、円錐状の花序に、１列に小穂をつける。小穂は長さ４㎜程で、１花からなる。穎果は球状、長さ３㎜ばかり。

本州の近畿地方以西、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国中南部に分布が続く。

【県内での生育地域・生育環境】

県中央部に生育地があり、林縁の草地や崖地などに生える。出雲部や石見西部での生育地は明らかではない。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。諸整備事業による生育地の破壊。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○													

イネ目イネ科

ウキシバ

Pseudoraphis ukishiba Ohwi

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生育場所が限られており、開発が危ぶまれる。

【概要】

本州、四国、九州の湖沼、溜池、水湿地に生育する浮葉あるいは半抽水の多年生植物。茎は長い棹状で軟質。順次枝を出し、上部は斜上あるいは水面に浮かぶ。節から水中に根を出すが、水位が低下した場合には泥中に根を伸ばす。葉身は淡緑色で狭線形あるいは広線形、長さ３－６cm、幅2.5－５㎜で、縁はざらついて先はとがる。葉は互生し、長さ約３cmの筒状の葉鞘が茎を抱く。花序は棹の先に単生するが基部は葉鞘の中にとどまる。総状花序の長さは３－５cmで筆状に見える。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部の溜池。

【存続を脅かす原因】

家庭雑排水の流入による生育地の有機汚濁及び埋め立て。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△								○		○			○		○				

タコノキ目ミクリ科

ミクリ

Sparganium erectum L.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はまれであり、将来において存続が心配される。

【概要】

川や池の浅い水中に生える抽水植物の一種であり、植物体は地中に分枝する地下茎の先端に株をつくり群生する。葉は２列で数枚が高さ１m、幅１cm前後で、裏側に稜がある。夏前に葉とほぼ同長の花茎に少しばかりの枝を分け、その枝に球状の花序をつけて花が咲く。枝の下部には雌性花序、上部に雄性花序がつく。雌性花序は熟して径２cm程の球形の集合果となる。国内では北海道から本州、四国、九州に分布し、北半球の温帯に広く分布範囲があるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では全県にまれに生育地があって点在している。多くは溜池に生育し、時に大群落が見られる所もある。河川の水辺にも生えることがある。

【存続を脅かす原因】

溜池の管理放棄による遷移。立地の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○			○	○				○	○				○	○				

タコノキ目ミクリ科

ヤマトミクリ

Sparganium fallax Graebn.

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はややまれであり、多くは生育地の環境変化による植物体の激減が心配。

【概要】

川や池の浅い水中に生える抽水植物の一種であり、地中に分枝する地下茎の枝の先端に株を作り群生する。葉は２列に数枚がついて草丈50cmばかりとなり、葉の幅は１cmばかりで裏側に稜がある。夏頃に花が開くが、葉とほぼ同長の茎が伸び、葉腋に球状の花序として多くの小花がつく。下方に雌性花序、上方に雄性花序が数個ずつつく。雌性花序のうち下部のものは腋上性で、花序の柄は茎と合着する特性があって、茎の葉と葉の中間あたりに花序がつくように見える。本州の関東地方以西、四国、九州から南はインドにまで分布域があるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内全域に生育地が点在し、農業用水路や溜池に生える。

【存続を脅かす原因】

溜池の管理放棄、河川改修工事などの影響。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○			○	○				○	○				○	○				

タコノキ目ミクリ科

ナガエミクリ

Sparganium japonicum Rothert

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生育地はまれであって、個体群も小さい。

【概要】

川や池の浅い水中に生える抽水植物の一種であり、植物体は地中に分枝する地下茎の枝の先端に株をつくり群生する。葉は線形で２列に数枚が高さ50cmばかりに伸び、幅は１cmばかりで裏側に稜がある。夏頃に葉とほぼ同長の高さに茎が伸び、葉腋に球状の頭状花序を１個ずつつけて花が咲く。下方の数個の花序は有柄で、雌性花序である。上方に無柄の雄状花序がつく。本州から四国、九州に分布し、朝鮮半島にも分布するものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部から石見部にかけて生育地がまれに点在する。隠岐諸島での生育地については不明である。生育地はすべて農業用の溜池である。

【存続を脅かす原因】

溜池の管理放棄による遷移、乾燥化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○					○					○					○				

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

サツマスゲ

Carex ligulata Nees

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内のやや海岸寄りの山地林内に生育地が点在するが、昭和60年代頃より生育地が消滅したり、個体数が減少してきて、現状がどの程度か明らかではない。

【概要】
山地林内に生える多年草で株となって、草丈50cmばかりとなる。茎の上部には長さ20cm、幅５㎜ばかりの葉身のある葉を多くつけ、下部では葉身のない葉がつく。葉は白緑色で特徴的である。花は夏前に咲く。雌小穂は長さ３cm前後で柱状、長い苞があり、果胞は倒卵形、長さ４－５㎜で全体に銀白色の毛が密生する。国内では本州の関東南部以西、四国、九州に生え、朝鮮半島、中国、インドにもあるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では出雲部､石見部には生育地が明らかであるが、隠岐諸島での生育地は不明である。

【存在を脅かす原因】
生育地の遷移による樹林化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○										○			

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

キノクニスゲ

Carex matsumurae Franch.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】
県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】
海岸沿いの林内に生える常緑の多年草で、葉はやや硬く、線形で長さ20－30cm、幅１cmばかりで多数が根生して株状となる。花は春早く咲く。稈は高さ30cmばかりで、小穂は４～５個で、頂小穂は雄性である。雌小穂は長さ３cmばかりの柱状で、熟して、帯白色である。柱頭は２岐、果実の頂部の附属体の基部は環状に肥厚する。本州の関東地方以西、四国、九州に分布し、朝鮮半島にも分布するものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では隠岐諸島に生育地が知られていて、石見部海岸にも分布するとされるが、明らかではない。照葉樹二次林内に生えているが個体数はあまり多くはない。

【存続を脅かす原因】
樹林伐開による生育地の環境変化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○															○	○		

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

オオクグ

Carex rugulosa Kukenth.

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】
県内では生育地が限られている。

【概要】
川口などの汽水域の湿地に生える植物であり、植物体は地中の分枝する根茎から長さ50cm、時に１m、幅は１cm弱のやや緑白色の葉を数枚つけた株として生え、群生する。花は春早く咲き､新葉が出ると同時に花茎を出し、下部に雌性花序２～３個､上部に雄性花序を１個つける。花序は伸びて30－50cmばかりになる。果実は夏前には熟し、果胞は６－７㎜で、この類では大きい方であり、よく目立つ。国内では北九州以北、朝鮮半島、中国東北部からウスリーの海岸域に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】
県内では中海から宍道湖にかけての水辺に生育地がある。中海では群落規模は小さいがほぼ全域に生育地が点在する。大橋川川口附近には優良な規模の大きな群落がある。

【存続を脅かす原因】
生育地での遷移による環境変化。河川改修工事などの人為干渉。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																					○

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

ヒトモトススキ(シシキリガヤ)

Cladium chinense Nees

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は海岸に点在するが、いずれも小面積で、個体群も小さいものである。

【概要】

塩性湿地から沿海地の湿地に生え、草丈は時に２cm以上になる大形の多年草である。葉は濃い緑で硬く、葉縁も硬く鋸歯状で強くざらつき、猪切茅の名はここにあるのであろう。花は夏に咲き、葉よりも高く花茎を伸ばして、上部の節ごとに多くの枝を分けて房状に多数の小花をつける。アジアの熱帯から中国、南西諸島、本州では関東以西、能登半島以西に分布するものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見部から出雲部の海岸に点在して、隠岐諸島の島後に分布の北限がある。海岸の岩棚の水湿地に生える。出雲部では中海にも分布し、水辺から浅い水中に生えて、時にオオクグと隣接して見られる場もある。

【存続を脅かす原因】

波浪などによる自然災害。土地改変による生育地の破壊、消滅。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
○	○	○	○																○			○

ラン目ラン科

フウラン

Neofinetia falcata（Thunb.）Hu

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内では全域に分布する植物であるが、園芸上での採取等によって生育地及び個体数は激減している。

【概要】

照葉樹の樹幹や、時に岩上に着生する常緑の草本で、植物体は長い着生根をもち、短い茎に左右２列に葉を互生し、株となって草丈20cmばかりのものである。葉は広線形で内側に折れ、硬く、長さ10cmばかりで、基部は鞘となっていて、鞘の上部に関節がある。初夏の頃に、葉のもとから長さ10cmばかりの花茎を出し、５花程を総状に咲かせる。国内では関東以西から四国、九州、南西諸島にかけての暖地に分布する。花には芳香があり、古来より栽培する人があって野生品が好まれて採取される。

【県内での生育地域・生育環境】

県内には広く生育地が点在し、神社、仏閣の照葉樹古木等に着生がみられ、主幹から支幹さらに小枝にも着いている。

【存続を脅かす原因】

着生樹木、樹林の伐倒、倒開と園芸上での採取。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○					○								

ラン目ラン科

ヨウラクラン

Oberonia japonica（Maxim.）Makino

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内には広く分布域があるが、生育地はもともと多くなく、その個体数はきわめてまれな状態となっている。

【概要】

樹幹、時に岩上に着生するきわめて小型の常緑多年草である。植物体は長さ５cm止まりのもので小さい株になって下垂して生え、葉は扁平で長さ１－２cm、幅３mm程で、左右２列に互生する。花は初夏の頃に咲き、茎頂に長さ５cmばかりの花序を出し、多数の黄褐色の小花をつける。国内では関東以西、四国、九州、南西諸島の範囲に分布域がある。

【県内での生育地域・生育環境】

県全域に生育地は点在している。しかし、各生育地での個体数は多くはない。おもに山林内や神社、仏閣のモミの大木の樹幹に着生するものが見られる。

【存続を脅かす原因】

着生樹木及び樹林の伐倒、伐開。園芸上での採取も考えられる。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○													

シダ植物ハナヤスリ科

コヒロハハナヤスリ

Ophioglossum petiolatum Hook.

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
生育する場所もあるが、県下での分布状況の詳細は把握できていない。
【概要】
高さ８－25cmの葉を１～３枚出し、担葉体は長さ２－10cm、栄養葉は長楕円形から広卵径、鋭頭から鈍頭、長さ１－６cm、幅0.7－３cm、うすい緑色。胞子穂は長さ２－4.5cmで鋭頭である。
本州（東北地方南部）～南西諸島の各地で路傍、林下や集落内に見られ、しばしば群生する。国外では熱帯から暖帯の各地に広く分布している。
【県内での生育地域・生育環境】
生育する場所もあるが、県下での分布状況の詳細は把握できていない。いずれにしても県下での生育地は少ないものと考えられる。
【存在を脅かす原因】
除草剤散布。

シダ植物ハナヤスリ科

ハマハナヤスリ

Ophioglossum thermale Komarov

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
採集されたとの報告があるが、県下での分布状況の詳細は把握できていない。
【概要】
小型の夏緑性のシダで栄養葉は細長く、線形から卵形で胞子穂は４cmになるものもある。北海道から南西諸島の海岸の湿った砂地から川原などに生育し、シベリア・中国・台湾やミクロネシアに分布する。また、内陸部の比較的乾燥した場所に生え、栄養葉の幅広い部分が中央より基部にあるコハナヤスリvar.nipponicumがあり、これは本州・四国・九州と中国・台湾に分布する。
【県内での生育地域・生育環境】
県西部で採集されたとの情報があるが、現状は把握できていない。
また近年隠岐でコハナヤスリと思われる個体の生育が確認されている。
【存在を脅かす原因】
除草剤散布。

シダ植物シシラン科

ナカミシシラン

Vittaria fudzinoi Makino

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内で採集された標本はあるが、現状不明である。全国的にも希少種であるので自生が確認された場合厳重な保護を必要とする。
【概要】
常緑性で、根茎は短く匍匐し、葉は線状で長さ25－45cm、幅３－５㎜。葉の表面に中肋が隆起し、その両側に溝がある。胞子嚢群は葉縁と中肋の中間の浅い溝に生じる。
本州（奥多摩以西）・四国・九州で、山中の岩上や樹幹に着生するがまれである。国外では中国南西部に分布する。
【県内での生育地域・生育環境】
県西部で記録され、採集品も博物館に納められているが、現状は不明である。
【存在を脅かす原因】
森林伐採、土砂の堆積、採集。

キンポウゲ目キンポウゲ科

シマキツネノボタン

Ranunculus sieboldii Miq.

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地の記録があるが、現在での明らかな生育地の確認ができていない。
【概要】
やや湿気のある地に生える多年草。茎は地を這うように伸び、白毛が密生し、葉を互生する。葉は長い柄があって３出複葉、小葉がさらに３中～深裂する。花は春から夏に咲き、葉に対生する形で長さ５cmばかりの花柄に花をつける。花弁は黄色、長楕円形で長さ５㎜ばかり、萼は反曲して咲く。
国内の本州中国地方から四国、九州、南西諸島に分布して、さらに中国にも分布するとされる。
県内では出雲部および石見部での一部に生育地があるとされる記録があるが、現在のところ不明であって、消滅したとも思われる。
しかし、県内のその他の地に生育地が確認される可能性が考えられる。
【県内での生育地域・生育環境】
生育地が確認できない。
【存続を脅かす原因】
生育地が確認できないので、状況が把握できない。

バラ目バラ科

コゴメウツギ

Stephanandra incise (Thunb.) Zebel

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、個体数もきわめて少ないものである。

【概要】

夏緑低木で、葉は互生し、三角状広卵形、長さ５㎝、幅３㎝ばかり、大小欠刻状で、重鋸歯縁が特徴的で目立つ。花は経４－５㎜の小花、白色で散房花序に多くつける。

国内では、北海道、本州、四国、九州に分布し、国外では朝鮮半島、中国大陸と、広い範囲に分布する植物とされる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内ではきわめてまれであり、旧羽須美村地内江の川の川岸岩崖から河川敷岩上に僅かな個体が知られていたほか、匹見町大神ヶ岳岩崖に数株が生育しているだけの状態である。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による樹林化による消滅が心配される。

バラ目マメ科

オオバクサフジ

Vicia pseudo－orobus Fisch.et Mey

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

近年、生育地が急激に減少し、生育個体数も激減している。

【概要】

山地林縁などに生える、蔓性の多年草。葉は長さ３㎝、幅２㎝ばかりの小葉を５～８ほどつける。羽状複葉を互生する。

【県内での生育地域・生育環境】

山地林縁、時には耕作地周辺に生えたが、近年はまったく見られない。

【存続を脅かす原因】

林縁の刈り込み等の管理放棄により、生育地の適地の消失。

ツツジ目イチヤクソウ科

シャクジョウソウ

Monotropa hypopitys L.

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地は限られているように思われるが、県全域での生育地や個体数について状況が明らかでない。

【概要】

山地林内に生える腐生の多年草である。植物体は茎が高さ20㎝ばかりに地上に伸び、少しばかりの鱗片葉をつけ、全体が淡黄褐色である。夏前に、茎の先の総状花序に５～６個の花を下向きにつける。萼片、花弁ともに４枚で長楕円形、長さ１㎝ばかり、花後、果実は上向きに立ち上がる。

国内では北海道から本州、四国、九州に生え、北半球の温帯域に広く分布域があるとされる。県内では山地のコナラ林内などに時折り生育個体をみるが、県内全域での生育地や個体数がどの程度であるのか情報不足である。

【県内での生育地域・生育環境】

生育地が安定して確認できないので、状況が把握できない。

【存続を脅かす原因】

前記の状態にあって、不明である。

シソ目シソ科

キセワタ

Leonurus macranthus Maxim.

島根県：情報不足（DD） 写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

【選定理由】

生育地は明らかに減少していて、その現況が明らかではない。

【概要】

山地の草地に生える夏緑性の多年草であり、草丈は１m程になる。茎は４角で、狭卵形で長さ７－８㎝、幅５㎝ばかりの葉を対生する。花は夏に咲き、茎の上部で葉腋に紅紫色の花を数個ずつつけて咲く。花冠は筒状、唇形で、下唇の中央裂片は下方に強く曲がる。花冠は密に白い毛があるのが特徴的である。

国内では北海道から本州、四国、九州に分布して中国大陸に分布が続くものとされる。昭和60年代には出雲部山地に生育地が点在していて、県内に広く生育地が存在していたと思われるが、その今まで知られていた生育地はすべて消滅していて、県内での分布状況はまったく明らかでない。

【県内での生育地域・生育環境】

前記の状態にあって、生育地は安定した場所ではないようである。

【存続を脅かす原因】

生育環境が安定しないことによる環境変化。

シソ目ナス科
アオホオズキ
Physaliastrum savatieri (Makino) Makino

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

【選定理由】
県内での生育地はきわめてまれであり、個体数もまれである。
【概要】
山地のやや陰湿な地に生える。草丈40－50cmほどの柔らかい多年草。葉は長楕円形、長さ10cm、幅４－５cmばかり。葉の腋に１～２個の淡緑色の花をつけ、１－２cmの卵形、緑色の果実をつける。
【県内での生育地域・生育環境】
生育地がまれで、確認できない。
【存続を脅かす原因】
遷移。

シソ目ナス科
オオマルバノホロシ
Solanum megacarpum Koidz

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地はきわめてまれであり、個体数もまれである。
【概要】
国内では、本州中部地方以北、北海道などの山地の湿原に生える蔓性多年草。
【県内での生育地域・生育環境】
県内では生育地が、三瓶山麓「浮布の池」畔などに以前から知られていた。この「浮布の池」のものは近年、調査は充分とはいえないが、個体数はきわめて少なく、絶滅寸前の状態である。
【存続を脅かす原因】
遷移。

シソ目タヌキモ科
イトタヌキモ（ミカワタヌキモ）
Utricularia exoleta R.Br.

島根県：情報不足DD
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

【選定理由】
減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や休耕田の保全･管理が年々行われなくなっている。
【概要】
本州と九州の湿地や溜池、水田などに生育する。茎はごく繊細な糸状で直径１㎜以下、盛んに分枝して絡み合いマット状になる。花茎は長さ５－15cmで褐色、花は淡黄色で大きさ３－４㎜ほど。
【県内での生育地域・生育環境】
これまでのところ宍道湖北岸の溜池と休耕田の湿地で観察例があるが、全県的な調査は行われていない。
【存続を脅かす原因】
農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化。

キキョウ目キキョウ科
バアソブ
Codonopsis ussuriensis (Rupr. et Maxim.) Hemsley

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

【選定理由】
県内ではきわめてまれな植物で、個体数もどれ程のものかも把握されていないように思われる。過去において標本が得られた場所での調査でも、まったくこの種の生育を確認することはできていない。
【概要】
山地林縁などに生える多年草の蔓草。ツルニンジンに似た草であるが、全体に白毛があり、塊根は球形で花は小さい。
日本から朝鮮半島、中国東北地方などに分布域があるものとされるが、もともとまれな分布の植物とされているようである。
【県内での生育地域・生育環境】
生育地が確認できない。
【存続を脅かす原因】
遷移。

キキョウ目キク科
ムラクモアザミ
Cirsium maruyamanum Kitamura

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：基準標本産地
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地はまれであって、生育地での個体数も少なく、県内全域での分布状況が明らかではない。
【概要】
山地の林縁や草地の水湿地から水田の傍などの水湿地に生える夏緑の多年草。根生葉は長楕円形で長さ20－30㎝、幅10㎝程で、羽状に中、深裂する。花は夏に咲き、高さ30－50㎝ばかりに花茎を伸ばし、上部で２～３の枝を分けて、先に頭花が点頭してつく。国内の中国地方山間にのみ分布する植物とされる。マアザミとノアザミの自然雑種起源の植物ともされ、県内ではおもに出雲部中国山地沿いの地にまれに生育地がみられるが、個体数はきわめて少ない。石見部にも分布の可能性があるが、はっきりとした生育地の情報はないようである。
【県内での生育地域・生育環境】
現在での生育地が確認できない。
【存続を脅かす原因】
遷移による生育地の消滅。

キキョウ目キク科
ミヤコアザミ
Saussurea maximowwiczii Herder

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内では以前にはかなりあちこちに生育地があったが、近年急激に減少し、絶滅が心配される。
【概要】
山地林縁など草原状地に生え、草丈50－100㎝になる多年草。葉は長楕円形で長さ20－30㎝ばかりで羽状深裂。花（頭花）は秋に咲き、径１㎝ばかり、散房状に多くつける。
国内では西日本、国外では朝鮮半島、中国東北部にかけて分布域がある植物とされる。
【県内での生育地域・生育環境】
現在での生育地が確認できない。
【存続を脅かす原因】
遷移による生育地の消滅。

イバラモ目イバラモ科
トリゲモ
Najas minor L.

島根県：情報不足（DD）
島根県固有評価：－
環境省：絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

【選定理由】
除草剤の影響のほか、減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や側溝の保全・管理が年々行われなくなっている。
【概要】
本州、四国、九州の湖沼、溜池、水田、溝などにまれに産する１年生の沈水植物。オオトリゲモよりも全体が小形で、葉の長さは１－２㎝。葉の大きさには変異があるので、オオトリゲモとの確かな識別は、雄花の葯室の数が１室（トリゲモ）か、４室（オオトリゲモ）かによる。
【県内での生育地域・生育環境】
不明。
【存続を脅かす原因】
除草剤の使用及び農業形態の変化による溜池の管理不足と水路のコンクリート化。

カヤツリグサ目カヤツリグサ科
アブラシバ
Carex satzumensis Franch.et Savat.

島根県：情報不足（DD） 写真 口絵16
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生育地はまれに知られるが、その場の遷移によって消滅することがあって、長続きする生育地は無いようである。
【概要】
山地の裸地に生える多年草。草丈10－20㎝ばかり。花序は円錐形で多くの小穂をつけ、上方に雄花穂、下方に雌花穂をつける。
国内では本州の東北地方南部から四国、九州に分布するとされる。
【県内での生育地域・生育環境】
県内では東部及び中部に生育地が知られている。生育地は山地の草原状地や露岩状地である。
【存在を脅かす原因】
遷移による生育地の消滅。

ラン目ラン科

ハクウンラン

Vexillabium nakaianum F. Maek.

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地樹林内に生育するやや小型の植物で、茎のもとの方は地に這い、上部はやや立ち上がる形態である。葉は卵円形で径５㎜程で互生する。花期は夏であり、茎頂部に白～淡桃色の小花を数個つけて咲く。

国内でのこの種の分布は本州、九州で、さらに朝鮮半島にも分布域があるものとされている。

【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐（島後）の一部にのみ知られていて、照葉樹林域の二次林であるウラジロガシ萌芽林内である。この種の二次林は島内に同じような状態の地は多くあり、この種の植物の生育立地は広く認められるように思われるが、生育地はきわめて少ない状態である。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の乾燥化。園芸上での採取。

概説 RED DATA BOOK

蘚苔類

1．蘚類

島根県は、東部の安来市から西部の益田市までのおよそ200kmにわたる細長い本土部と東経133°北緯35°付近に浮かぶ隠岐諸島から成っている。本土部分の南部には中国山地が連なっており、鳥取・広島・山口の各県と接している。これらの山地には豊かな山林が育っている。島根県の蘚苔植物についての総括した報告書は見当たらないが、西中国山地の植物に関する学術報告（1966）によると、「本地域に産する蘚苔植物以上の植物は、蘚類200余種・苔類100余種・シダ植物90余種・裸子植物12種・被子植物750種である。これは広島・島根県下に産する全植物数の2/5ぐらいにあたるのではないかと思われる」と記載されている。調査地域が標高350m内外から最高1,346mの範囲であって、低海抜の渓谷部には、温帯性植物が多く、蘚類においてもマゴケ亜綱の多くの蘚類が群落を形成して生育している。しかしながら、これらの群落の中には、暖帯系や亜高山系の蘚類が混在していることが報告されている。例えば、フジハイゴケ、チャボスズゴケ、コセイタカスギゴケなどの群落がみられる。また、低海抜の渓谷には、暖帯系蘚類のソリシダレゴケ、ムジナゴケ、ナワゴケなどが観察されている。そしてまた、山頂付近には亜高山地帯に生育しているクロゴケが、渓谷の森林内にはイワダレゴケ、タチハイゴケ、マキハヘチマゴケなどの群落が観察されている。また、山地の森林の林床には、オオミミゴケの群落がみられる。この種はシキムヒマラヤ、台湾、日本西南部の高山に飛び石的に分布している蘚類で、亜高山帯でも稀にみられ、中国地方では珍しい蘚類である。クロゴケは県東部の標高950mの岩上にも生育していることが報告されている。イワダレゴケは出雲部と石見部の境目にそびえる三瓶山の原生林内の腐植土上にフサゴケやフトリュウビゴケと共に大きい群落を形成している。県内には平地から標高1200mまでの間に強い酸性（pH 3-4.5）の多湿地が点在しており、そこには北周極要素のオオミズゴケ、ハリミズゴケの２種が、また水のしみ出る岩壁面や岩棚には熱帯要素のホソベリミズゴケが県下５カ所で観察されている。このホソベリミズゴケは懸崖性のミズゴケである。また、県内には渓谷や滝が多くみられるが、水しぶきのかかるような岩上にはクマノゴケが生育しているところが数カ所あるが、量的にはきわめて少ない。島根県は林業県でもあるが植林されたスギ林のスギの切り株上に生育しているハイゴケやトヤマシノブゴケの中にウチワチョウジゴケが観察されることがある。この仲間は配偶体の葉や茎が退化し、胞子体だけが生育するというまれなコケである。県内には神社仏閣が多い。石垣上にはギボウシゴケ、ヒジキゴケ、ミノゴケなどが、砂をひいた地上にはヤマトフデゴケ、ヒョウタンゴケ、シモフリゴケ、スナゴケ、やや湿った地上にはトサカホウオウゴケ、コバノチョウチンゴケ、ツルチョウチンゴケなどがみられる。境内にはスギの大木があり、その基部にはホソバオキナゴケ、カガミゴケなどが群落を作っている。山間部にある神社仏閣の石垣の隙間には、エビゴケ、アブラゴケが日陰のやや湿った地上や腐葉土上にはヤノネゴケ、ヒメハイゴケなどがみられる。県内のある古刹（寺院）での蘚類調査によると、スギゴケ科３属３種、ギボウシゴケ科３属５種、ヒラゴケ科１属３種、シノブゴケ科２属３種、アオギヌゴケ科５属８種など21科35種51種の生育が報告されている。この古刹（寺院）での優占種をみると、地上ではウマスギゴケ、クロツリバリゴケ、アオシノブゴケ、トヤマシノブゴケ、ホソバオキナゴケ、ハイゴケなど、石垣や石灯籠の上ではギボウシゴケ、ヒジキゴケ、ネジクチゴケなどである。

2．苔類・ツノゴケ類

県内産の苔類・ツノゴケ類に関する記録は島根県自然保護基本調査・中間報告（1972）で益田市高島の苔類・ツノゴケ類16種、第33回日本生物教育会全国大会記念誌「島根の生物」（1978）に113種、大万木山の蘚苔類（その1）（岡本、1975）に20種、「日本産苔類図鑑」（井上、1974、1976）に30種、「島根県大百科事典」山陰中央新報社刊（1982）に図解49種、同属種43、隠岐諸島の苔類（井上、1985）に72種がある。これら、県内産の苔類・ツノゴケ類については、「島根県産のタイ類・ツノゴケ類」（下瀬、2011）に、まとめられている。

これに未発表の資料を加えてまとめた県内産苔類は31科56属152種、ツノゴケ類は２科５属７種となっている。これは日本産苔類の総種数の約1/4。ツノゴケ類は約1/2にあたる。目種別にしてみると、ウロコゴケ目117種、コマチゴケ目1種、フタマタゴケ目17種、ゼニゴケ目17種となっている。植物体の茎や葉の区別が明瞭なウロコゴケ目のコケが約8割を占めている。ツノゴケ類７種はツノゴケ目。

井上（1985）は隠岐諸島の苔類フロラで特記すべきこととして、典型的な周極要素（寒地系）と目されるものが1種も含まれていないこと、また特異な点として、県内の他地域では知られているゼニゴケ属が隠岐諸島では完全に欠如していることが指摘されている。ゼニゴケ属のコケはどの種も鼓形の多細胞の無性芽を作ることはよく知られている。この無性芽が履き物などに付着して運ばれる可能性は強い隠岐諸島であるが、どんな環境要因がゼニゴケの進入を阻むのか興味深い課題である。

コケ植物の分布に大きく影響するのは、気温や水分・湿度であることは高等植物と同じであるが、植物体が小さいコケは微細な気候的な条件にも支配されやすいという。また、コケは着生基物に支配され基物によって着生する苔類も異なる。この地

方に多いヒメトサカゴケのように岩上、崖面、樹幹、朽木と着生基物が多様なものもある。

隠岐諸島の苔類は、県内の他地区の低地や山地の苔類と共通している。このことは沿岸部の常緑広樹樹林、背後に中国山地の落葉広葉樹林帯の山地をかかえている県東・中・西部地区の苔類に大きい相違はないように思える。

県内産の苔類を隠岐諸島に準じて３つの分布型にまとめてみると次のようになる（この中には隠岐諸島の苔類も含めてある）。

(1) 東南アジアとの共通種（この地域の種が分布域を北上させて、県内にも分布しているグループ）

特に気温や湿度の影響を強く受けている種が多い。このグループは国内では、最寒月の平均気温５℃の等温線より南に東南アジアの苔類と共通なものが多いという。県内では沿岸部で浜田5.8℃、益田5.4℃でわずかに上回り、松江4.2℃、隠岐西郷は4.4℃でおよばない。温度だけでみると県東部より西部に東南アジア系のコケが多いように考えるが、苔類の分布に影響する他の要因が働く。県内で最も平均気温が高い高島（益田市沖）では、クサリゴケ科のミヤジマヨウジョウゴケ、ナガシタバヨウジョウゴケの生育が確認されている。これらは太平洋沿岸では前者が静岡県まで、後者は関東地方まで北上してきている。どちらも樹幹や生葉に着生する小さな茎葉苔。

その他生葉上苔のカビゴケ、フルノコゴケ、シゲリゴケ、コムチゴケ、ヒラキバヤスデゴケ、シフネルゴケ、ヤマトフタマタゴケ、ヤワラゼニゴケなど29種。

(2) 東アジアとの共通点（日本、中国、朝鮮半島、ヒマラヤなどに分布を広げているグループ。日本固有種も含まれる。）

ヒメミノリゴケ、ムチゴケ、ミヤコノケビラゴケ、トサノケクサリゴケ、ケシゲリゴケ、クモノスゴケ、カンハタケゴケ、チジミカヤゴケ、チャボマツバウロゴケ、フタバネゼニゴケ、ジンガサゴケなど95種。

(3) 北半球の広分布種（温帯・冷温帯、世界的分布も含める）

ミドリゼニゴケ、ウスバゼニゴケ、ケゼニゴケ、ホソバミズゼニゴケ、チャボホラゴケモドキ、フクロヤバネゴケ、タマゴバムチゴケ、トサカゴケ、ヒメトサカゴケ、ホソバコオゴケ、ヒメハネゴケ、エゾヒメヤバネゴケなど28種。

（下瀬　敏）

〔注〕種解説の学名については、原則として、「日本の野生植物－コケ－」（岩月編，2001）に従った。

蘚苔類掲載種一覧

計11種

絶滅危惧Ⅰ類（ＣＲ＋ＥＮ）			
• カビゴケ			**１種**
絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）			
○ ハリミズゴケ	↓ クマノゴケ		**２種**
準絶滅危惧（ＮＴ）			
↓ オオミズゴケ	↓ ウキゴケ（カズノゴケ）	• ホソベリミズゴケ	
• クロゴケ	• イチョウウキゴケ		**５種**
情報不足（ＤＤ）			
○ ケクラマゴケモドキ	○ ホソクラマゴケモドキ	◆ ヤワラゼニゴケ	**３種**

【記号説明】
- •：カテゴリー区分変更なしの種（４種）
- ↑：上位のカテゴリー区分への変更種（０種）
- ↓：下位のカテゴリー区分への変更種（３種）
- ○：新規掲載種（３種）
- ◇：情報不足からの変更種（０種）
- ◆：情報不足への変更種（１種）

ウロコゴケ目クサリゴケ科

カビゴケ

Leptolejeunea elliptica（Lehm. et Lindenb.）Schiffn.

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）　写真 口絵17

島根県固有評価：—

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

生葉上苔類の１種で、温暖で湿潤な地域の常緑広葉樹やシダなどの葉上に生育する。植物体が微小で大気の乾燥や汚染など環境変化の影響を受けやすく、近年各地で急速に減少している。環境省によるカテゴリーでは準絶滅危惧に指定されている。

【概要】

茎葉体の大きさは長さ５－10㎜、幅は葉を含めて１㎜未満。茎は基物の葉上をはい不規則に分枝している。長さ0.4㎜の長だ円形の葉には、大型の油体をもつ眼点細胞が散在したり、鬼の面のような形をした腹葉などの特徴をもつが顕微鏡でないと種の同定は困難。しかし、生育地では独特な香りを放ち、その存在を知ることができる。南方系の苔で国内では福島県以南のおもに太平洋側に分布。

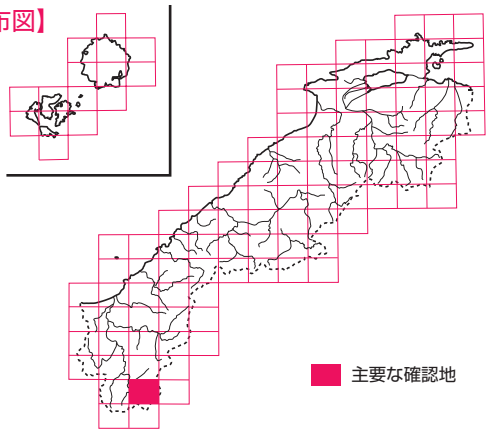
【県内での生育地域・生育環境】

沢沿いの山林内。湧水のある岩棚にミズゴケが生育する湿潤な大気環境。樹の枝やササの稈などに着生。

【存続を脅かす要因】

樹木伐採、大気環境の変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		△		○																	

ミズゴケ目ミズゴケ科

ハリミズゴケ

Sphagnum cuspidatum Hoffm.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵17

島根県固有評価：—

環境省：ー

【選定理由】

これまで県東部の1ヵ所で標本が採集されているが、その生育地は道路工事により消失した。最近になって県中部において新たな生育が確認されている。中国地方における生育は、県中部のものと、山口県内での記録があるのみであり、生育地はきわめて少ない。

【概要】

植物体は淡緑色で、大きさには変異が大きい。茎葉は舌状三角形、先端はやや鋭く鋸歯をもつ。枝葉は長卵形である。国内では、北海道から九州の中間～高層湿原などに生育する。

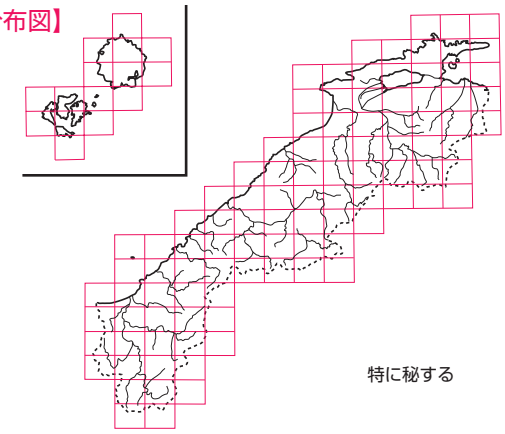
【県内での生育地域・生育環境】

県中部の限られた場所でのみ確認されている。生育環境は、溜池の中および水際の過湿な場所である。その他の地域での生育は不明である。

【存続を脅かす原因】

土地造成、道路工事などによる生育地の消失。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溜池	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○												○									

マゴケ亜綱キセルゴケ目キセルゴケ科

クマノゴケ

Theriotia lorifolia Card.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵17

島根県固有評価：—

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

生育地も限定されているうえに、量的にもきわめて少ない。環境省によるカテゴリーでは準絶滅危惧に指定されている。

【概要】

植物体はイクビゴケに似ているが、クマノゴケの地は川の水しぶきがかかるような岩石に付着して生育している。植物体は黒緑色で、葉は多層の細胞から成り立ち、葉緑体のある細胞層とない細胞層が明瞭に分かれている。国内では本州～九州にかけて生育している。

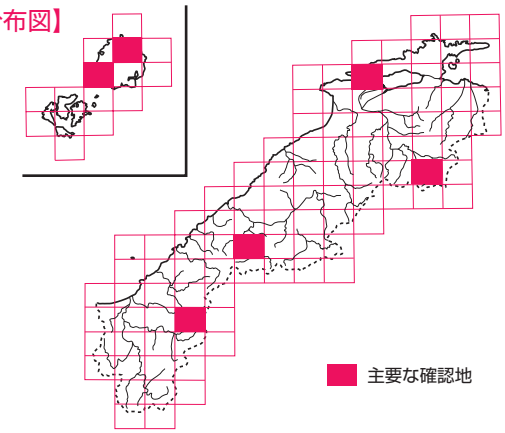
【県内での生育地域・生育環境】

県東部～西部・隠岐（島後）の限られた地域の川筋で水しぶきのかかる岩上に生育しているが、量的にはきわめて少ない。

【存続を脅かす原因】

観光客による踏み荒らし、川の改良工事によるコケ植物体の付着した岩石の埋没。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域						海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	庭園	林地	草地	砂浜	河口
○																		○				

ミズゴケ亜綱ミズゴケ科

オオミズゴケ

Sphagnum palustre L.

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

ガーデニングの普及とともに採取され、量的に減少しつつある。また、土地整備のために埋め立てられ生育地の減少が見られる。環境省によるカテゴリーでも準絶滅危惧に指定されている。

【概要】

植物体は緑色～黄褐色で、乾燥すると乳白色になる。茎の頂端付近では多くの枝が生ずる。
国内では北海道～九州の各地に生育している。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部・中部・西部の限られた範囲の地域に生育している。これらの生育地は酸性（ph3－4.5）の強い多湿地であり、民有地の田圃の畦・溜池・谷筋などで生育している。

【存続を脅かす原因】

ガーデニングによるオオミズゴケの利用、道路整備・土地の利用のための埋め立てによる生育地の減少。

生育地域				山地地域				里地地域						平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溜池	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			△			△	○	△			○									

ゼニゴケ目ウキゴケ科

ウキゴケ（カズノゴケ）

Riccia fluitans L.

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

低地のきれいな水辺に生育する葉状苔類で、水質汚濁の指標生物となっている。県内における生育地は限定されている。

【概要】

葉状体はへん平で線状。大きさは１－５cm、幅１mm未満。規則的に二又状に枝分れする。湧き水の流れ込む池や休耕田の水中に生育する。また、水田などの湿った土の上に生育する陸生型と呼ばれるものもある。陸生型は葉状体の幅が狭く、厚みがあって丸みを帯びる。雌雄同体であるが生殖器や胞子体をつけることはきわめてまれで、国内でも胞子体は陸生型のみに知られている。胞子体は葉状体の組織内にうずもれたままで熟す。

【県内の生育地域・生育環境】

生育地は山地からの湧き水が流入する休耕田や溜池で、いずれも水生型。葉状体は絡まり寄り集まって群生していた。

【存続を脅かす要因】

水質汚濁、農薬散布、水路の改修など。

生育地域				山地地域				里地地域						平野地域						海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	休耕田	森林	草原	農地	河川	湖沼	溜池	林地	草地	砂浜	河口
○			○										○						○				

ミズゴケ亜綱ミズゴケ科

ホソベリミズゴケ

Sphagnum junghuhnianum subsp. pseudomolle (Warnst.) H. Suzuki

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：情報不足（DD）

【選定理由】

東南アジアから日本の中部地方まで分布している南方系でしかも懸崖性のミズゴケである。一度、群落の剥離や脱落が生ずると、現状の回復はなかなかできない。

【概要】

植物体は淡緑色～黄褐色で､乾燥すると乳白色になる。
国内では九州～本州（中部地方まで）に生育している。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部の雲南地域、県中部、県西部、隠岐諸島のごく限られた地域に生育している。

【存続を脅かす原因】

植物体の採取による生育量の減少。

生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	岩壁	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○					○														

クロゴケ亜綱クロゴケ科

クロゴケ

Andreaea rupestris Hedw. var. fauriei（Besch.）Takaki

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

高地の日当たりのよい岩上や岩の割れ目に生育している高山性の蘚類であるが、島根県における生育地や生育量はきわめて少ない。

【概要】

茎は立ち、１－２㎝の大きさで、色は黒褐色である。乾いた岩上に生育しているものを指で触ると、すぐにボロボロにちぎれる。葉は卵状長楕円形で中肋はなく、葉身細胞の背面には大きなパピラがある。国内では北海道～九州の高山で生育している。

【県内での生育地域・生育環境】

雲南地域の高山、県西部の特定の高山の山頂近くの岩上、または、岩の割れ目で生育している。

【存続を脅かす原因】

登山者などによる踏み付け。

生育地域				山地地域					里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△		△						△														

ゼニゴケ目ウキゴケ科

イチョウウキゴケ

Ricciocarpos natans（L.）Corda

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

水田や池などの水面に浮遊する葉状苔類。農薬散布などの影響で全国的に激減し、環境省によるカテゴリーでは準絶滅危惧に指定。県内でも生育地や生育量は著しく減少している。

【概要】

水面に浮遊する葉状体は長さ１㎝前後のイチョウの葉に類似したものになる。葉状体は先端が二又状に分岐し、成長すると中央部で分割して２個体になる。また、泥土状に生育するものは分岐した葉状体がのびてロゼット状になっている。県内産のイチョウ形の葉状体は有性生殖もして胞子体がつくられ、葉状体が分裂するとき胞子は水中に分散する。分布は全世界的で、国内でも北海道から南西諸島まで低地の水辺に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県全域の水田に分布するが、生育地域や生育個体数は水質との因果関係が深い。

【存続を脅かす要因】

過剰な農薬散布。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○							○					○		○				

ウロコゴケ目クラマゴケモドキ科

ケクラマゴケモドキ

Porella fauriei（Steph.）S. Hatt.

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

ブナ帯以上の地域に生育する種であり、恐羅漢山周辺での分布記録があるが、県内での生育状況は不明である。

【概要】

植物体は黒緑色、茎は長さ３～５㎝で、羽状に分枝する。葉の背片は広卵形で、先に数個の歯がある。腹片は広舌形で、縁には数個の歯がある。国内では、北海道、九州のブナ帯以上に生育する。

【県内での生育地域・生育環境】

恐羅漢山周辺で生育の記録がある。

ウロコゴケ目クラマゴケモドキ科

ホソクラマゴケモドキ

Porella gracillima Mitt.

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

ブナ帯以上の石灰岩地に生育する種であり、県内ではかつて鰐淵寺で標本が採集されているが、現在の生育状況は不明である。

【概要】

植物体は淡緑色、茎の長さは２㎝で分枝は少ない。葉の背片は卵形、腹片は舌形である。国内では、北海道から九州のブナ帯以上の石灰岩地に生育する。

【県内での生育地域・生育環境】

出雲市内の鰐淵寺において標本が採集されている。

ゼニゴケ目ヤワラゼニゴケ科

ヤワラゼニゴケ

Monosolenium tenerum Griff.

島根県：情報不足（DD）　写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

熱帯アジアに分布する南方系の葉状苔類、１属１種で１科をなす特異な種。1960年頃から県内での生育は知られているがきわめてまれ。環境省によるカテゴリーでも絶滅危惧種Ⅱ類に指定されている。

【概要】

葉状体は鮮緑色で、大きさは２－４㎝、幅５－８㎜。葉状体の組織の分化や気室も気孔ない変わりもの。ルーペで葉状体の表面を見ると、白灰色の斑点（油体）が多数ちらばっている顕著な特徴を持つので他の葉状苔類と区別できる。雌雄同体で葉状体の先端近くに、盤状の雌器托やこぶ状の雄器托をつける。国内では関東地方以南に分布し、人家付近の湿土上や植木の圃場、温室などに生育する。

【県内での生育地域・生育環境】

栄養分の豊富な地面。生態的には窒素分を好み人為的な環境に生育。かつては公園内の側溝の壁などにも生育していた。

【存続を脅かす要因】

生育環境の変化。

概　説
RED DATA BOOK

海藻類（藻類）

海藻とは「海に生育する藻類の仲間」ですが、海水中に生育し、光合成によって独立栄養を営む有胚植物を除いた葉状の植物である。肉眼的な大きさが大型の底生海産藻類であり、顕微鏡で見るような生物は除外している。

これまでの海藻の分類は1800年代から提唱されてきた分類群「緑藻」「褐藻」「紅藻」によって、定義されてきたが、今日では「藻類」の大分類群の中に海藻が位置づけられるようになった。例えば「緑藻」は藻類の分類中、緑藻植物門、「褐藻」は黄藻植物門、「紅藻」は紅藻植物門というようにである。

ここでは、話が難しくなるので、従来の「海藻類」の定義で進めたいと思う。日本の沿岸域には約1400種類の海藻類が生存しているが、海藻の地理的分布は沿岸を流れる海流の影響を強く受ける。寒流の流れる北海道ではコンブなど亜寒帯性海藻が、黒潮暖流の影響が強い南西諸島ではカサノリ、ガラガラ類などのいわゆる亜熱帯性海藻がよく生育している。これらの中間に位置する本州沿岸では暖流と寒流の両方の影響を受けてカジメやヒジキなどの温帯性海藻が生育している。本州の日本海側は太平洋側の海藻相に似ているが、干満の差が少なく、冬場の潮位が年間を通して一番低いこと等、潮間帯の海藻植生は貧弱なのが特徴である。

島根県沿岸域の海藻植生は、海水の透明度が高い事もあって光合成活動に適しており、かなりの水深まで海藻類が豊富に繁茂している。特に、岩礁部の垂直に落ちている岩面にはアラメやカジメが海藻の林を形成し、サザエ類の恰好の生息場として機能している。海底には２～４mの長さのホンダワラ類がよく繁茂するとともに、冬から春にかけてはワカメがいたるところで生育している。

島根県には、全国でも数カ所しか生育が確認されていない貴重な海藻が認められ、海藻類の中では唯一、国の天然記念物に生育地が指定されているクロキヅタがある。隠岐諸島の島前に位置する西ノ島の別府湾の近くに黒木御所跡（後醍醐天皇が隠岐島に流刑された地、順徳天皇の佐渡島での行在所と同名）があり、この御所の前の海で珍しい海藻が採集され、その後この地名をとってクロキヅタと命名された。大正11年3月3日、国の天然記念物にその生育地が指定されている。このクロキヅタの学名は、*Caulerpa scalpelliformis var. scalpelliformis*といって学名中に、var.と記載されており、紅海に生育している変種として扱われている。クロキヅタは隠岐諸島の中でも非常に分布が限られており、広範な分布調査を行う必要があると思われるが、現時点で生育している周辺の海域に、クロキヅタの繁殖が拡大する傾向はないように思える。従って、現在生育している地域の保護が必要であると考え、海藻類では唯一、レッドデータブックに絶滅危惧Ⅱ類として記載した。種解説の学名は原則として新崎（2002）によっている。

（秋吉英雄）

海藻類掲載種一覧

計１種

絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

- クロキヅタ　　１種

【記号説明】
- •：カテゴリー区分変更なしの種（１種）
- ↑：上位のカテゴリー区分への変更種（０種）
- ↓：下位のカテゴリー区分への変更種（０種）
- ○：新規掲載種（０種）
- ◇：情報不足からの変更種（０種）
- ◆：情報不足への変更種（０種）

アオサ藻綱イワヅタ目イワヅタ科

クロキヅタ

Caulerpa scalpelliformis (Turner) Agardh var. *scalpelliformis*

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

隠岐諸島西ノ島の黒木御所跡近くの浅海で日本で最初に発見され、それにちなんでクロキヅタと命名された。海藻類としては唯一、国の天然記念物に生育地域が指定（大正11年）されている。

隠岐諸島以外では愛媛県と高知県に分布をみるのみで、南西諸島にはアマミノクロキヅタがある。隠岐諸島においても分布は非常に限られており、潮流と海底質との微妙なバランスの上で繁殖しているものと思われ、防波堤の建設などによる海水の汚濁によって生育地域が減少傾向にあると思われる。

【概要】

体は匍匐する円柱状の茎状部と下方に繊維状の仮根を認める。匍匐枝の上方には、幅１－２㎝、高さ10－20㎝の緑色の平たいリボン状の葉状部が分岐しないで直立している。葉状部の縁は鋸のようなギザギザの切れ込みがあるのが特徴である。

【県内での生育地域・生育環境】

島根県では隠岐諸島でのみ生育が確認されている。天然記念物の地域保護指定地になっている隠岐諸島西ノ島の別府湾、黒木御所跡周辺、中ノ島海士町菱浦湾周辺のほか島後での繁殖は確認している。生育環境は実にさまざまで、砂礫質の浅い海底２mでは、砂に埋まってる岩上を中心として砂地上に匍匐枝を伸ばして、直径２－３mのコロニーを形成しているが、防波堤のコンクリート面や船の係留ロープ、直径50㎝ほどの転石上にも集団を作っており、水深30㎝から２mの深さの冬場の波の影響を受けにくい場所で繁殖しているものと思われる。

【存続を脅かす原因】

沿岸域の埋め立ておよび生活廃水などの流出による海水の汚濁。漂着ゴミによる生育環境の悪化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	海中
			◎																			○

概説 RED DATA BOOK

地衣類

地衣植物は、菌類と藻類で構成された共生体であり、適当な光と湿度を好み安定した環境条件のもとで生育している種が多い。地衣体を形成する菌類や藻類は、殆ど自然界では単独に生育していることはなく、いったん地衣植物種が絶滅すれば、これらを構成する菌類種や藻類種も絶滅してしまうことになる。繁殖法も粉芽、裂芽や地衣体断片など無性繁殖器官によって行なわれるため、繁殖するにはこれら粉芽や裂芽等が母体から離れ、新しい場所へと分散していく。それらのうち生育可能な条件をもつ樹皮や、やや風化した岩上などに到達したものだけが若い地衣体を構成することができる。また地衣類の種によって生育できる着生基盤は決まっていることが多く、どのような植物の樹皮か石灰岩上か花崗岩上か蛇紋岩上かなど種による特異性が強い。このため絶滅が危惧されている地衣植物の多くはこのような特異性が強く、少しの環境条件の変化でも生育できなくなる種が多い。最近の自然林の伐採や酸性雨など大気汚染の激しい地域ではこれら地衣植物は激減し、絶滅が危惧される。また、光条件として、絶滅が危惧されている種の多くは直射日光ではなく、樹冠などを通して降り注ぐ散乱光が最も有効であり、ブナやカエデ、ナラ林など落葉広葉樹林や針葉樹林などの樹皮や岩上に着生していることが多い。

島根県の植生と地衣植物との関係を調べてみると、低地域の社寺林ではスダジイを優占種とした森林がよく保全されている。山間部では、森林構成種としてウラジロガシやアカガシ等常緑広葉樹林が優占種となることが多いが、地衣植物の生育する条件としては､やや光不足で大型の地衣植物相は貧弱である。その中でも出雲市に位置する鰐淵寺の社寺林は、適当な光と側を流れる小河川から供給される水蒸気によって高い湿度が絶えず保たれている。そのため地衣相の豊富な森林となっている。その他アカマツやクロマツを主とした出雲大社の社寺林では直径50cmを超える古木が多く地衣類や蘚苔類の着生種も豊富である。しかし、このようなクロマツやアカマツ林は、大気汚染やマツクイムシ等の影響で森林生態が大きく変化している。島根県地方も例外ではなく、そのような地域の樹木に着生していた地衣植物も現在ではその姿を消しつつある。また、地衣植物が最も好む森林環境としてブナ林があるが、島根県では赤来町や中国山地沿いに残存している程度で小規模であり、地衣植物もあまり期待できないのは残念である。島根県において地衣植物相の最も豊富な地域として隠岐諸島がある。本県での貴重な種の殆どは大満寺山、鷲が峰など海抜300mを超える山中に生育するクロベ、ヒメコマツ、イタヤカエデ、カツラ、などの樹皮に着生している。その他五箇村岳山、西ノ島町の焼火山神社の暖温帯常緑広葉樹林などは地衣植物の豊富な環境であり今後も保全すべき森林である。

地衣植物相を隣接する広島県と比べると、中国山地のブナの天然林や三段峡、帝釈峡などの渓谷林が比較的よく保全されている広島県が種数、個体数ともに島根県を上回っている。（島根県66属189種、広島県189属371種）しかし、島根県では未だ地衣植物相が十分調査されていない面もあり、今後植生との関連で調査研究が必要である。

これまで島根県で採集され、報告された地衣植物の種は次の通りである。

Wainio, A.（1918）ハナゴケ属 1種、安田篤（1925）ハナゴケ属１種、また、日本産の地衣植物のモノグラフの研究を行なった際、その種の検討標本として取り上げられた島根県産のものとしては 中西稔（1966）モジゴケ科11種、生塩正義（1968）トリハダゴケ科６種､柏谷博之（1975､1977）ムカデゴケ科６種、井上正鉄（1981、1982、2000）ヘリトリゴケ科3種、宮脇博巳（1988）チャシブゴケ科１種、原田浩（1993）アナイボゴケ科1種、松本達雄（2000）チブサゴケ科３種、大村嘉人（2001）サルオガセ属３種などで、合計すれば37種になる。これらモノグラフで扱われた標本は殆ど1980年以前に採集されたもので、現在ではこれら種を確認することが困難な種も多い。

これらとは別に、島根県隠岐諸島の地衣相を調査研究した柏谷博之（1985）の論文がある。彼は隠岐諸島で採集した約320標本をもとに「隠岐ノ島の地衣類」（Lichens of Dohgo Island, the Oki Islands）として、141種報告している。この中で彼は、コウヤハナゴケを日本で和歌山県高野山に次ぐ第２番目の産地として報告し、現在、本種は環境省の絶滅危惧種に指定されている。また、日本の南限地衣類としてのカラフトカブトゴケ、日本産として初めての報告となるPhaeophyscia sciastraや稀産種に属するナガサキトリハダゴケを報告している。この論文でリストされた種は今後島根県の地衣相の研究を行う上で貴重な資料となろう。

文献による報告種157種と、2001年から2003年にかけて中西稔と畑山経弘が、島根県内で調査した結果と中西稔がこれまで採集し標本として保存していたものを加えて、新たに24属32種を追加することができた。その結果、現時点での島根県産地衣植物は、66属189種となった。

今回の島根県のレッドデータブック改定に当たって地衣植物に関しても絶滅危惧種の選定を行った。環境省の絶滅危惧種に指定されている コウヤハナゴケの他に原生林など自然度の高い森林の樹木の樹皮に着生し、大気汚染特に酸性雨等に弱いヨコワサルオガセや これまでの調査研究では全国的に広く分布していたことが報告されていたが、最近特に森林の荒廃や伐採が目立つアカマツやクロマツに着生し、個体数を極端に減少させているトゲサルオガセとコクレサルオガセ、自然度の高い森林内でしか生育できない地衣で、島根県では隠岐にのみ分布しているテリハヨロイゴケ、アツバヨロイゴケを絶滅危惧種に

選定した。

この他注目すべき種として、太平洋側には豊富であるが、日本海側では極端に少ないトゲシバリ、ドテハナゴケ、*Pertusaria obsorescens*などがある。

各種解説の学名は原則として（Kurokawa, 2003）によった。

（中西　稔）

地衣類掲載種一覧

計６種

絶滅危惧Ⅰ類（ＣＲ＋ＥＮ）

- コウヤハナゴケ
- テリハヨロイゴケ
- アツバヨロイゴケ
- トゲサルオガセ
- ヨコワサルオガセ

５種

絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

- コフクレサルオガセ

１種

【記号説明】

- •：カテゴリー区分変更なしの種（６種）
- ↑：上位のカテゴリー区分への変更種（０種）
- ↓：下位のカテゴリー区分への変更種（０種）
- ○：新規掲載種（０種）
- ◇：情報不足からの変更種（０種）
- ◆：情報不足への変更種（０種）

チャシブゴケ目ハナゴケ科

コウヤハナゴケ

Cladonia koyaensis Asahina, 1953

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内では隠岐（島後）で確認されているのみである。差し迫った脅威は特に考えられないが、生育箇所が限られている。

【概要】

基本葉体は密生し、まれに粉芽をつける。子柄は短く、長さ１－５㎜。皮層はなく軟骨質、ウスニン酸、バルバチン酸を含む。和歌山県高野山と隠岐でのみ報告されている日本固有の稀産種である。

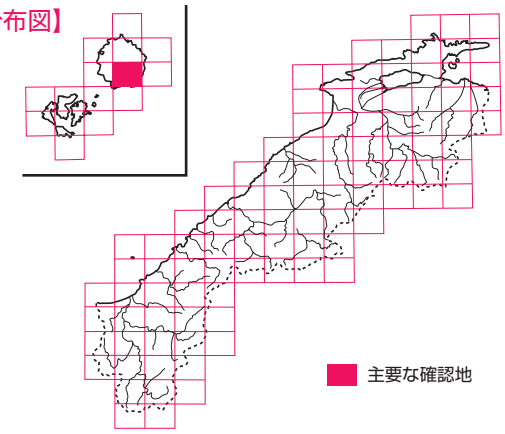
【県内での生育地域・生育環境】

本種は日当たりのよいスギの巨木の根元付近に着生する樹枝状地衣で、本県では神社やお寺にスギの巨木が見られるが、いずれも陰地に生育しているため、本種の生育しそうな環境は少ない。

【存続を脅かす原因】

本種が生育している環境は、参拝者や観光客が多く生育環境が悪化している。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎					○													

チャシブゴケ目ヨロイゴケ科

テリハヨロイゴケ

Sticta nylanderiana Zahlbr., 1924

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

かつては日本各地のブナの樹皮等に着生していたが、最近自然林の急激な荒廃により、個体数は減少し、本種の生育を確認することが困難になっている。本県でも例外ではない。生育環境の悪化による絶滅が危惧される。

【概要】

地衣体は葉状で着生基物に密着する。各裂片は４－12㎜で、上面なめらかで、淡黄褐色で光沢をもつ。地衣体は薄い。下面中央部は暗色で、周辺部は淡色の細綿毛をもち、直径0.3－１㎜の盃点を散在する。子器は円形で、中央部の子器盤は茶褐色である。国内各地のブナ等落葉広葉樹やオオシラビソ等針葉樹の樹皮に着生する。国外では中国やアフリカにも分布する。

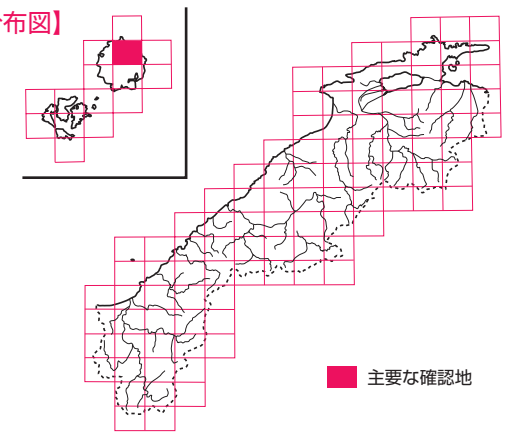
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐（島後）の大満寺山から報告されているのみである。中国山地沿いのブナ林等からの生育地が確認される可能性はあるが、ブナ自然林の荒廃等で絶滅が危惧される。

【存続を脅かす原因】

自然林特にブナ林の伐採や荒廃などによる自然破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

チャシブゴケ目ヨロイゴケ科

アツバヨロイゴケ

Sticta wrightii Tuck.,1859

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

県内では隠岐（島後）からのみ報告されている稀産種である。最近､生育環境の悪化による絶滅が危惧される。

【概要】

生育地および形態ともにテリハヨロイゴケと一致するが、本種は地衣体表面光沢がなく、やや厚いことが特徴である。本種は、北海道、本州、四国に分布し、国外ではロシア、ヨーロッパ、台湾、中国に分布する。

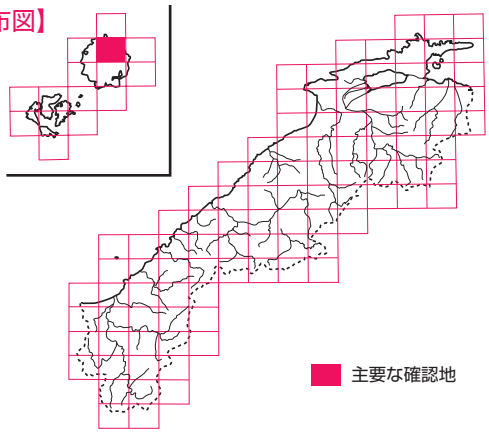
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐のみに生育しているが、テリハヨロイゴケと同様中国山地ブナ林内での生育が考えられる。

【存続を脅かす原因】

自然林特にブナ林等の荒廃および伐採による。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

チャシブゴケ目サルオガセ科

トゲサルオガセ

Usnea aciculifera Vein.,1921

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

比較的低山域に生育するアカマツやクロマツの樹皮に生育するが、最近の県内調査では確認ができていない。

本種は日本各地における調査においてもその存在を確認することが困難になってきて絶滅が危惧されている。

【概要】

本種は糸状で､樹皮より垂れ下がり長さ20㎝に達する。地衣体は淡黄緑色で、ほぼ二叉分岐をする。ソラリアはない｡地衣体の基部は連続するか不規則な割れ目をもつ。東北地方以南に分布し、国外では台湾、中国、ネパールに分布する。

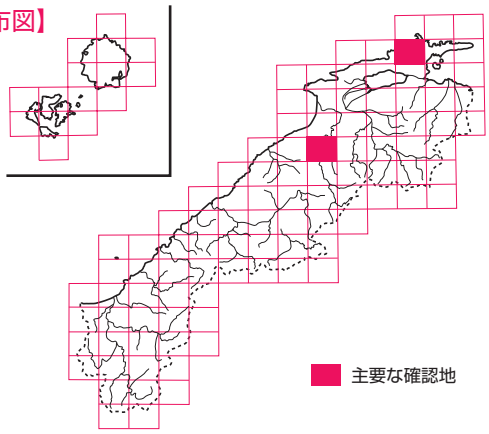
【県内での生育地域・生育環境】

比較的低山域に生育するアカマツやクロマツの樹皮に生育し、これまで県東部及び中部の２カ所からの報告のみである。

【存続を脅かす原因】

酸性雨をはじめ大気汚染の影響で、アカマツやクロマツ林の荒廃による。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

チャシブゴケ目サルオガセ科

ヨコワサルオガセ

Dolichousnea diffracta（Vain.）Articus, 2004

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

県内では1959年採集の標本から隠岐（島後）にのみ生育していたことが確認されているが、生育環境の悪化による絶滅が危惧される。

【概要】

体長70cmに達する糸状の地衣類で、中国地方では普通ブナ帯域に生育する。他のサルオガセ属の仲間と酷似するが、本種は地衣体表面に多数の輪状の裂溝を生じ区画されることにより区別できる。普通海風の強い島嶼部には生育しないとされている。

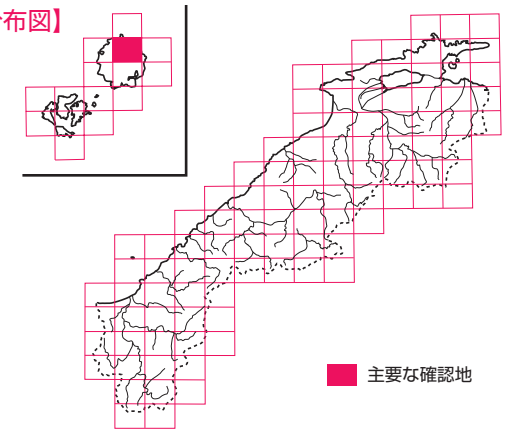
【県内での生育地域・生育環境】

本種は隠岐岳山の海抜340mと比較的低い地域で採集されたもので、島嶼部であること、比較的低山での生育は植物地理学上貴重である。2002年の調査では、確認できていない。本種は北海道から九州までの自然度の高いおもに冷温帯以上の森林から報告されている。国外ではロシア、台湾、中国からの報告がある。

【存続を脅かす原因】

大気汚染や自然林の荒廃や古木の伐採等の影響が考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

チャシブゴケ目サルオガセ科

コフクレサルオガセ

Usnea bismolliuscula Zahlbr.,1923

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

島根県では２カ所からのみの報告で、アカマツやクロマツ林の荒廃による生育環境の悪化により、絶滅が危惧されている。

【概要】

体長約15㎝の糸状の地衣類で、スギやアカマツ、クロマツの樹皮に着生し、はじめは直立するが、先端部は垂れ下がる。地衣体主軸には小さな穴があり、ソラリアは点状で、その基部はくびれる。近縁種のトゲサルオガセとは主軸の小さな穴とソラリアをもつことで、区別できる。本種は東北地方以南の標高150～1,000ｍに分布し、国外では台湾、中国、インド、オーストラリアに分布する。

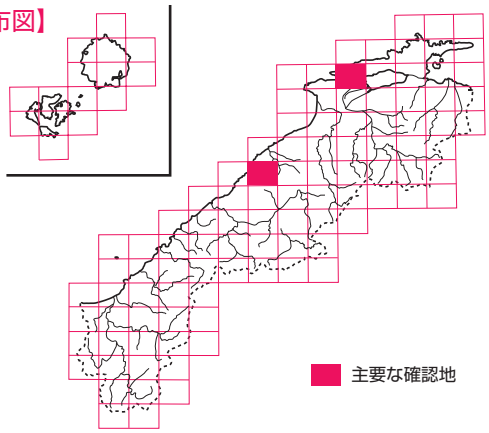
【県内での生育地域・生育環境】

県内では、クロマツやスギの樹皮に着生しているが、稀産である。新たな生育地が確認される可能性はあるが、生育環境の悪化によりその可能性は薄い。

【存続を脅かす原因】

大気汚染および酸性雨などの影響が考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○				○													

概説 RED DATA BOOK

菌類

菌類は、一般にかび、きのこ、酵母などと呼ばれ、一般に肉眼では見ることのできない微細なものが多く、全世界で現在およそ10万種が知られている。しかし、この種数は現存する菌類の７％程度に過ぎないと推定されており、未知種があまりにも多い。われわれの目につきやすい比較的大型の子実体を形成するきのこ類（担子菌門および一部の子嚢菌門）でさえ、現存すると推定されている種数の半数も知られていないのが現状である。近年いくつかの道府県できのこ類の図鑑およびレッドデータブックが発刊され後者の改訂版の作成がなされ、断片的ではあるが既知種の分布に関する情報が集積されつつある。しかしながら、きのこ類以外の菌類相についてはほとんど不明であり、継続した調査も皆無である。このため、「改訂しまねレッドデータブック（2004）」と同様、本改訂版では絶滅危惧種の選定対象をきのこ類に限定した。

島根県は、中国山地の標高約700m以上に分布するブナ・ミズナラ林、低地に分布するシイ・カシを主体とした照葉樹林、アカマツ・コナラを主とする雑木林（二次林）、海岸沿いのクロマツ林など、さまざまな森林を有する。これらの森林には種々の樹木と外生菌根を形成し、共生している多様なきのこ種が分布している。さらに、森林内の倒木、落枝、落葉などの木質性基質には腐生性のきのこが多種発生する。島根県中山間地研究センターにおいて2003年から、飯南町のきのこ類の継続的な発生調査が実施されているが、本県全域におけるきのこ類の網羅的かつ継続的な調査研究は食用きのこであるマツタケとショウロ以外にはなく、分布に関する情報が稀薄であることに変わりはない。

絶滅危惧種の選定は菌類相の解明と各々の種の継続的な分布調査に基づいて行われるべきであるが、前述したように、島根県の菌類相がほとんど明らかにされていない現状を踏まえ、前回の絶滅危惧種の選定は環境省が選定した絶滅危惧種（環境庁編、2000）の中から本県において分布が確認された種を中心に行った。絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）として選定した５種は県内ブナ林において分布を確認したが、分布密度がきわめて低い種である。絶滅危惧Ⅱ類（VU）として選定したツキヨタケとウスキブナノミタケの分布密度はそれほど低くないが、ブナ林の減少とともに絶滅が危惧される種である。しかし、これら7種以外にも絶滅危惧種および準絶滅危惧種に選定すべき種は数多くあると推測される。島根県中山間地研究センター（旧島根県林業技術センター）の長年の調査によると、マツタケは1975年には島根県下30市町村において0.1kg/ha（８齢級以上のアカマツ林面積で除した値）以上の発生が認められていたのに対し、1990年にはこの値が６町に激減した。これはアカマツ林の減少と林内環境の急速な変化に起因すると考えられている。また、ショウロはかつて全県において海岸クロマツ林に分布し、とくに大社町、出雲市から湖陵町にかけての一帯、江津市および益田市の3地域が主要な分布域であったのが、1993年以降、マツクイムシ被害によるクロマツ林の減少などのために子実体の発生量が減り、ショウロ発生地域と呼べる地域は島根半島西部のみになっている。このように両種とも発生量の減少と分布域の狭小化が認められ、このまま放置すれば絶滅の危機にさらされていると言っても過言ではない。今回、とくに分布域が狭小化しているショウロを準絶滅危惧（NT）として選定した。また、ショウロと同様に海岸クロマツ林に分布が認められたホンショウロについても発生数が少なく、分布域が狭小であるため、本種を準絶滅危惧（NT）として選定した。さらに、環境省第４次レッドデータリスト（2012）に絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）として選定されたヌメリアイタケの県内分布が2004年に確認されたため、本種も準絶滅危惧種とした。また、アカマツ林にはホンシメジ、ハツタケ、カノシタなど、海岸クロマツ林にはニセショウロ、コツブタケ、シモコシ、アミタケ、ヌメリイグチ、チチアワタケなどの発生も認められているが、これらの種もアカマツあるいはクロマツと外生菌根を形成するため、アカマツ林およびクロマツ林の減少はこれらきのこ類の分布にも影響を与えるであろう。今後、県内全域の菌類相を明らかにするとともに、継続的な分布調査を行うことが、絶滅種、絶滅危惧種および準絶滅危惧種の客観的な選定に不可欠であるばかりでなく保護対策の基礎的資料にもなる。

（前川二太郎）

菌類掲載種一覧

計10種

絶滅危惧Ⅰ類（ＣＲ＋ＥＮ）			
• クチキトサカタケ	• ムカシオオミダレタケ	• エビタケ	
• ツヤナシマンネンタケ	• タマチョレイタケ		**５種**
絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）			
• ツキヨタケ	• ウスキブナノミタケ		**２種**
準絶滅危惧（ＮＴ）			
○ ショウロ	○ ホンショウロ	○ ヌメリアイタケ	**３種**

【記号説明】

- •：カテゴリー区分変更なしの種（７種）
- ↑：上位のカテゴリー区分への変更種（０種）
- ↓：下位のカテゴリー区分への変更種（０種）
- ○：新規掲載種（３種）
- ◇：情報不足からの変更種（０種）
- ◆：情報不足への変更種（０種）

ビョウタケ目ビョウタケ科

クチキトサカタケ

Ascoclavulina sakaii Otani, 1974

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）　写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

日本固有種であり、分布がまれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部において分布が確認された。本種はブナ林に分布し、ブナの倒木あるいは立ち枯れた幹の地際付近に発生するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は塊状に発生し、後にこん棒状あるいは先端が扁平なこん棒状の突起を放射状に形成する。こん棒状の突起は径0.5－１㎝、長さ通常１－３㎝。全体の大きさは径が2.5－10㎝、高さ2.5－７㎝。表面は灰黄色から明るい灰緑色、のち淡オリーブ褐色からオリーブ褐色。子のうはこん棒状から円筒形、65－100×4.5－７μm、無弁子のうで、頂孔はヨード反応陰性、８個の子のう胞子を含む。子のう胞子は楕円形、6－7×2.5－4μm、無色あるいはわずかに緑色を帯び、2－3個の油滴をもつ。

本州、四国、九州のブナ林に分布し、夏から秋にブナの倒木や立ち枯れた樹幹の地際付近に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県西部のブナ林において分布が確認されている生育地は倒木および立ち枯れたブナが比較的多い地域で、本種子実体は倒木や立ち枯れたブナの比較的乾燥しにくい部位に発生する。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

キクラゲ目

ムカシオオミダレタケ

Elmerina holophaea（Patouillard）Parmasto, 1984

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）　写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内における分布がまれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部のブナ林で分布が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されておらず、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は平たい丸山型からやや馬蹄型、無茎で、傘の側面が基質に付着し、半円形に生じる。径３－15㎝、基部の厚さ１－５㎝。肉質はやや多湿で寒天質を含み脆く、乳白色、淡黄褐色から淡桃褐色で、乾燥すると著しく収縮し、原型を失う。傘の上面は長さ１－５㎜の羽毛状に分岐した毛に覆われ、下面は放射状から迷路状のひだとなる。担子胞子は倒卵形、無色、平滑、10－12×４－７μm、薄壁、非アミロイド性。子実体は単室担子菌類サルノコシカケ科のそれに類似するが、隔壁をもつ担子器を形成するため、多室担子菌類のシロキクラゲ目に所属する。

本種は日本固有種とされていたが、近年東南アジアおよび極東ロシアにも分布することが明らかになった。国内では北海道、本州、四国、九州のブナ林に分布し、夏から秋に発生するが、まれな種である。

【県内での生育地域・生育環境】

県西部のブナ林において分布が確認されている生育地は腐朽の進んだブナなどの倒木が多くある地域で、本種子実体は倒木の比較的乾燥しにくい部位に発生する。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

タマチョレイタケ目マンネンタケ科

エビタケ

Ganoderma tsunodae（Yasuda）Trotter, 1925

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）　写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県東部および西部のブナ林で分布が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されていない。本種はブナ林に分布し、おもにブナの腐朽材上に生育するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は一年生で柄がない。傘は半円形、へら形または扇形で、基部が細まり、傘の側面が基質に付着する。傘の幅５－20cm、基部の厚さ１－４cm。肉質は繊維質で放射状に裂くことができるが、乾くと著しく堅くなる。肉の色は類白色。傘の上面は不規則な粒状の突起をおびて粗荒、灰白色から栗褐色。傘下面は管孔状で、白色から褐色。孔口は円形、微細で４～５個／mm。担子胞子は二重構造のマンネンタケ型であり、広卵形、20－24×14－16.5μm、淡黄色、非アミロイド性。

本種は日本固有種とされていたが、近年中国および台湾に分布することが確認されている。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、ブナなどの広葉樹の倒木、切り株、立ち枯れた幹の地際近くに発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部および西部のブナ林において分布が確認されている生育地は倒木および立ち枯れたブナが比較的多い地域で、本種子実体はとくに立ち枯れたブナ樹幹の基部に発生しやすい。

【存続を脅かす原因】

ブナ林の減少による生育域の狭小化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

タバコウロコタケ目タバコウロコタケ科

ツヤナシマンネンタケ

Pyrrhoderma sendaiense（Yasuda）Imazeki, 1966

島根県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）　写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県東部および西部のブナ林で分布が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されておらず、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘は腎臓形、扁平から貝殻状に湾曲し、長径幅３－10cm、厚さ３－10mm。傘上面は殻皮で被われ、灰褐色から肉桂色、にぶい光沢があり、放射状にしわ状の凹凸と浅い環溝がある。肉は白色、厚さ３－８mm。傘下面は管孔状、灰白色。孔口は円形、微細で７～８個／mm。柄は通常傘の片側につき、長さ５－10cm、幅0.5－1.5cm。柄表面は傘表面と同色で、厚く堅い殻皮で被われ、中実。担子胞子は類球形、無色、平滑、径５－6.5×５μm、薄壁、非アミロイド性。

本種は日本固有種とされていたが、近年中国、タイ（北部）、インドネシアの冷温帯林から報告されている。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、ブナなどの広葉樹の倒木や切り株に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部および西部のブナ林において分布が確認されている生育地は、比較的乾燥しにくい場所であり、腐朽の進んだブナなどの倒木が多く認められる。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

タマチョレイタケ目タマチョレイタケ科

タマチョレイタケ

Polyporus tuberaster Jacquin : Fries, 1821

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県中部のブナ林において１個体発生が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されておらず、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘はほぼ円形、扁平で中央部がややくぼみ、漏斗状になる。傘の径は幅４－12cm、厚さ0.5－１cm。傘上面は平滑、淡黄褐色で平たく密着した黄褐色の鱗皮を被る。肉は白色、厚さ３－８mm。傘下面は管孔状、白色。孔口ははじめ円形、傘の生長にともないやや角張り放射状に長くなる。柄はほぼ中心生、長さ５－８cm、幅0.5－１cm。柄表面は黄白色から汚黄色、中実。しばしば地中に長径５－20cmの球塊状の偽菌核をつくり、子実体はこの菌核から発生するが、菌核を形成せず、朽木から発生するものもある。材の白色腐朽をおこす。担子胞子は長楕円形、無色、平滑、10－15×４－5.5μm、薄壁、非アミロイド性。

本種は北半球の亜熱帯から温帯およびオーストラリアに分布する。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、ブナなどの広葉樹の倒木や切り株に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県中部の三瓶山山麓のブナ林においてシデ枯枝上に発生した子実体が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるシデなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○																	

ハラタケ目ホウライタケ科

ツキヨタケ

Lampteromyces japonicus（Kawamura）Singer, 1947

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部および中部、2003年に県東部で分布が確認された。本種はおもにブナの腐朽材上に生育するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘は半円形から腎臓形、幅10－25cm。傘上面は平滑、黄橙褐色でやや濃色の小鱗片で覆われているが、成熟すると紫褐色から暗褐色となり、多少蝋状の光沢をおびる。ひだは暗下で青白く発光し、幅が広く、２cmにおよぶこともある。柄は太短く、長さ１－３cm、幅１－３cm、傘の側方につき、ひだの付け根との間に狭くて低い環状のつばのような隆起帯がある。傘の肉は白色、軟質、周辺部は薄いが、柄に近い部分は厚くなる。柄の内部は通常暗紫色から黒褐色で、この点においてシイタケ、ヒラタケ、ムキタケなどの類似種から区別できる。担子胞子は球形、平滑、径11.5－15μm、しばしば厚壁、非アミロイド性。

本種はロシア極東地方および朝鮮半島に分布する。国内では本州、四国、九州のブナ林に広く分布し、夏から秋にかけてブナの倒木や立ち枯れた木に発生するが、イタヤカエデなどにもしばしば生じる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内全域において倒木および立ち枯れのブナが比較的多いブナ林。

【存続を脅かす原因】

ブナ林の減少による生育域の狭小化および生育基質の減少。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

ハラタケ目クヌギタケ科

ウスキブナノミタケ

Mycena luteopallens（Peck）Saccardo, 1891

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）　写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部、2003年に県東部のブナ林で分布が確認されている。本種は落葉や腐植に埋没したブナの堅果に生育するため、ブナ林の減少ともに、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘は径３－15cm、初め卵形、円錐形、のちほぼ平らに開く。傘上面は平滑、黄色から淡黄色、のち淡黄土色から類白色となり、湿時条線をあらわす。ひだは直生からやや垂生、淡黄土色、やや疎。柄は細長く、長さ５－７cm、幅１mm、黄色から淡黄色、中空。柄の基部は黄白色で根状に伸び、淡黄色の軟毛をつける。担子胞子は卵形から楕円形、8.5－12×4.5－5.5μm、はじめやや粗面でアミロイド性であるが、成熟すると平滑で非アミロイド性になる。

本種は北アメリカ東部に分布する。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、10月から11月頃に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部および西部のブナ林において分布が確認されている生育地はブナなどの腐植や落葉が堆積した地域であり、本種子実体はこれらの堆積した比較的乾燥しにくい林床に埋没したブナ堅果から発生する。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナの減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

イグチ目ショウロ科

ショウロ

Rhizopogon roseolus（Corda）Th. Fries, 1854

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内に広く分布が認められているが、各分布域が狭小である。県内ではおもに海岸クロマツ林に分布が認められているが、クロマツ林の減少による分布域の狭小化、さらに本種は優秀な食用きのこであるため、採取により子実体発生量が年々減少しており、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は地中あるいは半地中に生じ、南西諸島から類球形で、径0.5−3.5㎝。表面は白色から淡紫褐色を呈し、傷付けると淡赤紫色に変色する。内部は幼時白色で芳香臭があるが、胞子の形成とともに徐々に黄土色からオリーブ色となり、成熟すると不快臭がある。国内ではおもに海岸クロマツ林に分布し、子実体は秋から翌年の春にかけてクロマツ樹下に発生する。食用。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部では島根半島西岸部、県西部では江の川および高津川河口で、いずれも比較的広域に生育した海岸クロマツ林において分布が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、共生関係にあるクロマツ(林)の衰退、採取圧。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○																○			

イグチ目ショウロ科

ホンショウロ

Rhizopogon luteolus Fries, 1817

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：情報不足（DD）

【選定理由】

国内では本州以南においてまれに分布が認められているが、各々の分布地における子実体発生域は狭小である。県内では海岸クロマツ林の限られた地域にのみ分布が確認されているが、クロマツ林の衰退により、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は地中あるいは半地中に生じ、南西諸島から類球形で、径１－３㎝。表面は白色から淡黄褐色を呈し、傷付けても淡赤紫色に変色しないが、水酸化カリウム水溶液で赤紫色に変色する。内部は淡黄色から黄土色を呈し、不快臭がある。国内ではおもに海岸クロマツ林に分布するが，分布域は限られている。子実体は秋から翌年の春にかけてクロマツの樹下に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部の海岸に分布するクロマツ林の限られた地域においてのみ分布が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、共生関係にあるクロマツ(林)の衰退。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																		○			

ベニタケ目ニンギョウタケモドキ科

ヌメリアイタケ

Albatrellus yasudae（Lloyd）Pouzar, 1972

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

日本固有種であり、環境省の第４次レッドデータリスト(2012)では絶滅危惧Ⅱとして選定されている。北海道、本州、四国においてまれに分布が確認されている。県内では限られた地域においてのみ分布する。

【概要】

子実体は一年生で、傘と柄からなる。傘は柄に長く垂生し、丸山型で後に平らに開き、ほぼ円形で、径２－８㎝。傘表面は濃青藍色を呈し、粘性を帯びるが、乾くと光沢を呈す。傘裏面は白色で、管孔状。柄は白色、中心生から偏心生で、長さ３－６㎝、径５－12㎜。肉は白色で、やや苦みがある。

国内ではマツを含む雑木林の地上に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部飯南町のアカマツと広葉樹が混交する林地においてのみ本種子実体の発生が確認されているが、他の地域の分布状況については不明である。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、共生関係にあるアカマツ(林)の衰退。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

資　　料

執　筆　者　一　覧

【維管束植物】

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
23	ハマビシ	絶滅	杣村喜則	絶滅	杣村喜則	—	
23	デンジソウ	野生絶滅	柳浦正夫	野生絶滅	柳浦正夫・杣村喜則	要保護種	杣村喜則
24	マツバラン	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
24	アスヒカズラ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	—	—	—	—
25	スギラン	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
25	マンネンスギ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	情報不足	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
26	ヒモラン	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫・杣村喜則	緊急保護種	杣村喜則
26	オオバシナミズニラ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
27	イヌスギナ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	—	—	—	—
27	タカサゴキジノオ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杣村喜則	要注意種	杣村喜則
28	ツルホラゴケ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・杣村喜則	要注意種	杣村喜則
28	フジシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	—	—	—	—
29	ハコネシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・杣村喜則	要注意種	杣村喜則
29	タキミシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫・杣村喜則	要保護種	杣村喜則
30	アマクサシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・杣村喜則	要注意種	杣村喜則
30	クモノスシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	情報不足	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
31	イワトラノオ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	—	—	—	—
31	カツモウイノデ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫・杣村喜則	要注意種	杣村喜則
32	イズヤブソテツ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
32	ツクシヤブソテツ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
33	ホウライヒメワラビ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	—	—	—	—
33	ナガサキシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
34	ホソバショリマ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	—	—	—	—
34	ヒメハシゴシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	—	—	—	—
35	ミゾシダモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫・杣村喜則	要注意種	杣村喜則
35	ヘイケイヌワラビ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫・杣村喜則	緊急保護種	杣村喜則
36	フクロシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	—	—	—	—
36	クラガリシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
37	ホテイシダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
37	ヌカボシクリハラン	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫・杣村喜則	要注意種	杣村喜則
38	オオエゾデンダ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	要注意種	杣村喜則
38	イワオモダカ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
39	アカウキクサ	絶滅危惧Ⅰ類	柳浦正夫	野生絶滅	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
39	オオヤマレンゲ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	要保護種	杣村喜則
40	ミチノクフクジュソウ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杣村喜則	要保護種	杣村喜則
40	ミスミソウ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	準絶滅危惧	杣村喜則	要保護種	杣村喜則
41	ヒメバイカモ	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	—	—
41	バイカモ	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	—	—
42	サンカヨウ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	—	—
42	オニバス	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	要保護種	杣村喜則
43	マルバウマノスズクサ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	要注意種	杣村喜則
43	ウスバサイシン	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	要注意種	杣村喜則
44	ベニバナヤマシャクヤク	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	要保護種	杣村喜則
44	シマサルナシ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	—	—
45	ダイセンオトギリ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	—	—
45	ツルネコノメソウ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	—	—
46	キレンゲショウマ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	要保護種	杣村喜則
46	ザリコミ	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	—	—

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
47	ヒロハノカワラサイコ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
47	ハマナス	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
48	サナギイチゴ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—
48	ホウロクイチゴ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
49	コジキイチゴ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
49	アイズシモツケ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—	—	—
50	ハマナタマメ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—	—	—
50	タヌキマメ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
51	ミソナオシ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
51	オオバヌスビトハギ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
52	サイカチ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
52	ヒナノカンザシ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—
53	テツカエデ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—
53	ナナミノキ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
54	ミヤマウメモドキ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—	—	—
54	イワウメヅル	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
55	ヨコグラノキ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
55	ホナガクマヤナギ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
56	ウドカズラ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
56	ハマボウ	絶滅危惧Ⅰ類	井上雅仁	—	—	—	—
57	キガンピ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
57	ナツアサドリ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
58	ウラジロウコギ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
58	エゾノヨロイグサ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
59	ヨロイグサ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
59	アマニュウ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—
60	タケシマシシウド	絶滅危惧Ⅰ類	井上雅仁	—	—	—	—
60	ムカゴニンジン	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
61	イワナシ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—
61	ハイハマボッス	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
62	ハマサジ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
62	イヌセンブリ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
63	ムラサキセンブリ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
63	ヒメシロアサザ	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	—	—
64	アサザ	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	要注意種	杉村喜則
64	チョウジソウ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
65	クサタチバナ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
65	フナバラソウ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—	—	—
66	ジュズネノキ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
66	ハマベンケイソウ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—
67	カイジンドウ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—
67	シモバシラ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
68	オオヤマジソ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—	—	—
68	ヤマホロシ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
69	サンイントラノオ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	緊急保護種	杉村喜則
69	ミヤマクワガタ（ダイセンクワガタ）	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	—	—
70	イワタバコ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
70	シシンラン	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	緊急保護種	杉村喜則
71	イワギリソウ	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
71	ダイセンヒョウタンボク	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
72	ヤブウツギ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
72	キキョウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
73	チョウジギク	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
73	ヒゴタイ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
74	ヤナギタンポポ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—	—	—
74	スイラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
75	オオダイトウヒレン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
75	キクアザミ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—	—	—
76	オカオグルマ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—	—	—
76	ハチジョウナ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
77	キビシロタンポポ	絶滅危惧Ⅰ類	井上雅仁	—	—	—	—
77	アギナシ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—	—	—
78	イバラモ	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	—	—
78	ホンゴウソウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
79	ホソバナコバイモ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
79	イズモコバイモ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	緊急保護種	枚村喜則
80	ユウスゲ（キスゲ）	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—	—	—
80	ニッコウキスゲ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
81	ホソバノアマナ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—	—	—
81	キンコウカ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
82	ハナゼキショウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
82	バイケイソウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
83	ヒナノシャクジョウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
83	ツクシクロイヌノヒゲ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
84	オオミクリ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
84	スジヌマハリイ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
85	サギスゲ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
85	ノグサ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—	—	—
86	マメヅタラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
86	ムギラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
87	キンセイラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
87	キエビネ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
88	サルメンエビネ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
88	ユウシュンラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
89	マヤラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
89	クマガイソウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
90	サギソウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
90	フガクスズムシソウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
91	ジガバチソウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
91	ウチョウラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
92	ミズチドリ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
92	コバノトンボソウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
93	トキソウ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
93	カシノキラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
94	マツラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
94	カヤラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
95	ナゴラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	緊急保護種	枚村喜則
95	クモラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
96	イイヌマムカゴ	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—
96	ショウキラン	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	—	—

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
97	ミズニラ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	要注意種	枚村喜則
97	ヒロハハナヤスリ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
98	ヤシャゼンマイ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
98	ウチワゴケ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
99	ツクシイワヘゴ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
99	ツクシオオクジャク	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	—	—	—	—
100	ヌカイタチシダモドキ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	—	—	—	—
100	ミヤマクマワラビ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
101	イワイタチシダ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
101	ナンカイイタチシダ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
102	テツホシダ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	要注意種	枚村喜則
102	ツクシイヌワラビ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
103	ヒメノキシノブ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
103	サジラン	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
104	ビロウドシダ	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・枚村喜則	—	—
104	イチイ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
105	ミヤコミズ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—	—	—
105	ミヤマミズ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
106	ホザキノヤドリギ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—	—	—
106	ハルトラノオ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
107	ナガバノヤノネグサ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
107	ハマナデシコ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
108	オオヤマフスマ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
108	ワチガイソウ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
109	サンヨウブシ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
109	ニリンソウ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
110	アズマイチゲ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
110	リュウキンカ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
111	オキナグサ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
111	フタバアオイ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
112	タイリンアオイ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
112	トモエソウ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
113	アオベンケイ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
113	シラヒゲソウ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
114	タコノアシ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
114	ヤシャビシャク	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
115	シロヤマブキ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
115	キビナワシロイチゴ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	情報不足	枚村喜則	—	—
116	ビッチュウフウロ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
116	カンコノキ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
117	カジカエデ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
117	メグスリノキ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
118	シイモチ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
118	カラスシキミ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
119	コガンピ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
119	ダイセンキスミレ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
120	オグラノフサモ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	要注意種	枚村喜則
120	ホタルサイコ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
121	サケバゼリ	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	—	—
121	サラサドウダン	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
122	ベニドウダン	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
122	ホンシャクナゲ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
123	アラゲナツハゼ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
123	ハシドイ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
124	ミツガシワ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
124	サカキカズラ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
125	カギカズラ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
125	サワルリソウ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	情報不足	杉村喜則	—	—
126	カリガネソウ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	情報不足	杉村喜則	—	—
126	オウギカズラ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
127	コナミキ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
127	ホソバママコナ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
128	ゴマノハグサ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
128	サンインクワガタ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	情報不足	杉村喜則	—	—
129	ノタヌキモ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
129	タヌキモ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	—	—
130	ミミカキグサ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
130	ムラサキミミカキグサ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
131	ヤマヒョウタンボク	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
131	ヒョウタンボク	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
132	カンボク	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
132	フクシマシャジン	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
133	サワギキョウ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
133	ヒッツキアザミ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
134	モリアザミ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
134	テリハアザミ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
135	サンベサワアザミ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
135	オオモミジガサ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
136	カシワバハグマ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
136	ヤマザトタンポポ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
137	クシバタンポポ	絶滅危惧Ⅱ類	井上雅仁	—	—	—	—
137	トチカガミ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	—	—
138	セキショウモ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	—	—
138	オヒルムシロ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	—	—
139	リュウノヒゲモ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	—	—
139	カワツルモ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	要注意種	杉村喜則
140	イトクズモ(ミカヅキイトモ)	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅰ類	國井秀伸	—	—
140	イトトリゲモ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	—	—
141	カタクリ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
141	ヒメナベワリ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
142	コキンバイザサ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
142	ミズアオイ	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	絶滅危惧Ⅱ類	國井秀伸	—	—
143	ヒメシャガ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
143	オオホシクサ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
144	トウササクサ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
144	ヒメミクリ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
145	マシカクイ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
145	アンペライ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
146	ヒナラン	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
146	エビネ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
147	ナツエビネ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
147	ギンラン	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
148	キンラン	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
148	トケンラン	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
149	セッコク	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
149	カキラン	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
150	ベニシュスラン	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
150	ヤマトキソウ	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	情報不足	杉村喜則	—	—
151	ミズスギ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
151	ナツノハナワラビ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
151	イシカグマ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	要注意種	杉村喜則
152	オオフジシダ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	要注意種	杉村喜則
152	シノブ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
152	ミズワラビ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
153	シシラン	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	要注意種	杉村喜則
153	ナチシダ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	要注意種	杉村喜則
153	ホウビシダ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	要注意種	杉村喜則
154	コバノヒノキシダ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
154	クルマシダ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	要注意種	杉村喜則
154	オオカグマ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	要注意種	杉村喜則
155	シノブカグマ	準絶滅危惧	柳浦正夫	—	—	—	—
155	ハチジョウベニシダ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
155	ウスヒメワラビ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
156	ミヤコイヌワラビ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
156	ハコネシケチシダ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
156	ムクゲシケシダ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
157	ヒメサジラン	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
157	カラクサシダ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
157	アオネカズラ	準絶滅危惧	柳浦正夫	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・杉村喜則	要注意種	杉村喜則
158	オオアカウキクサ	準絶滅危惧	柳浦正夫	準絶滅危惧	柳浦正夫・杉村喜則	—	—
158	カヤ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
158	バッコヤナギ(ヤマネコヤナギ)	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
159	サクラバハンノキ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
159	キミズ	準絶滅危惧	杉村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	杉村喜則	—	—
159	コケミズ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
160	マダイオウ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
160	シロモジ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
160	バリバリノキ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
161	ユキワリイチゲ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
161	サンインシロカネソウ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
161	ジュンサイ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
162	コウホネ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
162	ヒツジグサ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
162	ハンゲショウ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
163	サンヨウアオイ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
163	コウヤミズキ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
163	イスノキ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	要注意種	杉村喜則
164	ミツバベンケイソウ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	—	—
164	ツメレンゲ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	要保護種	杉村喜則
164	オオメノマンネングサ	準絶滅危惧	杉村喜則	準絶滅危惧	杉村喜則	要保護種	杉村喜則

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
165	オオヤマザクラ(エゾヤマザクラ)	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
165	ナンキンナナカマド	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
165	シモツケ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
166	イワタイゲキ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
166	モクゲンジ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
166	コバンモチ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
167	ヘラノキ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
167	タチモ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
167	フサモ	準絶滅危惧	國井秀伸	情報不足	國井秀伸	—	—
168	ボタンボウフウ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
168	レンゲツツジ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
168	ゲンカイツツジ	準絶滅危惧	枚村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
169	タイミンタチバナ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
169	クロバイ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
169	ヤナギイボタ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
170	ホウライカズラ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
170	ガガブタ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	要注意種	枚村喜則
170	スズサイコ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
171	イナモリソウ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
171	アオイゴケ	準絶滅危惧	枚村喜則	絶滅危惧Ⅱ類	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
171	ホタルカズラ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
172	トウテイラン	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
172	イヌノフグリ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
172	カワヂシャ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
173	イヌタヌキモ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
173	ハマニンドウ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
173	オニヒョウタンボク	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
174	チョウジガマズミ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
174	カノコソウ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
174	ナベナ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
175	ヒロハヤマヨモギ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
175	ダルマギク	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
175	オッタチカンギク	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要保護種	枚村喜則
176	ハマベノギク	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
176	ナガバノコウヤボウキ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
176	スブタ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
177	ヤナギスブタ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
177	ミズオオバコ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
177	イトモ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
178	オオトリゲモ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
178	タキキビ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
178	ウキシバ	準絶滅危惧	國井秀伸	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
179	ミクリ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
179	ヤマトミクリ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
179	ナガエミクリ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
180	サツマスゲ	準絶滅危惧	枚村喜則	情報不足	枚村喜則	—	—
180	キノクニスゲ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	—	—
180	オオクグ	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
181	ヒトモトススキ(シシキリガヤ)	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要注意種	枚村喜則
181	フウラン	準絶滅危惧	枚村喜則	準絶滅危惧	枚村喜則	要保護種	枚村喜則

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
181	ヨウラクラン	準絶滅危惧	杣村喜則	準絶滅危惧	杣村喜則	—	—
182	コヒロハハナヤスリ	情報不足	柳浦正夫	情報不足	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
182	ハマハナヤスリ	情報不足	柳浦正夫	情報不足	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
182	ナカミシシラン	情報不足	柳浦正夫	情報不足	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
182	シマキツネノボタン	情報不足	杣村喜則	情報不足	杣村喜則	—	—
183	コゴメウツギ	情報不足	杣村喜則	—	—	—	—
183	オオバクサフジ	情報不足	杣村喜則	—	—	—	—
183	シャクジョウソウ	情報不足	杣村喜則	情報不足	杣村喜則	—	—
183	キセワタ	情報不足	杣村喜則	情報不足	杣村喜則	—	—
184	アオホオズキ	情報不足	杣村喜則	—	—	—	—
184	オオマルバノホロシ	情報不足	杣村喜則	—	—	—	—
184	仆タヌキモ(ミカワタヌキモ)	情報不足	國井秀伸	情報不足	國井秀伸	—	—
184	バアソブ	情報不足	杣村喜則	—	—	—	—
185	ムラクモアザミ	情報不足	杣村喜則	情報不足	杣村喜則	—	—
185	ミヤコアザミ	情報不足	杣村喜則	—	—	—	—
185	トリゲモ	情報不足	國井秀伸	情報不足	國井秀伸	—	—
185	アブラシバ	情報不足	杣村喜則	—	—	—	—
186	ハクウンラン	情報不足	杣村喜則	絶滅危惧Ⅰ類	杣村喜則	—	—

(今回の改訂により掲載対象外となった種)

–	クジャクフモトシダ	—	—	絶滅危惧Ⅱ類	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
–	ヌリワラビ	—	—	準絶滅危惧	柳浦正夫・杣村喜則	—	—
–	クルマバアカネ	—	—	準絶滅危惧	杣村喜則	—	—
–	ノシラン	—	—	準絶滅危惧	杣村喜則	要注意種	杣村喜則
–	ホザキノフサモ	—	—	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
–	センニンモ	—	—	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
–	オオササエビモ	—	—	準絶滅危惧	國井秀伸	—	—
–	ヤマホオズキ	—	—	絶滅危惧Ⅱ類	杣村喜則	—	—
–	オキノアブラギク	—	—	準絶滅危惧	杣村喜則	要注意種	杣村喜則

(2004 改訂により掲載対象外となった種)

–	シナミズニラ	—	—	—	—	要注意種	杣村喜則
–	クロヤツシロラン	—	—	—	—	要注意種	杣村喜則

【蘚苔類】

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
189	カビゴケ	絶滅危惧Ⅰ類	下瀬　敏	絶滅危惧Ⅰ類	下瀬　敏	—	—
190	ハリミズゴケ	絶滅危惧Ⅱ類	下瀬　敏	—	—	—	—
190	クマノゴケ	絶滅危惧Ⅱ類	下瀬　敏	絶滅危惧Ⅰ類	西田雄行	—	—
191	オオミズゴケ	準絶滅危惧	下瀬　敏	絶滅危惧Ⅰ類	西田雄行	—	—
191	ウキゴケ（カズノゴケ）	準絶滅危惧	下瀬　敏	絶滅危惧Ⅰ類	下瀬　敏	—	—
191	ホソベリミズゴケ	準絶滅危惧	下瀬　敏	準絶滅危惧	西田雄行	—	—
192	クロゴケ	準絶滅危惧	下瀬　敏	準絶滅危惧	西田雄行	—	—
192	イチョウウキゴケ	準絶滅危惧	下瀬　敏	準絶滅危惧	下瀬　敏	—	—
193	ケクラマゴケモドキ	情報不足	下瀬　敏	—	—	—	—
193	ホソクラマゴケモドキ	情報不足	下瀬　敏	—	—	—	—
193	ヤワラゼニゴケ	情報不足	下瀬　敏	絶滅危惧Ⅱ類	下瀬　敏	—	—

【海藻類】

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
196	クロキヅタ	絶滅危惧Ⅱ類	秋吉英雄	絶滅危惧Ⅱ類	秋吉英雄	—	—

【地衣類】

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
199	コウヤハナゴケ	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	—	—
199	テリハヨロイゴケ	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	—	—
200	アツバヨロイゴケ	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	—	—
200	トゲサルオガセ	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	—	—
201	ヨコワサルオガセ	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	絶滅危惧Ⅰ類	中西　稔	—	—
202	コフクレサルオガセ	絶滅危惧Ⅱ類	中西　稔	絶滅危惧Ⅱ類	中西　稔	—	—

【菌類】

掲載ページ	和名	2013		2004		1997	
		カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者	カテゴリー	執筆者
205	クチキトサカタケ	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	—	—
205	ムカシオオミダレタケ	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	—	—
206	エビタケ	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	—	—
206	ツヤナシマンネンタケ	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	—	—
207	タマチョレイタケ	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	絶滅危惧Ⅰ類	前川二太郎	—	—
208	ツキヨタケ	絶滅危惧Ⅱ類	前川二太郎	絶滅危惧Ⅱ類	前川二太郎	—	—
208	ウスキブナノミタケ	絶滅危惧Ⅱ類	前川二太郎	絶滅危惧Ⅱ類	前川二太郎	—	—
209	ショウロ	準絶滅危惧	前川二太郎	—	—	—	—
209	ホンショウロ	準絶滅危惧	前川二太郎	—	—	—	—
209	ヌメリアイタケ	準絶滅危惧	前川二太郎	—	—	—	—

文　　献

維管束植物文献

秋山　優・佐川紀子（1971）中海産大型藻類の分布とその生態的特性．山陰文化研究紀要（自然科学），（11）：19-26.

原　貞吉（1939）簸川植物誌1，2，3.

林　実（1939）北出雲植物小話．植物研究雑誌，12（2）.

広島県（1995）「広島県の絶滅のおそれのある野生生物．レッドデータブックひろしま」．437pp.（財）広島県環境保健協会.

檜山健一・國井秀伸（1992）宍道湖に流入する河川の水生植物の現況．汽水湖研究，（2）：61-70.

堀正太郎（1890）中国植物ノ目録．植物学雑誌，45.

岩槻邦男編（1992）「日本の野生植物　シダ」．311pp．平凡社.

角野康郎（1994）「日本水草図鑑」．179pp．文一総合出版.

上田常一（1961）松江市堀川の生物（旧稿）．山陰文化研究所紀要，（1）：1-25.

神谷　要・國井秀伸（1995）宍道湖・中海周辺のため池の水草相の10年間の変化．水草研究会会報，（57）：1-4.

環境庁編（2000）「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物．植物I（維管束植物）」．660pp.（財）自然環境研究センター.

建設省中国地方建設局出雲工事事務所（1993）斐伊川水系の植物．192pp．建設省中国地方建設局出雲工事事務所.

木村康信（1939）隠岐黒木村ニ分布セル動植物目録.

木村康信･丹後亜興（1982）島前の植物目録Ⅰ-Ⅴ．島前の文化財，（12）:75-79.

岸岡　務（1965）「中海と赤潮」．206pp．米子市立弓ヶ浜中学校科学部.

汽水域研究グループ（1999）「中海本庄工区の生物と自然」．102pp．たたら書房.

北村四郎他（1957）「原色日本植物図鑑　草本編（Ⅰ）」．297pp．保育社.

北村四郎他（1961）「原色日本植物図鑑　草本編（Ⅱ）」．390pp．保育社.

北村四郎他（1964）「原色日本植物図鑑　草本編（Ⅲ）」．464pp．保育社.

北村四郎他（1971）「原色日本植物図鑑　木本編（Ⅰ）」．453pp．保育社.

北村四郎他（1979）「原色日本植物図鑑　木本編（Ⅱ）」．545pp．保育社.

國井秀伸（1987）松江市近辺のため池の水質と水草相．ため池の自然，（4）：7-9.

國井秀伸（1989）島根県平田市のため池の水質と水生植物の現況について．島根野生研会報，（6）：9-11.

國井秀伸（1994）イトクズモ（ミカヅキイトモ）発見記．水草研究会会報，（54）：38.

國井秀伸（1999）島根県松江市の水田で発見されたヒメシロアサザ．水草研究会会報，（68）：13-14.

國井秀伸（2000）中海米子湾彦名処理地の水生植物．ホシザキグリーン財団研究報告，（4）：1-5.

國井秀伸（2001）宍道湖・中海における水生絶滅危惧植物の分布．LAGUNA，（8）：95-100.

國井秀伸(2001)中海彦名処理地で見つかったレッドデータブック記載の水生植物．汽水湖，（13）：50-55.

國井秀伸（2003）閉鎖性沿岸域の生態系と物質循環．（4）中海とそれに隣接する水域の水生大形植物の分布．海洋と生物，25（2）：116-122.

國井秀伸・國井加代子（1985）松江市近辺の水草の分布に関する予報．植物と自然，19（11）：31-34.

國井秀伸・國井加代子（1986）隠岐島島後の水生植物管見．水草研究会会報，（23）：5-7.

國井秀伸・津田直人（1993）宍道湖周辺のため池におけるタヌキモ類の分布．汽水湖研究，（3）：74-77.

國井秀伸・山吹義則（1991）中海に流入する河川の水生植物相の予備調査結果．汽水湖研究，（1）：77-80.

國井秀伸・佐藤あすか（1995）宍道湖および斐伊川河口域の流入河川における1985年から1994年にかけての水生植物相の変化．LAGUNA，（2）：53-56.

國井秀伸・國井加代子・麻生　薫・阪田和彦（1989）宍道湖・中海集水域の水草相．水草研究会会報，（38）：11-12.

倉田　悟・中池敏之（1979）「日本のシダ植物図鑑1」．628pp．東京大学出版会.

倉田　悟・中池敏之（1981）「日本のシダ植物図鑑2」．648pp．東京大学出版会.

倉田　悟・中池敏之（1983）「日本のシダ植物図鑑3」．728pp．東京大学出版会.

倉田　悟・中池敏之（1985）「日本のシダ植物図鑑4」．850pp．東京大学出版会.

倉田　悟・中池敏之（1987）「日本のシダ植物図鑑5」．816pp．東京大学出版会.

倉田　悟・中池敏之（1990）「日本のシダ植物図鑑6」．881pp．東京大学出版会.

倉田　悟・中池敏之（1994）「日本のシダ植物図鑑7」．409pp．東京大学出版会.

倉田　悟・中池敏之（1997）「日本のシダ植物図鑑8」．473pp．東京大学出版会.

丸山　巖（1929）仁多植物誌Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ．島根教育，408，412，415.

宮地伝三郎（1962）中海干拓・淡水化事業に伴う魚族生態調査報告．226pp.

三宅驥一（1898）隠岐嶋ノ植物．植物学雑誌，132.

宮本　巖（1950）青野山植物目録．津高生物誌Ⅰ.

宮本　巖（1963）西部石見の高等植物目録．「高津川総合学術調査研究報告」：29-49．島根県立益田高等学校.

宮本　巖（1970）中部石見の高等植物目録．「石見高原」：

1-24.
宮本　巖（1973）島根半島植物誌．自刊.
森山美具（1956）西部石見の植物目録．島根生物学会.
中池敏之（1992）「新日本植物誌シダ編」．868pp．至文堂.
野津良知（1958）島根半島のシダ植物目録ノート．北陸の植物，Ⅶ.
農林水産省中国四国農政局（1998）「平成10年度調査結果（中間報告）」．122pp．農林水産省中国四国農政局.
岡　国夫（1968）隠岐の植物1，2．北陸の植物.
岡本　香（1971）島根県産スゲ属植物．岡山理科大学紀要，7: 93-119.
大井次三郎（1992）「新日本植物誌顕花編」．1716pp．至文堂.
大滝末男･石戸忠（1980）「日本水生植物図鑑」．318pp．北隆館.
佐竹義輔他編（1982）「日本の野生植物　草本Ⅰ」. 305pp. 平凡社.
佐竹義輔他編（1982）「日本の野生植物　草本Ⅱ」. 318pp. 平凡社.
佐竹義輔他編（1981）「日本の野生植物　草本Ⅲ」. 259pp. 平凡社.
佐竹義輔他編（1989）「日本の野生植物　木本Ⅰ」. 321pp. 平凡社.
佐竹義輔他編（1989）「日本の野生植物　木本Ⅱ」. 305pp. 平凡社.
島根県環境生活部景観自然課（1997）「しまねレッドデータブック-島根県の保護上重要な野生動植物（植物編）」．266pp.
宍道湖・中海の藻類研究会（1996）「宍道湖・中海水系の藻類」．129pp．宍道湖・中海の藻類研究会.
杤村喜則（1991）島根半島の植生と植物相V．水生植物と単子葉植物相．山陰地域研究（自然環境），（7）：67-81.
杤村喜則（1993）島根半島の植生と植物相VII．露岸地植生と沈水植物群落．山陰地域研究（自然環境），（9）：33-40.
杤村喜則（1997）島根県のシダ植物相．ホシザキグリーン財団研究報告，（1）: 221-232.
杤村喜則・小池文人（1991）宍道湖・中海汽水域における大型藻類及び海生沈水草本植物．汽水湖研究，（1）：81-86.
田川基二（1959）「原色日本羊歯植物図鑑」．270pp．保育社.
高宮正之（1999）ミズニラ属の自然誌と分類．植物分類地理，50（1）: 101-138.
竹中　要（1927）「天然記念物及名勝調査報告　植物之部」．内務省.
徳淵永治郎（1904）隠岐島植物分布論．「宮部博士記念論文集」.
鳥取県生活環境部環境政策課（2002）「レッドデータブックとっとり-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-植物編」．203pp．鳥取県.
内田繁太郎（1952）島根県における竹と笹．島根大学論集，2.
柳浦正夫（1999）益田周辺の止水域の水草．島根県立益田高等学校研究紀要，（22）: 44-52.
柳浦正夫（2003）安来市のため池で見られた水生植物．島根県立松江東高等学校研究紀要，（14）: 16-22.
山本　広（1980）隠岐島・島根県東部のシダ植物の分布について．島根県立出雲高等学校研究紀要，（20）: 81-102.

蘚苔類文献

秋山博之（1998）無性的に繁殖する蘚苔類の遺伝的多様性．蘚苔類研究，7（5）: 152-160.
秋山博之･山口富美夫（1997）ウキゴケ*Riccia fluitans* L．の胞子．蘚苔類研究，7（2）: 50-52.
Hattori，S.（1942）Notulae de *Hepaticis Japonicis*（II）．*Journ. Jap. Bot.*，18: 66-77.
井上　浩（1974）「日本産苔類図鑑」．190 pp．築地書館.
井上　浩（1976）「続・日本産苔類図鑑」．194 pp．築地書館.
井上　浩（1985）隠岐諸島産苔類の植物地理学的研究．国立科博専報，（18）: 107-116.
岩月善之助編（2001）「日本の野生植物－コケ－」．355 pp．平凡社.
岩月善之助・水谷正美（1972）「原色日本蘚苔類図鑑」．405 pp．保育社.
環境庁（1997）蘚苔類．「レッドデータブック－蘚苔類」: 19-192.
児玉　務（1972）近畿地方の苔類・第２部．大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第4集: 117-248.
Nishida，Y.（1967）Mosses of Oki Islands，Shimane Pre. Rep. *Shimadai Fuzoku*，（11）: 43-55.
西田雄行（1964）島根県の蘚類（1）ミズゴケ類．島大附属中紀要，（7）: 40-46.
西田雄行（1965）島根県仁多郡鬼の舌振の蘚類目録．島大附属中紀要，（8）: 49-54.
西田雄行（1965）島根県松江市月照寺のコケ類．島大附属中理科部報告，（1）: 1-6.
西田雄行（1967）島根県三瓶山の蘚類目録．島大附属中紀要，（10）: 37-47.
野口　彰（1976）「日本産蘚類概説」．306 pp．北隆館.
岡本修治（1975）大万木山の蘚苔類（その１）．三刀屋高紀要，（4）: 45-50.
島根県・広島県（1966）「西中国山地国定公園候補地－学術調査報告－」: 49-87.

海藻類（藻類）文献

秋山　優（1971）大社町日御碕沿岸の海藻群落．「海中公園センター調査報告書・日御碕海岸海中公園調査報告書」: 15-29.
秋吉英雄（2002）「海辺の博物学－島根県の海辺の生物たち」．42pp．（財）島根ふれあい環境財団21.
秋吉英雄（2004）藻類（海藻類）「改訂しまねレッドデータブック」: 365-366，島根県
秋吉英雄・井上明日香・幸塚久則 (2005)　島根県隠岐島・島前におけるクロキヅタ *Caulerpa scalpelliformis var. intermedia* の生育状況について，ホシザキグリーン財団研究報告，8:197-201
広瀬弘幸（1973）隠岐諸島の海藻相．「海中公園センター調査報告書」: 5-25
広瀬弘幸・榎本幸人・熊野　茂（1966）海藻．「山陰海岸国立公園海底総合調査報告書」: 45-70．財団法人建設工学研究所.
広瀬弘幸・梶村光男（1973）隠岐諸島産海藻追加目録．藻類，21: 33-38.
Kajimura M（1968）On fruiting season of *Caulerpa scalpelliformis*（R. Br）Ag. *var denticulate*（Decsn.），Weber van

Bosse in the Oki Islands, Shimane prefecture. The Bulletin of Japanese Society of Phycology, 16:2.
Kajimura M（1969）On ecology of *Caulerpa scalpelliformis var denticulate* in the Oki Islands. Mem. Fac. Lit & Sci. Shimane Univ., Nat. Sci., 2:81-98.
梶村光男（1970）天然記念物隠岐島産クロキヅタの遊走細胞とその放出について．藻類，18: 8-11.
Okamura K（1951）Incones of Japanese Algae, Second Edition, vol. 4. Tokyou.
萩原　修・広瀬弘幸・梶村光男（1970）隠岐諸島産の海藻について．藻類，18: 154-163.
新崎盛敏（2002）「原色新海藻検索図鑑」．205pp．北隆館.
千原光男（1970）「標準原色図鑑　海藻」．173pp．保育社.
内村真之（1999）地中海のイチイヅタ,藻類、7:187-203
吉田忠生・吉永一男・中嶋泰（2000）日本海産海藻目録（2000改訂版）．藻類、8:113-166

地衣類文献

Harada，H.（1993）A taxonomic study on *Dermatocarpon* and its allied genera（Lichenes，Verrucariaceae）in Japan. *Nat. Hist. Res*. 2（2）: 113-152.
生駒義篤（2000）鳥取県立博物館所蔵目録46「生駒義篤寄贈標本目録」．174pp.
Inoue，M.（ 1981）A taxonomic study on the Japanese species of *Fiscidea*（Lichen）. *Hikobia Supplement* I : 161-176.
Inoue，M.（1983）Japanese species of *Huilia*（Lichenes）（2）. *Journ. Jap. Bot.*，58（6）: 161-173.
Inoue，M.（2000）Japanese species of *Lecidella*（Lichenes Lecanoraceaea）（II）. *Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo, Ser. B*，26（4）: 139-153.
Kashiwadani H.（1975）The genera *Physscia, Physconia*, and *Dirinaria*（Lichens）of Japan. *Ginkgoana*，5: 1-77.
Kashiwadani，H.（1977）On the Japanese species of the genus *Pyxine*（Lichen）（1）. *Journ. Jap. Bot.*，52: 137-144.
Kashiwadani，H.（1977）On the Japanese species of the genus *Pyxine*（Lichen）（2）. *Journ. Jap. Bot.*，52，: 161-165.
Kashiwadani，H.（1985）Lichens of Dohgo Island，the Oki Islands. Mem. Nat. Sci. Muse.，（18）:95-106.
Kurokawa，S. et al.（2003）*Checklist of Japanese Lichens*. 128pp. National Science Museum，Tokyo.
Matsumoto, T.（2000）Taxonomic studies of the Thelotremataceae（Graphidales，lichenized Ascomycota）in Japan（1）*Genus Thelotrema. J. Hattori Bot. Lab.*（88）: 1-50.
Miyawaki，H.（1988）Studies on the *Lecanora subfusca* group in Japan. *J. Hattori Bot. Lab*.（64）: 271-326.
中路正義（1916）山陰地衣目録．植物学雑誌，30: 209-210.
Nakanishi，M.（1966）Taxonomical studies on the family Graphidaceae of Japan. *J. Sci. Hiroshima Univ.*, ser. B, div. 2 11:51-126.
中西　稔・生塩正義・竹下俊治（1997）地衣植物目録．広島大学理学部付属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会編「広島県植物誌」: 657-692.
Ohmura，Y.（2001）Taxonomic study of the gtenus *Usnea*（lichenized Ascomycetes）in Japan and Taiwan. *J. Hattori Bot. Lab.*，（90）: 1-95.
Oshio M.（1968）Taxonomical studies on the family Pertusariaceae of Japan. *J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, div. 2*，12: 81-163.
Wainio，A.（1918）Lichenes ab A. Yasuda in Japonia collecti. *Bot. Mag. Tokyo*，32: 154-163.
安田　篤（1925）「日本産地衣類図説」．118pp．斎藤報恩会学術研究総務部出版，仙台.

菌類文献

環境庁自然保護局野生生物課編（2000）「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物, レッドデータブック, 9　植物II（維管束植物以外）」．429pp．財団法人自然環境研究センター.
今関六也・本郷次雄（1987）「原色日本新菌類図鑑（I）」．325pp．保育社.
今関六也・本郷次雄（1989）「原色日本新菌類図鑑（II）」．315pp．保育社.
Núñez，M.（1997）*Protodaedalea*，a synonym of *Elmerina*（Heterobasidiomycetes）. *Mycotaxon,* 56: 177-183.
Núñez，M. and Ryvarden，L.（2000）*East Asian polypores. Volume 1*. 168pp. Fungiflora.
Núñez，M. and Ryvarden，L.（2001）*East Asian polypores. Volume 2*. 170-522pp. Fungiflora.

写真撮影者等一覧

分類群名	写真掲載ページ	和　名	2013カテゴリー	撮影場所（市町村名）	撮影日	撮影者
維管束植物	口絵１	デンジソウ	野生絶滅	－	1986年７月13日	國　井　秀　伸
	口絵１	アマクサシダ	絶滅危惧Ⅰ類	－	2003年３月19日	島根県自然環境課
	口絵１	カツモウイノデ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	2006年１月28日	柳　浦　正　夫
	口絵１	イズヤブソテツ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	柳　浦　正　夫
	口絵１	ホウライヒメワラビ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	柳　浦　正　夫
	口絵１	ヘイケイヌワラビ	絶滅危惧Ⅰ類	－	2006年３月25日	柳　浦　正　夫
	口絵１	フクロシダ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	柳　浦　正　夫
	口絵１	ホテイシダ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵２	オオエゾデンダ	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	2009年11月26日	島根県自然環境課
	口絵２	アカウキクサ	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	2005年９月14日	辻　井　要　介
	口絵２	オオヤマレンゲ	絶滅危惧Ⅰ類	奥出雲町	2000年６月22日	佐　藤　仁　志
	口絵２	ミチノクフクジュソウ	絶滅危惧Ⅰ類	津和野町	1990年４月５日	杦　村　喜　則
	口絵２	ミスミソウ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵２	ヒメバイカモ	絶滅危惧Ⅰ類	吉賀町	2012年９月５日	島根県自然環境課
	口絵２	バイカモ	絶滅危惧Ⅰ類	飯南町	2012年６月13日	島根県自然環境課
	口絵２	オニバス	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	2007年８月25日	島根県自然環境課
	口絵３	マルバウマノスズクサ	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	2011年７月23日	島根県立三瓶自然館
	口絵３	ウスバサイシン	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	2011年４月14日	島根県立三瓶自然館
	口絵３	ベニバナヤマシャクヤク	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	1994年６月14日	佐　藤　仁　志
	口絵３	ダイセンオトギリ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	2006年８月８日	島根県立三瓶自然館
	口絵３	キレンゲショウマ	絶滅危惧Ⅰ類	－	2009年８月７日	島根県立三瓶自然館
	口絵３	ヒロハノカワラサイコ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	1995年８月30日	佐　藤　仁　志
	口絵３	ハマナス	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	1975年５月20日	佐　藤　仁　志
	口絵３	ハマナタマメ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	2012年10月13日	島根県立三瓶自然館
	口絵４	タヌキマメ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	2007年９月１日	島根県立三瓶自然館
	口絵４	ウドカズラ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵４	ハマボウ	絶滅危惧Ⅰ類	知夫村	2012年９月11日	島根県立三瓶自然館
	口絵４	キガンピ	絶滅危惧Ⅰ類	津和野町	2011年10月10日	島根県立三瓶自然館
	口絵４	ナツアサドリ	絶滅危惧Ⅰ類	邑南町	2001年７月30日	杦　村　喜　則
	口絵４	タケシマシシウド	絶滅危惧Ⅰ類	海士町	2012年６月29日	海士町教育委員会
	口絵４	ハイハマボッス	絶滅危惧Ⅰ類	吉賀町	2012年９月６日	島根県自然環境課
	口絵４	ハマサジ	絶滅危惧Ⅰ類	浜田市	－	島根県自然環境課
	口絵５	イヌセンブリ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵５	ムラサキセンブリ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵５	ヒメシロアサザ	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	2000年９月	國　井　秀　伸
	口絵５	アサザ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	2000年７月	國　井　秀　伸
	口絵５	チョウジソウ	絶滅危惧Ⅰ類	津和野町	2011年６月６日	島根県立三瓶自然館
	口絵５	クサタチバナ	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	2011年７月24日	島根県立三瓶自然館
	口絵５	フナバラソウ	絶滅危惧Ⅰ類	松江市	2007年６月10日	下　瀬　　敏
	口絵５	カイジンドウ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	2011年６月６日	島根県立三瓶自然館
	口絵６	サンイントラノオ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	2008年９月５日	島根県立三瓶自然館
	口絵６	ミヤマクワガタ（ダイセンクワガタ）	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵６	イワタバコ	絶滅危惧Ⅰ類	吉賀町	1981年８月21日	佐　藤　仁　志
	口絵６	シシンラン	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	2003年７月28日	杦　村　喜　則
	口絵６	イワギリソウ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	1982年５月24日	佐　藤　仁　志
	口絵６	ヤブウツギ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵６	キキョウ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	1997年７月	島根県立三瓶自然館
	口絵６	チョウジギク	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	－	島根県自然環境課
	口絵７	ヒゴタイ	絶滅危惧Ⅰ類	飯南町	2008年８月23日	島根県立三瓶自然館
	口絵７	ヤナギタンポポ	絶滅危惧Ⅰ類	飯南町	2005年８月10日	島根県立三瓶自然館
	口絵７	キビシロタンポポ	絶滅危惧Ⅰ類	安来市	2010年５月21日	島根県立三瓶自然館

分類群名	写真掲載ページ	和　名	2013カテゴリー	撮影場所（市町村名）	撮影日	撮影者
維管束植物	口絵７	ホンゴウソウ	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	2002年８月25日	杣　村　喜　則
	口絵７	ホソバナコバイモ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵７	イズモコバイモ	絶滅危惧Ⅰ類	川本町	2008年３月25日	島根県立三瓶自然館
	口絵７	ユウスゲ（キスゲ）	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	2007年７月23日	島根県立三瓶自然館
	口絵７	ニッコウキスゲ	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	1986年５月25日	佐　藤　仁　志
	口絵８	ハナゼキショウ	絶滅危惧Ⅰ類	－	1987年６月24日	佐　藤　仁　志
	口絵８	スジヌマハリイ	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	1986年５月８日	杣　村　喜　則
	口絵８	ユウシュンラン	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵８	クマガイソウ	絶滅危惧Ⅰ類	－	1996年５月14日	板　倉　宏　文
	口絵８	サギソウ	絶滅危惧Ⅰ類	飯南町	1986年６月14日	板　倉　宏　文
	口絵８	フガクスズムシソウ	絶滅危惧Ⅰ類	大田市	1995年７月20日	佐　藤　仁　志
	口絵８	トキソウ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵８	カヤラン	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵９	ナゴラン	絶滅危惧Ⅰ類	隠岐の島町	1987年７月12日	佐　藤　仁　志
	口絵９	クモラン	絶滅危惧Ⅰ類	出雲市	2012年７月23日	島根県立三瓶自然館
	口絵９	ヤシャゼンマイ	絶滅危惧Ⅱ類	－	2007年８月13日	島根県自然環境課
	口絵９	ナンカイイタチシダ	絶滅危惧Ⅱ類	－	2006年１月28日	柳　浦　正　夫
	口絵９	テツホシダ	絶滅危惧Ⅱ類	益田市	2011年10月９日	島根県立三瓶自然館
	口絵９	ツクシイヌワラビ	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	柳　浦　正　夫
	口絵９	ニリンソウ	絶滅危惧Ⅱ類	益田市	2009年４月19日	島根県立三瓶自然館
	口絵９	リュウキンカ	絶滅危惧Ⅱ類	飯南町	2007年５月２日	島根県立三瓶自然館
	口絵10	オキナグサ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2007年４月24日	島根県立三瓶自然館
	口絵10	フタバアオイ	絶滅危惧Ⅱ類	－	1985年４月28日	佐　藤　仁　志
	口絵10	タイリンアオイ	絶滅危惧Ⅱ類	津和野町	1980年４月20日	佐　藤　仁　志
	口絵10	トモエソウ	絶滅危惧Ⅱ類	益田市	－	島根県自然環境課
	口絵10	シラヒゲソウ	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵10	ヤシャビシャク	絶滅危惧Ⅱ類	益田市	2008年４月22日	島根県立三瓶自然館
	口絵10	シロヤマブキ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	1986年５月１日	佐　藤　仁　志
	口絵10	ビッチュウフウロ	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵11	コガンピ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2008年８月31日	島根県立三瓶自然館
	口絵11	ダイセンキスミレ	絶滅危惧Ⅱ類	奥出雲町	1998年５月12日	佐　藤　仁　志
	口絵11	オグラノフサモ	絶滅危惧Ⅱ類	松江市	1986年９月	國　井　秀　伸
	口絵11	サラサドウダン	絶滅危惧Ⅱ類	益田市	2009年６月１日	島根県立三瓶自然館
	口絵11	ベニドウダン	絶滅危惧Ⅱ類	益田市	1984年６月５日	佐　藤　仁　志
	口絵11	アラゲナツハゼ	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵11	ミツガシワ	絶滅危惧Ⅱ類	飯南町	2007年５月２日	島根県立三瓶自然館
	口絵11	カギカズラ	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵12	ホソバママコナ	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	佐　藤　仁　志
	口絵12	カンボク	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵12	ヒッツキアザミ	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵12	サンベサワアザミ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	1994年10月17日	杣　村　喜　則
	口絵12	ヤマザトタンポポ	絶滅危惧Ⅱ類	川本町	2009年４月５日	島根県立三瓶自然館
	口絵12	クシバタンポポ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2010年５月６日	島根県立三瓶自然館
	口絵12	トチカガミ	絶滅危惧Ⅱ類	松江市	1986年９月	國　井　秀　伸
	口絵12	カタクリ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	2011年４月15日	島根県立三瓶自然館
	口絵13	ヒメナベワリ	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵13	コキンバイザサ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2009年５月26日	島根県立三瓶自然館
	口絵13	ミズアオイ	絶滅危惧Ⅱ類	出雲市	2011年10月13日	島根県自然環境課
	口絵13	ヒメシャガ	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	佐　藤　仁　志
	口絵13	ヒメミクリ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2008年８月２日	島根県立三瓶自然館
	口絵13	ナツエビネ	絶滅危惧Ⅱ類	隠岐の島町	1983年７月22日	佐　藤　仁　志
	口絵13	セッコク	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵13	カキラン	絶滅危惧Ⅱ類	－	－	島根県立三瓶自然館

分類群名	写真掲載ページ	和　名	2013カテゴリー	撮影場所（市町村名）	撮影日	撮影者
維管束植物	口絵14	ヤマトキソウ	絶滅危惧Ⅱ類	大田市	2005年６月22日	島根県立三瓶自然館
	口絵14	シノブ	準絶滅危惧	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵14	ハコネシケチシダ	準絶滅危惧	－	－	柳　浦　正　夫
	口絵14	アオネカズラ	準絶滅危惧	江津市	2008年１月11日	島根県立三瓶自然館
	口絵14	サクラバハンノキ	準絶滅危惧	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵14	キミズ	準絶滅危惧	江津市	2009年４月６日	島根県立三瓶自然館
	口絵14	サンインシロカネソウ	準絶滅危惧	奥出雲町	2006年４月26日	島根県立三瓶自然館
	口絵14	ハンゲショウ	準絶滅危惧	隠岐の島町	2011年７月24日	島根県立三瓶自然館
	口絵15	イスノキ	準絶滅危惧	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵15	シモツケ	準絶滅危惧	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵15	モクゲンジ	準絶滅危惧	隠岐の島町	2012年７月10日	島根県立三瓶自然館
	口絵15	ヘラノキ	準絶滅危惧	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵15	レンゲツツジ	準絶滅危惧	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵15	ゲンカイツツジ	準絶滅危惧	益田市	2003年３月26日	杣　村　喜　則
	口絵15	トウテイラン	準絶滅危惧	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵15	イヌノフグリ	準絶滅危惧	大田市	2012年４月12日	島根県立三瓶自然館
	口絵16	オニヒョウタンボク	準絶滅危惧	隠岐の島町	2012年４月26日	島根県立三瓶自然館
	口絵16	チョウジガマズミ	準絶滅危惧	隠岐の島町	2012年４月26日	島根県立三瓶自然館
	口絵16	カノコソウ	準絶滅危惧	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵16	ヒロハヤマヨモギ	準絶滅危惧	大田市	2007年９月16日	島根県立三瓶自然館
	口絵16	ダルマギク	準絶滅危惧	－	－	島根県立三瓶自然館
	口絵16	ヤマトミクリ	準絶滅危惧	浜田市	2002年６月14日	島根県自然環境課
	口絵16	キセワタ	情報不足	山口県	2006年８月30日	島根県立三瓶自然館
	口絵16	アブラシバ	情報不足	大田市	2011年７月16日	島根県立三瓶自然館
蘚　苔　類	口絵17	カビゴケ	絶滅危惧Ⅰ類	－	1965年８月	下　瀬　　敏
	口絵17	ハリミズゴケ	絶滅危惧Ⅱ類	江津市	2012年10月10日	下　瀬　　敏
	口絵17	クマノゴケ	絶滅危惧Ⅱ類	奥出雲町	2002年10月２日	西　田　雄　行
	口絵17	オオミズゴケ	準絶滅危惧	松江市	2001年９月14日	西　田　雄　行
	口絵17	ウキゴケ（カズノゴケ）	準絶滅危惧	－	2002年８月	下　瀬　　敏
	口絵17	ホソベリミズゴケ	準絶滅危惧	－	－	西　田　雄　行
	口絵17	イチョウウキゴケ	準絶滅危惧	－	2002年７月	下　瀬　　敏
	口絵17	ヤワラゼニゴケ	情報不足	－	2002年４月	下　瀬　　敏
海　藻　類	口絵18	クロキヅタ	絶滅危惧Ⅱ類	海士町	2002年８月３日	秋　吉　英　雄
菌　　類	口絵18	クチキトサカタケ	絶滅危惧Ⅰ類	浜田市	2002年９月19日	島根県自然環境課
	口絵18	ムカシオオミダレタケ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県自然環境課
	口絵18	エビタケ	絶滅危惧Ⅰ類	－	－	島根県自然環境課
	口絵18	ツヤナシマンネンタケ	絶滅危惧Ⅰ類	浜田市	2002年９月19日	島根県自然環境課
	口絵18	ツキヨタケ	絶滅危惧Ⅱ類	飯南町	2008年10月10日	島根県中山間地域研究センター
	口絵18	ウスキブナノミタケ	絶滅危惧Ⅱ類	益田市	2008年９月20日	島根県中山間地域研究センター
	口絵18	ショウロ	準絶滅危惧	出雲市	2006年４月16日	島根県中山間地域研究センター

（注）撮影場所又は撮影日が不明な場合は「－」で表示。

自然保護に関する主な法令等

（優れた自然環境の保全を主な目的とする法令）

■自然公園法、島根県自然公園条例

優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図るため、国立公園、国定公園、県立自然公園の地域を指定している。公園区域内では一定の行為が規制されるとともに、指定された動植物の捕獲採取が禁止されている。

■自然環境保全法、島根県自然環境保全条例

優れた自然環境を保全することが特に必要な地域を「自然環境保全地域」として指定し、その保全を図っており、地域内に指定した「野生動植物保護地区」では、野生動植物の捕獲、採取、損傷等の行為が禁止されている。

（野生生物の保護を主な目的とする法令）

■鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護法）

哺乳類及び鳥類を対象としており、鳥獣保護事業計画を策定し、鳥獣保護区の設定や鳥獣保護思想の普及啓発等による保護対策が行われている。また、狩猟の取り締まりや適正化を内容とする狩猟対策も行われている。

■絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

■島根県希少野生動植物の保護に関する条例

野生動植物保護の中核となっている法令であり、希少野生動植物種（指定希少野生動植物）の指定による個体等の捕獲や譲渡に関する規制、生息地等の保護に関する規制、保護増殖事業（保護管理事業）などが規定されている。現在、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種は９０種、県条例に基づく指定希少野生動植物は５種（オニバス、ヒメバイカモ等）が指定されている。

■特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）

もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすものについて特定外来生物として指定し、飼養・栽培・保管・運搬・輸入などが原則として禁止されている。

■文化財保護法、文化財保護条例

学術的価値の高い動植物やその生息生育地などを天然記念物として指定し、保護のための措置を講じている。

（開発行為に際しての環境配慮に関する法令等）

■環境影響評価法、環境影響評価条例

環境に著しい影響を及ぼすおそれのある事業を実施する者が、事業の実施前に、その事業が環境に及ぼす影響について調査、予測及び評価を行い、必要な環境保全措置を検討することにより、その事業を環境保全上、より望ましいものとするための制度を法制化したものである。

■島根県土地利用調整要綱による開発協議

開発事業者は一定規模の開発行為に際して、自然環境に著しい影響が及ばないよう、十分な配慮を行うことが求められており、開発計画について知事との協議が必要となる。

■島根県公共事業環境配慮指針

県が行う公共事業について環境配慮の方針を示すとともに、環境影響評価対象事業に準じた事業に係る環境配慮システムを構築し、その継続的改善を図るものである。

環境配慮の手順については、事業全体をその進捗に応じて調査･計画、設計、実施の三段階に分け、それぞれの段階において事前に環境配慮事項を設定し、その実行に努め、事業実施後その達成状況を自己評価し、継続的に環境配慮の向上に努めていくものである。

島根県の自然公園における指定植物一覧

（国立公園、国定公園）

科　名	種　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー	大山隠岐国立公園	比婆道後帝釈国定公園	西中国山地国定公園
ミズゴケ	ミズゴケ		○	○	○
マツバラン	マツバラン	絶滅危惧Ⅰ類	○		
ヒカゲノカズラ	ヒメスギラン		○		
	スギラン	絶滅危惧Ⅰ類	○		○
	マンネンスギ	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	ヒモラン	絶滅危惧Ⅰ類	N		
イワヒバ	エゾヒメクラマゴケ		○		
	ヒモカズラ			S	
	イワヒバ		○		
ゼンマイ	ヤシャゼンマイ	絶滅危惧Ⅱ類	○		○
シノブ	シノブ	準絶滅危惧	○		○
キジノオシダ	ヤマソテツ		○	○	○
オシダ	ウラボシノコギリシダ		○		
	オオクジャクシダ		○		
チャセンシダ	イチョウシダ			○	
	クモノスシダ	絶滅危惧Ⅰ類		○	
	コタニワタリ		○	○	○
ウラボシ	クラガリシダ	絶滅危惧Ⅰ類			○
	イワヤナギシダ		○		
	ヌカボシクリハラン	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	ヤノネシダ		○	○	○
	オシャグジデンダ		○	○	○
	オオエゾデンダ	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	イワオモダカ	絶滅危惧Ⅰ類	○		
シシラン	タキミシダ	絶滅危惧Ⅰ類		○	
ヒノキ	ミヤマビャクシン（ミヤマハイビャクシン）		○	○	
イチイ	キャラボク		○		
ヤドリギ	オオバヤドリギ		○		
ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ			○	
タデ	イブキトラノオ（ホソバイブキトラノオを含む）			○	
ナデシコ	フジナデシコ（ハマナデシコ）	絶滅危惧Ⅱ類	○		
	ワチガイソウ	絶滅危惧Ⅱ類			○

科　名	種　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー	大山隠岐国立公園	比婆道後帝釈国定公園	西中国山地国定公園
キンポウゲ	タンナトリカブト		○		○
	サンインヤマトリカブト（ダイセントリカブト）		○	○	○
	サンヨウブシ（サンヨウトリカブト）	絶滅危惧Ⅱ類		○	
	フクジュソウ			○	
	ユキワリイチゲ	準絶滅危惧	○		
	ミスミソウ（スハマソウ、ケスハマソウを含む）	絶滅危惧Ⅰ類	○	○	
	イチリンソウ		○	○	○
	キクザキイチリンソウ		○	○	
	リュウキンカ（エンコウソウを含む）	絶滅危惧Ⅱ類	○		○
	タカネハンショウヅル			○	
	カザグルマ		○	○	
	トリガタハンショウヅル		○	○	
	バイカオウレン			○	○
	サンインシロカネソウ	準絶滅危惧		○	
	オキナグサ	絶滅危惧Ⅱ類	○	○	○
	ノカラマツ		○		
	ヤマシャクヤク		○	○	○
メギ	サンカヨウ	絶滅危惧Ⅰ類	○	○	
	バイカイカリソウ			○	
	トキワイカリソウ		○	○	○
	ウラジロイカリソウ				○
スイレン	ヒツジグサ	準絶滅危惧	○		
ウマノスズクサ	ミヤコアオイ		○		○
	ウスバサイシン（サイシン）	絶滅危惧Ⅰ類	○		
オトギリソウ	シロウマオトギリ（ダイセンオトギリ）	絶滅危惧Ⅰ類	◎		
モウセンゴケ	モウセンゴケ		○	○	○
ケシ	ヤマブキソウ			○	
アブラナ	ミヤマハタザオ		○		
ユキノシタ	チャルメルソウ		○	○	○
	シラヒゲソウ	絶滅危惧Ⅱ類	○		○
	ウメバチソウ		○	○	○
	ジンジソウ		○	○	○
バラ	シモツケソウ（アカバナシモツケソウを含む）		○	○	○
	ノウゴウイチゴ		○		
	イワキンバイ		○		

科　名	種　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー	大山隠岐国立公園	比婆道後帝釈国定公園	西中国山地国定公園
バラ	ヒロハカワラサイコ	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	テリハキンバイ		○	○	○
	シロヤマブキ	絶滅危惧Ⅱ類		○	
	ハマナス（ハマナシ）	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	ハスノハイチゴ		○		○
	キビナワシロイチゴ	絶滅危惧Ⅱ類	○	○	○
	ミツバイワガサ（イワガサ、タンゴイワガサ）		○		
フウロソウ	イヨフウロ（シコクフウロ）		○	○	○
	コフウロ		○		○
	ハクサンフウロ（イブキフウロを含む）		○		
	ビッチュウフウロ	絶滅危惧Ⅱ類	○	○	○
ハマビシ	ハマビシ	絶滅	○		
トウダイグサ	イワタイゲキ	準絶滅危惧	○		
クロウメモドキ	キビノクロウメモドキ			◎	
	タイシャククロウメモドキ			◎	
ジンチョウゲ	コショウノキ		○	○	
	カラスシキミ	絶滅危惧Ⅱ類	○		
グミ	ナツアサドリ	絶滅危惧Ⅰ類		○	○
スミレ	オオバキスミレ			○	
	ダイセンキスミレ	絶滅危惧Ⅱ類	◎	○	
	シコクスミレ（ハコネスミレ）				○
アカバナ	ヒメアカバナ		○		○
イワウメ	ヒメイワカガミ		○		
	イワカガミ（コイワカガミ、オオイワカガミを含む）		○	○	○
イチヤクソウ	ウメガサソウ		○	○	○
	シャクジョウソウ	情報不足	○		
	ギンリョウソウモドキ（アキノギンリョウソウ）		○	○	○
	ギンリョウソウ		○	○	○
	マルバノイチヤクソウ		○	○	○
ツツジ	コメバツガザクラ		○		
	ドウダンツツジ		○		
	アカモノ（シロイワハゼ）		○	○	○
	シラタマノキ		○	○	
	ウスギヨウラク				○
	ヨウラクツツジ			○	

科　名	種　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー	大山隠岐国立公園	比婆道後帝釈国定公園	西中国山地国定公園
ツツジ	イワナシ	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	ツガザクラ		○		
	ミツバツツジ		○		
	レンゲツツジ（キレンゲを含む）	準絶滅危惧	○	○	
	ヒカゲツツジ				○
	ツクシシャクナゲ（ホンシャクナゲ、オキシャクナゲを含む）	絶滅危惧Ⅱ類	○		○
	カラムラサキツツジ（ゲンカイツツジを含む）	準絶滅危惧			○
	サイコクミツバツツジ		○	○	
	コバノミツバツツジ		○	○	○
	コメツツジ（チョウジ型含む）		○		
	ダイセンミツバツツジ		○	○	○
	ミヤマホツツジ		○		
	サラサドウダン	絶滅危惧Ⅱ類			○
	シロドウダン（ベニドウダンを含む）	絶滅危惧Ⅱ類			○
	コケモモ		○		
サクラソウ	サクラソウ			○	
	ツマトリソウ		○		
モクセイ	ヤマトレンギョウ			○	
リンドウ	リンドウ		○	○	○
	センブリ		○		
	ミツガシワ	絶滅危惧Ⅱ類			○
アカネ	ソナレムグラ		○		
	サツマイナモリ		○		○
	イナモリソウ	準絶滅危惧	○		
	オオキヌタソウ		○		○
	クルマバアカネ		○		
ムラサキ	ムラサキ				○
ゴマノハグサ	コゴメグサ（イブキコゴメグサ）		○	○	
	キュウシュウコゴメグサ		○	○	
	ヤマウツボ（ケヤマウツボを含む）				○
	ホソバママコナ	絶滅危惧Ⅱ類	○		
	トウテイラン	準絶滅危惧	○		
	ダイセンクワガタ	絶滅危惧Ⅰ類	◎		
イワタバコ	イワタバコ	絶滅危惧Ⅰ類	○		○
イワタバコ	シシンラン	絶滅危惧Ⅰ類	○		

科　名	種　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー	大山隠岐国立公園	比婆道後帝釈国定公園	西中国山地国定公園
ハマウツボ	ハマウツボ		○		
	キヨスミウツボ		○		○
タヌキモ	ミミカキグサ	絶滅危惧Ⅱ類	○		
	イヌタヌキモ	準絶滅危惧	○		
	ムラサキミミカキグサ	絶滅危惧Ⅱ類	○		
スイカズラ	イワツクバネウツギ		○	○	
	ヤマヒョウタンボク	絶滅危惧Ⅱ類			○
	オオバヒョウタンボク（アラゲヒョウタンボク）				○
	ダイセンヒョウタンボク	絶滅危惧Ⅰ類	○		○
	オニヒョウタンボク	準絶滅危惧	○	○	
	チョウジガマズミ	準絶滅危惧	○	○	
マツムシソウ	マツムシソウ		○	○	○
キキョウ	フクシマシャジン	絶滅危惧Ⅱ類	○	○	
	ハクサンシャジン（ナガバシャジンを含む）		○	○	○
	サワギキョウ	絶滅危惧Ⅱ類		○	
	シデシャジン			○	
	キキョウ	絶滅危惧Ⅰ類	○		○
キク	チョウジギク	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	ミヤマヨメナ		○	○	○
	ダルマギク	準絶滅危惧	○		
	オキノアブラギク		◎		
	サンインギク		○		
	イワギク		○		
	テリハアザミ	絶滅危惧Ⅱ類			○
	ムラクモアザミ	情報不足		○	
	マアザミ（キセルアザミ、ツクデマアザミ）		○	○	○
	サンベサワアザミ（サンベイアザミ）	絶滅危惧Ⅱ類	○		
	ホソバワダン		○		
	ヒゴタイ	絶滅危惧Ⅰ類		○	
	ホソバムカシヨモギ		○		
	オタカラコウ		○	○	
	ハンカイソウ		○		
	オオニガナ		○	○	○
	ヒメヒゴタイ		○	○	○
	キクアザミ	絶滅危惧Ⅰ類		○	

科　名	種　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー	大山隠岐国立公園	比婆道後帝釈国定公園	西中国山地国定公園
キク	コウリンカ		○	○	○
	サワオグルマ		○	○	○
	オキタンポポ		○		
	クシバタンポポ	絶滅危惧Ⅱ類	○	○	
	イワヤクシソウ			○	
ユリ	ネバリノギラン		○	○	
	シロウマアサツキ		W		
	アサツキ		○	○	○
	ヤマラッキョウ		○	○	○
	シライトソウ		○	○	○
	スズラン			○	
	カタクリ	絶滅危惧Ⅱ類	○	○	○
	ショウジョウバカマ		○	○	○
	シロバナショウジョウバカマ				○
	ニッコウキスゲ（ゼンテイカ）	絶滅危惧Ⅰ類	W		
	イワギボウシ		○		
	ミズギボウシ（ナガバミズギボウシ）		○		
	ササユリ		○	○	○
	コオニユリ		○	○	○
	チャボゼキショウ（ハコネハナゼキショウ）		○		
	イワショウブ		○	○	○
	ハナゼキショウ（イワゼキショウ）	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	エンレイソウ		○	○	○
	アマナ		○	○	○
アヤメ	ノハナショウブ		○	○	○
	ヒメシャガ		○		
ツユクサ	アオイカズラ			○	
イネ	タイシャクカモジ			○	
	ミヤマヌカボ		○		
	ヒゲノガリヤス		○		○
	コメススキ		○	○	
サトイモ	アキテンナンショウ（オモゴウテンナンショウ）				N
	ムサシアブミ		○		
	ヒメザゼンソウ			○	○
	ザゼンソウ		○		

科　名	種　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー	大山隠岐国立公園	比婆道後帝釈国定公園	西中国山地国定公園
カヤツリグサ	ダイセンスゲ		◎	○	
	オタルスゲ		○		○
	ダイセンアシボソスゲ		◎		
ラン	ナゴラン	絶滅危惧Ⅰ類	N		
	ヒナラン	絶滅危惧Ⅱ類	○		○
	マメヅタラン（マメラン）	絶滅危惧Ⅰ類	○		○
	ムギラン	絶滅危惧Ⅰ類	○		○
	エビネ	絶滅危惧Ⅱ類	○		
	キンセイラン	絶滅危惧Ⅰ類	○		○
	ナツエビネ	絶滅危惧Ⅱ類	○		○
	キエビネ	絶滅危惧Ⅰ類	○		○
	サルメンエビネ	絶滅危惧Ⅰ類		○	○
	ギンラン	絶滅危惧Ⅱ類	○	○	○
	キンラン	絶滅危惧Ⅱ類	○	○	○
	サザバギンラン		○		
	ユウシュンラン	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	サイハイラン		○	○	○
	トケンラン	絶滅危惧Ⅱ類	○		○
	シュンラン（ホクロ）		○	○	○
	クマガイソウ	絶滅危惧Ⅰ類	○	○	
	イチヨウラン				○
	セッコク	絶滅危惧Ⅱ類	○		○
	カキラン	絶滅危惧Ⅱ類	○	○	○
	ツチアケビ		○	○	○
	オニノヤガラ		○	○	○
	アケボノシュスラン		○	○	○
	ベニシュスラン	絶滅危惧Ⅱ類	○		
	ツリシュスラン				○
	ミヤマウズラ		○	○	○
	ノビネチドリ		○		
	サギソウ	絶滅危惧Ⅰ類		○	○
	ミズトンボ				○
	ジガバチソウ	絶滅危惧Ⅰ類	○	○	○
	クモキリソウ		○	○	○
	コクラン		○		

科　名	種　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー	大山隠岐国立公園	比婆道後帝釈国定公園	西中国山地国定公園
ラン	ヒメフタバラン		○		
	アオフタバラン		○		
	フウラン	準絶滅危惧	○		
	ヨウラクラン	準絶滅危惧	○		○
	ヒナチドリ				○
	ウチョウラン	絶滅危惧Ⅰ類			○
	コケイラン		○		○
	ジンバイソウ		○	○	○
	ミズチドリ	絶滅危惧Ⅰ類	○	○	○
	ヤマサギソウ		○		
	オオバノトンボソウ		○	○	○
	コバノトンボソウ				○
	オオヤマサギソウ				○
	ホソバノキソチドリ		○		
	トキソウ	絶滅危惧Ⅰ類	○	○	○
	ヤマトキソウ	絶滅危惧Ⅱ類	○		
	ベニカヤラン（マツラン）	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	モミラン				○
	カヤラン	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	クモラン	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	ヒトツボクロ		○		
	イイヌマムカゴ	絶滅危惧Ⅰ類	○		
	トンボソウ		○		
	ショウキラン	絶滅危惧Ⅰ類		○	○

注１　表中の国立公園名又は国定公園名に「◎」とあるのは、当該公園で指定され、かつ当該公園に基準標本産地（タイプロカリティ）が含まれることを表す。

注２　表中の国立公園名又は国定公園名に「Ｅ」「Ｗ」「Ｎ」「Ｓ」とあるのは、当該公園で指定され、かつ当該公園がそれぞれ東西南北の分布限界（もしくはそれに近い地域）であることを表す。

(県立公園)

科	植　物　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー
ミズゴケ	ミズゴケ	
ヒカゲノカズラ	ミズスギ	準絶滅危惧
イワヒバ	カタヒバ	
	イワヒバ	
ゼンマイ	ヤシャゼンマイ	絶滅危惧Ⅱ類
コケシノブ	ヒメハイホラゴケ	
イノモトソウ	ハコネシダ	絶滅危惧Ⅰ類
	クジャクシダ	
	ナチシダ	準絶滅危惧
シノブ	シノブ	準絶滅危惧
キジノオシダ	ヤマソテツ	
オシダ	ハカタシダ	
	ウラボシノコギリシダ	
	テツホシダ	絶滅危惧Ⅱ類
	シロヤマシダ	
	イブキシダ	
	イノデモドキ	
	イワデンダ	
シシガシラ	コモチシダ	
チャセンシダ	カミガモシダ	
	チャセンシダ	
	イヌチャセンシダ	
	ホウビシダ	準絶滅危惧
	コタニワタリ	
ウラボシ	マメズタ	
	ヒメサジラン	準絶滅危惧
	イワヤナギシダ	
	サジラン	絶滅危惧Ⅱ類
	クリハラン	
	ヤノネシダ	
	ミヤマノキシノブ	
	オシャグジデンダ	
	アオネカズラ	準絶滅危惧
	ビロウドシダ	絶滅危惧Ⅱ類
	ヒトツバ	
シシラン	タキミシダ	絶滅危惧Ⅰ類
	シシラン	準絶滅危惧
ヤドリギ	マツグミ	
	ヤドリギ	
	オオバヤドリギ	
カバノキ	カワラハンノキ	
タデ	ネバリタデ	
ナデシコ	フジナデシコ（ハマナデシコ）	絶滅危惧Ⅱ類
	フシグロセンノウ	
キンポウゲ	タンナトリカブト	
	サンインヤマトリカブト（ダイセントリカブト）	
	ニリンソウ	絶滅危惧Ⅱ類
	ユキワリイチゲ	準絶滅危惧
	ミスミソウ	絶滅危惧Ⅰ類

科	植　物　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー
キンポウゲ	シュウメイギク	
	イチリンソウ	
	クサボタン	
	トリガタハンショウヅル	
	オウレン	
	サンインシロカネソウ	準絶滅危惧
	オキナグサ	絶滅危惧Ⅱ類
	シマキツネノボタン	情報不足
	ミヤマカラマツ	
	ヤマシャクヤク	
イチヤクソウ	ウメガサソウ	
	ギンリョウソウモドキ（アキノギンリョウソウ）	
	ギンリョウソウ	
ツツジ	ウスギョウラク	
	レンゲツツジ	準絶滅危惧
	ヤマツツジ	
	ツクシシャクナゲ（ホンシャクナゲ、オキシャクナゲ含）	絶滅危惧Ⅱ類
	コバノミツバツツジ	
	キシツツジ（シロバナ及びゲンペイ咲き含）	
	バイカツツジ	
	ダイセンミツバツツジ	
	アラゲナツハゼ	
ヤブコウジ	マンリョウ	
	カラタチバナ	
	イズセンリョウ	
	タイミンタチバナ	準絶滅危惧
イソマツ	ハマサジ	絶滅危惧Ⅰ類
リンドウ	リンドウ	
	フデリンドウ	
	アケボノソウ	
	センブリ	
キョウチクトウ	チョウジソウ	絶滅危惧Ⅰ類
	サカキカズラ	絶滅危惧Ⅱ類
アカネ	クルマバソウ	
	ホソバジュズネノキ	
	エゾノカワラマツバ	
	ソナレムグラ	
	サツマイナモリ	
	オオキヌタソウ	
	クルマバアカネ	
ムラサキ	ヤマルリソウ	
シソ	ジャコウソウ	
	ヒキオコシ	
	サンインヒキオコシ	
	タツナミソウ	
	イブキジャコウソウ	
フジウツギ	ホウライカズラ	準絶滅危惧
ゴマノハグサ	キュウシュウコゴメグサ	
	ホソバママコナ	絶滅危惧Ⅱ類

科	植　物　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー
ゴマノハグサ	サンイントラノオ	絶滅危惧Ⅰ類
イワタバコ	イワギリソウ	絶滅危惧Ⅰ類
タヌキモ	ミミカキグサ	
	タヌキモ	絶滅危惧Ⅱ類
	ムラサキミミカキグサ	絶滅危惧Ⅱ類
スイカズラ	ハマニンドウ	準絶滅危惧
	チョウジガマズミ	準絶滅危惧
マツムシソウ	マツムシソウ	
キキョウ	ソバナ、キキョウ	
キク	ヒメヨモギ	
	タニガワコンギク	
	オケラ	
	サンインギク	
	ビッチュウアザミ	
	モリアザミ	絶滅危惧Ⅱ類
	トゲナシアザミ	
	ヨシノアザミ	
	マアザミ	
	サンベサワアザミ	絶滅危惧Ⅱ類
	ホソバワダン	
	オッタチカンギク	準絶滅危惧
	リュウノウギク	
	ミヤマヨメナ	
	ハマベノギク	準絶滅危惧
	ハマベヨメナ	
	アレノノギク（ツツ咲き含）	
	ハンカイソウ	
	ヒメヒゴタイ	
	キクアザミ	絶滅危惧Ⅰ類
	コウリンカ	
	サワギク	
	サワオグルマ	
	アオヤギバナ	
	ヤマザトタンポポ	絶滅危惧Ⅱ類
	ケンサキタンポポ	
	クシバタンポポ	絶滅危惧Ⅱ類
ラン	ヒナラン	絶滅危惧Ⅱ類
	マメズタラン	絶滅危惧Ⅰ類
	ムギラン	絶滅危惧Ⅰ類
	タカネ	
	エビネ	絶滅危惧Ⅱ類
	ナツエビネ	絶滅危惧Ⅱ類
	キエビネ	絶滅危惧Ⅰ類
	ギンラン	絶滅危惧Ⅱ類
	キンラン	絶滅危惧Ⅱ類
	ササバギンラン	
	サイハイラン	
	トケンラン	絶滅危惧Ⅱ類
	シュンラン	
	クマガイソウ	絶滅危惧Ⅰ類
	セッコク	絶滅危惧Ⅱ類
	ツチアケビ	

科	植　物　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー
ラン	オニノヤガラ	
	アケボノシュスラン	
	ベニシュスラン	絶滅危惧Ⅱ類
	ミヤマウズラ	
	シュスラン	
	サギソウ	絶滅危惧Ⅰ類
	ムヨウラン	
	ギボウシラン	
	ジガバチソウ	絶滅危惧Ⅰ類
	クモキリソウ	
	コクラン	
	フウラン	準絶滅危惧
	ヨウラクラン	準絶滅危惧
	コケイラン	
	ジンバイソウ	
	オオバノトンボソウ	
	ベニカヤラン（マツラン）	絶滅危惧Ⅰ類
	カヤラン	絶滅危惧Ⅰ類
	ネジバナ	
	クモラン	絶滅危惧Ⅰ類
	ヒトツボクロ	
メギ	メギ	
	ルイヨウボタン	
	スズフリイカリソウ	
	トキワイカリソウ	
	ウラジロイカリソウ	
ツヅラフジ	ハスノハカズラ	
スイレン	ヒツジグサ	準絶滅危惧
コショウ	フウトウカズラ	
センリョウ	ヒトリシズカ	
	フタリシズカ	
ウマノスズクサ	タイリンアオイ	絶滅危惧Ⅱ類
	ミヤコアオイ	
	サンヨウアオイ	準絶滅危惧
オトギリソウ	ホソバオトギリソウ	
モウセンゴケ	モウセンゴケ	
アブラナ	ユリワサビ	
マンサク	アテツマンサク	
ベンケイソウ	ツメレンゲ	準絶滅危惧
	オオメノマンネングサ	準絶滅危惧
	キリンソウ	
	アオベンケイ	絶滅危惧Ⅱ類
ユキノシタ	チダケサシ	
	クサアジサイ	
	ホクリクネコノメ	
	ヒメウツギ	
	コガクウツギ	
	チャルメルソウ	
	ウメバチソウ	
	ジンジソウ	
	ダイモンジソウ	
	ナメラダイモンジソウ	

科	植　物　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー
バラ	ヤマブキショウマ	
	シモツケソウ	
	ヤマブキ	
	テリハキンバイ（オオバテリハキンバイ含）	
	ビロードイチゴ	
	ヒメバライチゴ（トゲのないもの含）	
	キビナワシロイチゴ	絶滅危惧Ⅱ類
	イブキシモツケ	
マメ	ニワフジ	
	イヌハギ	
モチノキ	イヌウメモドキ	
ニシキギ	ムラサキマユミ	
ツゲ	チョウセンヒメツゲ	
	フッキソウ	
ジンチョウゲ	コショウノキ	
グミ	ナツアサドリ	絶滅危惧Ⅰ類
スミレ	エイザンスミレ	
	スミレ、ヒメスミレ	
	ナガハシスミレ	
	サンインスミレサイシン	
	シハイスミレ	
ミソハギ	ミソハギ	
	エゾミソハギ	
ウコキ	トチバニンジン	
セリ	シラネセンキュウ	
	イブキボウフウ	
イワウメ	イワカガミ	
ユリ	ヤマラッキョウ	
	シライトソウ	
	ホウチャクソウ	
	チゴユリ	

科	植　物　名	しまねRDB 2013植物編 カテゴリー
ユリ	エダウチチゴユリ	
	ショウジョウバカマ	
	シロバナショウジョウバカマ	
	コバギボウシ	
	オオバギボウシ	
	ササユリ	
	コオニユリ	
	ノシラン	
	ツクバネソウ	
	ナルコユリ	
	ミヤマナルコユリ	
	オオナルコユリ	
	ユキザサ	
	ヤマジノホトトギス	
	エンレイソウ	
	アマナ	
	ホソバシュロソウ	
ツユクサ	イワツユクサ	
	ヤブミョウガ	
ホシクサ	ツクシクロイヌノヒゲ	絶滅危惧Ⅰ類
イネ	オオネズミガヤ	
サトイモ	ムサシアブミ	
	ナンゴクウラシマソウ	
カヤツリグサ	ヒゲスゲ	
	ダイセンスゲ	
	キンキカサスゲ	
	サツマスゲ	準絶滅危惧
	タカネマスクサ	
	フサナキリスゲ	
	ヒトモトススキ	準絶滅危惧
ショウガ	ハナミョウガ	

（参考）島根県の自然公園一覧

公園の種類	公園名	面積（海面を除く）（ha）	所　在　地
国立公園	大山隠岐（だいせんおき）	13,036.0	〈島根県分〉 西ノ島町、海士町、知夫村、隠岐の島町、松江市、出雲市、大田市、美郷町、飯南町 〈海面を除く公園面積の地域別内訳〉 ・隠岐島地域：7,570ha ・島根半島地域：2,787ha ・三瓶山地域：2,679ha
計	1箇所	13,036.0	
国定公園	比婆道後帝釈（ひばどうごたいしゃく）	1,637.0	〈島根県分〉 奥出雲町
	西中国山地（にしちゅうごくさんち）	9,211.0	〈島根県分〉 邑南町、浜田市、 益田市、津和野町、 吉賀町
計	2か所	10,848.0	
県立自然公園	浜田海岸（はまだかいがん）	238.6	浜田市
	清水月山（きよみずがっさん）	360.0	安来市
	宍道湖北山（しんじこきたやま）	10,618.0	松江市、出雲市
	立久恵峡（たちくえきょう）	367.0	出雲市
	鬼の舌震（おにのしたぶるい）	330.0	奥出雲町
	江川水系（ごうがわすいけい）	2,296.5	美郷町、邑南町
	蟠竜湖（ばんりゅうこ）	187.6	益田市
	青野山（あおのさん）	970.0	津和野町
	竜頭八重滝（りゅうずやえだき）	396.0	雲南市
	千丈渓（せんじょうけい）	340.2	江津市、邑南町
	断魚渓・観音滝（だんぎょけい・かんのんだき）	509.3	江津市、邑南町
計	11箇所	16,613.2	
合　計	14箇所	40,497.2	

島根県自然環境保全地域における保護すべき野生動植物の種類一覧

島根県自然環境保全地域名 （　）内は野生動植物保護地区名	所在地	保護すべき野生動植物の種類 ※（ ）内はしまねＲＤＢ2013植物編カテゴリー
西谷川オオサンショウウオ繁殖地自然環境保全地域	安来市	—
赤名湿地性植物群落自然環境保全地域 （赤名湿地野生動植物保護地区）	飯南町	（植物）　コムラサキ ミツガシワ（絶滅危惧Ⅱ類） トキソウ（絶滅危惧Ⅰ類） サギソウ（絶滅危惧Ⅰ類） リュウキンカ（絶滅危惧Ⅱ類） サワギキョウ（絶滅危惧Ⅱ類） ムラクモアザミ（情報不足） コバノトンボソウ（絶滅危惧Ⅰ類） ミズチドリ（絶滅危惧Ⅰ類） カキラン（絶滅危惧Ⅱ類） コイヌノハナヒゲ イヌノハナヒゲ ニッポンイヌノヒゲ ハンカイソウ アキスミレ カンガレイ ヒツジグサ（準絶滅危惧） フトヒルムシロ モウセンゴケ ミミカキグサ（絶滅危惧Ⅱ類） ムラサキミミカキグサ（絶滅危惧Ⅱ類） （動物）　ハッチョウトンボ ヒメシジミ ゴイシシジミ
女亀山自然環境保全地域 （女亀山野生動植物保護地区）	飯南町	（植物）　キエビネ（絶滅危惧Ⅰ類） エビネ（絶滅危惧Ⅱ類） ミヤコアオイ カガノアザミ （動物）　ギフチョウ フタコブルリハナカミキリ ホシベッコウカギバ ナンバンマイマイ科ビロウドマイマイ属の全種 オナジマイマイ科オオベソマイマイ属の全種 キセルガイ科の全種
三隅海岸自然環境保全地域 （大島野生動植物保護地区 青浦野生動植物保護地区）	浜田市	（植物）　ハマビワ〔大島野生動植物保護地区〕 （植物）　テツホシダ（絶滅危惧Ⅱ類）〔青浦野生動植物保護地区〕 カンコノキ（絶滅危惧Ⅱ類）
六日市コウヤマキ自生林自然環境保全地域	吉賀町	—
オキシャクナゲ自生地自然環境保全地域 （粟舟野生動植物保護地区 サカサマ野生動植物保護地区 岩倉野生動植物保護地区 元屋野生動植物保護地区）	隠岐の島町	（植物）　オキシャクナゲ（絶滅危惧Ⅱ類）〔注〕 ナゴラン（絶滅危惧Ⅰ類） フウラン（準絶滅危惧） セッコク（絶滅危惧Ⅱ類） エビネ（絶滅危惧Ⅱ類） ナツエビネ（絶滅危惧Ⅱ類） キエビネ（絶滅危惧Ⅰ類） キンセイラン（絶滅危惧Ⅰ類）

〔参考〕　島根県では島根県自然環境保全条例に基づき上表のとおり島根県自然環境保全地域として県内６地域を指定しており、そのうち４地域で野生動植物保護地区を指定し、保護すべき野生動植物の種類を定め、罰則規定を設けて捕獲等を規制している。
　なお、自然環境保全法に基づく自然環境保全地域等（国指定）の島根県内での指定はなし。

〔注〕　「オキシャクナゲ」:「ホンシャクナゲ」として記載（122ページ）。

島根県希少野生動植物の保護に関する条例に基づく指定希少野生動植物一覧

（平成25年２月末日現在）

分類群		科名	種名	しまねＲＤＢカテゴリー（注）	指定年月日	存続を脅かす要因
動物	汽水・淡水魚類	コイ科	ミナミアカヒレタビラ	絶滅危惧Ⅰ類	平成24年３月６日	河川改修などによる環境の悪化、外来種による捕食
動物	昆虫類	ハンミョウ科	カワラハンミョウ	絶滅危惧Ⅰ類	平成24年３月６日	工事による砂浜の攪乱や環境悪化、堆砂の移動除去
動物	昆虫類	コガネムシ科	ダイコクコガネ	絶滅危惧Ⅰ類	平成22年12月10日	放牧形態の変化や採集圧の増加等
植物	維管束植物	キンポウゲ科	ヒメバイカモ	絶滅危惧Ⅰ類	平成24年３月６日	河川改修や水質汚濁の進行
植物	維管束植物	スイレン科	オニバス	絶滅危惧Ⅰ類	平成22年12月10日	除草剤やアメリカザリガニ等の食害

（注）しまねＲＤＢカテゴリー：動物は「しまねＲＤＢ２００４カテゴリー」、植物は「しまねＲＤＢ２０１３植物編カテゴリー」による。

天然記念物等一覧

（国指定）

No.	区分	指定年月日	名　　称	員数	所在地	所有者（管理団体）	備　　考
1	特天	S27.3.29	大根島の熔岩隧道	1所	松江市	松江市他	全長約93m
2	特天	S27.3.29	オオサンショウウオ		県下全域		世界最大級の有尾両生類
3	天	T11.3.8 追加指定 S40.6.4	経島のウミネコ繁殖地	1所	出雲市	日御碕神社（出雲市）	日本海西部における代表的繁殖地
4	天	T11.3.8	クロキヅタ産地	1所	西ノ島町、海士町	西ノ島町、海士町	イワヅタ科の大型藻類
5	天	S3.2.7 一部解除 S6.7.21	高尾暖地性濶葉樹林	1所	隠岐の島町		ウラジロガシ、シダ類、らん類等の自然林
6	天	S4.12.17	玉若酢命神社の八百杉	1株	隠岐の島町	玉若酢命神社	目通り幹周り９m、樹高約29m
7	天	S7.3.25	石見畳ヶ浦	1基	浜田市	国他	隆起海岸地形
8	天	S7.7.23	築島の岩脈	1所	松江市	（松江市）	安山岩質玄武岩
9	天	S7.7.23	多古の七ツ穴	1所	松江市	国（松江市）	高さ50m、延長400m
10	天	S7.7.25	岩屋寺の切開	1所	奥出雲町	岩屋寺	高さ10～20m、全長約80m
11	天	S9.5.1	日御碕の大ソテツ	1株	出雲市	福性寺	根周り約4.2m
12	天	S10.4.11	三隅大平ザクラ	1所	浜田市		胸高幹周６m、樹高18m
13	天	S10.6.7	大根島第二熔岩隧道	1所	松江市	松江市他	全長約80m
14	天	S11.9.3	波根西の硅化木	1所	大田市	国（大田市）	ブナの木と推定
15	天	S11.12.16	唐音の蛇岩	1所	益田市	国	安山岩の岩流
16	天	S12.4.17 名称変更 S32.7.31	海潮のカツラ	1株	雲南市	日原神社	根周り約14m
17	天	S13.5.30	星神島オオミズナギドリ繁殖地	1所	西ノ島町	国	推定生息数500羽
18	天	S15.2.10	沖島オオミズナギドリ繁殖地	1所	隠岐の島町	白島神社	４月頃飛来、７月頃産卵
19	天	S18.8.24	竹崎のカツラ	1株	奥出雲町	（奥出雲町）	根周り約15m、樹高約32m
20	天	S26.6.9	黒柏鶏		県下全域		長尾鶏の一種
21	天	S34.7.24	松代鉱山の霰石産地	1所	大田市	石見鉱山	珠状で埋蔵
22	天	S44.11.29	三瓶山自然林	1所	大田市	国	面積123.23ヘクタール
23	天	S45.1.23	オジロワシ		県下全域		大型のワシ、冬季に渡来
24	天	S46.5.19	カラスバト		県下全域		大型のハト、日本列島準特産種
25	天	S46.6.28	ヒシクイ		県下全域		ガン類、出雲平野に渡来
26	天	S46.6.28	マガン		県下全域		ガン類、出雲平野に渡来
27	天	S50.6.26	ヤマネ		県下全域		リスに似たヤマネ科のほ乳動物
28	天	H16.2.27	三瓶小豆原埋没林	1所	大田市	島根県	約3500年前の縄文時代後期の埋没林
1	名天	S2.4.8	鬼舌振	1所	奥出雲町	奥出雲町他	３㎞にわたる大渓谷
2	名天	S2.4.8	立久恵	1所	出雲市		集塊岩峡谷
3	名天	S2.6.14	潜戸	1所	松江市	国（松江市）	全長200m
4	名天	S10.12.24	隠岐知夫赤壁	1所	知夫村		海岸帯の断崖
5	名天	S13.5.30	隠岐白鳥海岸	1所	隠岐の島町	国他	海食洞門、洞穴、断崖と白い岩肌
6	名天	S13.5.30	隠岐国賀海岸	1所	西ノ島町	国	高さ200mの断崖
1	天名	S13.5.30	隠岐海苔田ノ鼻	1所	隠岐の島町	国他（隠岐の島町）	大型の柱状節理

（県指定）

No.	区分	指定年月日	名　　称	員数	所在地	所有者（管理団体）	備　　考
1	天	S33.8.1	大元神社跡の樟	2株	津和野町	三渡八幡宮	目通り幹周12.5m、樹高31m、樹齢約400年
2	天	S35.9.30 追加指定 S56.10.30 一部解除 S58.7.22	日本海岸におけるハマナス自生西限地	1所	大田市	国	一部解除
3	天	S35.9.30 記載事項 S56.10.30	日本海岸におけるハマナス自生西限地	1所	出雲市		約25株
4	天	S36.6.13	山本の白枝垂桜	1本	江津市		目通り幹周2.5m、高さ13m
5	天	S38.7.2	口羽のゲンジボタルおよびその発生地	1所	邑南町	国他	出羽川流域
6	天	S39.5.26 記載事項 S49.12.27	下来島のボダイジュ	1株	飯南町		根周り約６m、樹高約15m
7	天	S40.5.21	岩倉の乳房杉	1株	隠岐の島町	隠岐の島町	胸高周11m、樹高40m
8	天	S41.5.31	黄長石霞石玄武岩	1所	浜田市		アルカリ岩に属する玄武岩
9	天	S42.5.30	春日神社のクロマツ群	1所	隠岐の島町	春日神社	胸高周２～４m、樹高30～50m
10	天	S42.5.30	世間桜	2株	隠岐の島町		目通り幹周り3.2m～４m、樹高13～16m、雄桜・雌桜の２株、エドヒガンの一種
11	天	S43.6.7	中村のかぶら杉	1株	隠岐の島町	中財産区	根周り9.7m、樹高38m
12	天	S43.6.7	本宮神社の大杉	1株	大田市	本宮神社	根周り約13m、樹高約43m
13	天	S43.6.7	姫逃池のカキツバタ群落	1所	大田市	大田市	浮島に自生
14	天	S44.5..23 一部解除 H18.5.9 一部解除 H22.4.16	諏訪神社参道杉並木	16株	邑南町	諏訪神社	胸高周2.3～4.6m、樹高27～28m、21株から３株解除（枯死）18株から２株削除
15	天	S44.5.23	湯の廻キャラボク	1株	奥出雲町		胸高囲約3.2m、樹高約８m
16	天	S45.10.27	元屋のオキシャクナゲ自生地	1所	隠岐の島町	上元屋神社	ホンシャクナゲの一品種
17	天	S45.10.27	焼火神社神域植物群	1所	西ノ島町	焼火神社	オオエゾデンダ、オキノアブラギクなどの群生地
18	天	S45.10.27	仁万の硅化木	2個	大田市	国	ﾏｷ科の樹木と推定
19	天	S47.3.31	常磐山の杉	5株	浜田市	八幡宮	目通り幹周4.4～８m、樹高22～32m
20	天	S47.3.31	長安本郷の八幡宮並木杉	5株	浜田市	八幡宮	目通り幹周3.4～6.4m、樹高32m
21	天	S47.7.28	インヨウチク（陰陽竹）群落	1所	安来市	熊野神社	比波山の頂上近く約200㎡に自生
22	天	S51.4.30	金谷の城山桜	1株	益田市		目通り幹囲5.8m、樹高15m
23	天	S51.4.30	妙用寺の桜	1株	美郷町	妙用寺	胸高周り3.3m、樹高30m
24	天	S52.5.4	沖蛇島のウミネコ繁殖地	1所	大田市	釜野浦組中	面積1,056㎡
25	天	S53.5.19	日御碕の黄金孟宗群落	1所	出雲市		約2,000㎡
26	天	S56.6.9	今田水神の大ケヤキ	1株	江津市	大山祇命神社	胸高囲8.6m、高さ21.3m根続き６幹
27	天	S57.6.18	いづもナンキン		県下全域		ランチュウ系統の品種
28	天	S58.6.7	貴船神社のシイ	1株	雲南市	貴船神社	胸高周８m40㎝、樹齢約800年
29	天	S59.5.4	毘沙門堂の榊	1株	邑南町		胸高周り1.7m、樹高13m
30	天	H15.5.9	大波加島オオミズナギドリ繁殖地	1所	知夫村	知夫村	国内有数のオオミズナギドリ集団繁殖地
31	天	H15.12.2	志多備神社のスダジイ	1株	松江市	志多備神社	胸高周約11.9m、樹高約17.8m
32	天	H15.12.2	雪田長源寺の枝垂桜	1株	邑南町	長源寺	胸高周約３m、樹高約14m
33	天	H19.5.7	鬼村の鬼岩	1所	大田市	個人	地質そのものに起因する特殊な風食作用によって形成された奇岩
34	天	H23.4.15	大空の山桜	1株	松江市	個人	胸高幹周り3.4m、樹高約15m
1	名天	S33.8.1	雲見の滝	1所	雲南市	雲南市	雌雄二瀑
2	名天	S33.8.1	鑪崎及び松島磁石石	1所	益田市	飯浦漁協	奇岩絶壁と磁性を帯びた小島
1	天名	S42.5.30	鷲ヶ峰およびトカゲ岩	1所	隠岐の島町	隠岐の島町	柱状節理と風化・浸食状況、天然林と奇岩
2	天名	S54.8.24	志都の岩屋	1所	邑南町	志都岩屋景勝保存会	巨岩の連続した景観

（市町村指定）

市町村	No.	区分	指定年月日	名　　称	員数	所在地	所有者・保持者	備　　考
	1	天	S47.6.28	タチバナ	1株	東長江町	個人	樹齢100年、樹高5.7m、ミカン科に属する常緑樹
	2	天	S54.3.8	ヤマモモ	1株	坂本町	個人	ヤマモモ科に属する温暖性常緑樹
	3	天	S61.3.31	志多備神社のスダジイ	1株	八雲町 西岩坂	志多備神社	胸高周囲6.71m、樹高約15m
	4	天	S61.3.31	深原のケヤキ	3株	八雲町 東岩坂	深原地区共有林	荒神の依代胸高周囲は最大7ｍ
	5	天	S61.3.31	ツバキ「花仙山」原木	1株	玉湯町 大谷	個人	推定樹齢150年以上、昭和45年に新品種として認定トキ色でごく小輪の一重咲き
	6	天	S61.3.31	玉造上天満宮連理の古フジ	2株	玉湯町 玉造	玉造上天満宮 （玉造上天満宮講中）	千年フジとも呼ばれ、神木とされる樹齢数百年
	7	天	H10.5.27	千手院のしだれ桜	1株	石橋町	千手院	樹齢200年以上樹高11.28m、胸高直径84.0cm、胸高周囲264cm
	8	天	H13.3.30	秋奥のケンポナシ	2株	八雲町 西岩坂	個人<複数>	クロウメモドキ科ケンポナシ属の落葉高木
	9	天	H13.3.30	星上山山頂の照葉樹林及び動物群	1所	八雲町 東岩坂	那富乃夜神社・星上寺（別所地区協議委員会）	優良な極相林
	10	天	H13.3.30	秋奥のモリアオガエル産卵池	1所	八雲町 西岩坂	個人	モリアオガエル(カエル目･アオガエル科･アオガエル属)の産卵池
	11	天	H13.3.30	ギフチョウ	1種	八雲町		アゲハチョウ科ギフチョウ属
	12	天	H16.4.28	玉湯小学校のセンダン	1株	玉湯町 玉造	松江市 （玉湯小学校）	明治33（1900）年に植樹
	13	天	H16.4.28	日速神社の双葉ガシ	1株	玉湯町 大谷	日速神社	樹齢は300年を超えるシラカシで、県下最大級の巨木
	14	天	H17.12.12	秋鹿の西条柿古木	1株	秋鹿町	個人	幹廻り2.95m、推定樹齢は500年
	15	天	H17.12.12	本庄の西条柿古木	1株	枕木町	個人	幹廻り3.76m、高さ約15～16m、推定樹齢450年以上
浜田市	1	天	S44.11.3	ビロードシダ及び群生地	1群 1所	河内町	個人	海岸部に近い浜田市で生育するのは珍しい
	2	天	S44.11.3	多陀寺のクスノキ	1株	生湯町	多陀寺	市内で最大
	3	天	S44.11.3	多陀寺のヒノキ	1株	生湯町	多陀寺	樹高28m、幹周り５ｍ
	4	天	S48.5.1	多陀寺のシイ・タブ林	1所	生湯町	多陀寺	多陀寺をとりまく自然林
	5	天	S48.5.1	伊甘神社のイチョウ	1株	下府町	伊甘神社	樹高35m、幹周り6.5m
	6	天	S48.5.1	伊甘神社のムクノキ	1株	下府町	伊甘神社	樹高20m、幹周り６ｍ
	7	天	H5.3.31	金城町の巨樹・銘木	23所	金城町 今福・久佐・七条・上来原・小国・波佐・長田	個人	巨樹・銘木
	8	天	H7.3.28	お葉付き銀杏	1株	三隅町 井野	個人	葉に直接種子がつく銀杏の珍種推定樹齢100年
	9	天	H17.9.22	佐々木桜	1株	三隅町 三隅	個人	桜の古木
	10	天	H17.9.22	海老谷桜	1株	三隅町 向野田	個人	桜の古木
出雲市	1	天	S34.8.1	立久恵峡特殊植物群落	1所	乙立町立久恵	個人	オッタチカンギク、チョウズガマズミイワギリソウ他
	2	天	S45.2.1	コマチダケの叢生	1所	大社町 中荒木	知西寺	
	3	天	S45.2.1	奉納山の乳房イチョウ	1株	大社町 杵築北	出雲市	
	4	天	S48.4.1	鎌田家の菩提樹	1株	佐田町 東村	個人	
	5	天	S48.5.1	ヤマモモの群生	8株	大社町 日御碕	個人	
	6	天	S48.5.1	ヤマモモの群生	4株	大社町 日御碕	個人	
	7	天	S48.5.1	クロガネモチの大樹	2株	大社町 修理免	個人	

市町村	No.	区分	指定年月日	名　　称	員数	所在地	所有者・保持者	備　　考
出雲市	8	天	S49.8.8	中山のトウツバキ	2株	大社町 日御碕	個人	
	9	天	S54.10.22	フランス海岸松	7本	大社町 中荒木	八通山林会	
	10	天	S62.1.1	郷城の桂の木	1株	佐田町 朝原	個人	
	11	天	H3.3.19	命主社のムクノキの大樹	1株	大社町 杵築東	出雲大社	
	12	天	H3.3.19	乗光寺の大イチョウ	1株	大社町 杵築東	乗光寺	
	13	天	H21.6.25	稗廻の二連のサワラ	2本	東福町	個人	
	14	天	H2.11.5	武部のフジ	1株	斐川町 三絡	個人	幹囲2.7mの老木
	15	天	H4.7.7	原鹿の築地松	1所	斐川町 原鹿	個人	規模、風格、樹齢
	16	天	H6.9.7	興林寺のタブノキ	1株	斐川町 直江	興林寺	幹囲4.4m
	17	天	H14.1.8	保寿寺のクロマツ	1株	斐川町 中洲	保寿寺	樹齢約350年の盆栽仕立て。通称「延寿松」
益田市	1	天	S46.10.20	丸山の樫	1株	隅村町	隅八幡宮	樹齢約400年　樹高約20m
	2	天	S51.5.13	多田の椋の木	1株	多田町	多田自治会	樹高約30m
	3	天	S53.7.13	八幡宮の夫婦榧	2株	匹見町 匹見	匹見八幡宮	夫婦がや樹高21m、樹齢370年
	4	天	S57.11.18	栃原の高野槇	1所	匹見町 石谷	個人	周囲4.7m、胸高径1.6m、樹高20m
	5	天	S59.3.13	三本栃	1所	匹見町 匹見	益田市	周囲8.8m、樹高25m
	6	天	S62.2.3	妙義寺境内裏山のシイ林	1所	七尾町	妙義寺	
	7	天	H1.3.20	若杉天然杉	1所	美都町 板井川	個人	若杉正本山地区、樹齢数百年の天然杉が30数本
	8	天	H8.4.19	若宮神社の銀杏	1所	匹見町 石谷	若宮神社	周囲4.75m、胸高径1.45m、樹高35mの銀杏
	9	天	H16.1.30	宇津川新宮神社のイチョウ	1株	美都町 宇津川	宇津川新宮神社	推定樹齢300年、胸高周囲5.45m、根元周囲約９m
大田市	1	天	S39.12.10	龍岩ののうぜんかずら	1株	仁摩町	個人	
	2	天	S46.3.20	定めの松	2株	三瓶町	大田市	江戸初期植樹（現存は１株）
	3	天	S48.6.22	城上神社相生の松	1株	大森町	城上神社	江戸初期雌雄同体の松
	4	天	S48.6.22	石清水八幡宮の大杉群	3株	大代町	石清水八幡宮	天文３年（1534）創建記念樹
	5	天	H4.5.11	大元神社のｶﾂﾗ		温泉津町	大元神社	
	6	天	H4.5.11	高野寺のｱｶｶﾞｼ林		温泉津町	高野寺	
	7	天	H4.5.11	沖泊のﾊﾏﾋﾞﾜ群落		温泉津町	大田市	
	8	天	H4.5.11	井戸家のｷｬﾗﾎﾞｸ		温泉津町	個人	
	9	天	H4.12.16	静之窟	1所	静間町	静之窟を守る会	
	10	天	H5.3.17	大賀二千年ﾊｽ	1所	大田町	大田市	
	11	天	H5.3.17	高原の椎木	1株	富山町	個人	
安来市	1	天	H16.9.24	岩上神社のムクノキ	1株	伯太町 東母里	岩上神社	
江津市	1	天	S50.12.1	多鳩神社のナギ及び自然林	1所	二宮町	多鳩神社	18世紀　航海安全祈願のナギの木
	2	天	S50.12.1	上有福のイチョウ	1株	有福温泉町	八幡宮	推定樹齢1000年の銀杏大明神
	3	天	S50.12.1	上敬川のチシャノキ	1株	敬川町	敬川八幡宮	海岸部にある珍しい大樹
	4	天	S50.12.1	福田八幡宮のイチイガシ及び自然林	1所	有福温泉町	福田八幡宮	日本海側で貴重なカシの木。鎮守の森
	5	天	S50.12.1	岩瀧寺の自然林	1所	波積町	岩瀧寺	滝の影響を受けた貴重な植生
	6	天	S54.2.24	大亀山椎の森	樫15本 たぶ 3本	桜江町 江尾	福応寺	1559年市内最古の人工林
	7	天	S55.7.14	高倉山八幡宮の境内林	1所	波積町	高倉山八幡宮	希少種を含む荘厳な林
	8	天	S56.1.17	久保川のクロガネモチ	3株	嘉久志町	個人	付近では見られない２本の大木

市町村	No.	区分	指定年月日	名　　称	員数	所在地	所有者・保持者	備　　考
江津市	9	天	S56.9.4	八戸大元神社のムクの木	1本	桜江町八戸	大本神社	大元神楽で託宣を受ける御神木
	10	天	S56.9.4	市山八幡宮後背の椎・樅林	1所	桜江町市山	市山八幡宮	貴重種を含む鎮守の森
	11	天	S56.9.4	牛尾家のムクの木	2本	桜江町市山	市山八幡宮	2本並んだ貴重な大木
	12	天	H3.4.10	福城寺のスギ・カヤ	1所	波積町	福城寺	低湿度でも育った貴重な巨杉
	13	天	H5.3.3	ステゴドン信州象化石	2点	都野津町	都野津公民館	昭和30年発見150万年前～約300万年前に生存中国地方唯一のゾウ化石（牙・左顎骨）
	14	天	H7.2.10	大倉のムクノキ	1本	桜江町谷住郷	個人	節分の祝い木とされていた巨木
雲南市	1	天	H2.11.1	多久和御幸桜	1株	三刀屋町多久和	個人	樹齢100年以上、雲陽誌記載の巨木
	2	天	H2.11.1	高麗神社タブノキ	1株	三刀屋町乙加宮	高麗神社	中国1の巨木タブノキ
	3	天	H11.2.23	赤川のゲンジボタル及びその生息地		大東町の赤川水系全域		ホタル生息地の自然環境保護
	4	天	H16.4.12	段部のしだれ桜	1株	加茂町三代	個人	胸高幹周3.1m樹高14m以上推定樹齢320年
奥出雲町	1	天	S59.3.27	湯野神社大けやき	1本	亀嵩	個人	樹齢400年
	2	天	H12.4.11	金言寺の大イチョウ	1株	大馬木	金言寺	
飯南町	1	天	S49.11.14	大万木山の自然林(ブナ)	1所	頓原	島根県	
	2	天	S49.11.14	由来八幡宮の大杉	1株	頓原	由来八幡宮	
	3	天	S49.11.14	大なんてん	1株	角井	個人	
	4	天	H6.3.1	大元杉	2株	上赤名	赤穴八幡宮	夫婦千年杉
	5	天	H6.3.1	銀杏と杉の連理	2株	上赤名	赤穴八幡宮	
	6	天	H6.3.1	祝原のサクラ	1株	下来島	個人	江戸彼岸
	7	天	H6.3.1	塩谷のカツラ	1株	塩谷	個人	
	8	天	H8.1.12	奥畑のナツツバキ	1株	頓原	個人	
	9	天	H8.1.12	都加賀のマユミ	1株	都加賀	個人	
川本町	1	天	H2.1.8	木路原天満宮のムクノキ	1本	川本	川本町	幹回り8.3m樹高30m
	2	天	H17.5.10	イズモコバイモ		谷戸	島根県他	921㎡島根県版レッドデータブックに掲載の絶滅危惧種
美郷町	1	天	S51.6.26	田立建埋根命神社樫ノ木	1株	宮内	田立建埋根命神社	推定樹齢600年 胸高回5.0m、根回7.9m
	2	天	H14.12.26	簗瀬王子神社のムクノキ	1株	簗瀬	簗瀬王子神社	推定樹齢400年 胸高回6.5m、根回25m
	3	天	H14.12.26	別府八幡宮の大スギ	1株	別府	別府八幡宮	推定樹齢400年 胸高回6.2m、根回30m
	4	天	H25.2.4	イロハモミジ	1株	九日市	美郷町	推定樹齢150年 胸高回3.1m、根回10.0m
	5	天	H25.2.4	エドヒガンザクラ	1株	九日市	個人	推定樹齢500年 胸高回5.56m、根回12.6m
	6	天	H25.2.4	カツラ	1株	酒谷	個人	推定樹齢500年 胸高回9.85m、根回19.2m
	7	天	H25.2.4	シダレザクラ	1株	九日市	美郷町	推定樹齢120年 胸高回2.5m、根回15.0m
邑南町	1	天	S55.2.1	前土居柊	1株	下田所	個人	胸高幹周94cm樹高5.9m
	2	天	S58.10.1	キャラボク	1株	鱒渕	個人	幹周40cm樹高4.38m
	3	天	H1.3.28	西蓮寺の多羅葉	1株	阿須那	西蓮寺	胸高幹周307cm樹高20m　他
	4	天	H1.3.28	宮尾山八幡宮の東彼岸	2株	下口羽	宮尾八幡宮	胸高幹周200cm樹高20m　他
	5	天	H1.3.28	羽尾山 賀茂神社の社叢	1所	阿須那	賀茂神社	栢の木、いちょう、杉、スダジイ、あすなろ　他
	6	天	H2.8.1	オヤニラミ		瑞穂地区内各河川		日本産淡水魚唯一のスズキ科魚類
	7	天	H16.3.31	宇都井・服部の桜	1株	宇都井	個人	江戸彼岸の巨木。根回り411cm、胸高幹周312cm、樹高約15m。推定樹齢300年

市町村	No.	区分	指定年月日	名　　称	員数	所在地	所有者・保持者	備　　考
邑南町	8	天	H16.3.31	上ヶ畑の化石	1所	上田	個人	古生代（約３億年前）の石灰岩層に含まれるサンゴ・ウミユリ等
	9	天	H16.8.24	志都岩屋神社の大ヒノキ	1株	岩屋	志都岩屋神社	胸高幹周4.5m樹高30m推定樹齢400年以上
	10	天	H16.8.24	千児の神の大ツバキ	1株	上亀谷	個人	胸高幹周2.4m樹高6.4m推定樹齢400年以上
	11	天	H16.8.24	広瀬の大カシワ	1株	和田	個人	胸高幹周3.6m樹高約20m水の神の神木と伝えられる
	12	天	H16.8.24	コウヤミズキの群落	1所	伏谷	個人	県内で限られた場所でしか生息が確認されていない植物
津和野町	1	天	S48.10.23	愛宕神社の大銀杏	1株	長福	愛宕神社	高さ22m、周1.2m、樹齢400～500年
	2	天	S48.10.23	愛宕神社の無患子	1株	長福	愛宕神社	高さ18m、周80cm、樹齢400～500年
	3	天	S48.10.23	弥栄神社の大欅	1株	後田	弥栄神社	高さ25m、周４m、樹齢約550年
	4	天	S48.10.23	鷲原八幡宮の大杉	1株	鷲原	鷲原八幡宮	高さ40m、周8.7m、樹齢約600年
	5	天	S50.9.5	三渡八幡宮社叢	1所	三渡	三渡八幡宮	イチイガシ（大きいので目通幹囲5.0m、樹令約500年）
	6	天	S50.9.5	左鐙八幡宮社叢	1所	左鐙	左鐙八幡宮	カシ類、タブの木中心
	7	天	S50.9.5	青原八幡宮社叢	1所	青原	青原八幡宮	スダシイなどカシ類中心
	8	天	S56.4.28	若宮神社跡　たぶの木	1本	門林	門林自治会	高さ15m、周4.5m、樹齢約600年
	9	天	H11.11.26	安蔵寺山の大ミズナラ	1本	安蔵寺山	国（林野庁）	樹高30m、胸高周囲約4.8m、胸高直径約1.5m推定樹齢600年
吉賀町	1	天	S40.3.25	大銀杏	1本	立戸	立戸八幡宮	樹令600年（推定）崎形
	2	天	S40.3.25	一本杉	1本	田野原	田野原地区	樹高20m、周囲4.8m樹令1000年以上
	3	天	S40.3.25	しだれ桜	1本	六日市	吉賀町	樹高25m、周囲３m樹令300年
	4	天	S40.3.20	大杉	1本	沢田	指月神社総代会	樹高20m、周囲７m樹令600年（推定）
	5	天	S40.3.25	石楠花自生林	1所	田野原	個人	百本以上群生し樹高３m以上のものもある
	6	天	S44.12.20	高野槇の群生地	1所	有飯	個人	高野槙の西限地県自然環境保全地域に指定
	7	天	S47.3.10	山祇神社の椿群生	1所	真田	山祇神社	樹高10m周囲2.8mの巨木もあり
	8	天	S52.3.23	愛宕神社の社叢	1所	柿木村 桃谷	愛宕神社	樹令1000年の大杉･栃・桂・ケンポ梨あり
	9	天	S58.10.8	おやにらみ		町内河川	国	スズキ目ケツギョ科の純淡水魚
海士町	1	天	H９.7.10	オオバグミ林	1群	豊田抗美鶴一帯	豊田区	
	2	天	H９.7.10	イヌマキ	1株	豊田	奈伎良比売神社	
	3	天	H９.7.10	オハツキイチョウ	1株	海士	海士町	
	4	天	H９.7.10	モチノキ	1株	海士	個人	
	5	天	H９.7.10	ハマビワ	1株	豊田	個人	
	6	天	H９.7.10	イヌマキ	1株	海士	個人	
	7	天	H９.7.10	スギ	1株	福井	宮田神社	
	8	天	H９.7.10	北野神社の椿・銀杏・杉	椿１株 銀杏 １株 杉１本	知々井	北野神社	
	9	天	H24.7.10	タケシマシシウド群落	1所	豊田	海士町	
西ノ島町	1	天	S51.5.20	タブノキ	1株	赤ノ江	個人	根周り5.5m、目通周囲４m、樹高15～20m
	2	天	S51.5.20	ラカンマキ	1株	美田	個人	高さ20m、周2.4m、樹令不明
	3	天	S58.3.19	カラスバト繁殖地	1所	美田、焼火神社及びこれにつづく鳥獣保護区	焼火神社	
	4	天	S60.9.9	エドヒガン	1株	美田小向区有林	小向区共有	
	5	天	S61.9.27	オオバヤドリギ	1株	別府	個人	西ノ島町を北限とする暖地性の常緑樹寄生木はユズリハ
	6	天	S61.9.27	オオバヤドリギ	1株	別府	個人	西ノ島町を北限とする暖地性の常緑樹寄生木はツバキ
	7	天	H２.7.10	カゴの木	1株	美田焼火山	焼火神社	根元周囲3.1m目通周囲2.7m樹高10m
	8	天	H18.1.12	クスノキ	1株	別府	個人	目通幹周4.15m樹高約28m

市町村	No.	区分	指定年月日	名　　称	員数	所在地	所有者・保持者	備　　考
知夫村	1	天	S48.4.1	タブノキ	1株	仁夫	仁夫地区	暖地に多く自生する植物で、隠岐一円に育成するが、現在これの大木は珍しい。樹高約10メートル、根廻り約4.4メートル
	2	天	H7.4.1	タブノキ	1株	仁夫	仁夫地区	高さ10m、根回り4.4m樹令不明
隠岐の島町	1	天	S50.10.17	隠岐産著名植物群落（今津港）	1所	今津	個人	オキタンポポなど隠岐特産種多し
	2	天	S50.10.17	元屋のムクロジ群	1所	元屋	個人	11本
	3	天	S50.10.17	犬来のシイ	2株	犬来	個人	2株　樹高13mと15m
	4	天	S50.10.17	銚子おんぎゃくさんのケヤキ	1株	原田	銚子神社	ケヤキ1本
	5	天	S50.10.17	物忌神社の大スギ	1株	原田	物忌神社	樹高25m
	6	天	S50.10.17	大満寺のマドスギ	1株	有木	有木報公社	幹中央が腐れてアーチ状
	7	天	S50.10.17	油井のスイセン等の植物群落	1所	油井	個人	大規模なスイセン群落
	8	天	S52.4.11	御碕神社の森	1所	東町	御碕神社	タブノキ、シイなどの大木群
	9	天	S52.4.11	東郷の大モミ	1株	東郷	東郷生産森林組合	樹高25m
	10	天	S52.4.11	嶽山のイスノキ	1株	北方	個人	推定樹齢400～500年
	11	天	S52.4.11	大山神社の杉とケヤキ	3株	布施	春日神社	杉1本とケヤキ2本
	12	天	H10.1.23	中村海岸のクロマツ群	1所	中村	隠岐の島町	防風林、全長約370m、幅約50m
	13	天	H10.1.23	那久のアカガシ群落	1所	那久	壇鏡神社	常緑広葉樹林を中心とする生態系
	14	天	H22.4.19	山田のツバキ	1株	山田	個人	樹高9m、目通り幹周り1.72m、推定樹齢400年
	15	天	H22.4.19	オキサンショウウオ	種	隠岐の島町内	隠岐の島町	世界の希少種。進化の過程が見られる。
	1	史天	H10.1.23	唐傘の松	1株	中村	一之森神社	樹高16m、幹周4.75m

注1：表に掲載した天然記念物等は2013年（平成25年）2月末日現在。
注2：表中の「区分」の表示について、「特天」：特別天然記念物、「天」：天然記念物、「名天」：名勝及び天然記念物、「天名」：天然記念物及び名勝、「史天」：史跡及び天然記念物を示す。
注3：表に掲載した天然記念物等は、文化財保護法、島根県文化財保護条例及び各市町村該当条例に基づき指定されたものである。
注4：表の掲載データは島根県教育庁文化財課からの提供データに基づき作成。

索　引（五十音順）

ア
アイズシモツケ…… 49
アオイゴケ…… 171
アオネカズラ…… 口絵14、157、238
アオベンケイ…… 113、239
アオホオズキ…… 184
アカウキクサ…… 口絵２、39
アギナシ…… 77
アサザ…… 口絵５、64
アスヒカズラ…… 24
アズマイチゲ…… 110
アツバヨロイゴケ…… 200
アブラシバ…… 口絵16、185
アマクサシダ…… 口絵１、30
アマニュウ…… 59
アラゲナツハゼ…… 口絵11、123
アンペライ…… 145
イイヌマムカゴ…… 96、237
イシカグマ…… 151
イスノキ…… 口絵15、163
イズモコバイモ…… 口絵７、79、248
イズヤブソテツ…… 口絵１、32
イチイ…… 104
イチョウウキゴケ…… 口絵17、192
イトクズモ…… 140
イトタヌキモ…… 184
イトトリゲモ…… 140
イトモ…… 177
イナモリソウ…… 171、233
イヌスギナ…… 27
イヌセンブリ…… 口絵５、62
イヌタヌキモ…… 173、234
イヌノフグリ…… 口絵15、172
イバラモ…… 78
イワイタチシダ…… 101
イワウメヅル…… 54
イワオモダカ…… 38、230
イワギリソウ…… 口絵６、71、239
イワタイゲキ…… 166、232
イワタバコ…… 口絵６、70、233
イワトラノオ…… 31
イワナシ…… 61、233
ウキゴケ…… 口絵17、191
ウキシバ…… 178
ウスキブナノミタケ…… 口絵18、208
ウスバサイシン…… 口絵３、43、231
ウスヒメワラビ…… 155
ウチョウラン…… 91、237
ウチワゴケ…… 98
ウドカズラ…… 口絵４、56
ウラジロウコギ…… 58
エゾノヨロイグサ…… 58
エビタケ…… 口絵18、206
エビネ…… 146、236、239、242
オウギカズラ…… 126
オオアカウキクサ…… 158
オオエゾデンダ…… 口絵２、38、230
オオカグマ…… 154
オオクグ…… 180
オオダイトウヒレン…… 75
オオトリゲモ…… 178
オオバクサフジ…… 183
オオバシナミズニラ…… 26
オオバヌスビトハギ…… 51
オオフジシダ…… 152
オオホシクサ…… 143
オオマルバノホロシ…… 184
オオミクリ…… 84
オオミズゴケ…… 口絵17、191
オオメノマンネングサ…… 164、239
オオモミジガサ…… 135
オオヤマザクラ…… 165
オオヤマジソ…… 68
オオヤマフスマ…… 108
オオヤマレンゲ…… 口絵２、39
オカオグルマ…… 76
オキナグサ…… 口絵10、111、231、238
オグラノフサモ…… 口絵11、120
オッタチカンギク…… 175、239
オニバス…… 口絵２、42、243
オニヒョウタンボク…… 口絵16、173、234
オヒルムシロ…… 138
カ
カイジンドウ…… 口絵５、67
ガガブタ…… 170
カギカズラ…… 口絵11、125
カキラン…… 口絵13、149、236、242
カジカエデ…… 117
カシノキラン…… 93
カシワバハグマ…… 136
カタクリ…… 口絵12、141、235
カツモウイノデ…… 口絵１、31
カノコソウ…… 口絵16、174
カビゴケ…… 口絵17、189
カヤ…… 158
カヤラン…… 口絵８、94、237、239
カラクサシダ…… 157
カラスシキミ…… 118、232

カリガネソウ…… 126
カワヂシャ…… 172
カワツルモ…… 139
カンコノキ…… 116、242
カンボク…… 口絵12、132
キエビネ…… 87、236、239、242
キガンピ…… 口絵４、57
キキョウ…… 口絵６、72、234
キクアザミ…… 75、234、239
キセワタ…… 口絵16、183
キノクニスゲ…… 180
キビシロタンポポ…… 口絵７、77
キビナワシロイチゴ…… 115、232、240
キミズ…… 口絵14、159
キレンゲショウマ…… 口絵３、46
キンコウカ…… 81
キンセイラン…… 87、236、242
キンラン…… 148、236、239
ギンラン…… 147、236、239
クサタチバナ…… 口絵５、65
クシバタンポポ…… 口絵12、137、235、239
クチキトサカタケ…… 口絵18、205
クマガイソウ…… 口絵８、89、236、239
クマノゴケ…… 口絵17、190
クモノスシダ…… 30、230
クモラン…… 口絵９、95、237、239
クラガリシダ…… 36、230
クルマシダ…… 154
クロキヅタ…… 口絵18、196、244
クロゴケ…… 192
クロバイ…… 169
ケクラマゴケモドキ…… 193
ゲンカイツツジ…… 口絵15、168、233
コウホネ…… 162
コウヤハナゴケ…… 199
コウヤミズキ…… 163
コガンピ…… 口絵11、119
コキンバイザサ…… 口絵13、142
コケミズ…… 159
コゴメウツギ…… 183
コジキイチゴ…… 49
コナミキ…… 127
コバノトンボソウ…… 92、242
コバノヒノキシダ…… 154
コバンモチ…… 166
コヒロハハナヤスリ…… 182
コフクレサルオガセ…… 202
ゴマノハグサ…… 128
サ サイカチ…… 52
サカキカズラ…… 124、238
サギスゲ…… 85
サギソウ…… 口絵８、90、236、239、242
サクラバハンノキ…… 口絵14、159
サケバゼリ…… 121
サジラン…… 103、238
サツマスゲ…… 180、240
サナギイチゴ…… 48
サラサドウダン…… 口絵11、121、233
ザリコミ…… 46
サルメンエビネ…… 88、236
サワギキョウ…… 133、234、242
サワルリソウ…… 125
サンインクワガタ…… 128
サンインシロカネソウ…… 口絵14、161、231、238
サンイントラノオ…… 口絵６、69、239
サンカヨウ…… 42、231
サンベサワアザミ…… 口絵12、135、234、239
サンヨウアオイ…… 163、239
サンヨウブシ…… 109、231
シイモチ…… 118
ジガバチソウ…… 91、236、239
シシラン…… 153、238
シシンラン…… 口絵６、70、233
シノブ…… 口絵14、152、230、238
シノブカグマ…… 155
シマキツネノボタン…… 182、238
シマサルナシ…… 44
シモツケ…… 口絵15、165
シモバシラ…… 67
シャクジョウソウ…… 183、232
ジュズネノキ…… 66
ジュンサイ…… 161
ショウキラン…… 96、237
ショウロ…… 口絵18、209
シラヒゲソウ…… 口絵10、113、231
シロモジ…… 160
シロヤマブキ…… 口絵10、115、232
スイラン…… 74
スギラン…… 25、230
スジヌマハリイ…… 口絵８、84
スズサイコ…… 170
スブタ…… 176
セキショウモ…… 138
セッコク…… 口絵13、149、236、239、242
タ ダイセンオトギリ…… 口絵３、45、231
ダイセンキスミレ…… 口絵11、119、232
ダイセンヒョウタンボク…… 71、234
タイミンタチバナ…… 169、238
タイリンアオイ…… 口絵10、112、239
タカサゴキジノオ…… 27
タキキビ…… 178
タキミシダ…… 29、230、238
タケシマシシウド…… 口絵４、60、249
タコノアシ…… 114

タチモ…… 167
タヌキマメ…… 口絵４、50
タヌキモ…… 129、239
タマチョレイタケ…… 207
ダルマギク…… 口絵16、175、234
チョウジガマズミ…… 口絵16、174、234、239
チョウジギク…… 口絵６、73、234
チョウジソウ…… 口絵５、64、238
ツキヨタケ…… 口絵18、208
ツクシイヌワラビ…… 口絵９、102
ツクシイワヘゴ…… 99
ツクシオオクジャク…… 99
ツクシクロイヌノヒゲ…… 83、240
ツクシヤブソテツ…… 32
ツメレンゲ…… 164、239
ツヤナシマンネンタケ…… 口絵18、206
ツルネコノメソウ…… 45
ツルホラゴケ…… 28
テツカエデ…… 53
テツホシダ…… 口絵９、102、238、242
テリハアザミ…… 134、234
テリハヨロイゴケ…… 199
デンジソウ…… 口絵１、23
トウササクサ…… 144
トウテイラン…… 口絵15、172、233
トキソウ…… 口絵８、93、237、242
トゲサルオガセ…… 200
トケンラン…… 148、236、239
トチカガミ…… 口絵12、137
トモエソウ…… 口絵10、112
トリゲモ…… 185

ナ
ナガエミクリ…… 179
ナガサキシダ…… 33
ナガバノコウヤボウキ…… 176
ナガバノヤノネグサ…… 107
ナカミシシラン…… 182
ナゴラン…… 口絵９、95、236、242
ナチシダ…… 153、238
ナツアサドリ…… 口絵４、57、232、240
ナツエビネ…… 口絵13、147、236、239、242
ナツノハナワラビ…… 151
ナナミノキ…… 53
ナベナ…… 174
ナンカイイタチシダ…… 口絵９、101
ナンキンナナカマド…… 165
ニッコウキスゲ…… 口絵７、80、235
ニリンソウ…… 口絵９、109、238
ヌカイタチシダモドキ…… 100
ヌカボシクリハラン…… 37、230
ヌメリアイタケ…… 209
ノグサ…… 85
ノタヌキモ…… 129

ハ
バアソブ…… 184
バイカモ…… 口絵２、41
バイケイソウ…… 82
ハイハマボッス…… 口絵４、61
ハクウンラン…… 186
ハコネシケチシダ…… 口絵14、156
ハコネシダ…… 29、238
ハシドイ…… 123
ハチジョウナ…… 76
ハチジョウベニシダ…… 155
バッコヤナギ…… 158
ハナゼキショウ…… 口絵８、82、235
ハマサジ…… 口絵４、62、238
ハマナス…… 口絵３、47、232、245
ハマナタマメ…… 口絵３、50
ハマナデシコ…… 107、230、238
ハマニンドウ…… 173、239
ハマハナヤスリ…… 182
ハマビシ…… 23、232
ハマベノギク…… 176、239
ハマベンケイソウ…… 66
ハマボウ…… 口絵４、56
バリバリノキ…… 160
ハリミズゴケ…… 口絵17、190
ハルトラノオ…… 106
ハンゲショウ…… 口絵14、162
ヒゴタイ…… 口絵７、73、234
ヒツジグサ…… 162、231、239、242
ビッチュウフウロ…… 口絵10、116、232
ヒッツキアザミ…… 口絵12、133
ヒトモトススキ…… 181、240
ヒナノカンザシ…… 52
ヒナノシャクジョウ…… 83
ヒナラン…… 146、236、239
ヒメサジラン…… 157、238
ヒメシャガ…… 口絵13、143
ヒメシロアサザ…… 口絵５、63
ヒメナベワリ…… 口絵13、141
ヒメノキシノブ…… 103
ヒメバイカモ…… 口絵２、41、243
ヒメハシゴシダ…… 34
ヒメミクリ…… 口絵13、144
ヒモラン…… 26、230
ヒョウタンボク…… 131
ビロウドシダ…… 104、238、246
ヒロハノカワラサイコ…… 口絵３、47、232
ヒロハハナヤスリ…… 97
ヒロハヤマヨモギ…… 口絵16、175
フウラン…… 181、237、239、242
フガクスズムシソウ…… 口絵８、90
フクシマシャジン…… 132、234
フクロシダ…… 口絵１、36

フサモ…… 167
フジシダ…… 28
フタバアオイ…… 口絵10、111
フナバラソウ…… 口絵５、65
ヘイケイヌワラビ…… 口絵１、35
ベニシュスラン…… 150、236、239
ベニドウダン…… 口絵11、122、233
ベニバナヤマシャクヤク…… 口絵３、44
ヘラノキ…… 口絵15、167
ホウビシダ…… 153、238
ホウライカズラ…… 170、238
ホウライヒメワラビ…… 口絵１、33
ホウロクイチゴ…… 48
ホザキノヤドリギ…… 106
ホソクラマゴケモドキ…… 193
ホソバショリマ…… 34
ホソバナコバイモ…… 口絵７、79
ホソバノアマナ…… 81
ホソバママコナ…… 口絵12、127、233、238
ホソベリミズゴケ…… 口絵17、191
ホタルカズラ…… 171
ホタルサイコ…… 120
ボタンボウフウ…… 168
ホテイシダ…… 口絵１、37
ホナガクマヤナギ…… 55
ホンゴウソウ…… 口絵７、78
ホンシャクナゲ…… 122、233、238,、242
ホンショウロ…… 209
マ マシカクイ…… 145
マダイオウ…… 160
マツバラン…… 24、230
マツラン…… 94、237、239
マメヅタラン…… 86、236、239
マヤラン…… 89
マルバウマノスズクサ…… 口絵３、43
マンネンスギ…… 25、230
ミクリ…… 179
ミズアオイ…… 口絵13、142
ミズオオバコ…… 177
ミズスギ…… 151、238
ミズチドリ…… 92、237、242
ミズニラ…… 97
ミスミソウ…… 口絵２、40、231、238
ミズワラビ…… 152
ミゾシダモドキ…… 35
ミソナオシ…… 51
ミチノクフクジュソウ…… 口絵２、40
ミツガシワ…… 口絵11、124、233、242
ミツバベンケイソウ…… 164
ミミカキグサ…… 130、234、242
ミヤコアザミ…… 185
ミヤコイヌワラビ…… 156
ミヤコミズ…… 105
ミヤマウメモドキ…… 54
ミヤマクマワラビ…… 100
ミヤマクワガタ（ダイセンクワガタ）… 口絵６、69、233
ミヤマミズ…… 105
ムカゴニンジン…… 60
ムカシオオミダレタケ…… 口絵18、205
ムギラン…… 86、236、239
ムクゲシケシダ…… 156
ムラクモアザミ…… 185、234、242
ムラサキセンブリ…… 口絵５、63
ムラサキミミカキグサ…… 130、234、239、242
メグスリノキ…… 117
モクゲンジ…… 口絵15、166
モリアザミ…… 134、239
ヤ ヤシャゼンマイ…… 口絵９、98、230、238
ヤシャビシャク…… 口絵10、114
ヤナギイボタ…… 169
ヤナギスブタ…… 177
ヤナギタンポポ…… 口絵７、74
ヤブウツギ…… 口絵６、72
ヤマザトタンポポ…… 口絵12、136、239
ヤマトキソウ…… 口絵14、150、237
ヤマトミクリ…… 口絵16、179
ヤマヒョウタンボク…… 131、234
ヤマホロシ…… 68
ヤワラゼニゴケ…… 口絵17、193
ユウシュンラン…… 口絵８、88、236
ユウスゲ（キスゲ）…… 口絵７、80
ユキワリイチゲ…… 161、231、238
ヨウラクラン…… 181、237、239
ヨコグラノキ…… 55
ヨコワサルオガセ…… 201
ヨロイグサ…… 59
ラ リュウキンカ…… 口絵９、110、231、242
リュウノヒゲモ…… 139
レンゲツツジ…… 口絵15、168、233、238
ワ ワチガイソウ…… 108、230

（表紙）

① ウスキブナノミタケ
② イズモコバイモ
③ サギソウ
④ オニバス

（裏表紙）

⑤ タケシマシシウド
⑥ イチョウウキゴケ
⑦ オキナグサ
⑧ ツヤナシマンネンタケ
⑨ ヒメバイカモ
⑩ ヘイケイヌワラビ

改訂 しまねレッドデータブック2013植物編

～島根県の絶滅のおそれのある野生生物～

平成25年３月発行

発　　行　　島根県環境生活部自然環境課
島根県松江市殿町１番地
TEL 0852−22−6377

協　　力　　島根県立三瓶自然館サヒメル
島根県立宍道湖自然館ゴビウス

印　　刷　　株式会社 島根県農協印刷

ISBN978-4-9906997-0-3

改訂 しまねレッドデータブック 2013 植物編

島根県の絶滅のおそれのある野生植物